

102号ピット (SP1102) (第164図)

190は土師質土器の小皿である。口縁部は外反し、内外面は回転ナデが施されている。摩滅が激しく流れ込みと思われる。

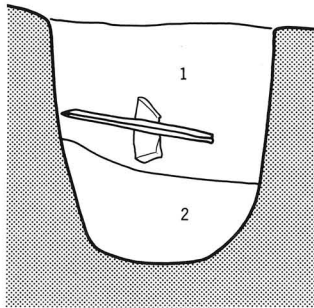
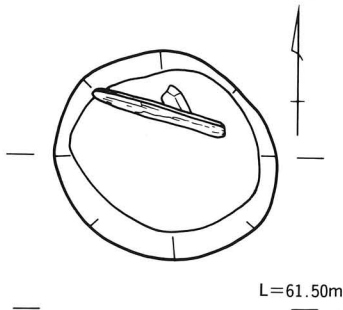
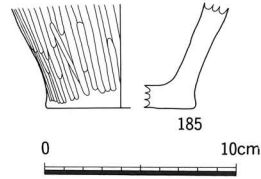
191はサヌカイト製の石鏃である。基部を欠損し、縁辺部に粗い調整加工を施している。両面ともに1次剥離痕を残している。

122号ピット (SP1122) (第164図)

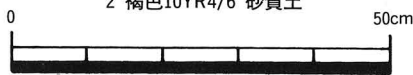
192は壺形土器の底部である。底部は上げ底を呈し、体部は直線的に立ち上がる。体部外面はタテナデ、内面はヨコナデで調整される。

131号ピット (SP1131) (第164図)

193は高杯の杯部底面の円板か、鉢の底部と思われる。



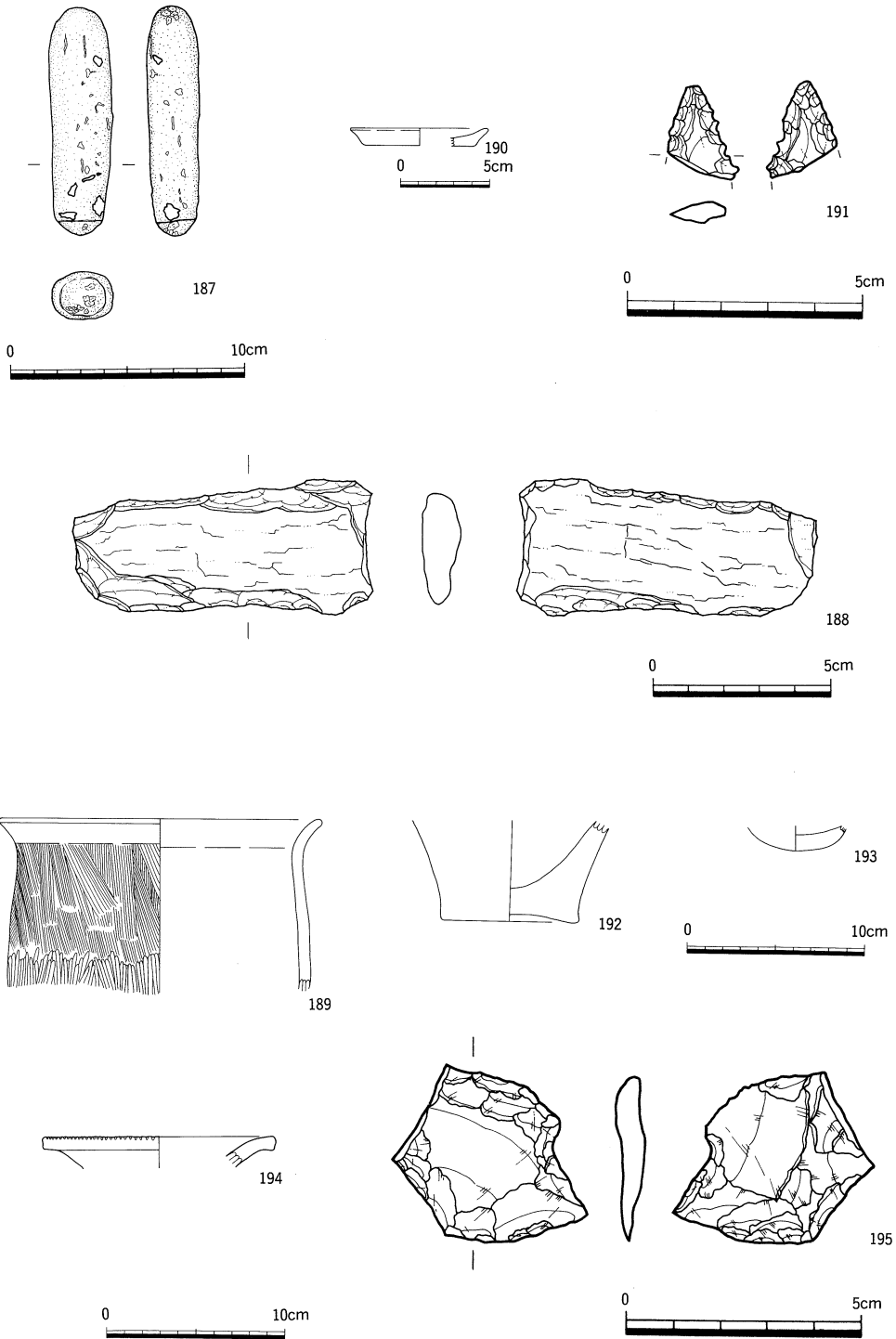
1 褐色10YR4/4 砂質土  
2 褐色10YR4/6 砂質土



第162図 SP1029実測図



第163図 SP1029出土遺物実測図



第164图 柱穴出土遺物実測図(1)

153号ピット (S P 1153) (第164図)

194は壺形土器の口縁部の破片である。口縁端部は方形におさめ、端面上部に刻目文を施す。口縁部は頸部より緩やかに外反しながら立ち上がる。口縁部内外面はヨコナデで調整する。

158号ピット (S P 1158) (第164図)

195はサヌカイト製のスクレイパーと思われる。薄手の横長剥片を素材として用い、下端部に調整加工を施し刃部を作出している。形状からドリル未製品とも考えられる。

184号ピット (S P 1184) (第165図)

196は結晶片岩製の打製石庖丁である。薄手の剥片を素材として用い、両側縁両面に調整加工を施し刃部を作出している。

195号ピット (S P 1195) (第165図)

197は結晶片岩製の石鎌である。素材として薄手の剥片を用いる。下縁部に抉りが認められる。一方の端辺を欠損している。

230号ピット (S P 1230) (第165図)

198はサヌカイト製の石鎌である。縁片には粗い調整加工を施し、基部に抉りは認められない。最大幅は体部上位にきており、凸基式と思われる。

264号ピット (S P 1264) (第165図)

199はサヌカイト製の石鎌の未製品である。縁辺部に粗い調整加工を施し、1次剥離痕が両面に残存している。

383号ピット (S P 1383) (第165図)

200は壺形土器の底部である。底部は平底を呈し、体部は外彎しながら立ち上がる。外面はタテハケメ、内面はタテナデで調整される。

449号ピット (S P 1449) (第165図)

201は壺形土器の底部である。底部は平底を呈し、体部は直線的に立ちあがる。外面はタテヘラミガキで調整される。

462号ピット (S P 1462) (第165図)

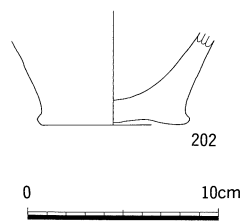
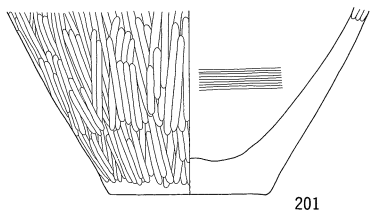
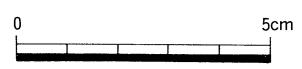
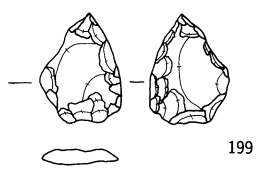
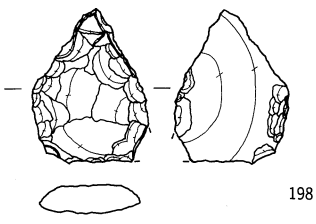
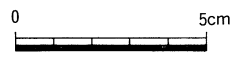
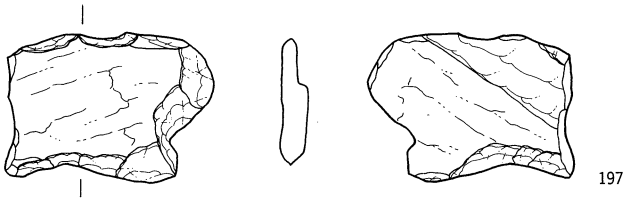
202は甕形土器の底部である。底部は上げ底を呈し、体部中位に向かい直線的に立ち上がる。外面はタテナデ、内面は指頭圧痕で調整される。

478号ピット (S P 1478) (第166図)

203は紡錘車である。中央部は貫通した円孔が認められる。

481号ピット (S P 1481) (第166図)

204は結晶片岩製のリタッチド・フレイクと思われる。上部は欠損している。下部は研磨痕が認められる。



第165图 柱穴出土遺物実測図(2)

482号ピット (S P 1482) (第166図)

205はサヌカイト製の石鏃である。側縁部に調整加工を施し、1次剥離痕が両面に残る。基部に抉りは見られず、最大幅は基部の近くにあり凸基式と思われる。

603号ピット (S P 1603) (第166図)

206は甕形土器の底部である。底部は平底を呈し、体部は直線的に立ち上がる。

688号ピット (S P 1688) (第166図)

207は剥片である。石材はサヌカイトを使用している。背腹両面はネガティブな剥離面で構成されている。背面は一部自然面が残存している。

780号ピット (S P 1780) (第166図)

208は壺形土器の底部である。底部は平底を呈し、体部は直線的に立ち上がっている。体部外面はタテヘラミガキ、内面はタテナデで調整されている。

887号ピット (S P 1887) (第166図)

209は壺形土器の底部である。底部は平底を呈し、体部は直線的に立ち上がる。調整は体部外面がタテナデ、内面はヨコナデである。

890号ピット (S P 1890) (第167図)

210は壺形土器の底部である。底部は平底を呈している。

211は紡錘車である。形状は方形状を呈し、中央部には貫通した円孔が認められる。外面には櫛描直線文が施されており、土器からの転用品と思われる。

940号ピット (S P 1940) (第166図)

212は甕形土器の破片である。口縁端部は上下に拡張し、口縁部は「く」の字状に外反する。端面は2条の凹線文を施す。口縁部は内外面ヨコナデで調整される。

123号ピット (S P 10123) (第166図)

213は壺形土器の口縁部の破片である。口縁端部を方形におさめ、口縁部は緩やかに外方に屈曲する。外面はヨコナデ、内面はタテナデで調整される。

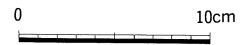
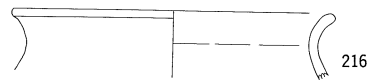
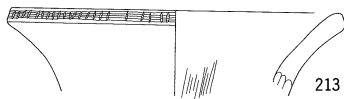
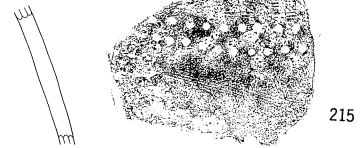
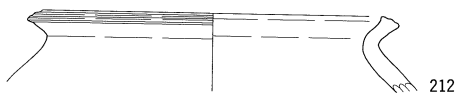
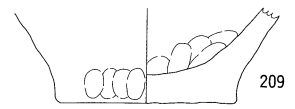
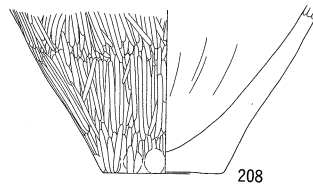
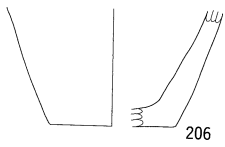
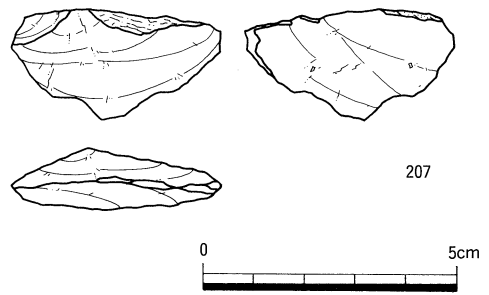
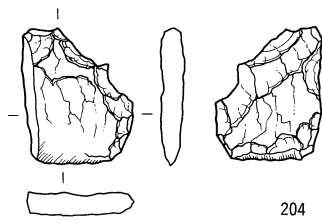
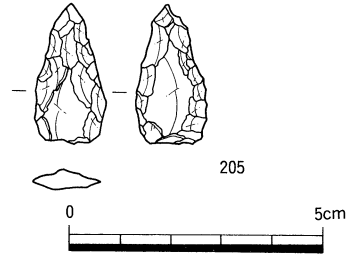
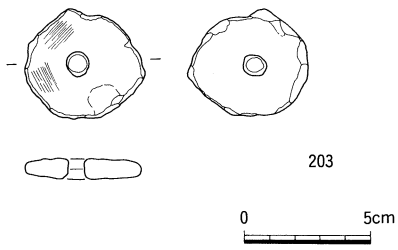
136号ピット (S P 10136) (第167図)

214は結晶片岩製の打製石庖丁である。薄手の剥片を素材として用い、両側縁両面に粗い調整加工を施し、刃部を作出している。短部に抉りは認められない。

484号ピット (S P 10484) (第166図)

215は壺形土器体部の破片である。体部外面には簾状文、竹管文2条が施されている。竹管文以下はヨコハケメで調整される。

216は甕形土器口縁部の破片である。口縁端部は丸くおさめ、口縁部は緩やかに外方に屈曲する。



第166图 柱穴出土遺物実測図(3)

487号ピット (S P 10487) (第167図)

217は紡錘車である。形状は円形を呈し、中央部には円形の穿孔が施されている。

491号ピット (S P 10491) (第167図)

218は結晶片岩製の柱状片刃石斧である。下半部を欠損している。研磨痕が全面に施される。

534号ピット (S P 10534) (第168図)

219は結晶片岩製の打製石庖丁である。薄手の剥片を素材とし、両側縁両面に調整加工を施し、刃部を作出している。

573号ピット (S P 10573) (第168図)

220はサヌカイト製の石鏃である。縁辺部に粗い調整加工を施している。裏面に1次調整痕が残存している。

632号ピット (S P 10632) (第168図)

221はサヌカイト製の石鏃である。縁辺部に粗い調整加工を施し、1次調整痕が残存している。最大幅は基部に近く凸基式と思われる。

222はサヌカイト製の楔形石器である。形状は三角形を呈し、両側縁には裁断面が認められる。

223は甕形土器の底部である。底部は平底を呈し、体部は直線的に立ち上がる。体部外面はタテヘラミガキ、内面はタテナデで調整される。

661号ピット (S P 10661) (第168図)

224は壺形土器の口縁部の破片である。口縁端部は方形におさめる。口縁部は緩やかに外方に傾いている。口縁部は内外面ヨコナデで調整する。

225は甕形土器の口縁部の破片である。口縁端部を方形におさめ、口縁部は外方に屈曲している。体部は5条の櫛描直線文、刺突文が施されている。口縁部内外面ヨコナデ、体部外面はタテハケメで調整される。

226は甕形土器の口縁部の破片である。口縁端部は丸くおさめる。口縁部は緩やかに外方に屈曲している。

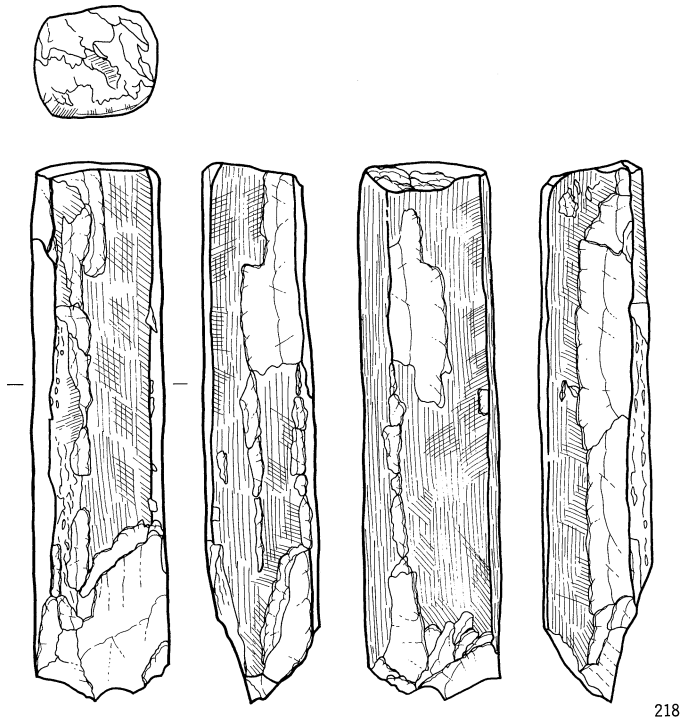
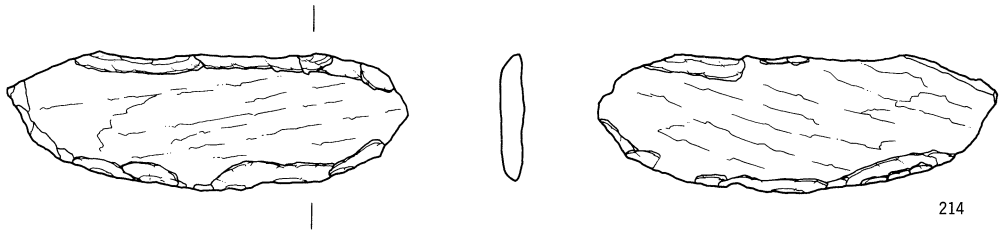
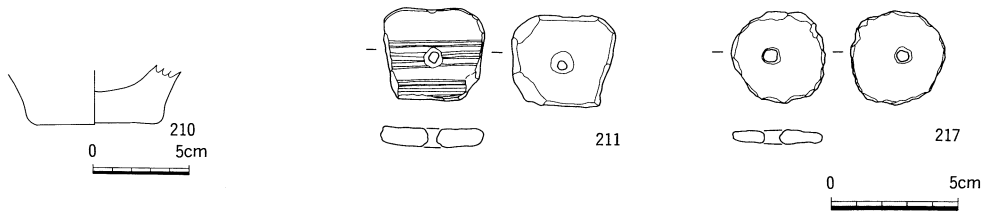
664号ピット (S P 10664) (第169図)

227は砂岩製の磨石である。扁平な丸石を素材として用いる。下部は欠損している。両面中央部には、研磨痕が認められる。側縁には敲打痕が施されている。

677号ピット (S P 10677) (第169図)

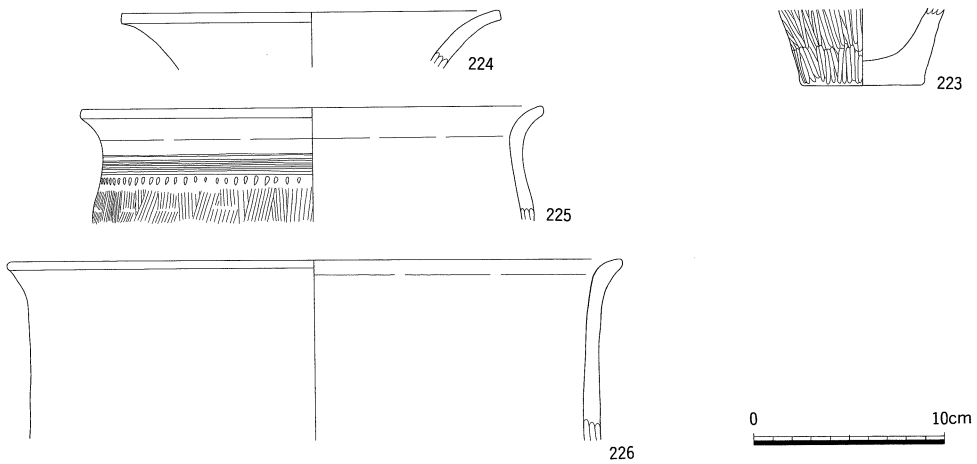
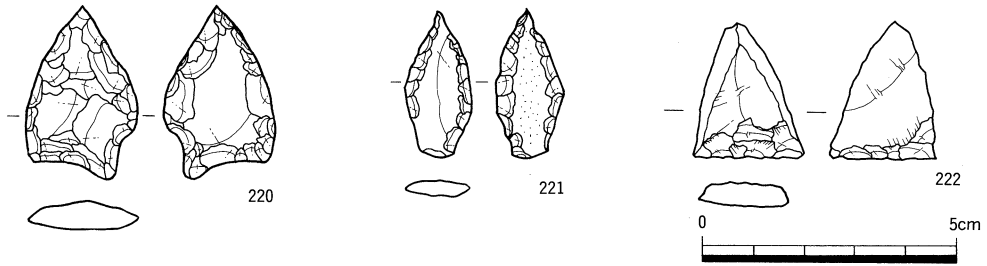
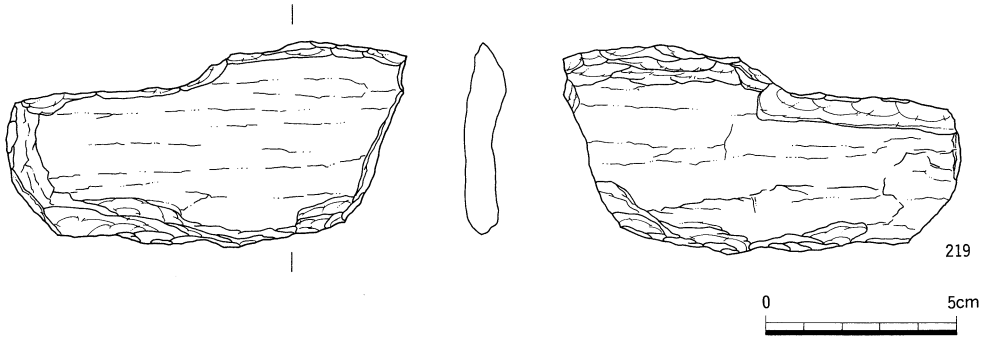
228は結晶片岩製の石製品である。薄手の剥片を素材として用いる。両端は欠損している。下縁部の両面に調整加工を施し、刃部を作出している。

229は砂岩製の叩石である。扁平な丸石を素材として用い、側縁全面と表面に一部敲打痕が認められる。

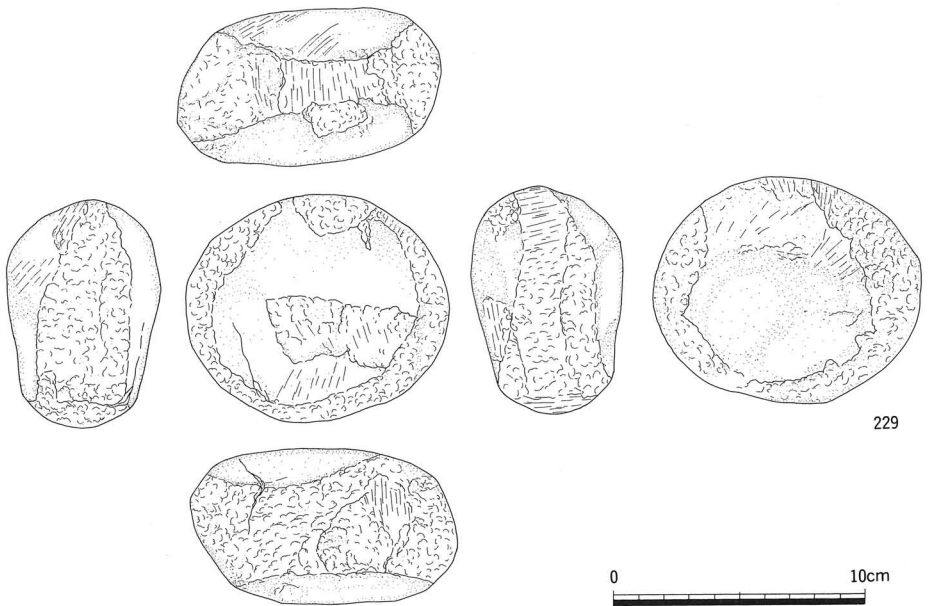
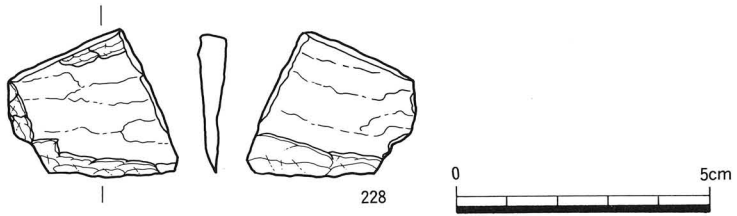
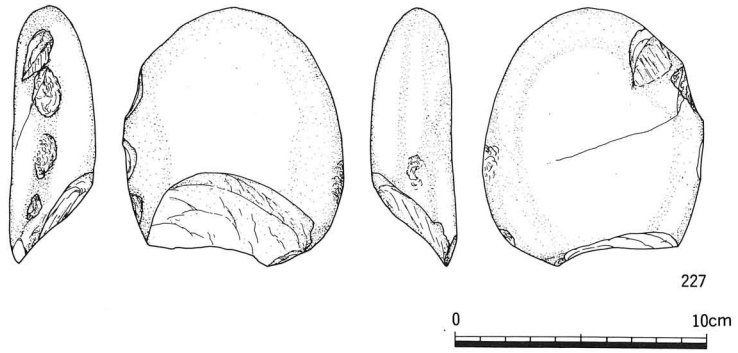


第167图 柱穴出土遺物実測図(4)





第168図 柱穴出土遺物実測図(5)



第169図 柱穴出土遺物実測図(6)

808号ピット (S P 10808) (第170図)

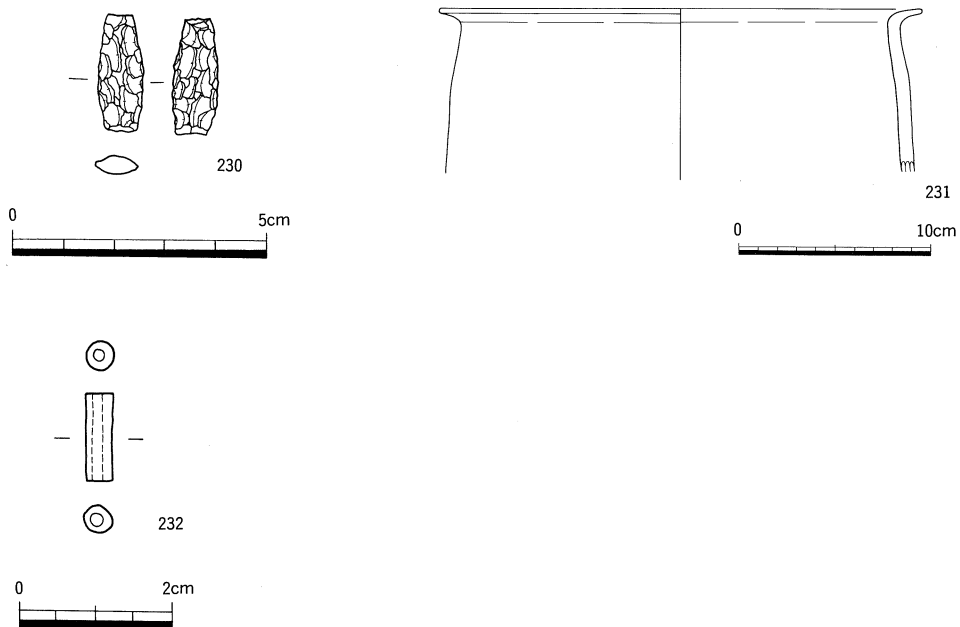
230はサヌカイト製の石製品である。両端部を欠損しており全体の形状は不明である。両面に丁寧な調整加工が施されている。

982号ピット (S P 10982) (第170図)

231は甕形土器の口縁部の破片である。口縁端部を丸くおさめ、口縁部は「く」の字状に外反している。

984号ピット (S P 10984) (第170図)

232は緑色凝灰岩製の管玉である。長さ1.15cm、直径0.38cm、孔径0.11cmを測る。形態は細型を呈している。



第170図 柱穴出土遺物実測図(7)

## 包含層出土遺物

### 弥生土器 (第171~178図)

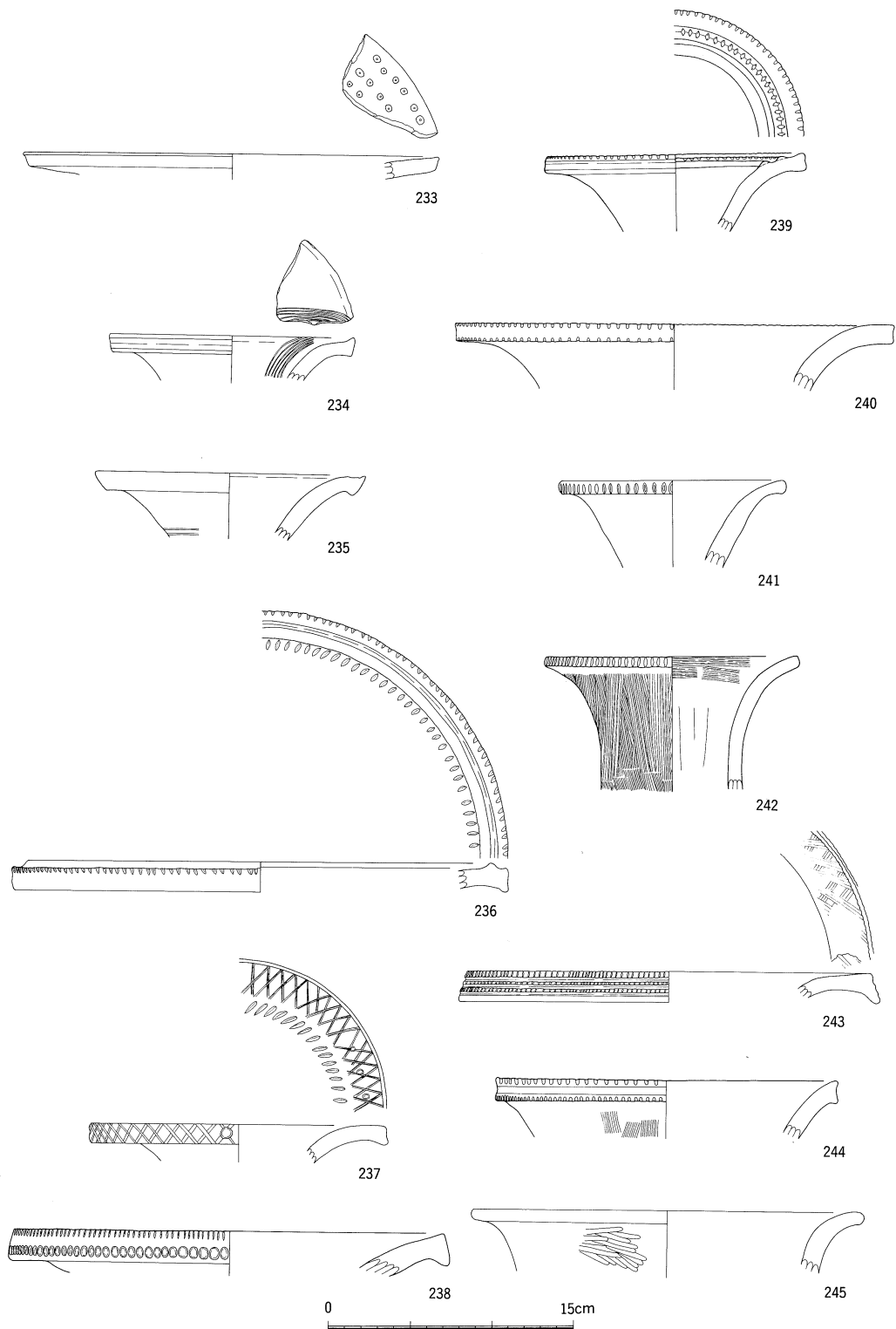
233~270は壺形土器である。233~249・251は筒状の頸部を持ち、口縁部は緩やかに外反する。233は口縁端部を上方にやや拡張し、口縁部内面に竹管文を施す。234~237・239・244は口縁端部を上下に拡張し、234は口縁部内面に橢描直線文を施す。235は頸部外面に橢描直線文を施す。236は口縁端部に刻目文、口縁部内面に貼付突帯、刺突文を施す。237は口縁端部に斜格子文と円形浮文、口縁部内面に斜格子文、円孔、刺突文を施す。239は口縁端部上位に刻目文を施し、口縁部内面に貼付突帯刻目文、貼付突帯を施す。244は口縁端部上下に刻目文を施す。238は口縁端部を下方に拡張し、端部上位に刻目文、下位に円形浮文を施す。240・242・247・248・249・251は口縁端部を方形におさめ、240は端部上下端に刻目文を施す。242は端部に刻目文を施す。249は頸部外面に橢描波状文を4条施す。242・247・248は頸部外面をタテハケメで調整する。241は口縁端部を丸くおさめ、端部に刻目文を施す。243は口縁端部を下方に拡張し、端部に刻目文と凹線文を交互に3条施す。245は口縁端部を丸くおさめ、口縁部外面にヨコヘラミガキを施す。246は口縁端部を上方に拡張し、平坦におさめる。頸部には2条の貼付突帯を巡らし、刻目文を施す。250は口縁部を方形におさめ、屈曲して外方にのびる。252~264は壺形土器の頸部もしくは体部の破片である。252は橢描波状文を4条施し、体部中位にかけてタテヘラミガキで調整する。253は頸部外面に橢描直線文、その下に2条の刺突文を施す。254・255は頸部外面に橢描直線文を施す。256は頸部外面に刺突文を施す。257は体部外面に矢羽根状沈線文を施す。258は体部外面に簾状文、橢描波状文、橢描直線文を施す。259は体部外面に橢描直線文、波状文を施す。260は橢描直線文と刺突文を交互に施す。261は体部外面に5条の橢描波状文を施す。262は体部外面に橢描波状文、橢描直線文、刺突文を施す。263は頸部外面に指頭圧痕文突帯を2条、264は1条施す。265~270は底部である。265は平底、266~270はやや上げ底を呈する。265・266は体部外面にタテハケメ、267・270はタテヘラミガキで調整される。269は底部に穿孔を持つ。271~329は甕形土器である。271・272は口縁部に貼付突帯を施し、頸部に橢描直線文を施す。271は口縁端部に刻目文を施す。273~317は口縁部は「く」の字状に外反する。このうち口縁端部は273・274・276・278・279・282・284~291・293~295・297・301~303・306が丸く、275・277・280・281・283・292・296・298~301・304・305・308~310が方形、307は上方にやや拡張し、311~317は上下に拡張する。273・274は頸部に橢描直線文を施し、274はその下に刺突文を施す。275・276は口縁端部に刻目文、頸部に橢描直線文、275はその下に刺突文を施す。277~284は口縁端部に刻目文、277・278は頸部に橢描波状文を施す。304・308は体部中位、305は体部上位に刺突文を施す。

311は頸部外面に指頭圧痕突帯文を施す。314は口縁端部に凹線文を1条、316は2条施す。279・282・284～287は体部外面をタテハケメ、282は体部内面をヨコハケメで調整する。283は体部外面にタテハケメのちタテヘラミガキ、体部内面はヨコハケメで調整する。288・289は体部内外面ヨコハケメで調整する。295は体部外面にタテハケメ、体部内面はヨコヘラミガキで調整する。296・297は体部外面をタテヘラミガキ、頸部内面をヨコヘラミガキで調整する。298は体部内面をヨコヘラミガキで調整する。306・307は体部外面にタテハケメ、306は頸部内面をヨコヘラミガキで調整する。308は体部外面中位以下をタテヘラミガキ、体部内面タテヘラミガキで調整する。309は体部外面タテハケメ、体部内面ヨコヘラミガキで調整する。310は体部内面ヨコヘラミガキで調整する。312は体部内面をヨコヘラミガキで調整する。317は体部外面をヨコハケメで調整する。318～329は底部の破片である。318～321・326・327は平底を呈し、318・319は体部外面にタテヘラミガキ、321はタテハケメで調整する。322～325・328・329は上げ底を呈し、322・324・325は体部外面にタテヘラミガキで調整する。322・325～327は底部に穿孔を持つ。330は鉢形土器である。底部は上げ底を呈し、体部外面はヨコナデ、体部内面はヨコナデ後タテヘラミガキで調整する。331・332は高坏である。331は体部は皿状を呈し、口縁部は垂直に立ち上がる。口縁部には凹線文を2条施し、体部内外面はタテヘラミガキで調整する。333・334は蓋形土器である。333は頂部がへこみ、334は頂部が平坦である。335～349は紡錘車である。336がハケメ、337・338・340～342・346・349がヘラミガキで器面に調整をとどめている。

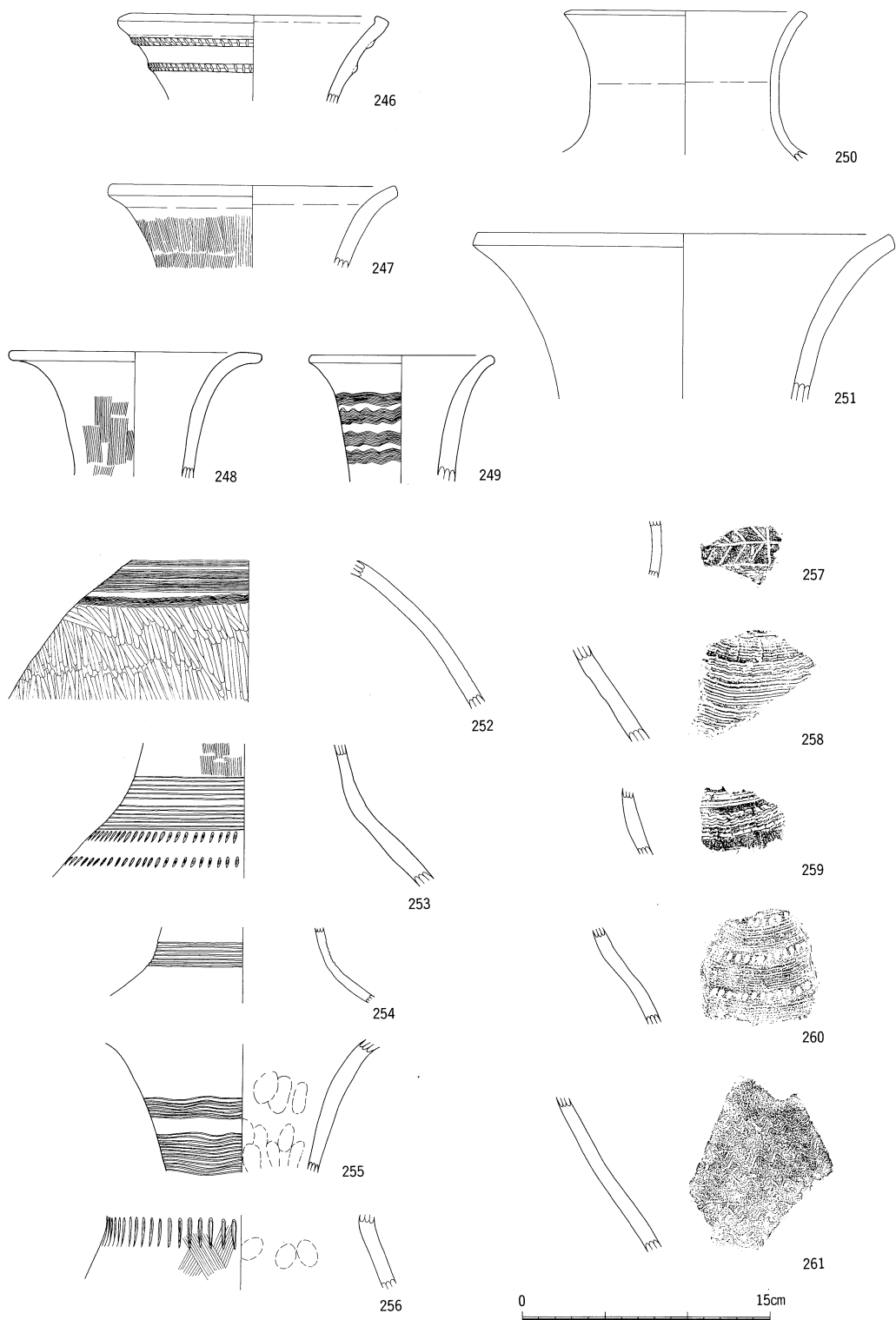
### 石器 (第179～221図)

350～406は石鏃である。石材はすべてサヌカイトを使用している。350～364は平基式である。365～389は凹基式であり、抉りのやや深いもの(369・372・378・379・386・387)と浅いもの(365～368・370・371・373～377・380～385・388・389)に分けられる。390～403は凸基式である。基部の短いもの(390～393・402)と基部の長いもの(394～401・403)に分けられる。403～406は有茎式の石鏃である。406は復元長3cmを越える大形のものと思われる。407～425はスクレイパーである。石材は407～423がサヌカイト、424・425は結晶片岩を使用している。主に横長剥片を素材として使用し、407～412・415～419・421～425が両面調整、413・414・420が片面調整により刃部を作出している。407・408・410・413・416～418・421～423は他の側縁にも調整痕が認められる。426～450は楔形石器である。石材は全てサヌカイトを使用している。426・429～432・436・437・439・440・445～449は一側縁に裁断面を持ち、427・428・433～435・438・444・450が二側縁に裁断面を持つ。下辺は両極打法により刃部を作出している。451・452はサヌカイトを石材として使用する石槍である。一次剥離痕を残すが両側面に丁寧に両面調整加工を施している。下部は欠損している。453・454は石剣

である。石材は結晶片岩を使用し、両面に丁寧な研磨痕を施している。刃部は側縁に両面調整を行った後研磨を施し作出している。下部は欠損している。455～551は石庖丁である。石材は455～549・551が結晶片岩、550がサヌカイトを使用している。455・470・471・478～480・510・511以外は全て欠損品である。挟りのない455～471・472～478・482・483・486～496・499～508と挟りのある479～481・484・485・509～523に分かれる。いずれも薄手の剥片を素材とし、一側縁に調整加工を加え刃部を作出している。550は一側縁に調整加工を加え、端部に挟りを持つ。551は片側に研磨痕を持ち、一側縁に調整加工を加え刃部を作出している。形状より磨製石斧の破損品の再利用と思われる。552～555は石鎌である。石材は552がサヌカイト、553～555は結晶片岩を利用している。552・553・555は両側縁に両面調整加工を施している。554は両側縁に片側より調整加工を施している。556・558は小形方柱状片刃石斧である。石材は全て結晶片岩を利用している。前面は長軸方向の擦痕、他の側面は斜行するものが認められる。556は体部に挟りを施している。557・559・560・564・565は柱状片刃石斧である。557以外は欠損品である。557は長軸方向の擦痕を主とするが、側縁に一部斜行するものが認められる。559は前面と側面に長軸方向と斜行する擦痕が認められる。側縁に自然面を残す。560は側縁に長軸方向の擦痕を施す。564は側縁に長軸方向の擦痕を施す。前面と背面には自然面と一部調整痕が認められる。565は全面に長軸方向の擦痕を施し、一部調整痕が認められる。561～563は太形蛤刃石斧である。全て欠損品である。石材は561がハンレイ岩、他は片岩が使用されている。561は下部に敲打痕が認められる。562は前面と側面に研磨痕、側縁には敲打痕が認められる。563は前面に敲打痕が認められる。566～569は扁平両刃石斧である。石材は全て結晶片岩が使用され、568以外は全面に研磨痕を施し刃部を作出している。570は環状石斧である。石材は結晶片岩を使用している。側縁に一部敲打痕を残している。571～574は円柱状石斧である。全て欠損品である。石材は571～573は結晶片岩、574はサヌカイトを使用している。両側縁両面調整により形を整えている。575～582は小形円柱状石斧である。575～581は結晶片岩、582はサヌカイトを石材として使用している。全て欠損品であるが、577～579は全面に研磨が施され、575・580～582は刃部を研磨により作出している。583は石鎌で、石材は結晶片岩を使用している。両面調整加工により刃部を作出している。584～586は石錐である。584・585は完形品、586は上下縁部を欠損している。石材はサヌカイトを使用し、丁寧な調整加工を施し刃部を作出している。587～592は叩石である。587がチャート、588は結晶片岩、他は砂岩を石材として使用している。側縁部には敲打痕が認められる。593～601は砥石である。石材は593・594・596・599～601が砂岩、595・597・598が結晶片岩を使用している。全ての石器に表裏2面の研磨痕が認められる。593・598・600は側縁部に敲打痕が認められる。

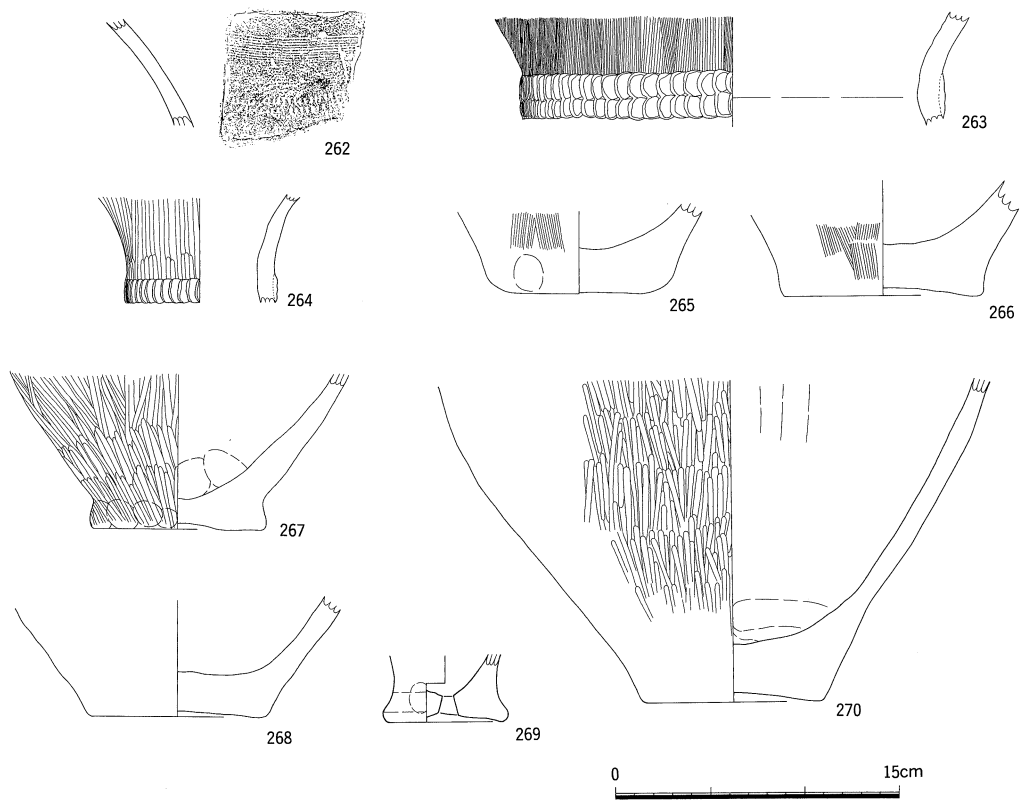


第171图 遺物包含層出土遺物実測図(1)

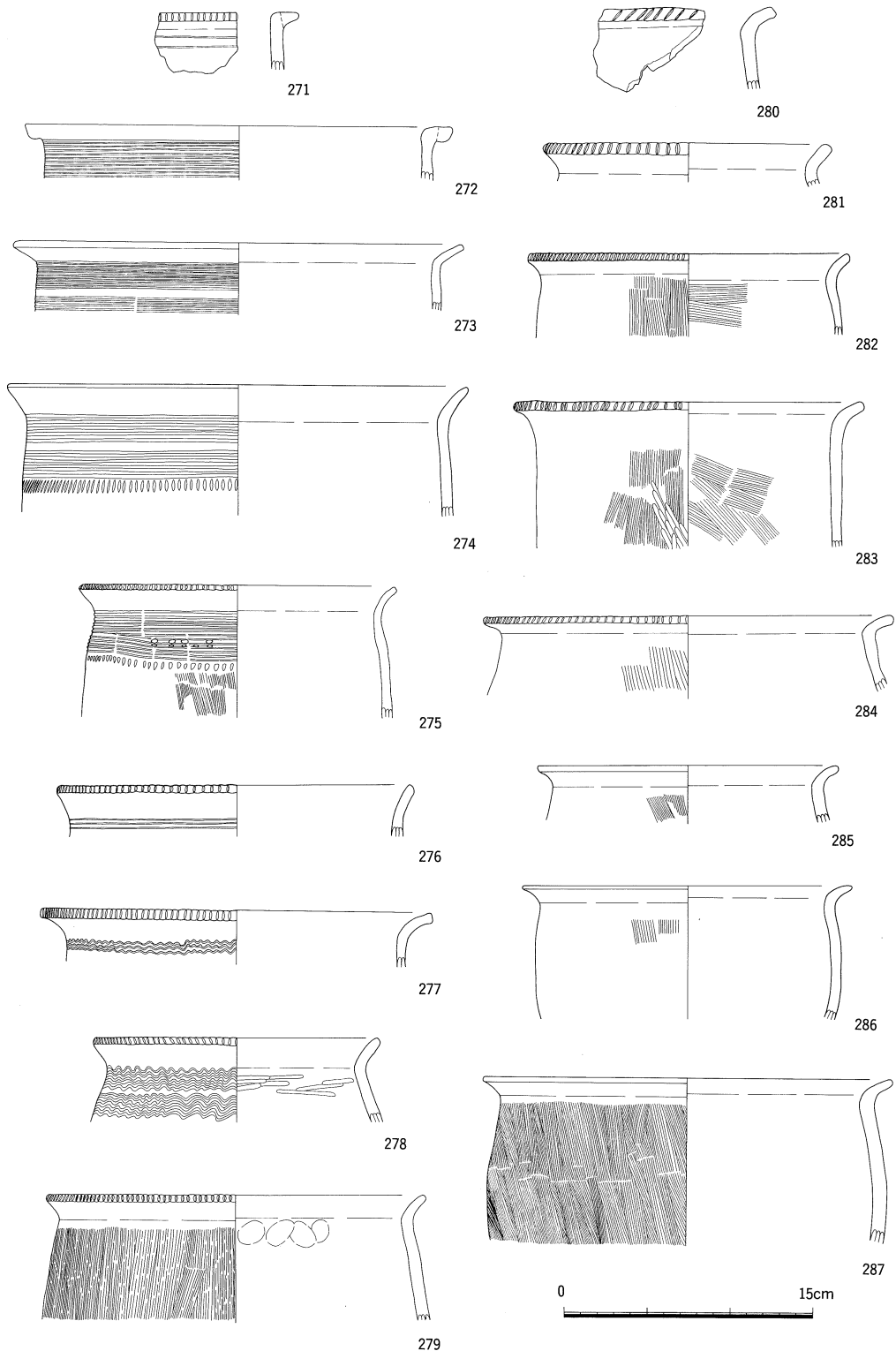


第172図 遺物包含層出土遺物実測図(2)

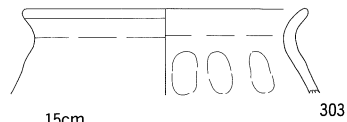
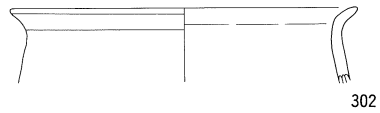
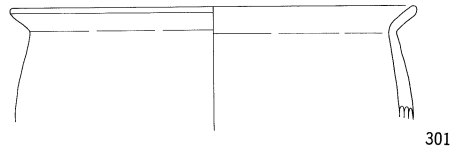
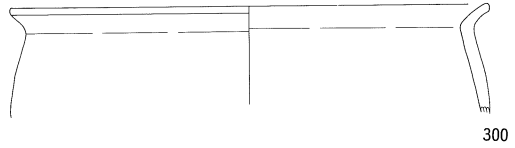
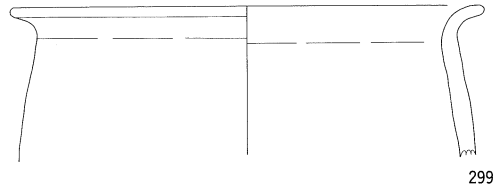
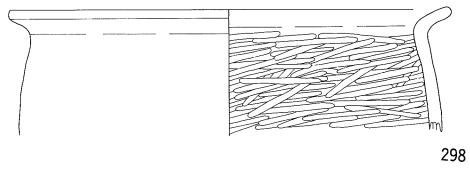
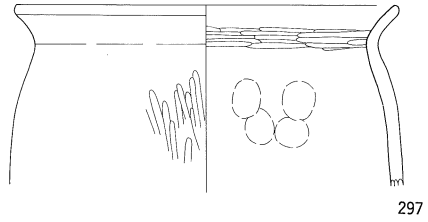
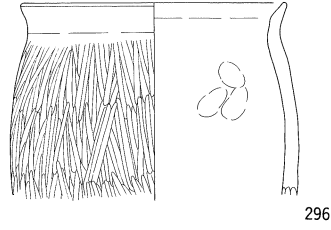
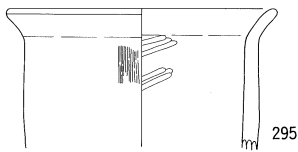
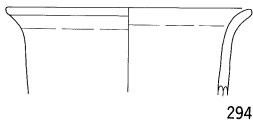
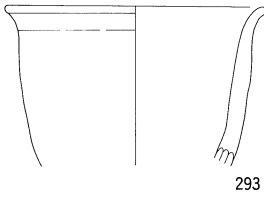
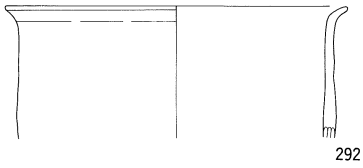
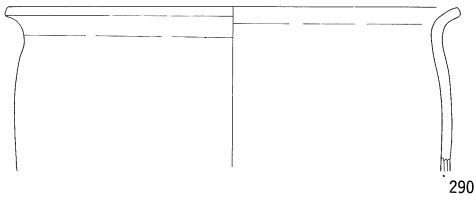
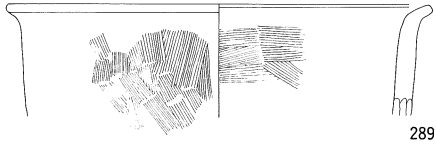
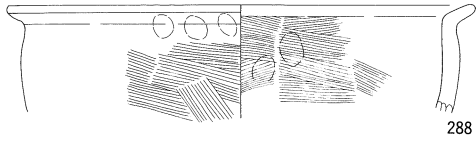




第173図 遺物包含層出土遺物実測図(3)

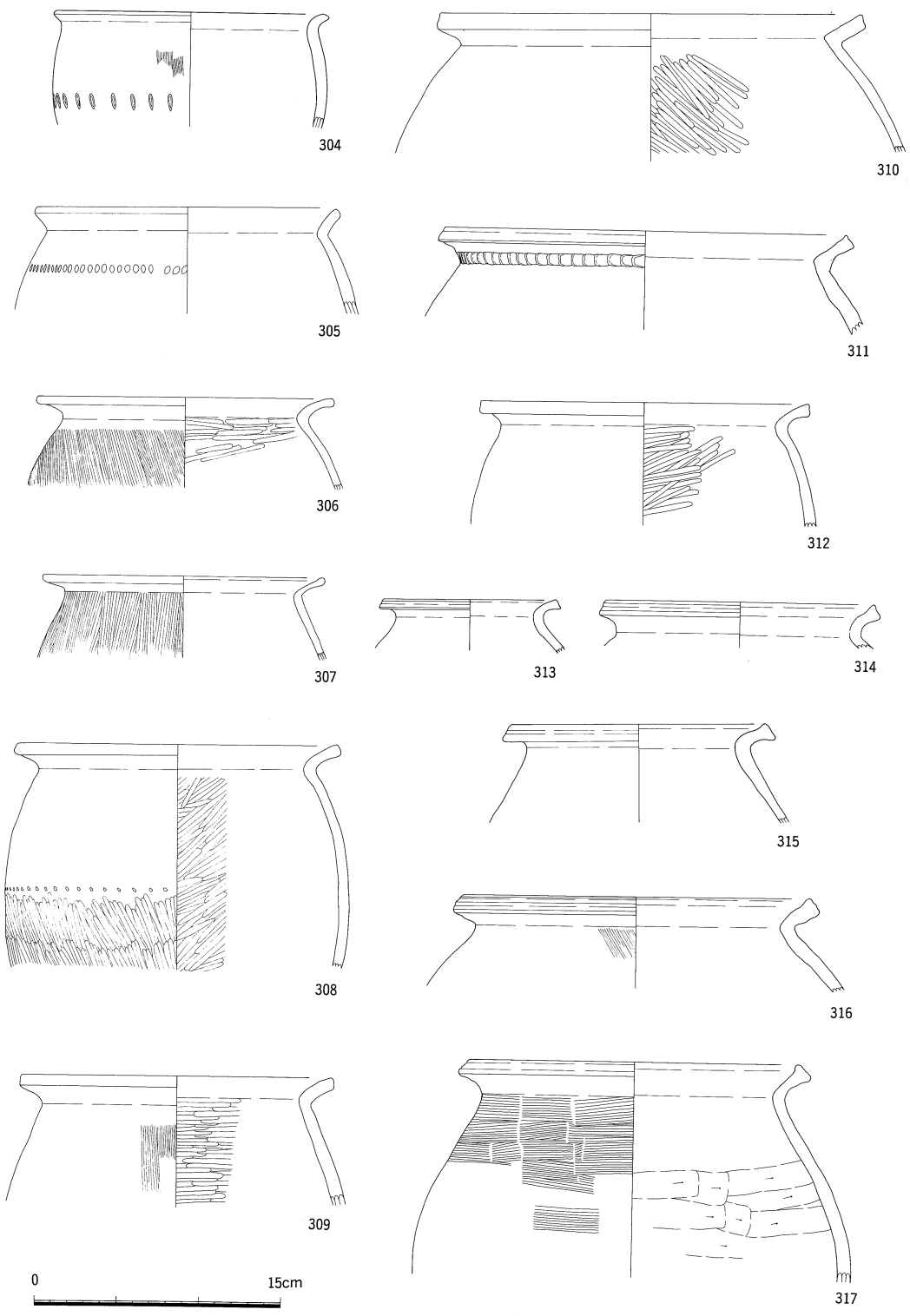


第174图 遺物包含層出土遺物実測図(4)

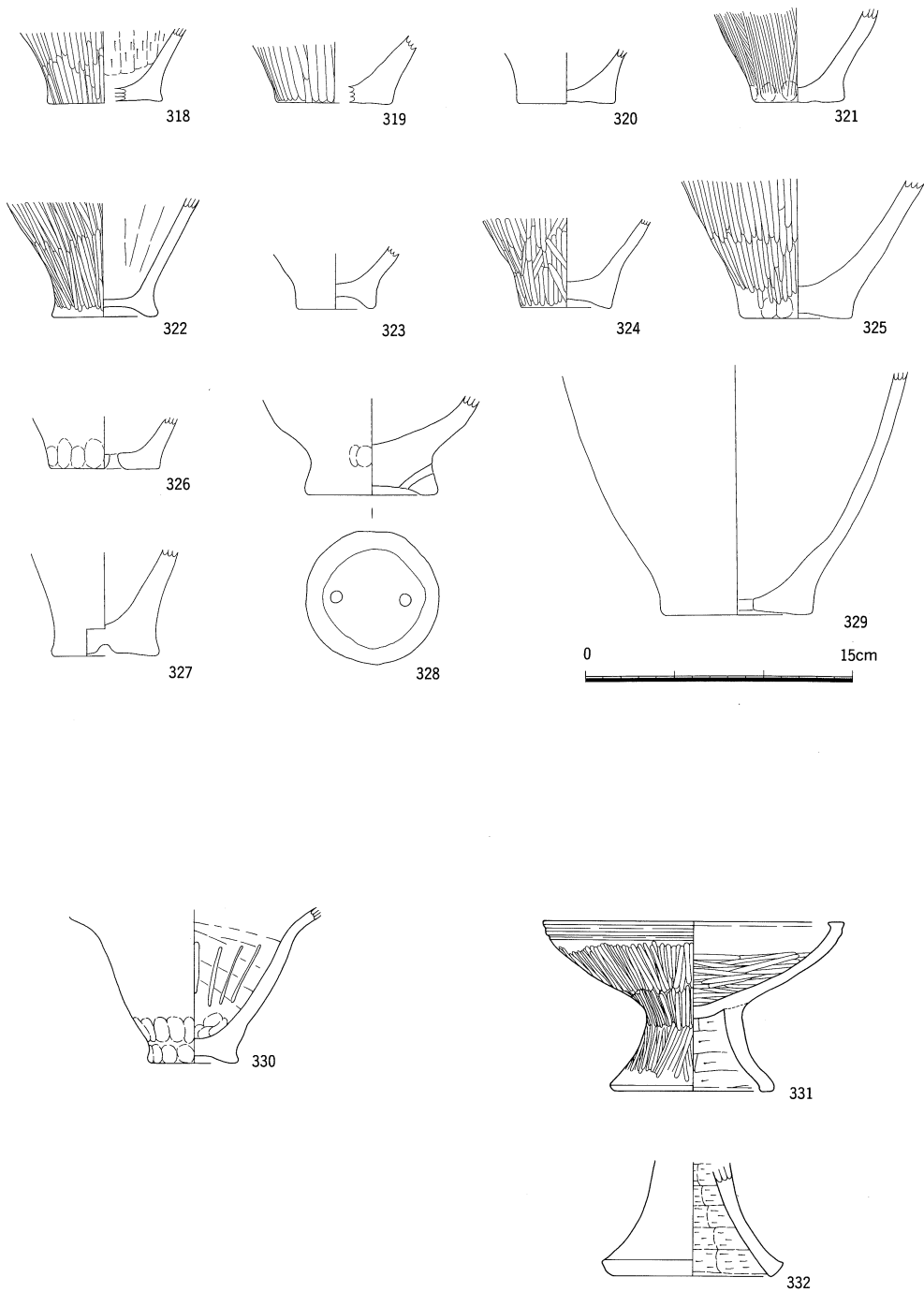


0 15cm

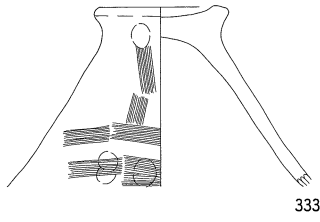
第175图 遺物包含層出土遺物実測図(5)



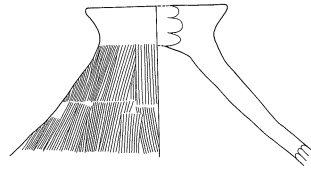
第176图 遺物包含層出土遺物実測図(6)



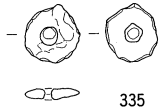
第177図 遺物包含層出土遺物実測図(7)



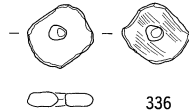
333



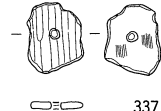
334



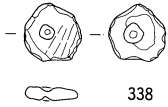
335



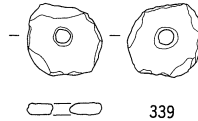
336



337



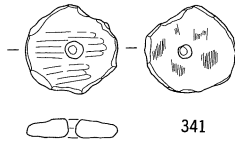
338



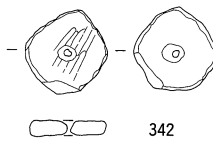
339



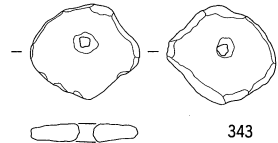
340



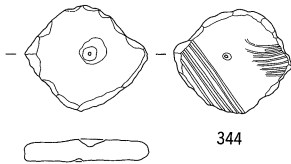
341



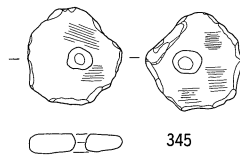
342



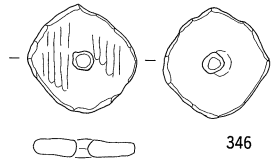
343



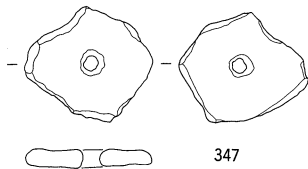
344



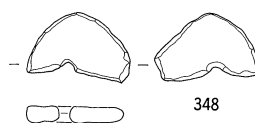
345



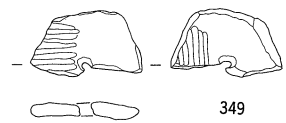
346



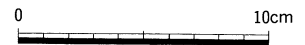
347



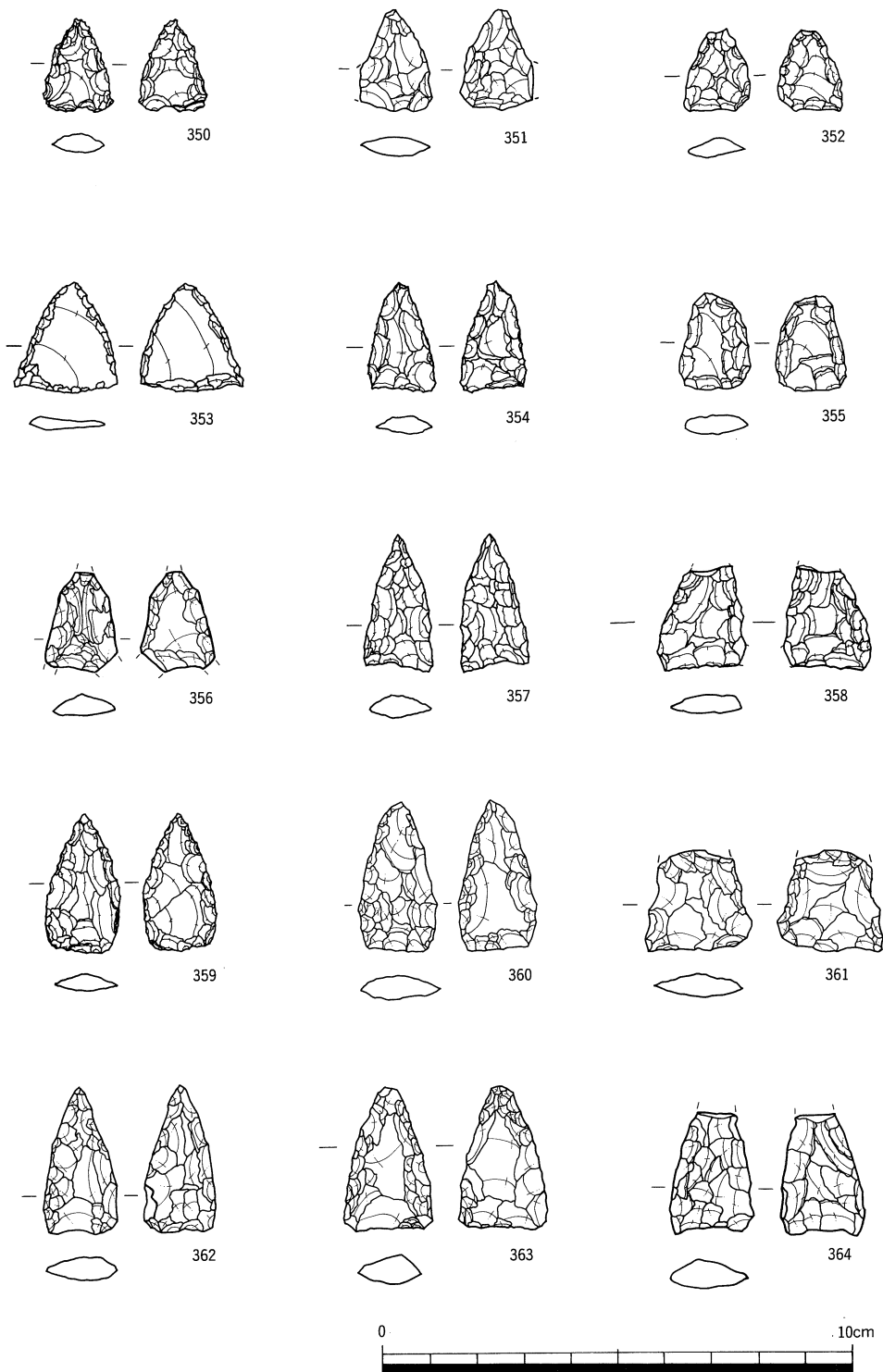
348



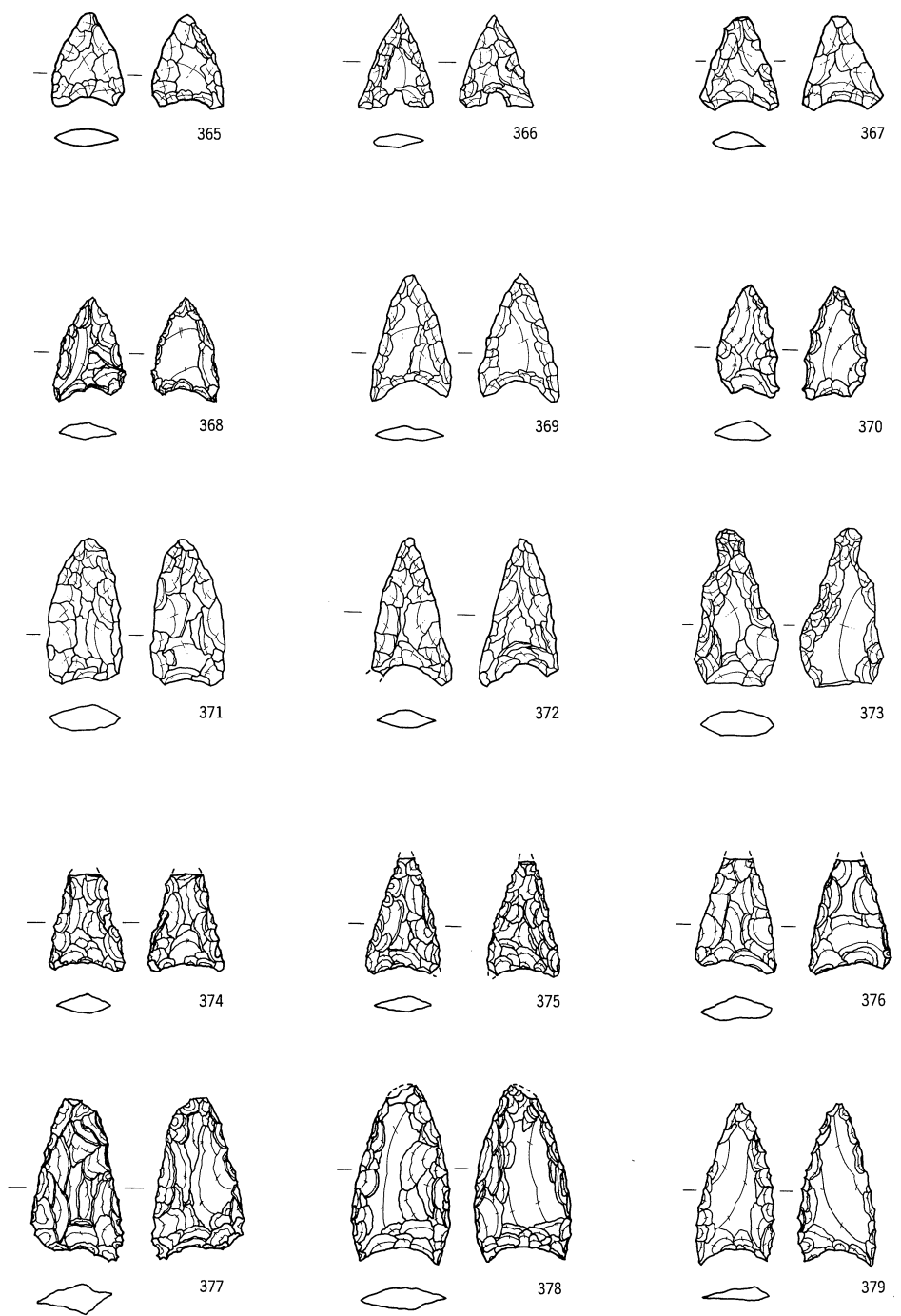
349



第178图 遺物包含層出土遺物実測図(8)

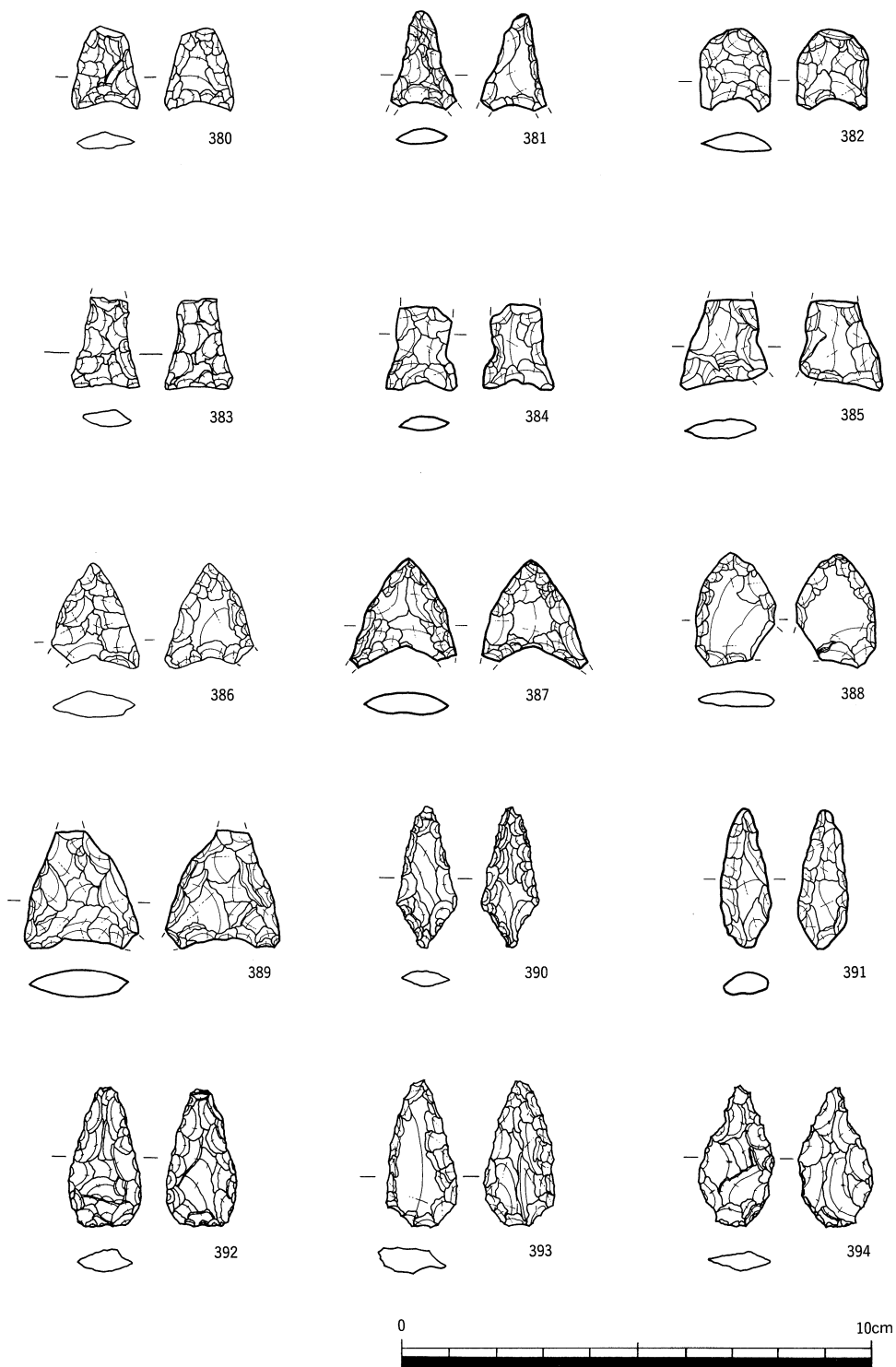


第179图 遺物包含層出土遺物実測図(9)

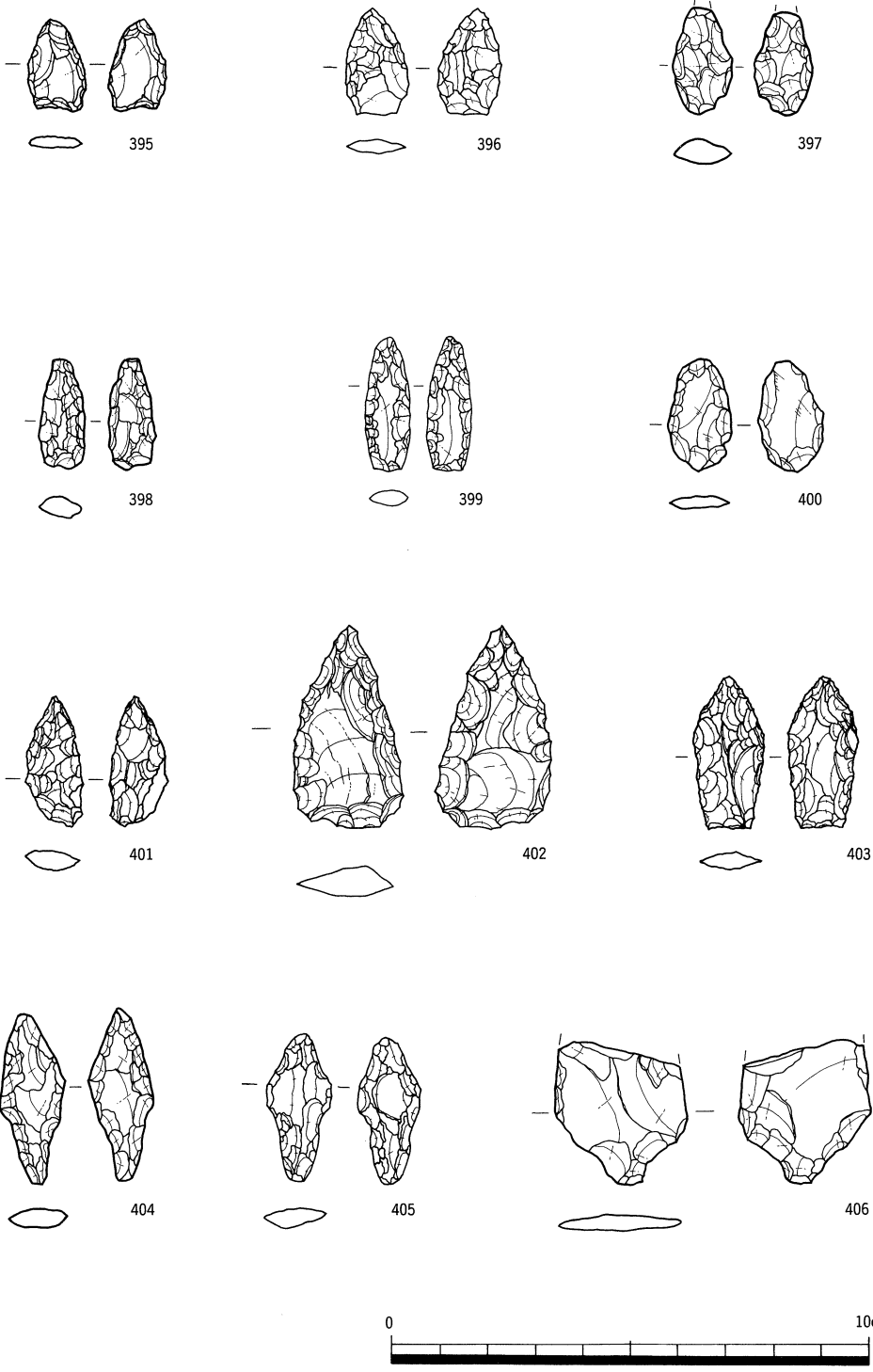


第180图 遺物包含層出土遺物実測図(10)

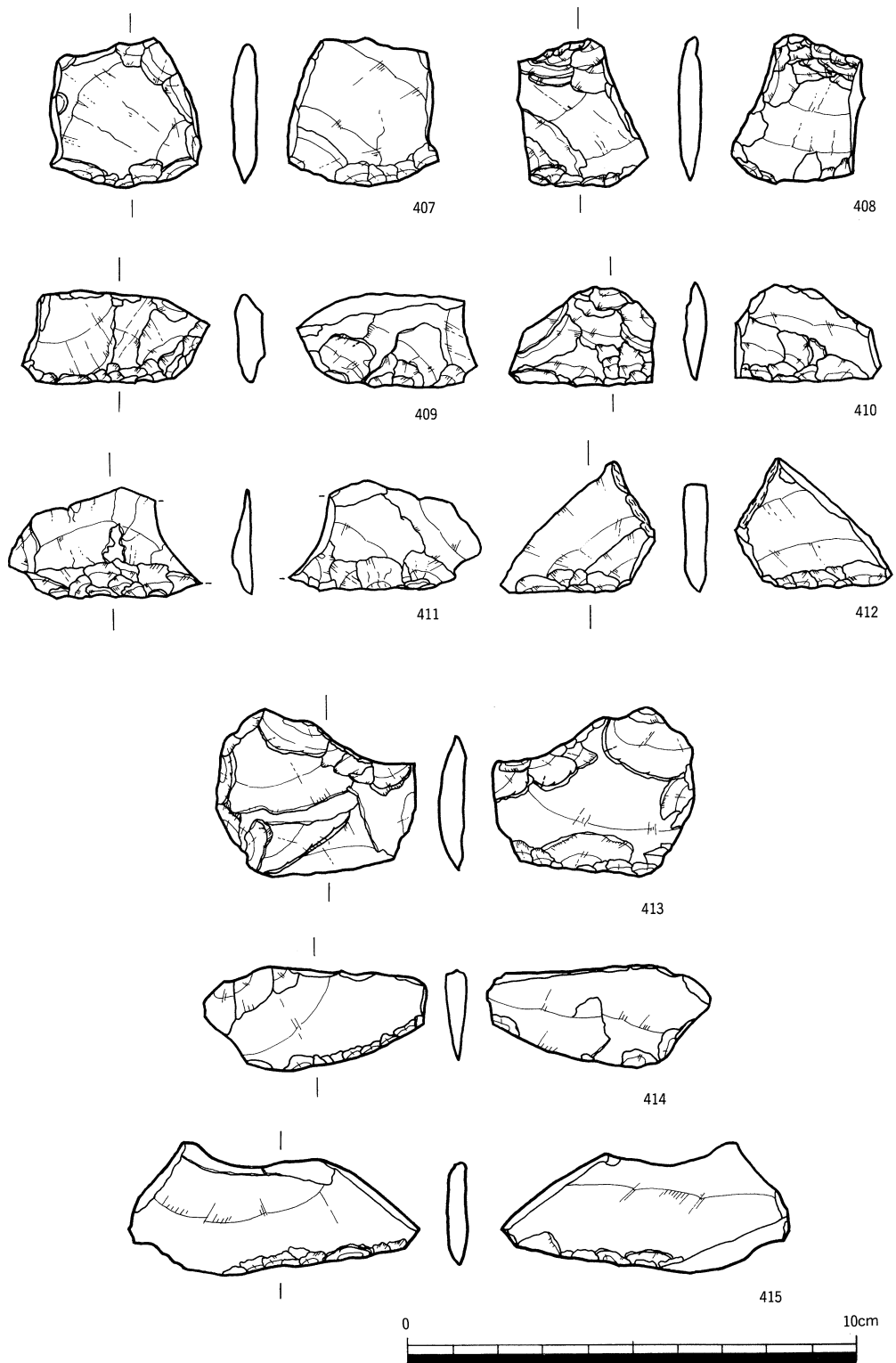




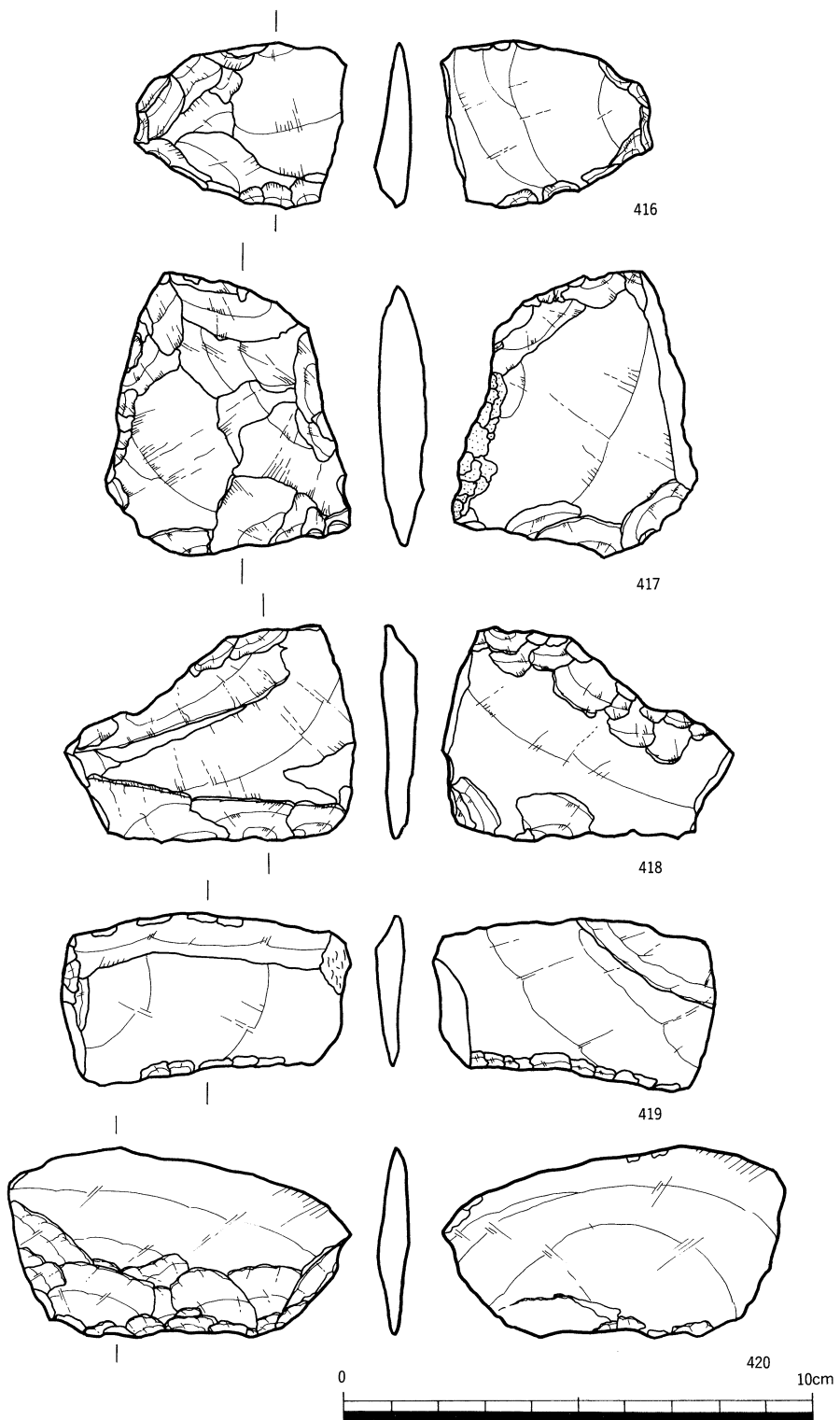
第181図 遺物包含層出土遺物実測図(11)



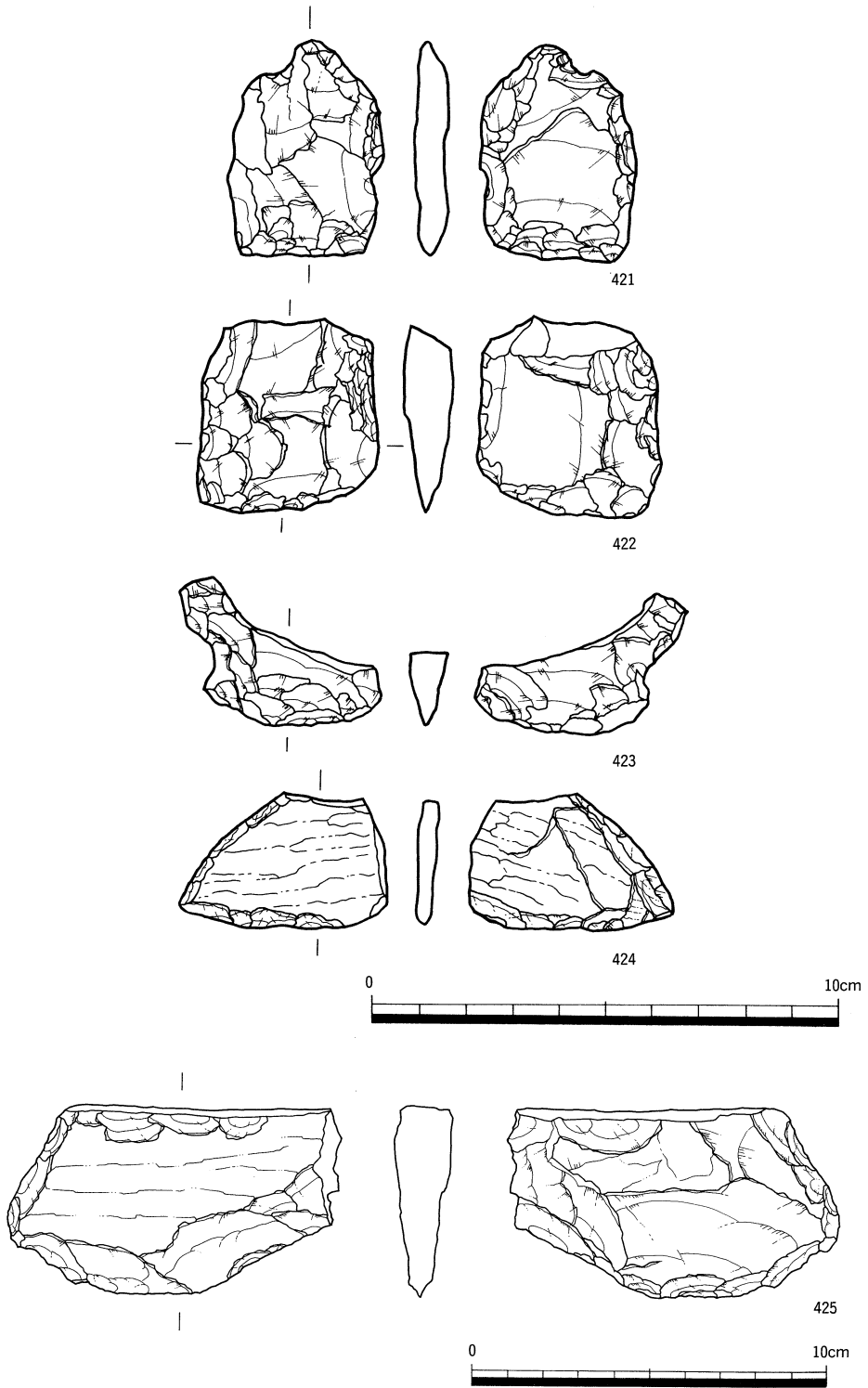
第182図 遺物包含層出土遺物実測図(12)



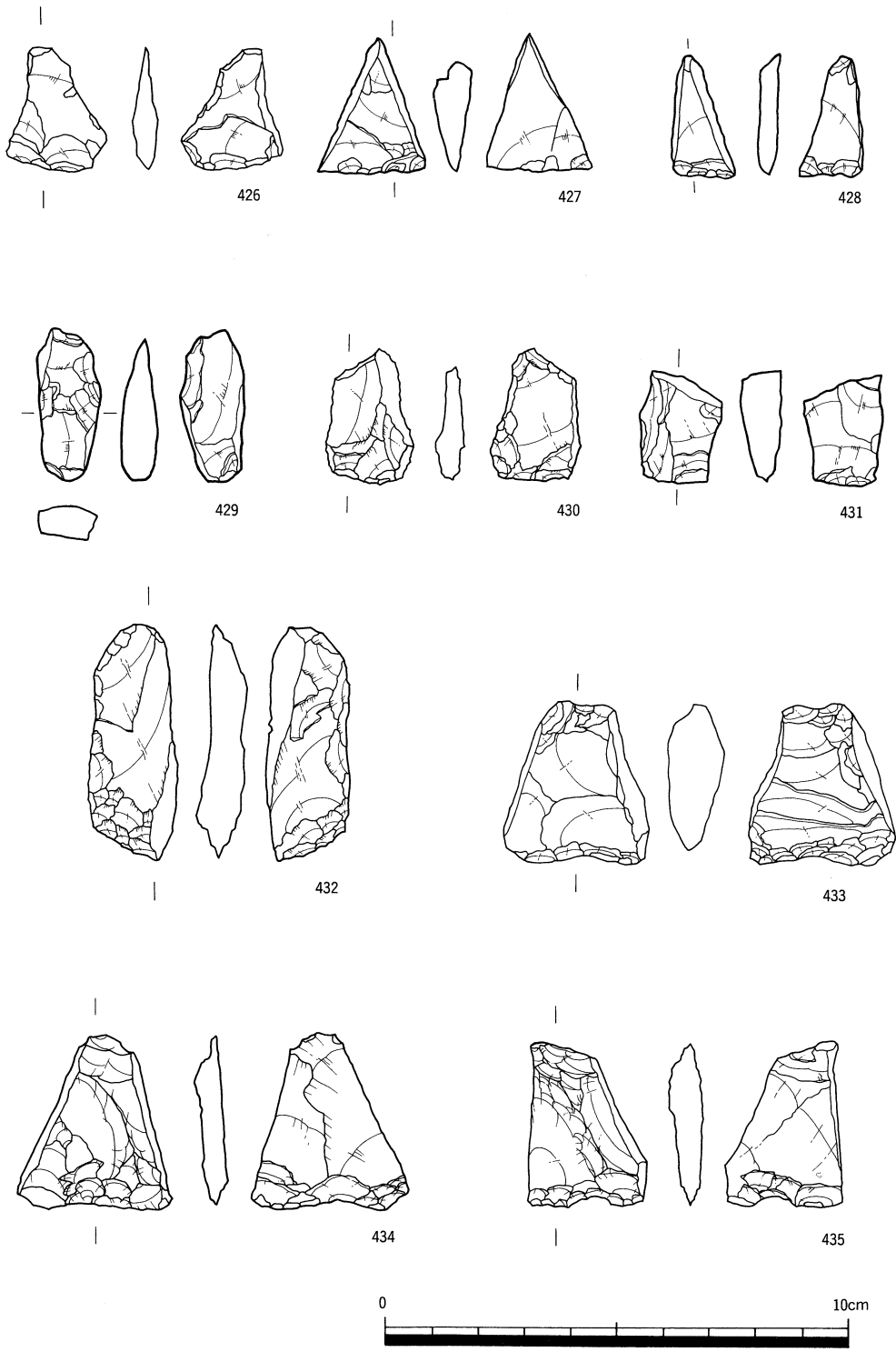
第183図 遺物包含層出土遺物実測図(13)



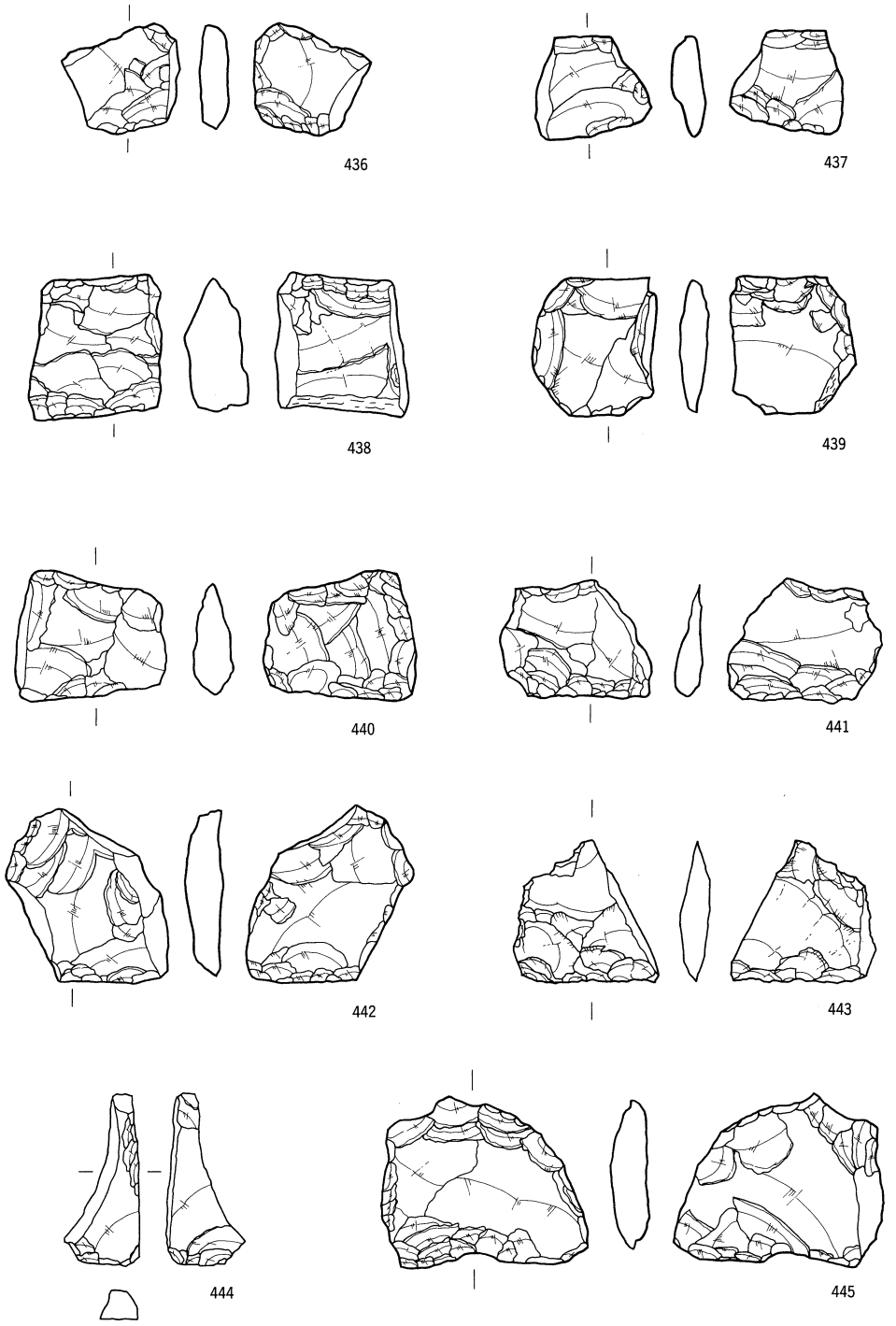
第184図 遺物包含層出土遺物実測図(14)



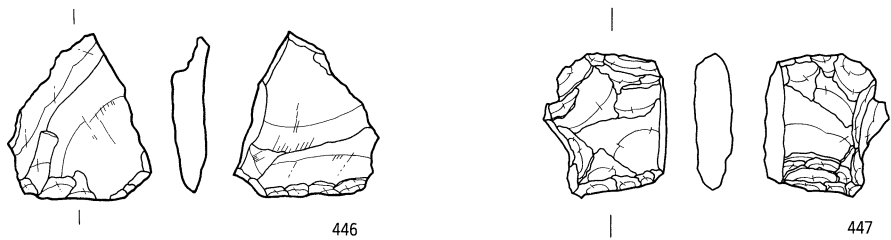
第185図 遺物包含層出土遺物実測図(15)



第186图 遺物包含層出土遺物実測図(16)

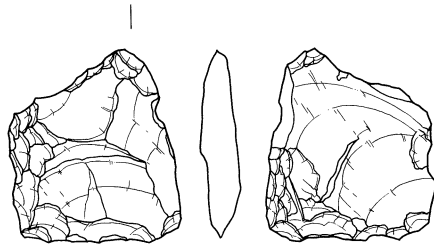


第187図 遺物包含層出土遺物実測図(17)

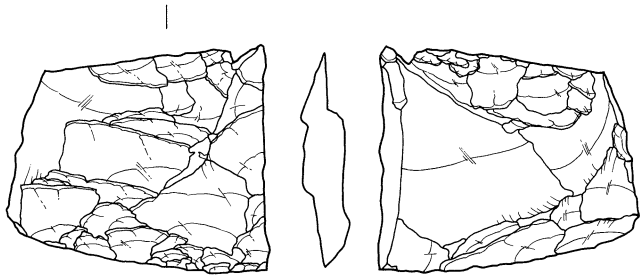


446

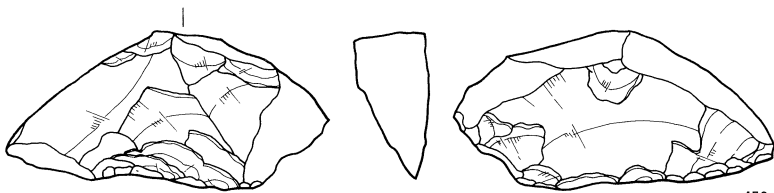
447



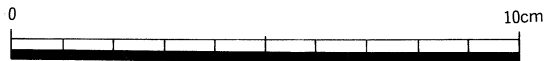
448



449

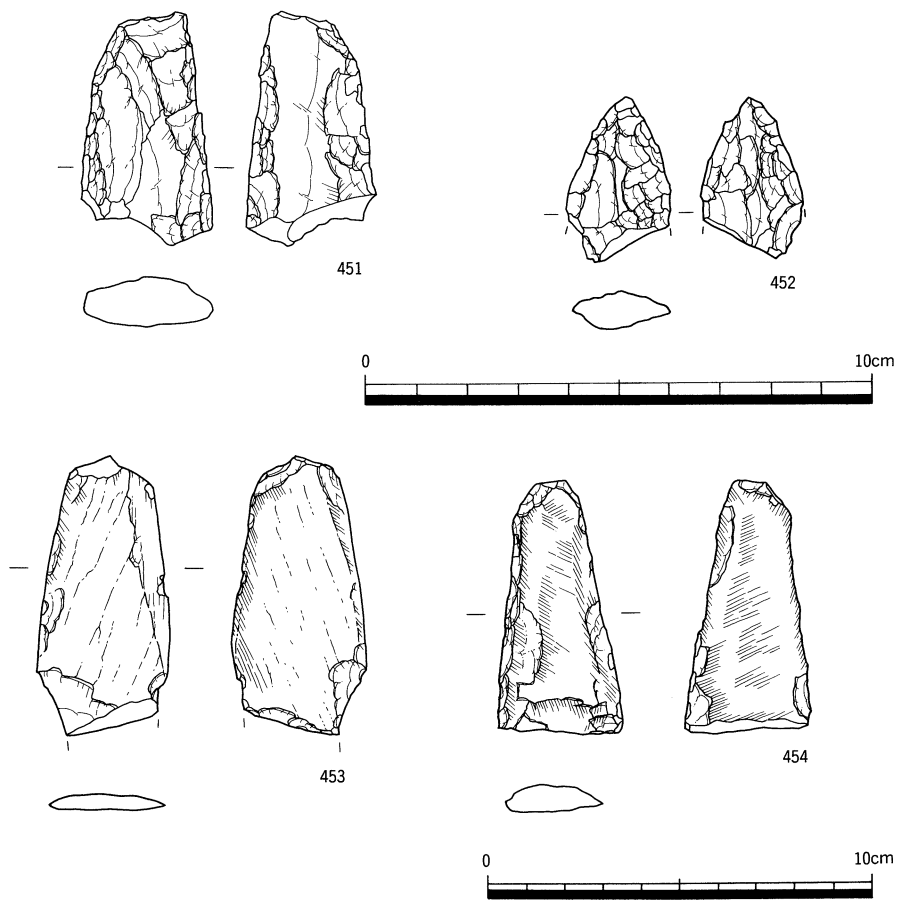


450

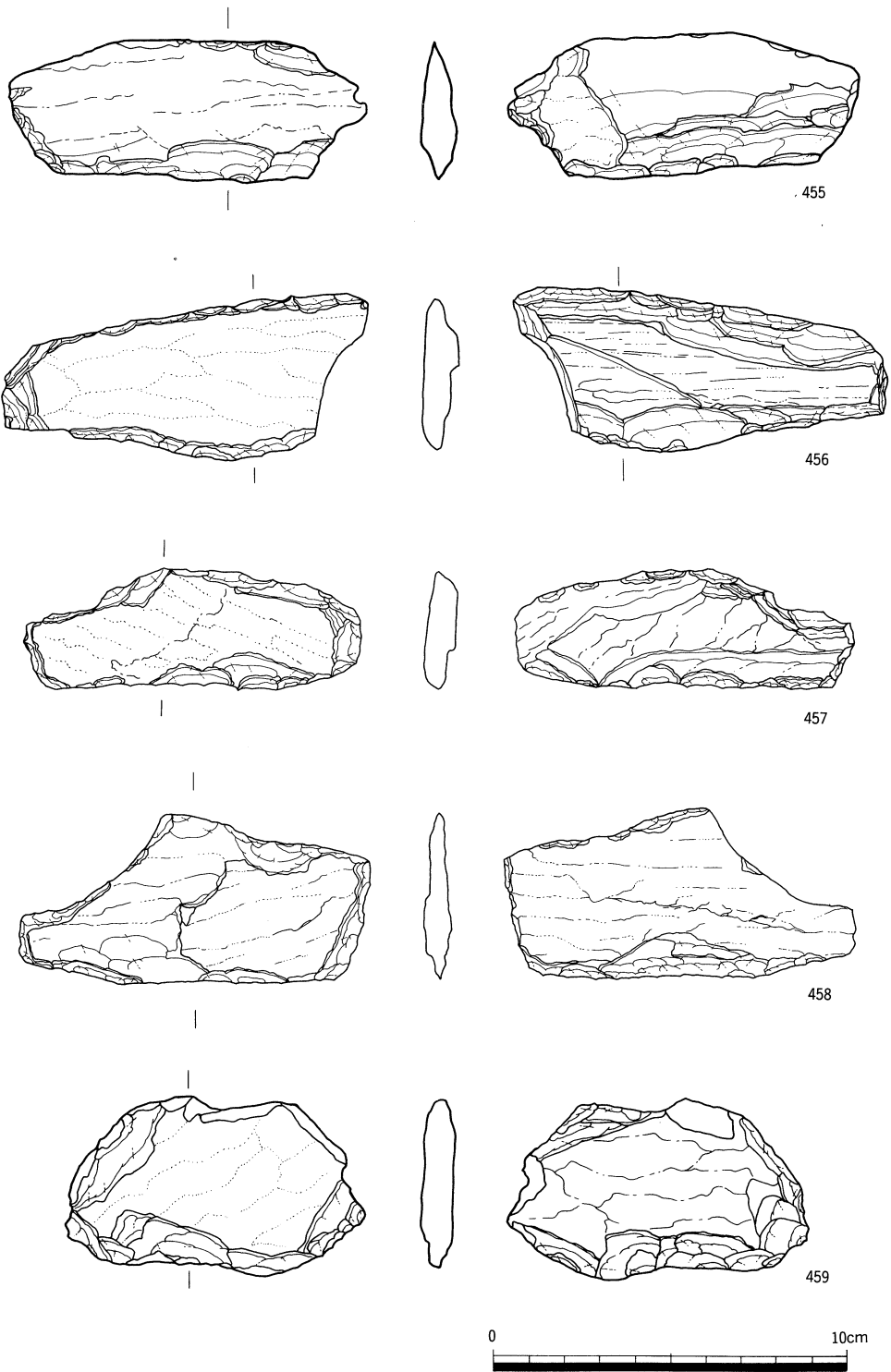


第188図 遺物包含層出土遺物実測図(18)

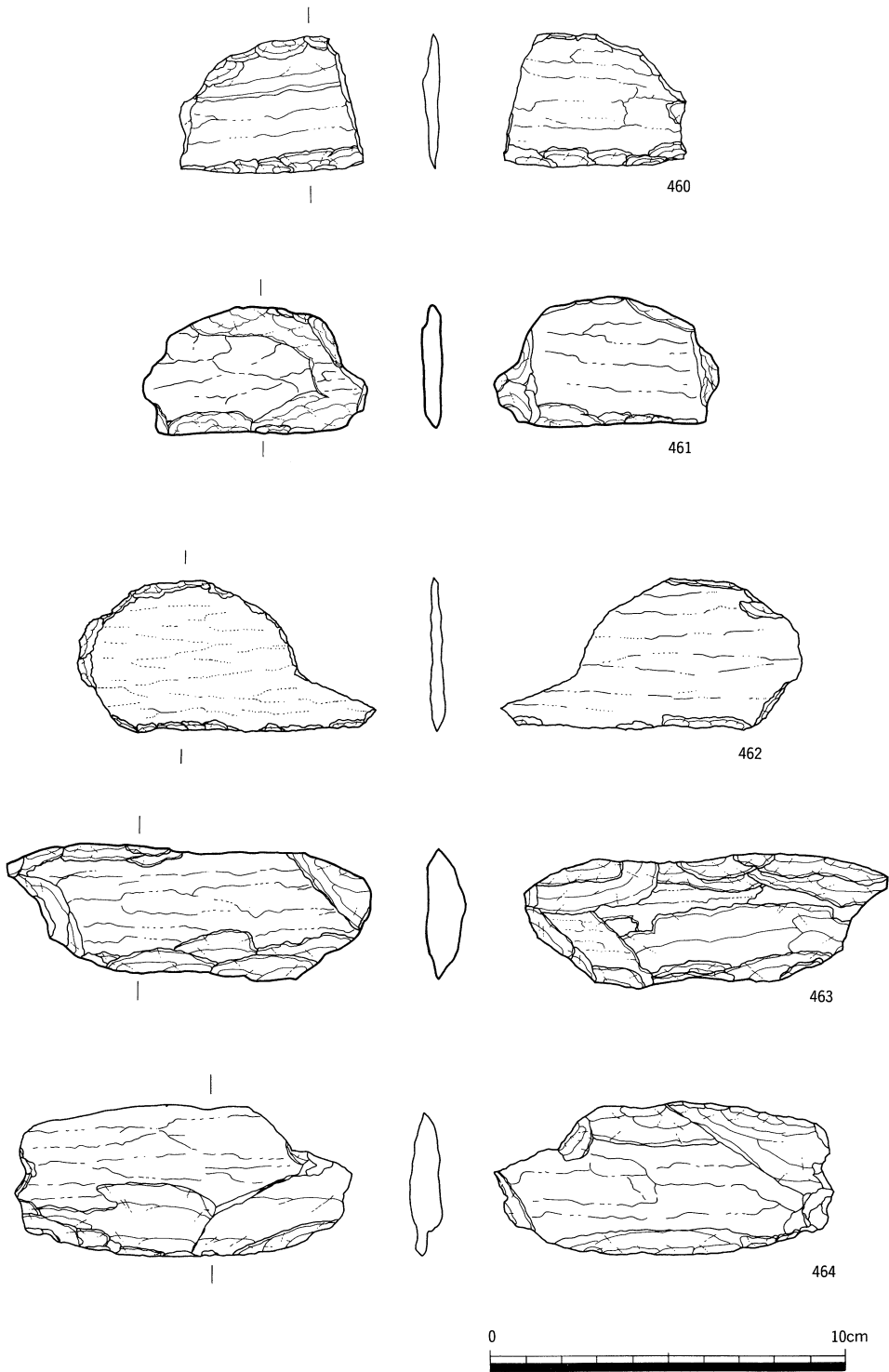




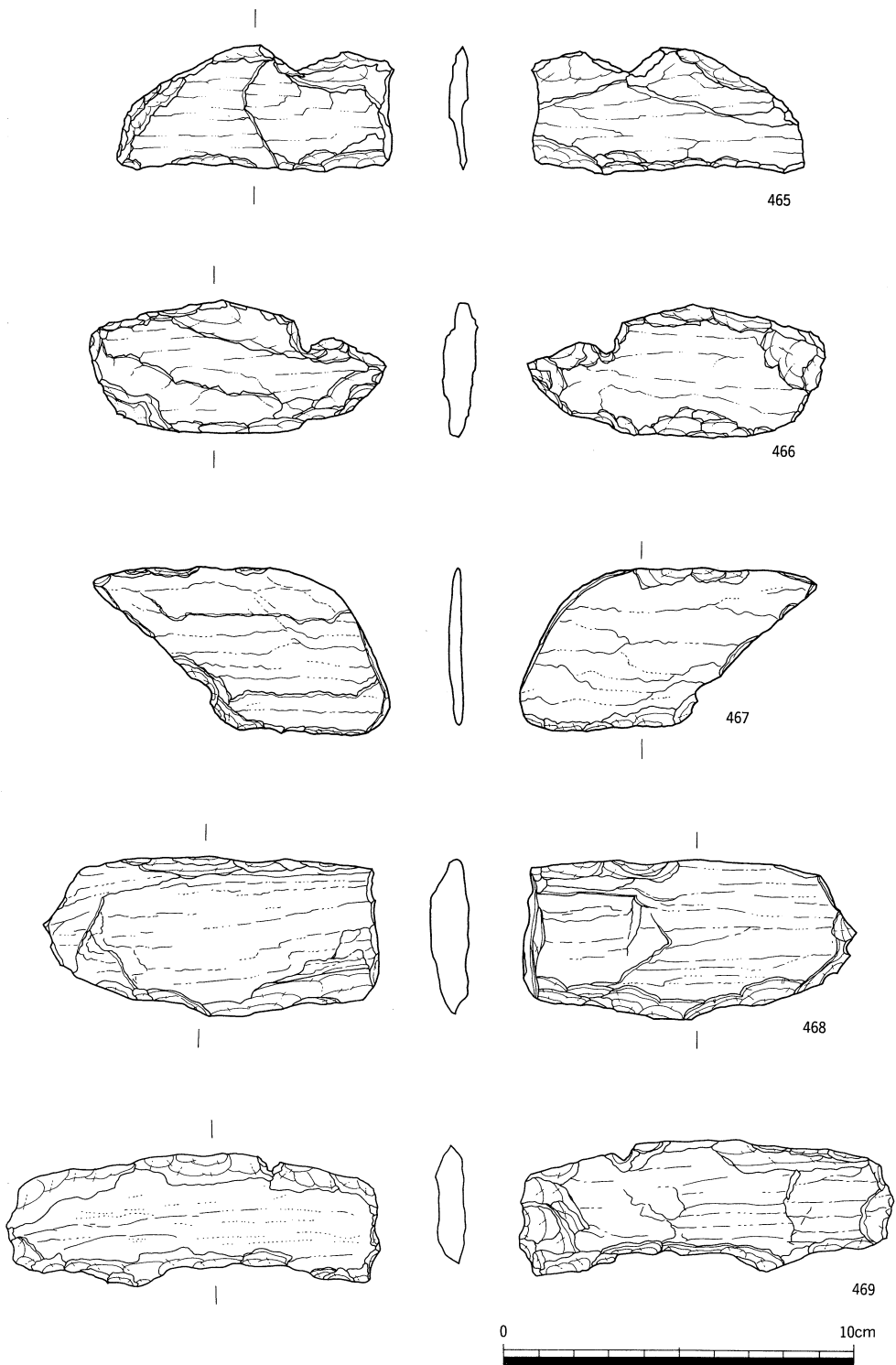
第189図 遺物包含層出土遺物実測図(19)



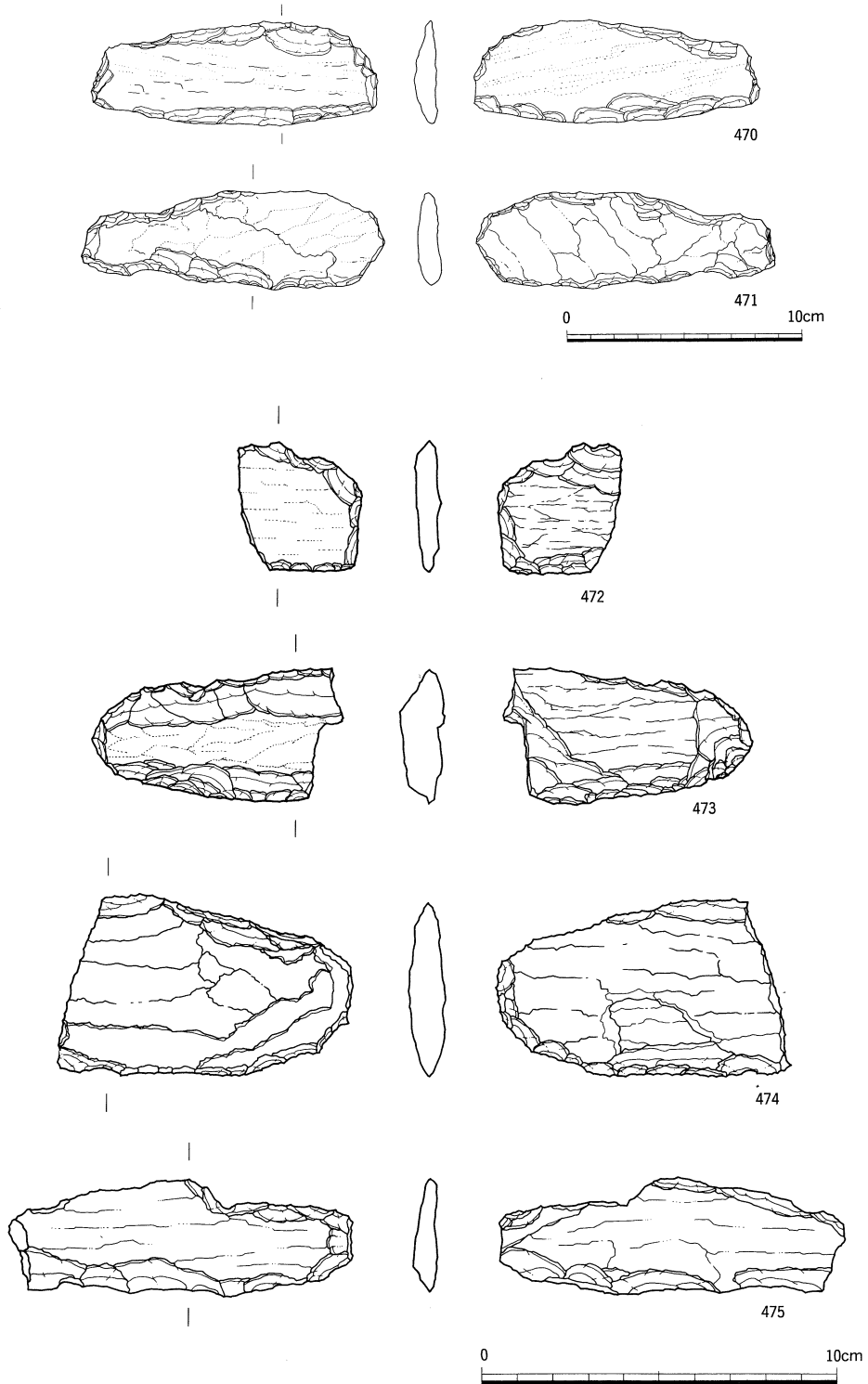
第190図 遺物包含層出土遺物実測図(20)



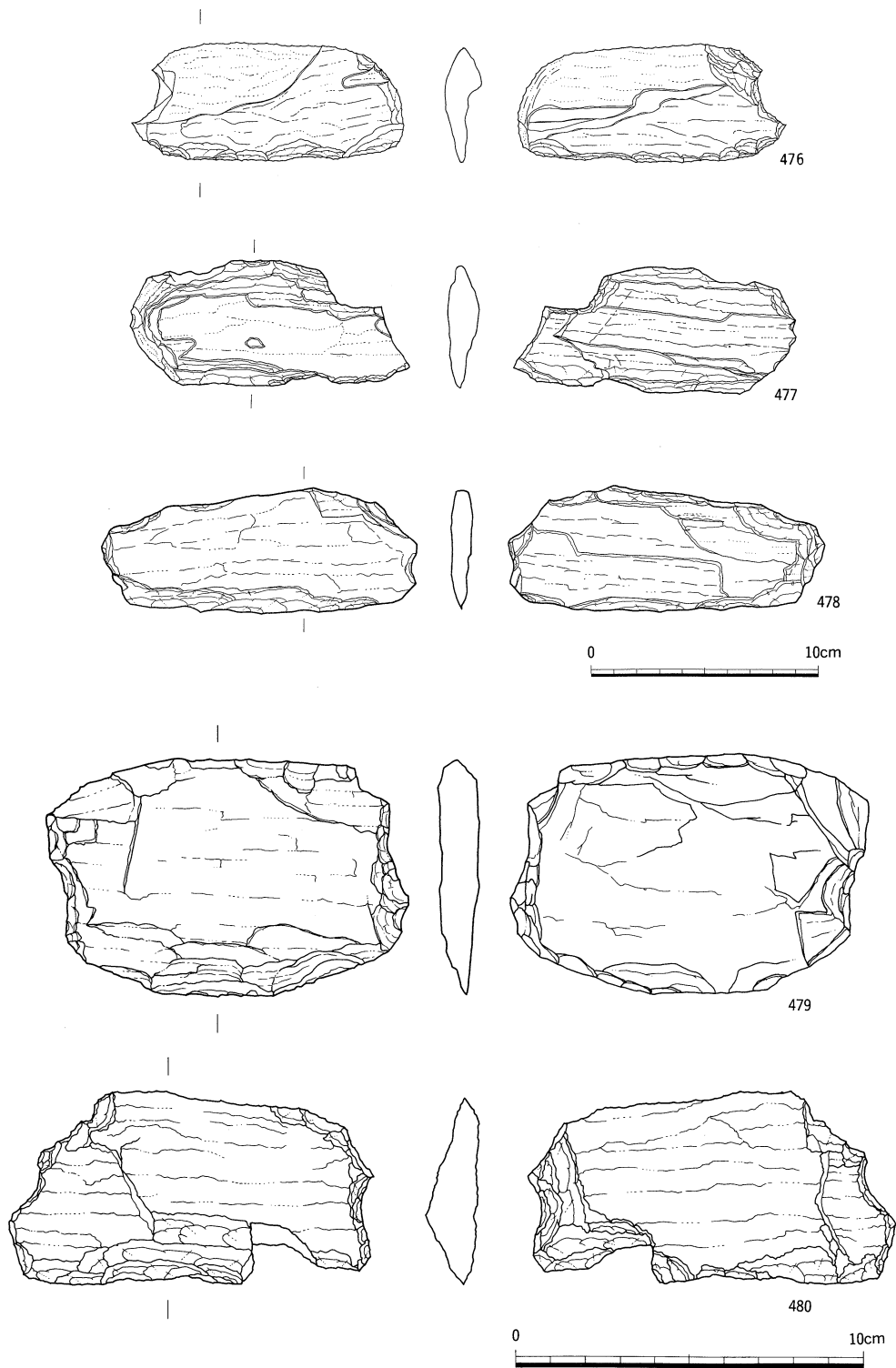
第191図 遺物包含層出土遺物実測図(21)



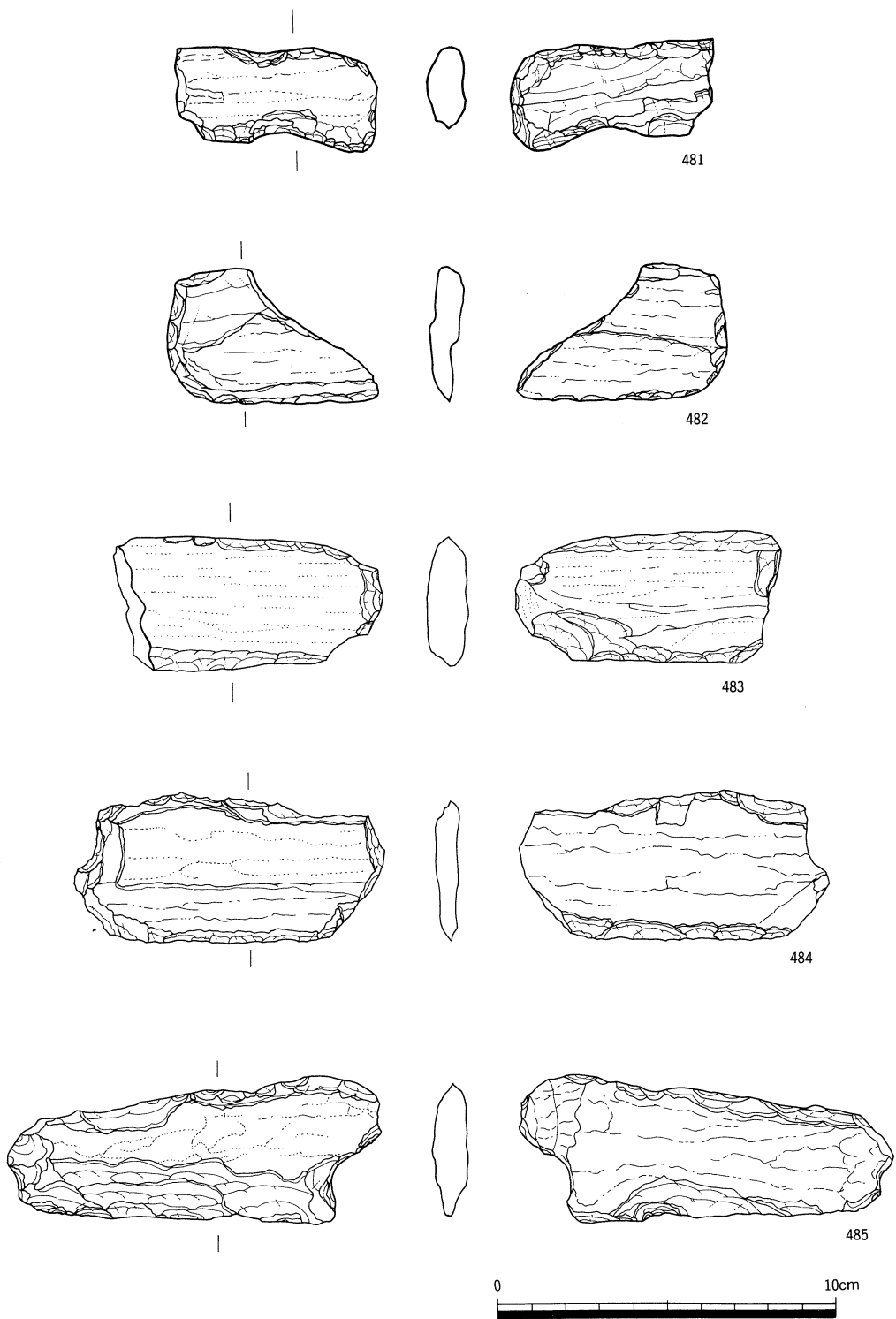
第192図 遺物包含層出土遺物実測図(22)



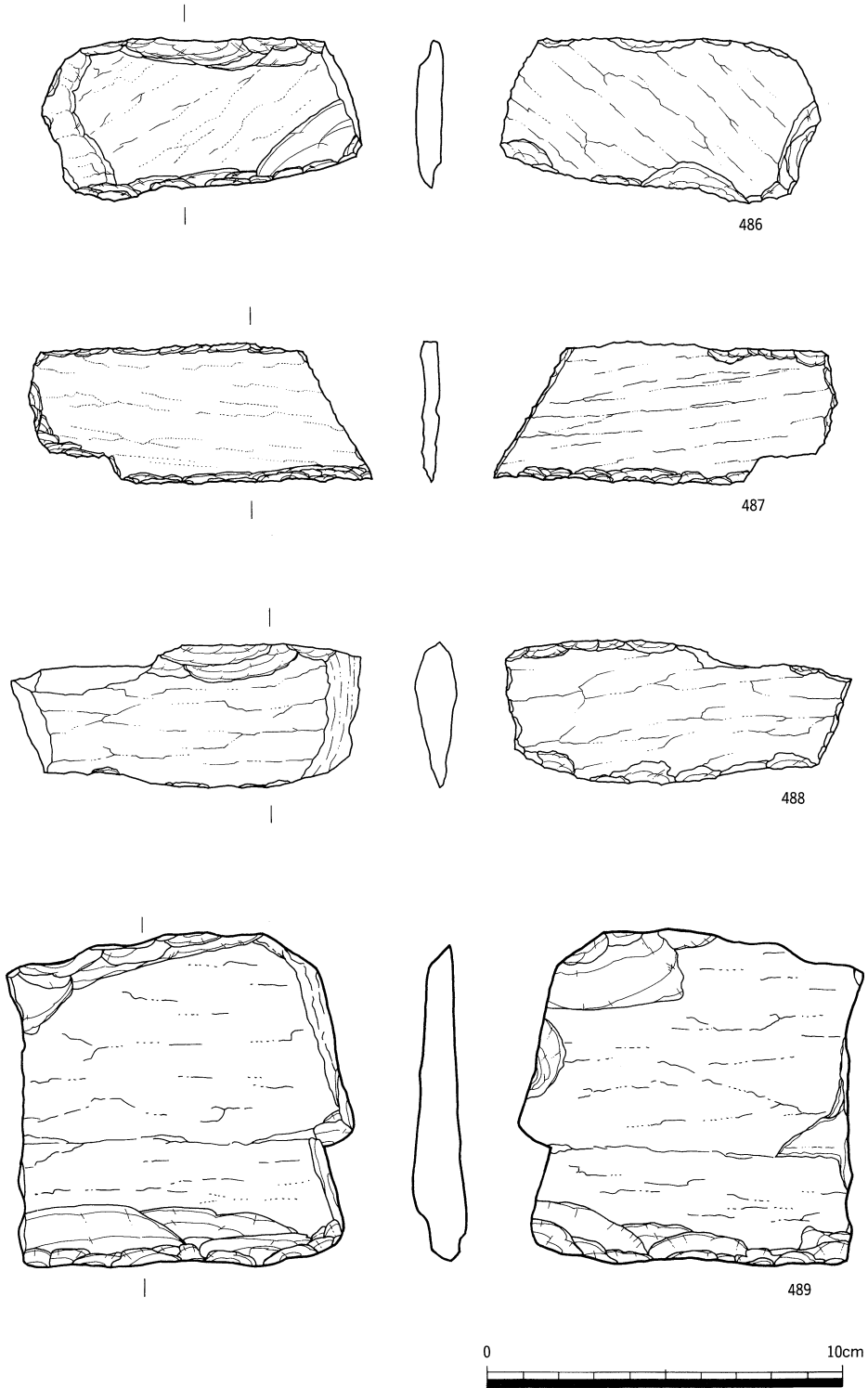
第193図 遺物包含層出土遺物実測図(23)



第194図 遺物包含層出土遺物実測図(24)

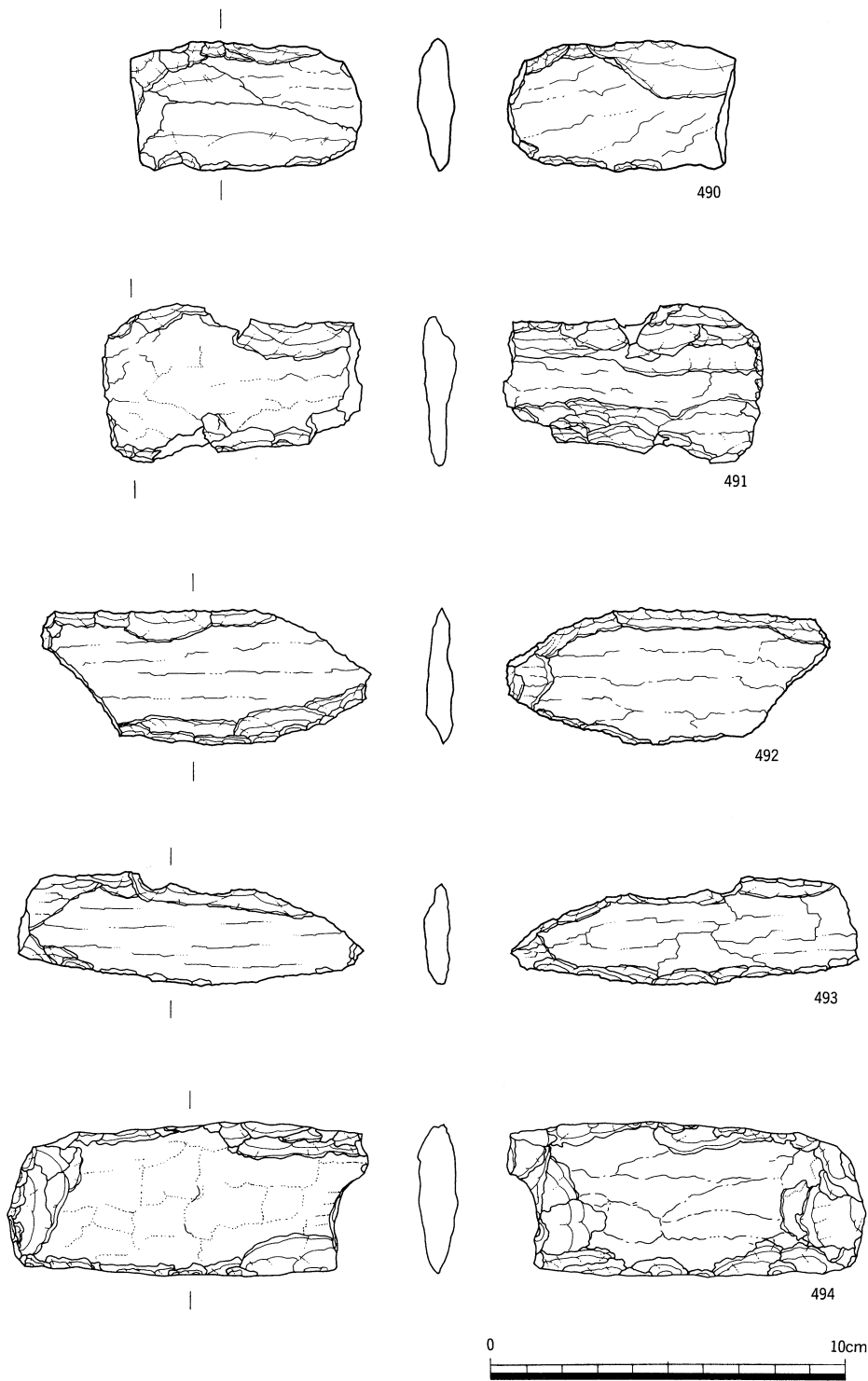


第195図 遺物包含層出土遺物実測図(25)

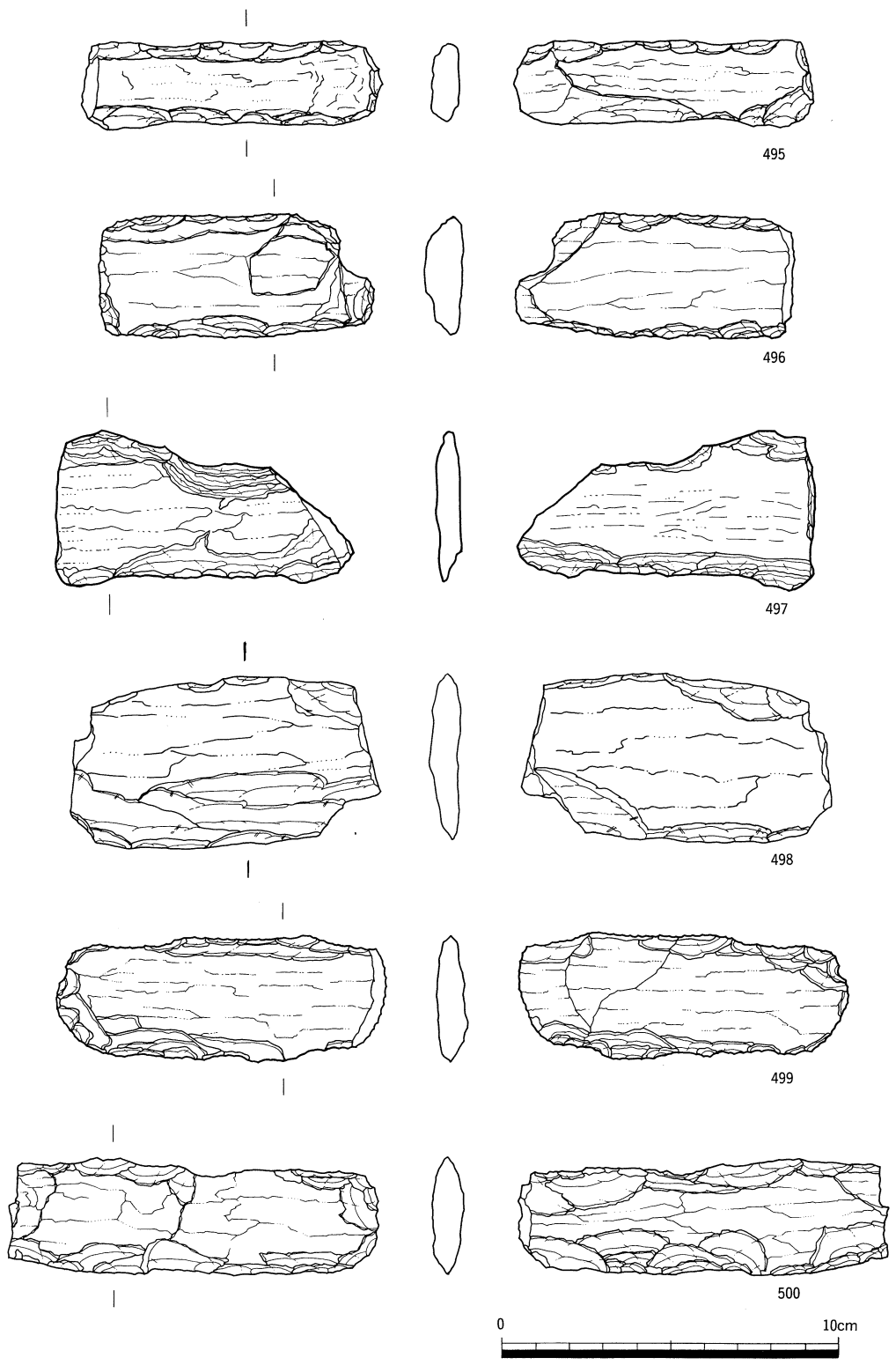


第196図 遺物包含層出土遺物実測図(26)

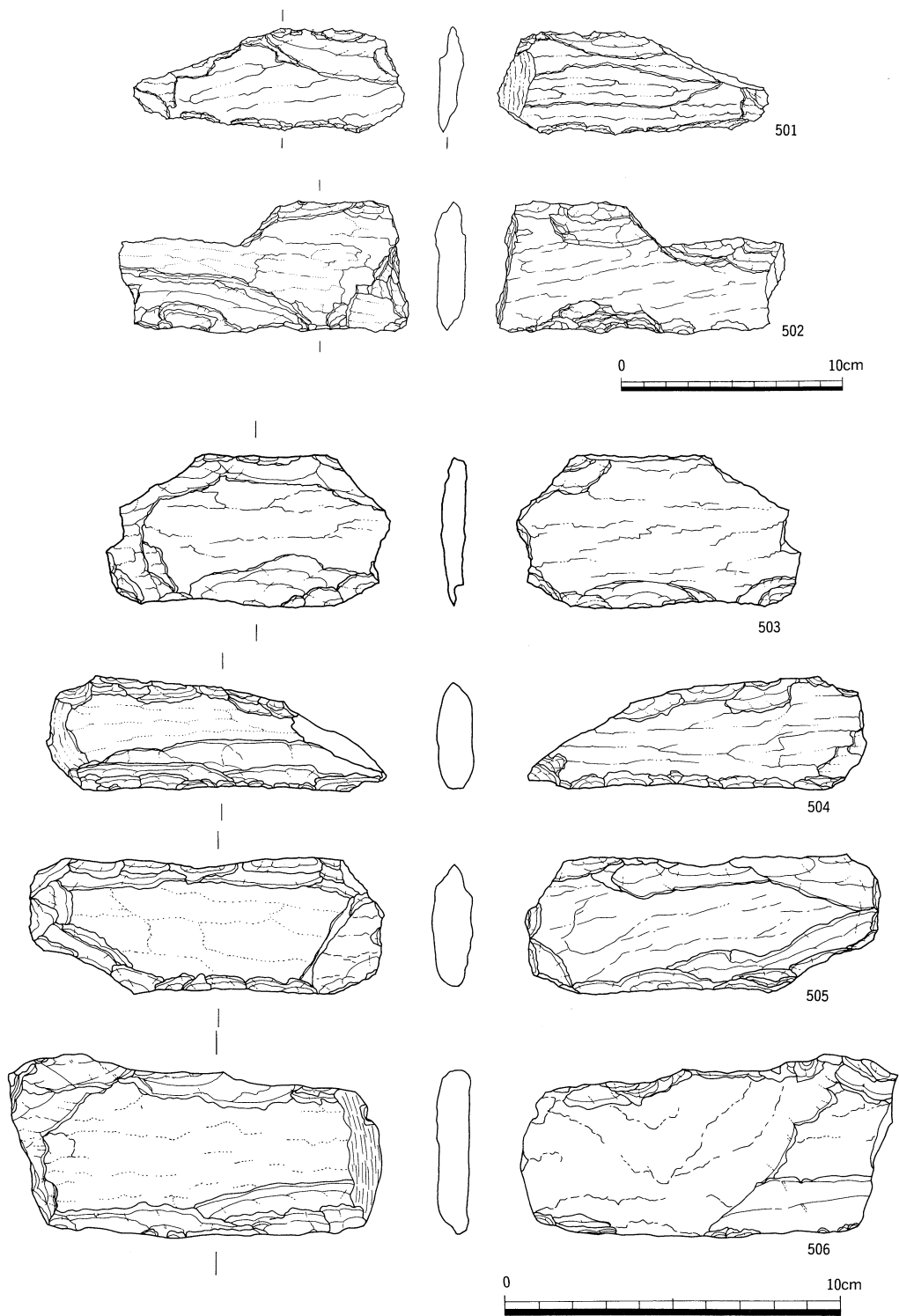




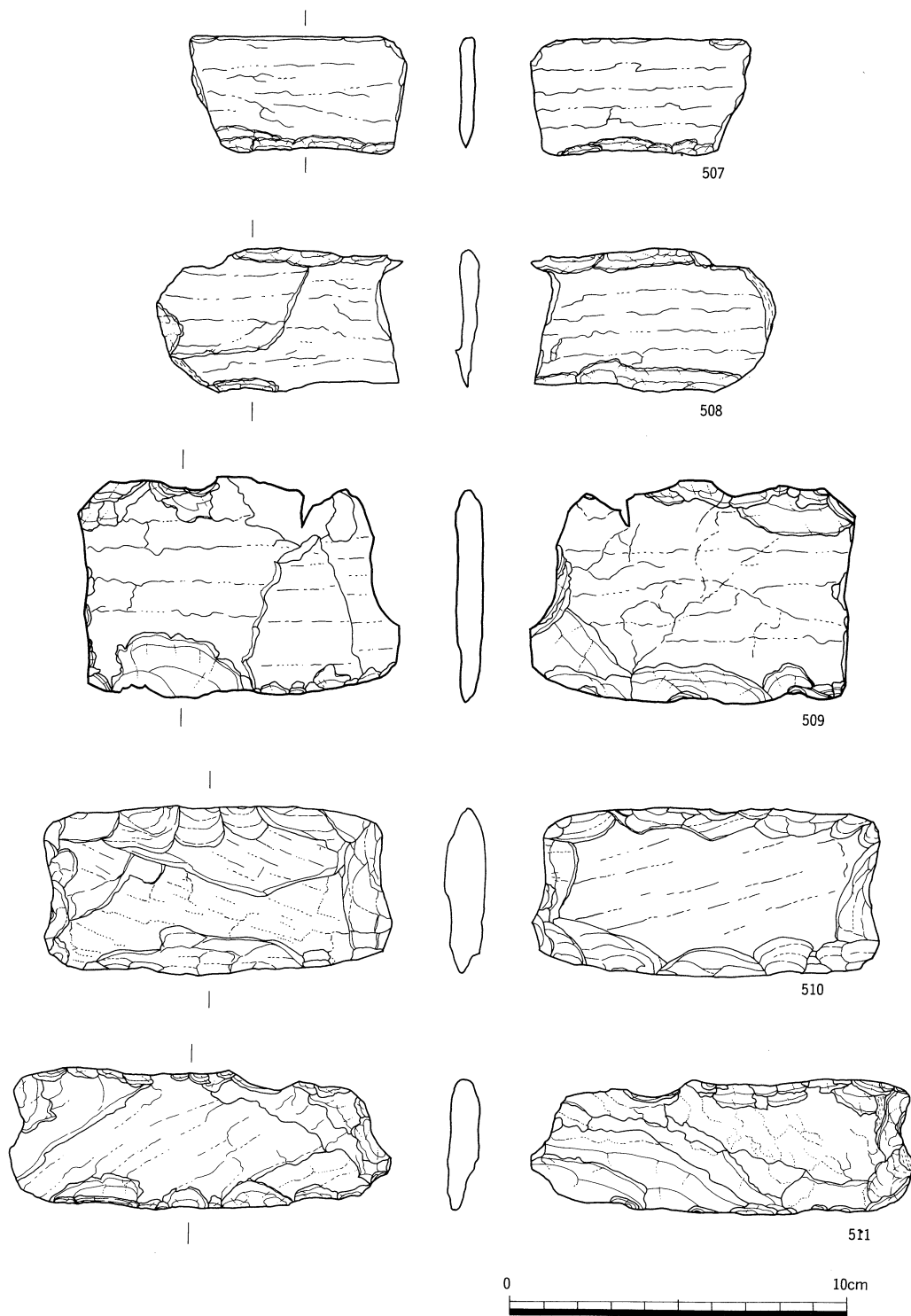
第197図 遺物包含層出土遺物実測図(27)



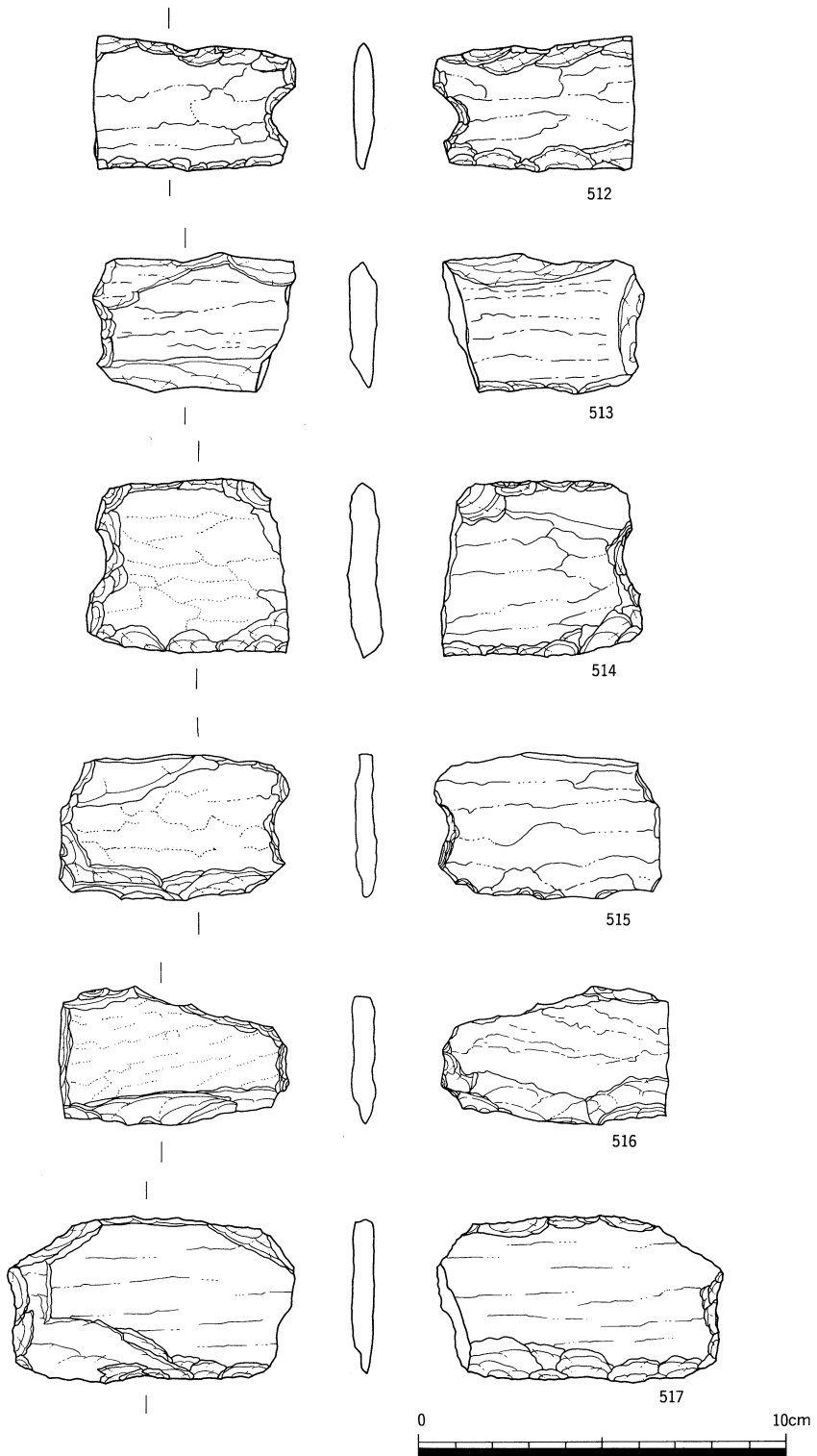
第198図 遺物包含層出土遺物実測図(28)



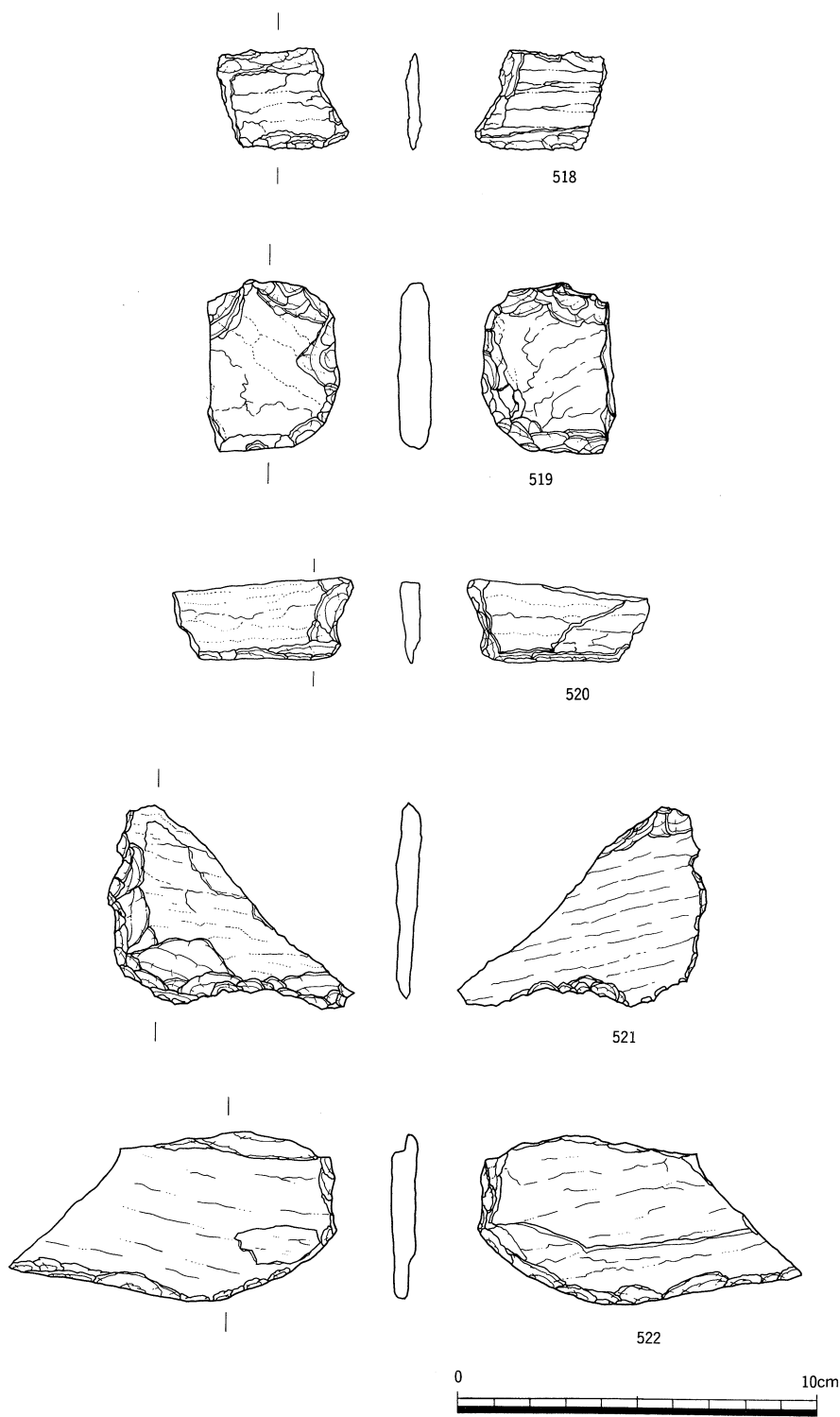
第199図 遺物包含層出土遺物実測図(29)



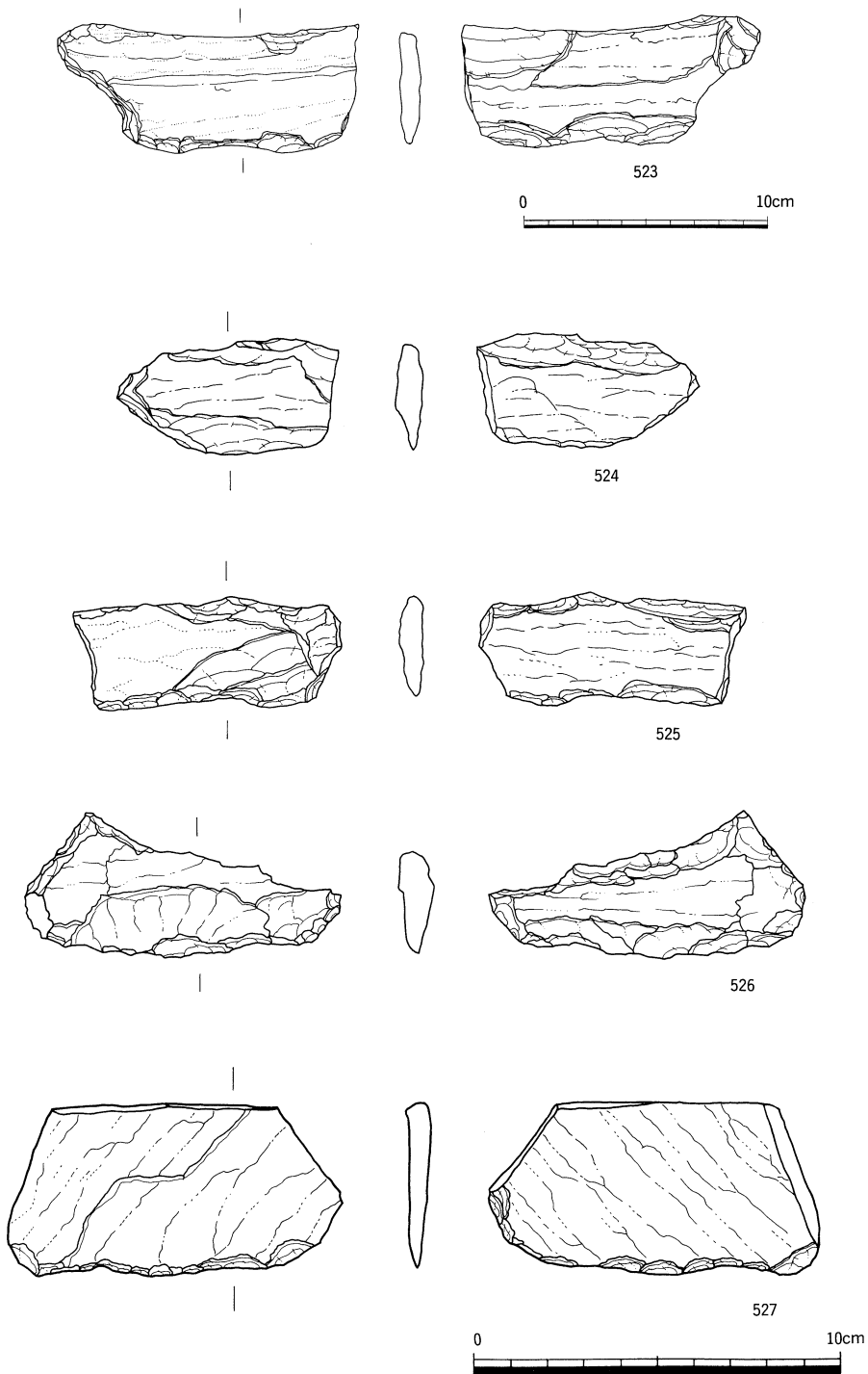
第200図 遺物包含層出土遺物実測図(30)



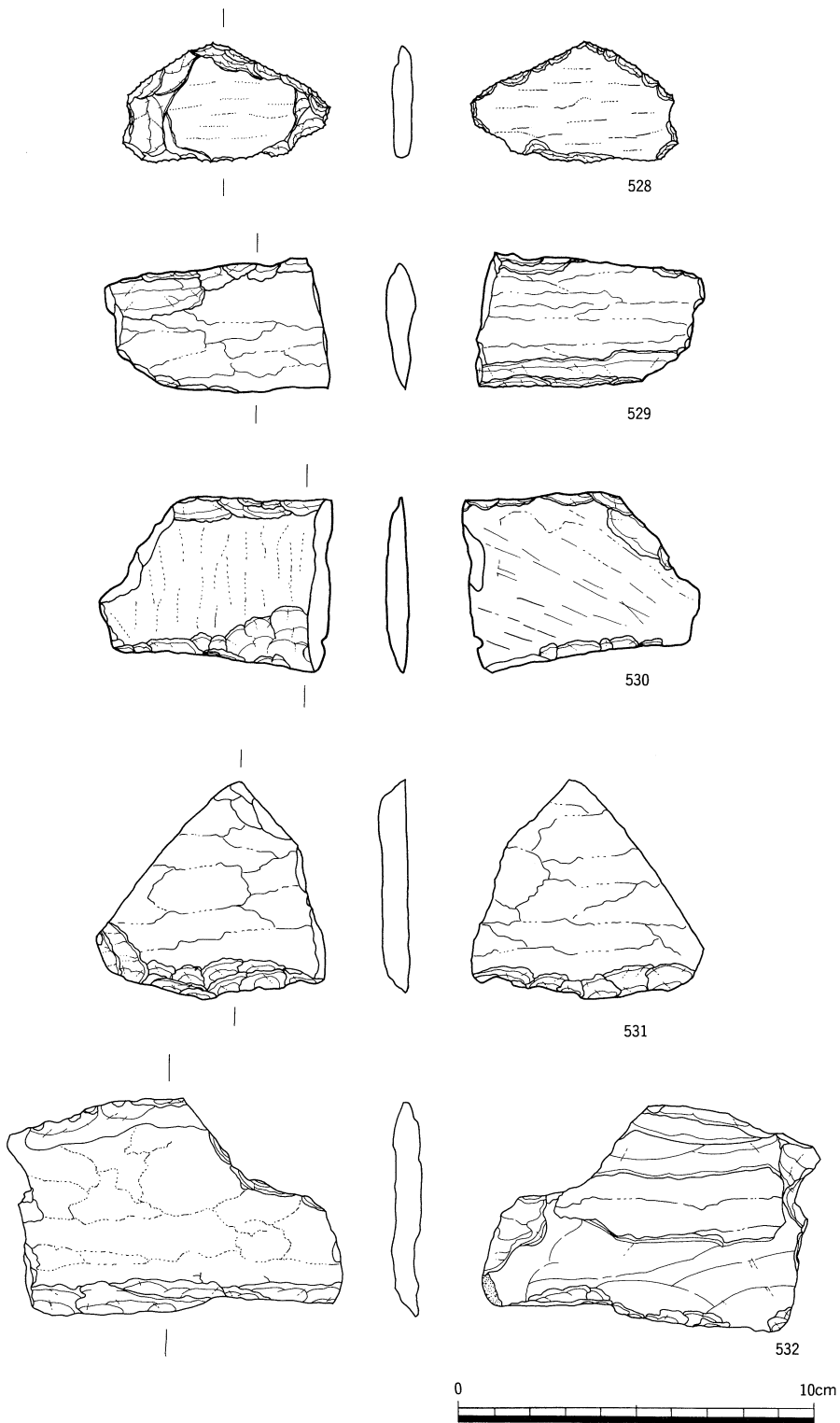
第201図 遺物包含層出土遺物実測図(31)



第202図 遺物包含層出土遺物実測図(32)

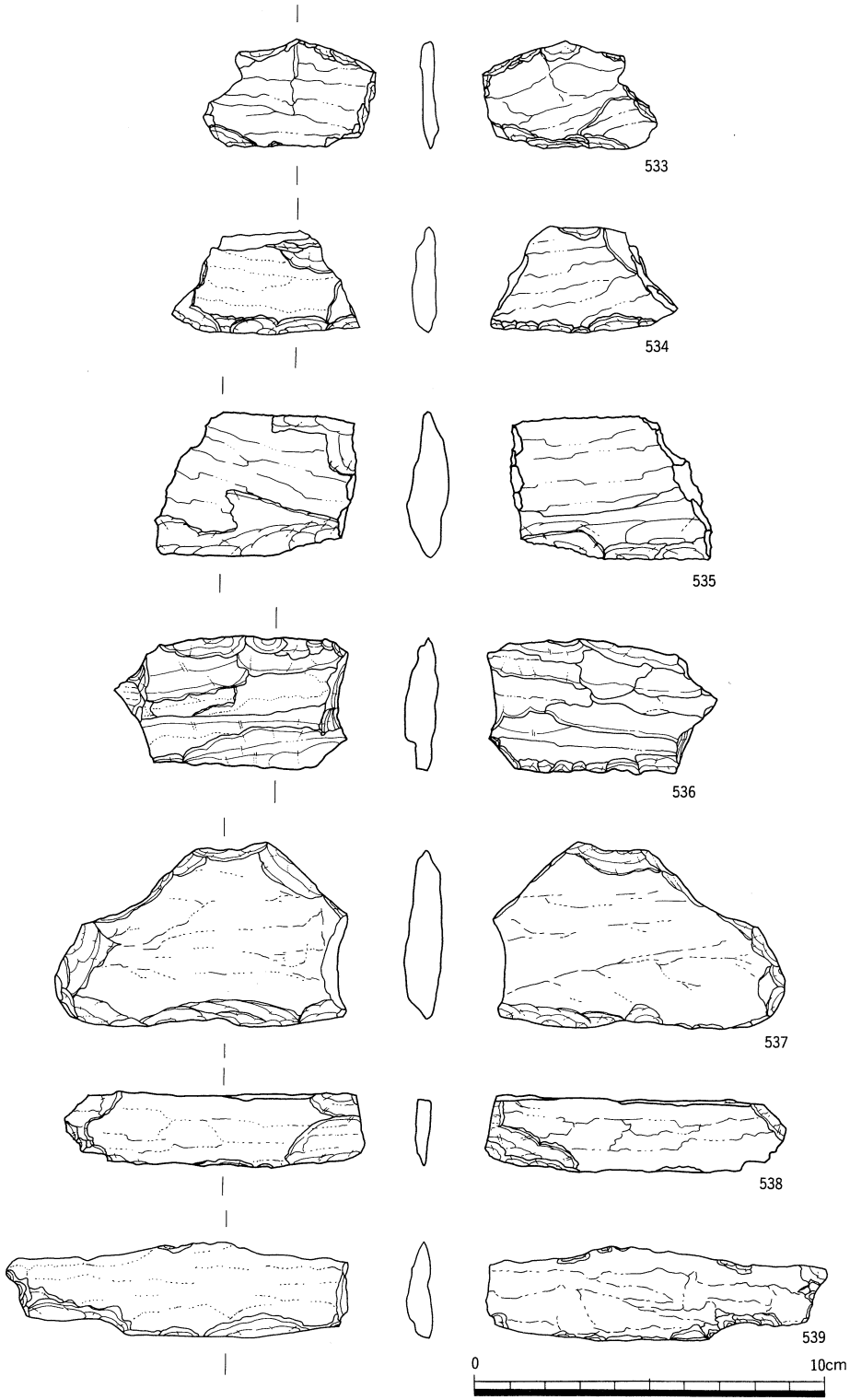


第203図 遺物包含層出土遺物実測図(33)

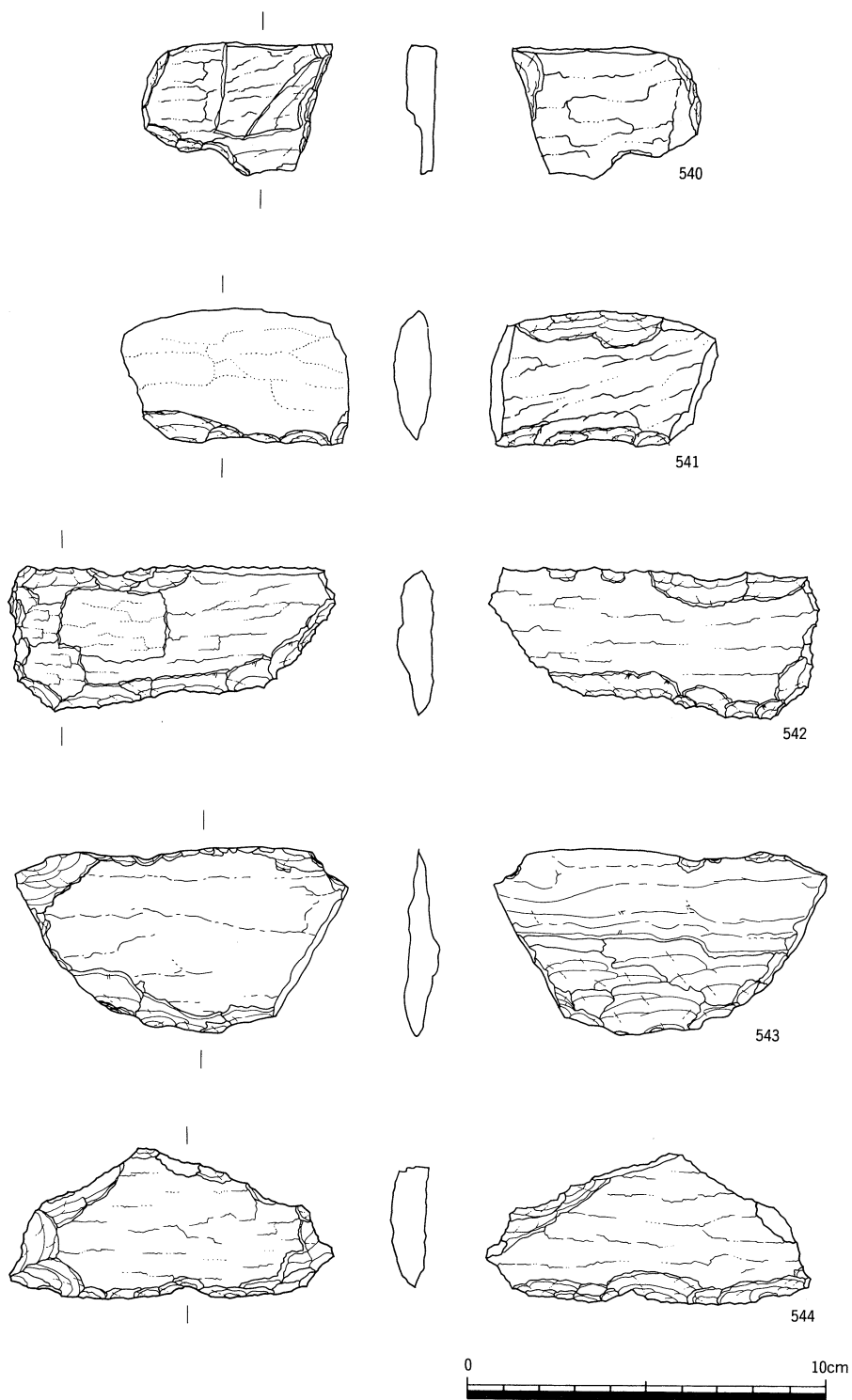


第204図 遺物包含層出土遺物実測図(34)

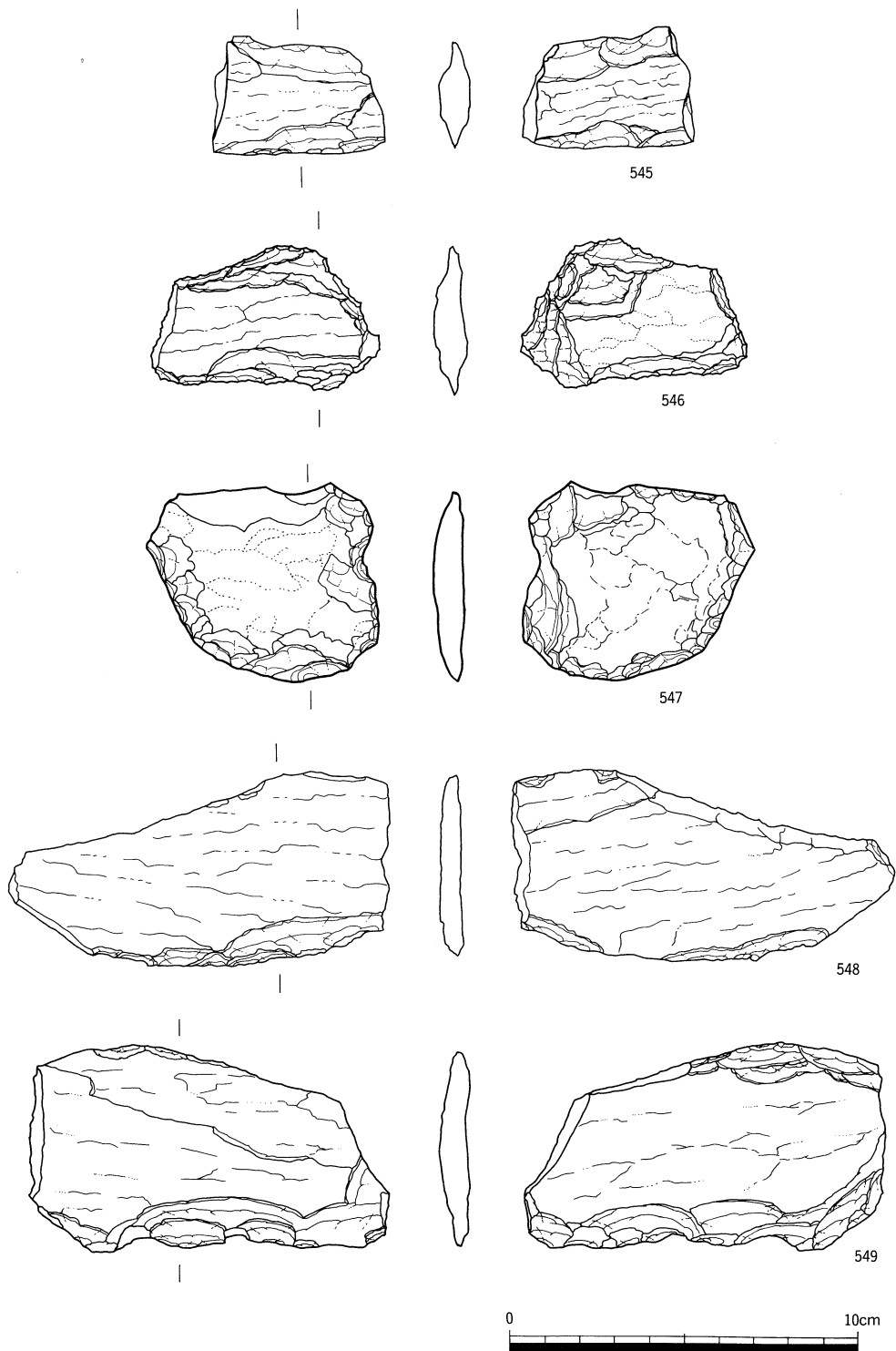




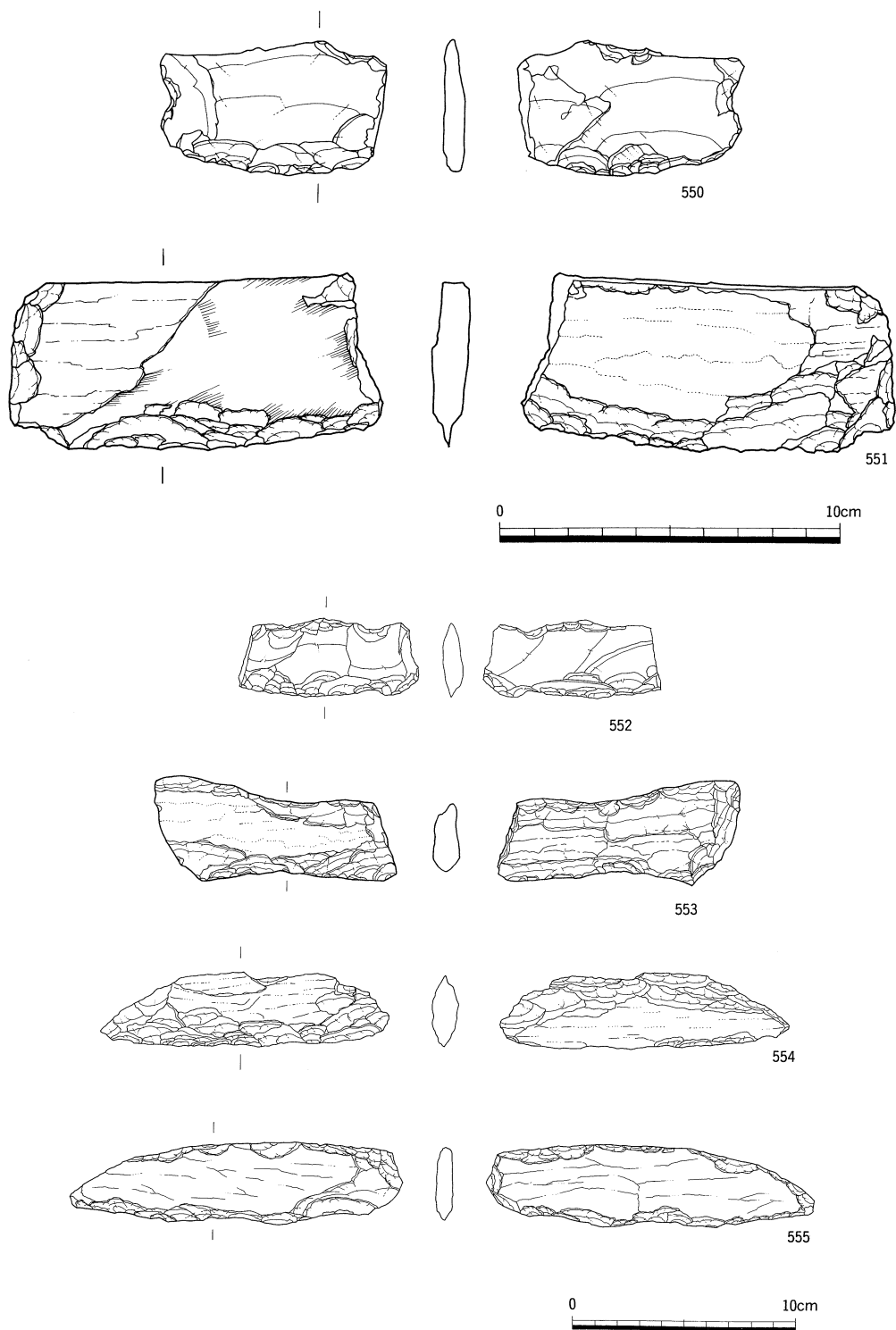
第205図 遺物包含層出土遺物実測図(35)



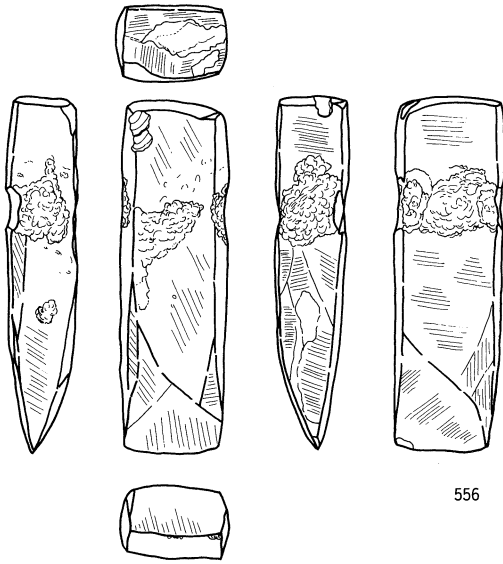
第206図 遺物包含層出土遺物実測図(36)



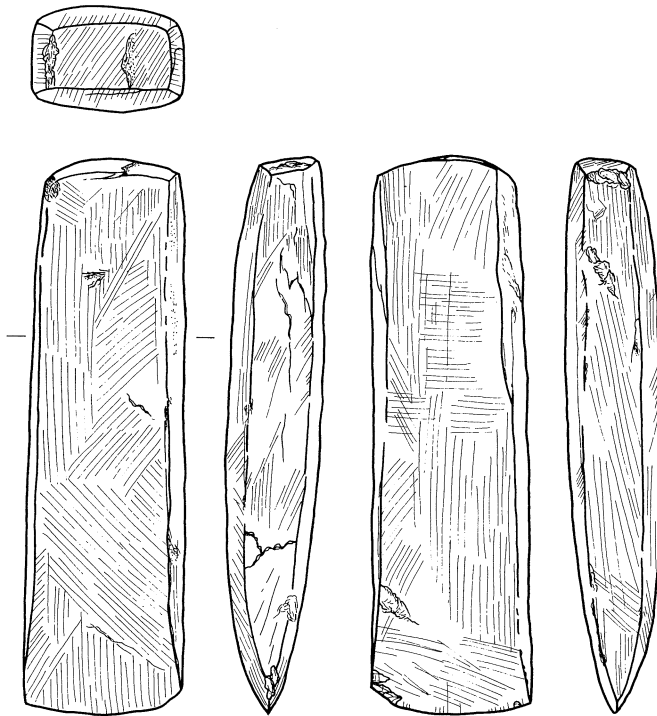
第207図 遺物包含層出土遺物実測図(37)



第208図 遺物包含層出土遺物実測図(38)



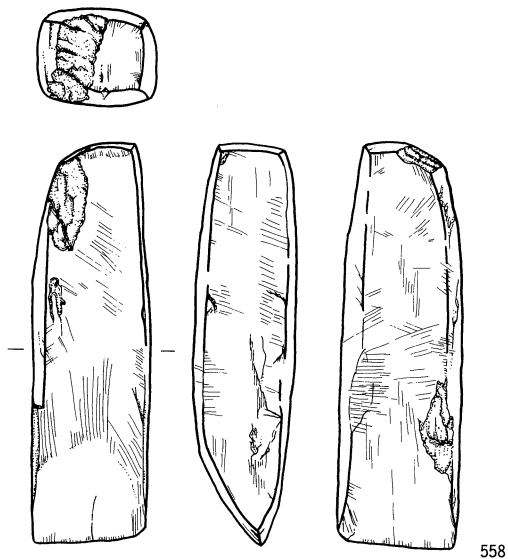
556



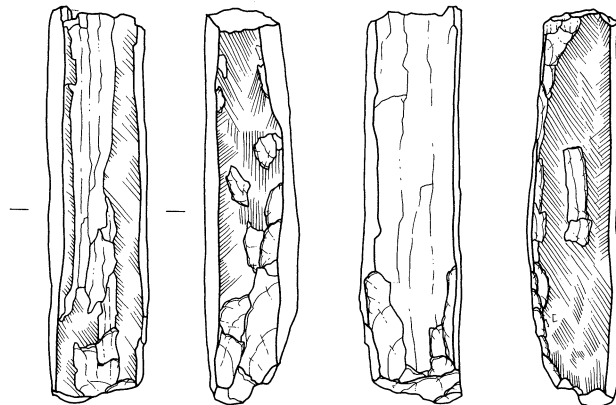
557



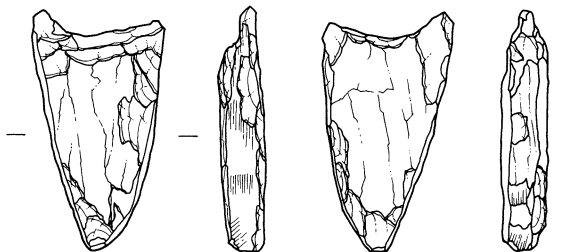
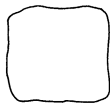
第209図 遺物包含層出土遺物実測図(39)



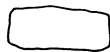
558



559



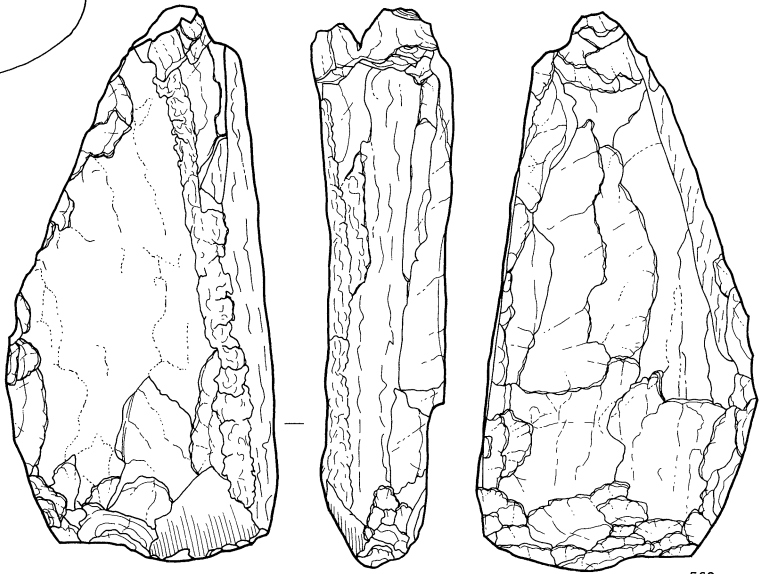
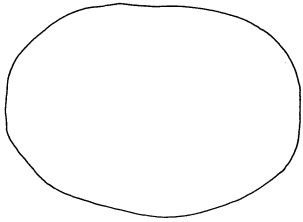
560



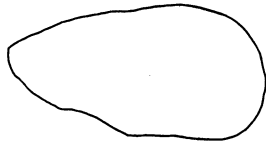
第210図 遺物包含層出土遺物実測図(40)



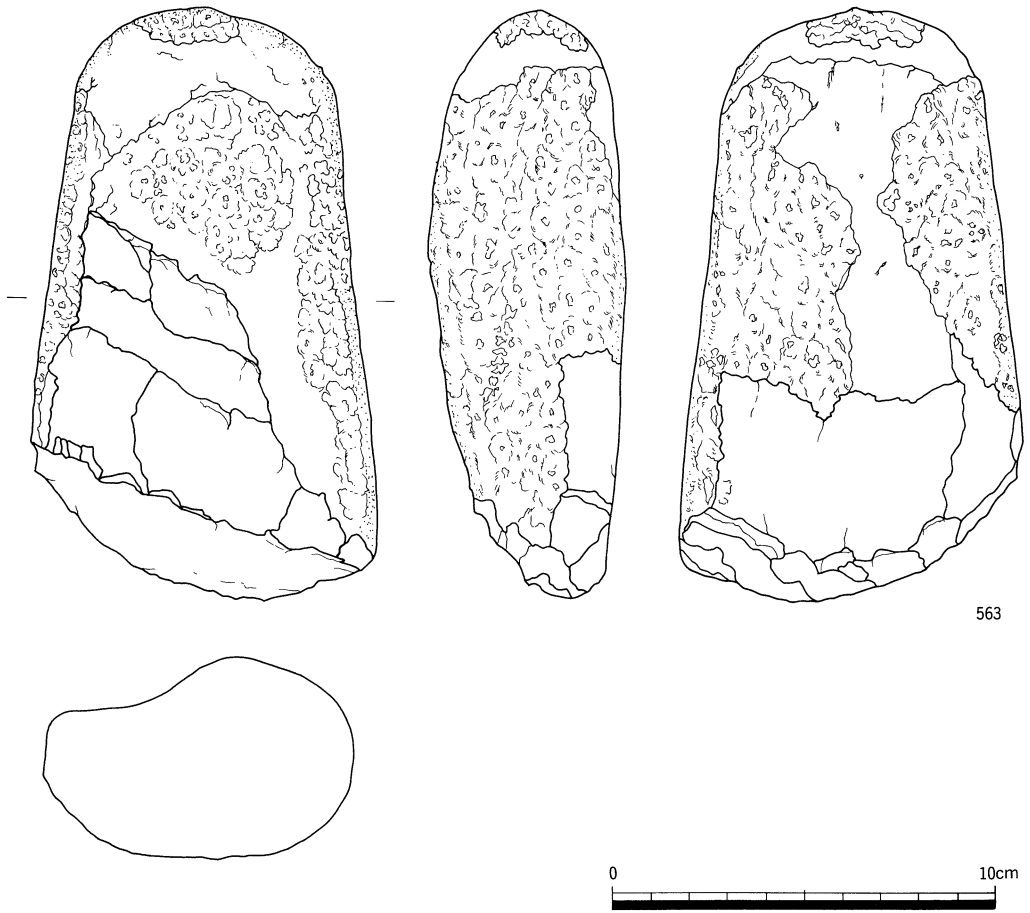
561



562



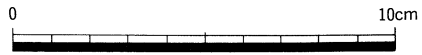
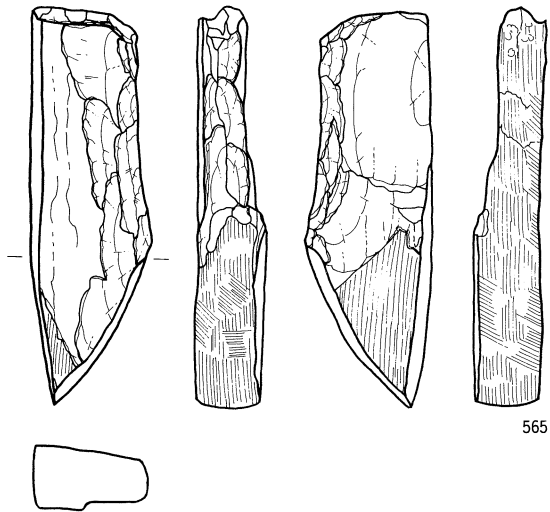
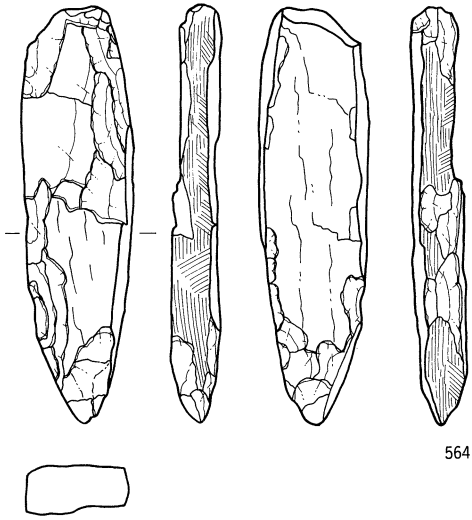
第211图 遺物包含層出土遺物実測図(41)



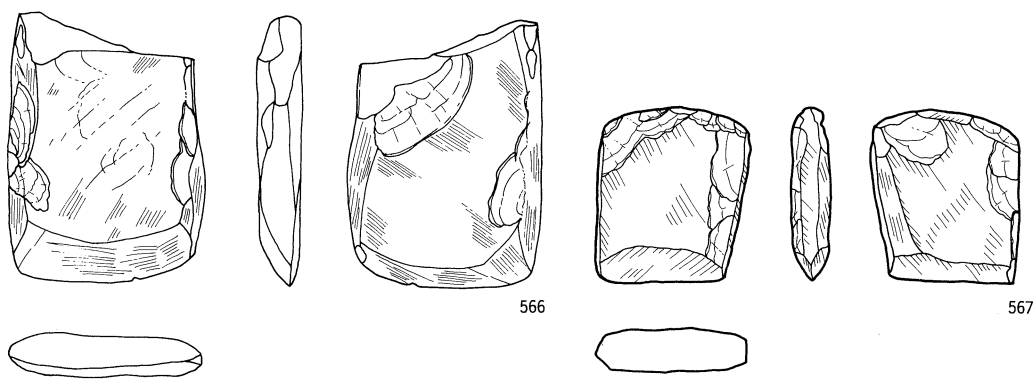
563

第212図 遺物包含層出土遺物実測図(42)



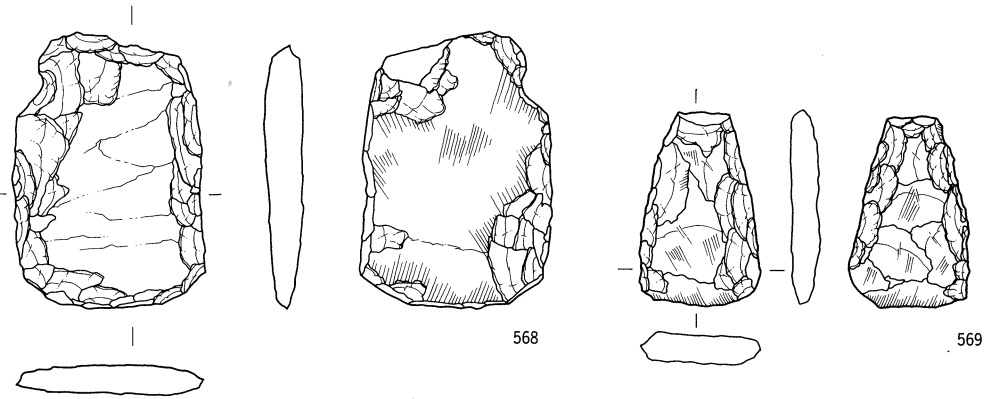


第213図 遺物包含層出土遺物実測図(43)



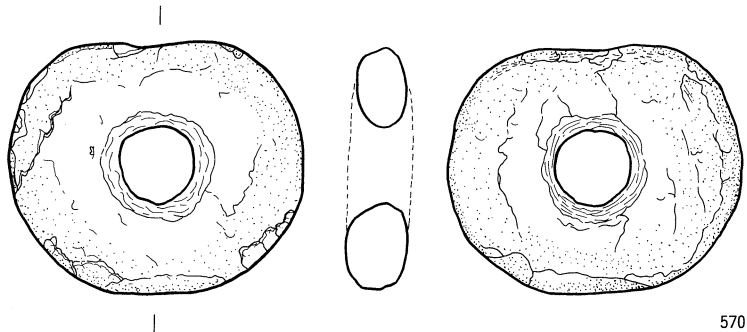
566

567

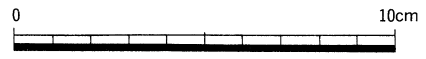


568

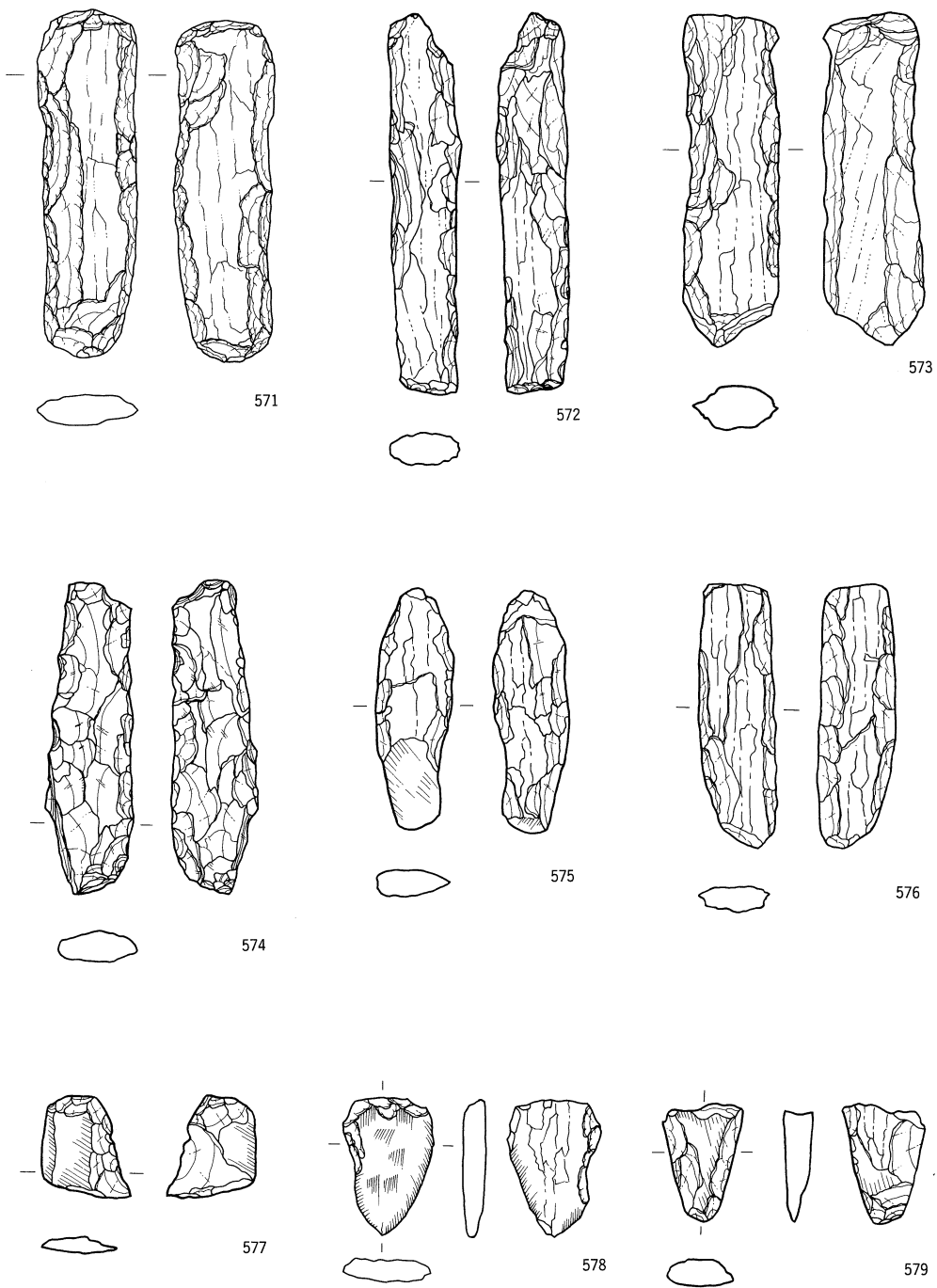
569



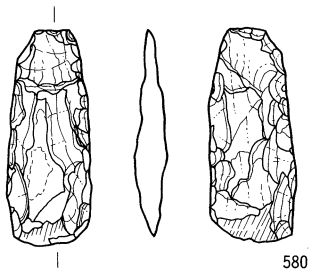
570



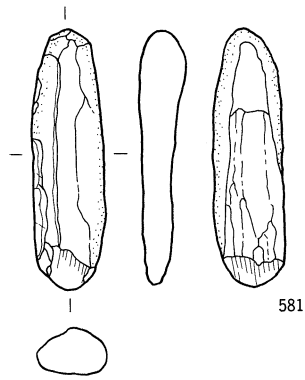
第214図 遺物包含層出土遺物実測図(44)



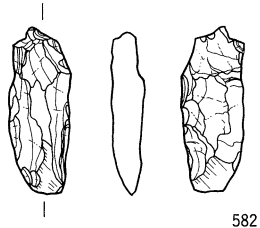
第215図 遺物包含層出土遺物実測図(45)



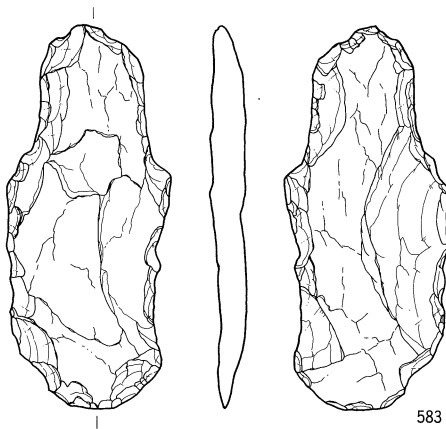
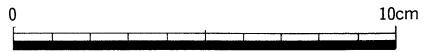
580



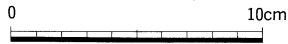
581



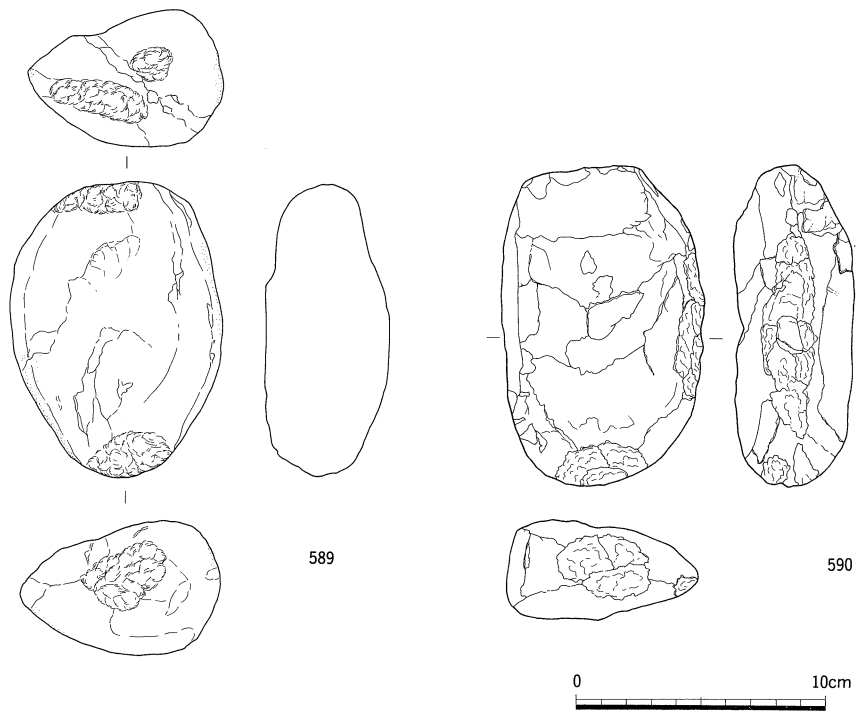
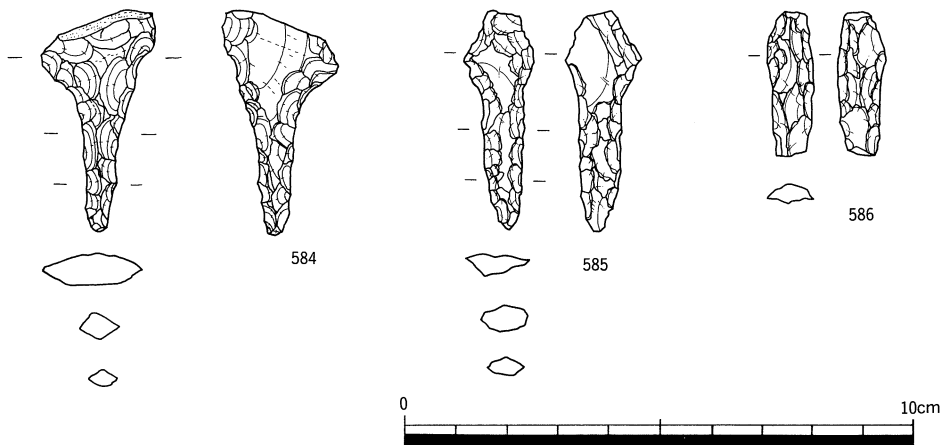
582



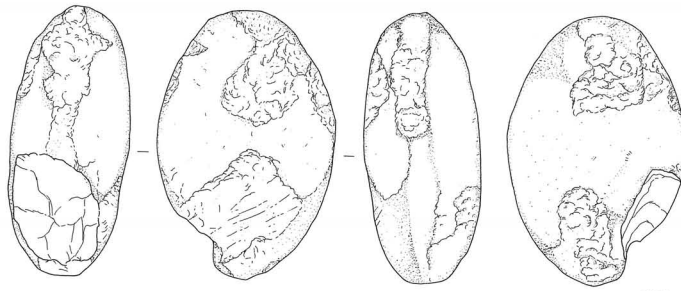
583



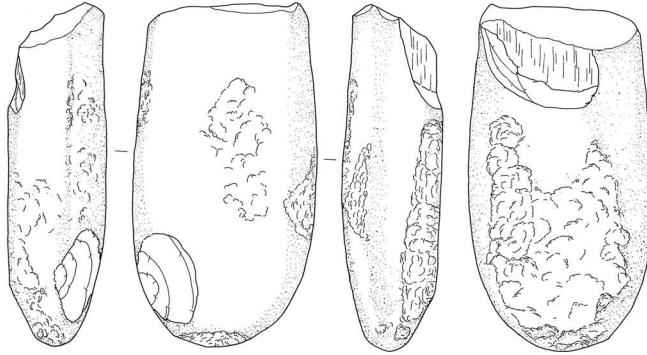
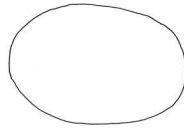
第216図 遺物包含層出土遺物実測図(46)



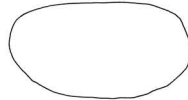
第217図 遺物包含層出土遺物実測図(47)



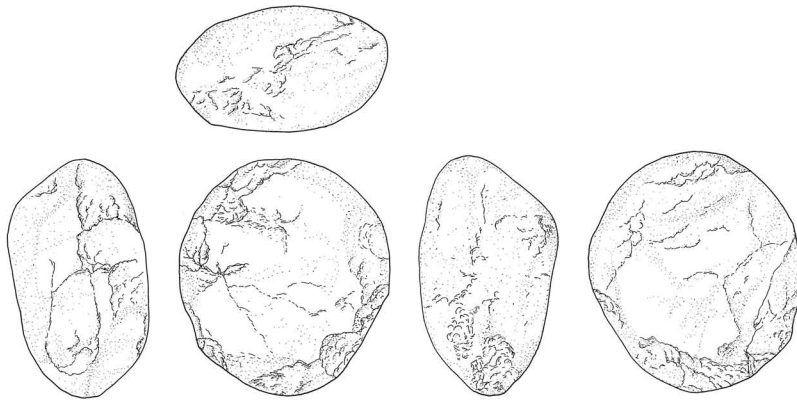
587



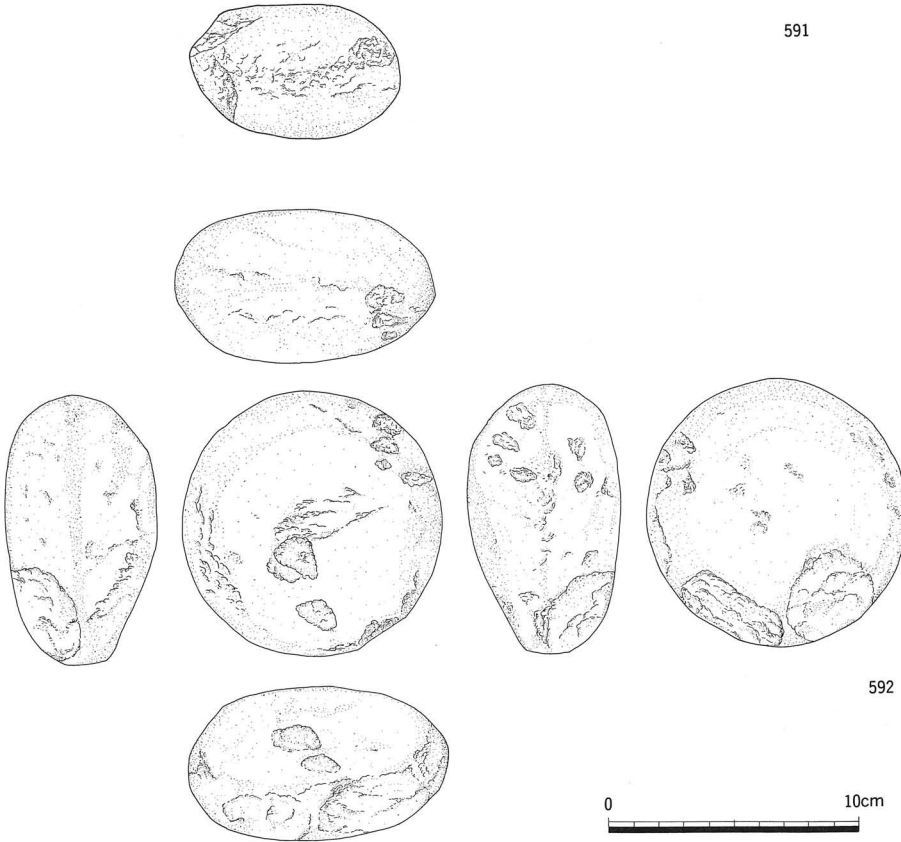
588



第218図 遺物包含層出土遺物実測図(48)

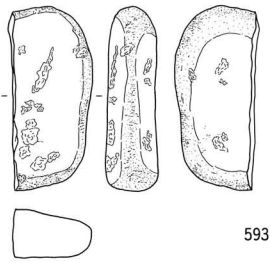


591

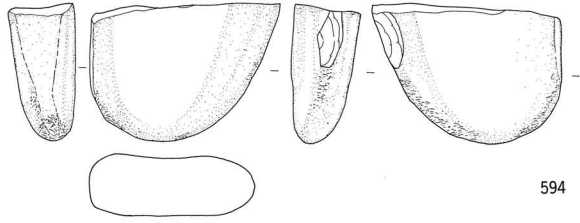


592

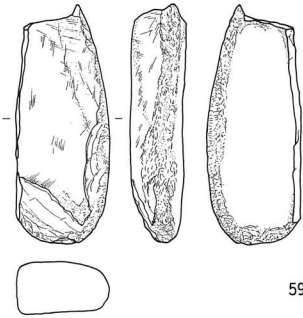
第219図 遺物包含層出土遺物実測図(49)



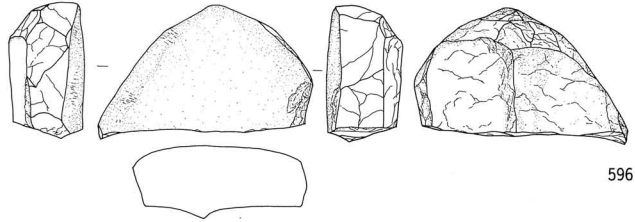
593



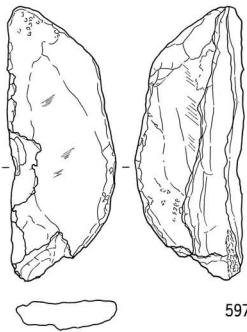
594



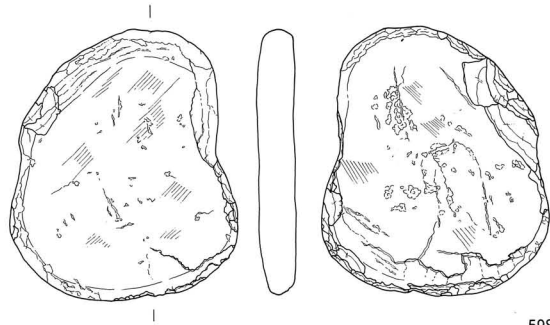
595



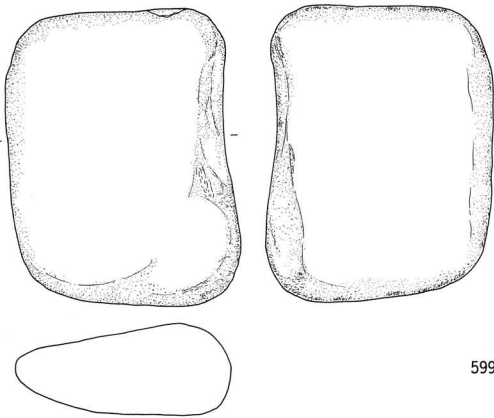
596



597



598

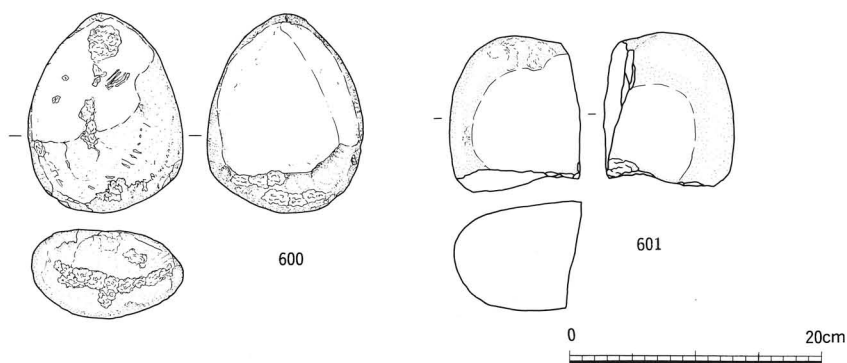


599



第220図 遺物包含層出土遺物実測図(50)

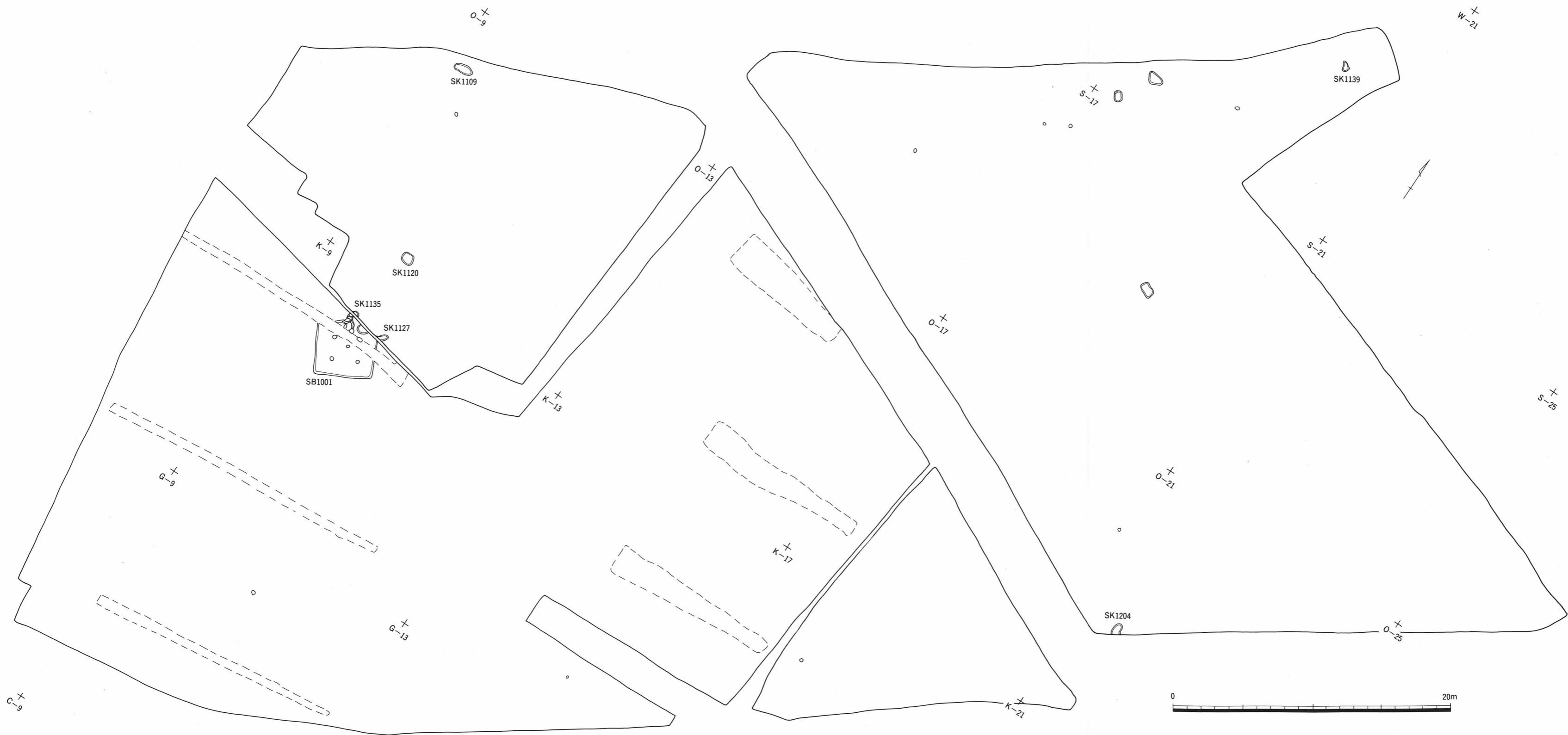




第221図 遺物包含層出土遺物実測図(51)

時期	旧石器											縄文／弥生										石材計		
器種	ナ形石	スイクパ	契形石器	翼状剥片	横長剥片	縦長剥片	剥片	石核	石匙	石鏃	スイクパ	契形石器	石槍	石劍	石庖丁	石鎌	石斧	石鍛	石錐	磨石	叩石		砥石	
遺構内(ブロック)	サヌカイト	13	2	0	6	3	0	79	2	0	21	3	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	141
	チャート	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	片岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	1	7	0	0	1	2	0	0	27
	砂岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	4	0	7
	小計	13	2	0	6	3	0	79	2	0	21	3	12	0	0	16	1	7	0	0	2	5	4	176
包含層	サヌカイト	11	3	2	5	7	1	36	2	1	57	17	25	2	0	1	1	0	0	3	0	0	0	174
	チャート	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
	片岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	96	3	26	1	0	0	1	3	0	134
	砂岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	6	10
	小計	12	3	2	5	7	1	36	2	1	57	19	25	2	2	97	4	26	1	3	0	6	9	320
器種計	25	5	2	11	10	1	115	4	1	78	22	37	2	2	113	5	33	1	3	2	11	13	496	

第2表 日吉谷遺跡石材別石器組成表

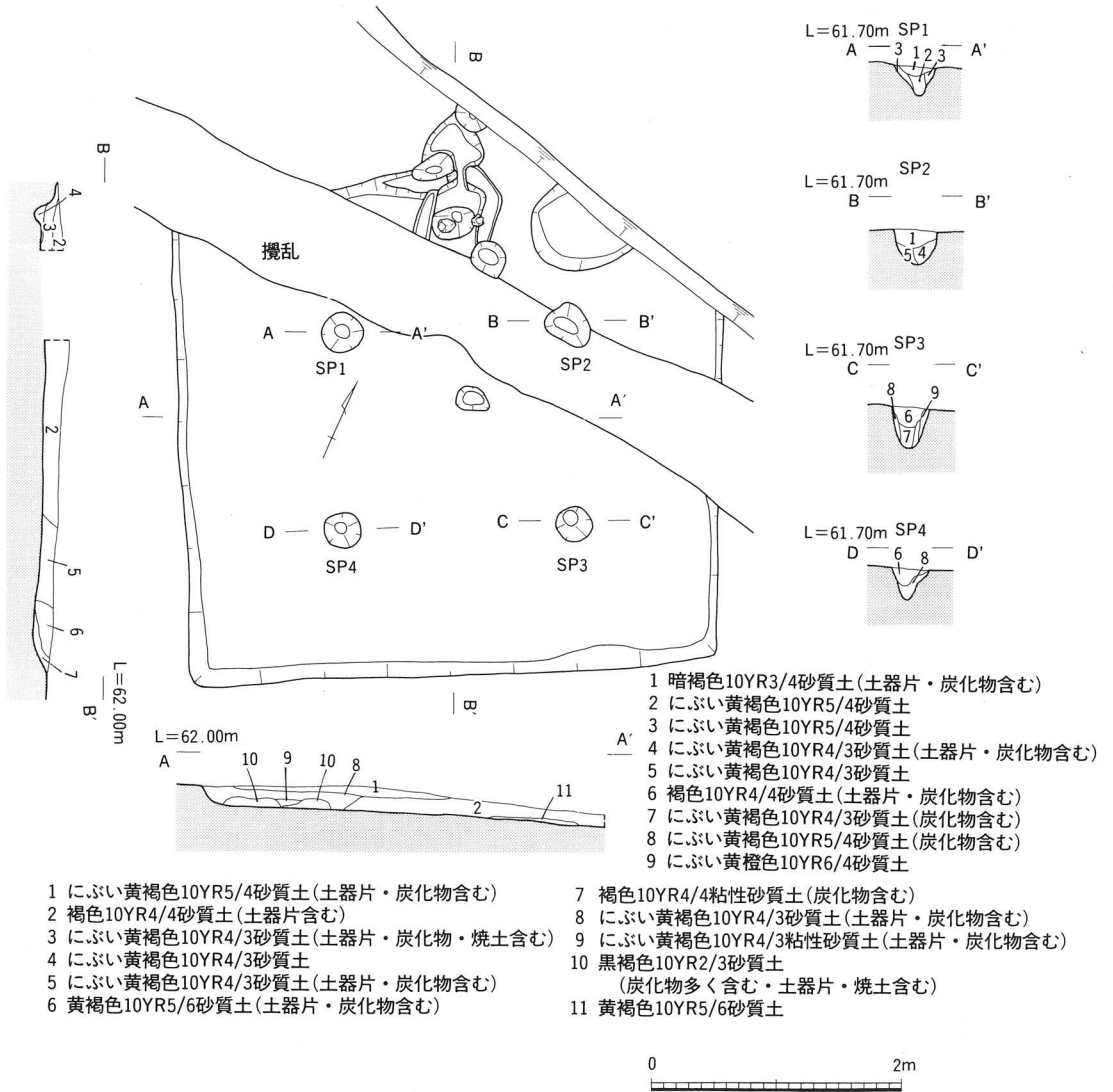


第222図 古代遺構配置図

#### (4) 古墳時代末～古代

##### はじめに

古墳時代末～古代にかけての遺構の密度は非常に薄い。遺構は主に調査区の北側にかけてまばらに展開している。主な遺構は竪穴住居跡1、土坑9が検出された。(第222図) この時代の注目される遺物は円面硯、黒色土器、土師器、須恵器等がある。特に円面硯は一般集落で比較的に見られない遺物が出土している。

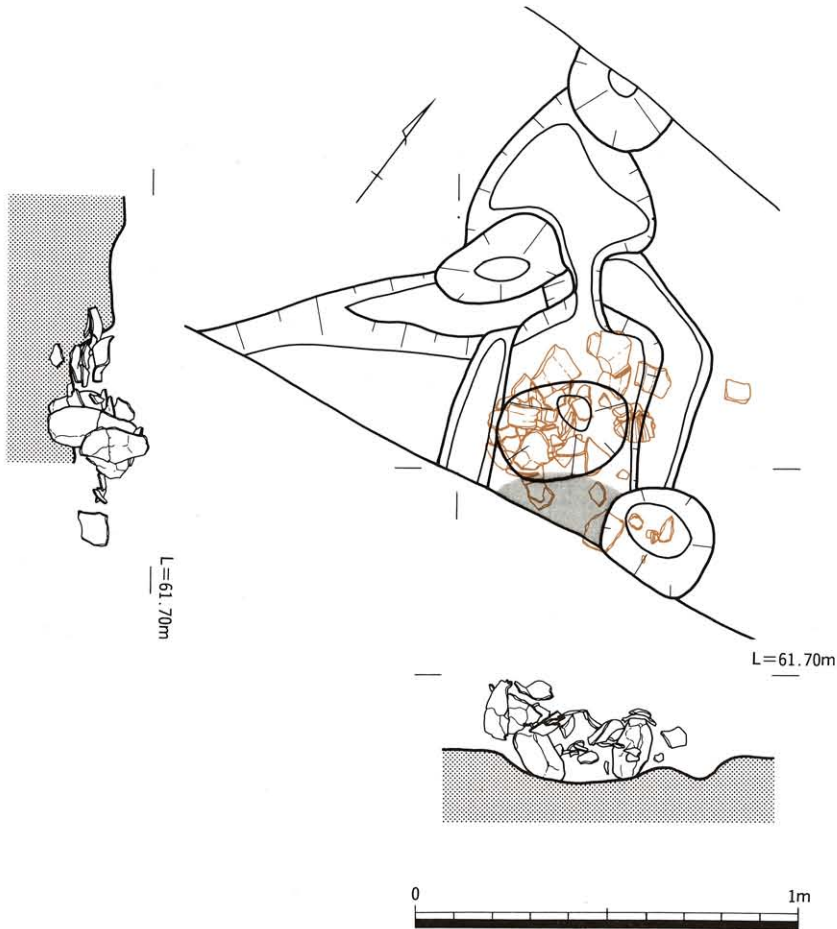


第223図 SB 1001実測図

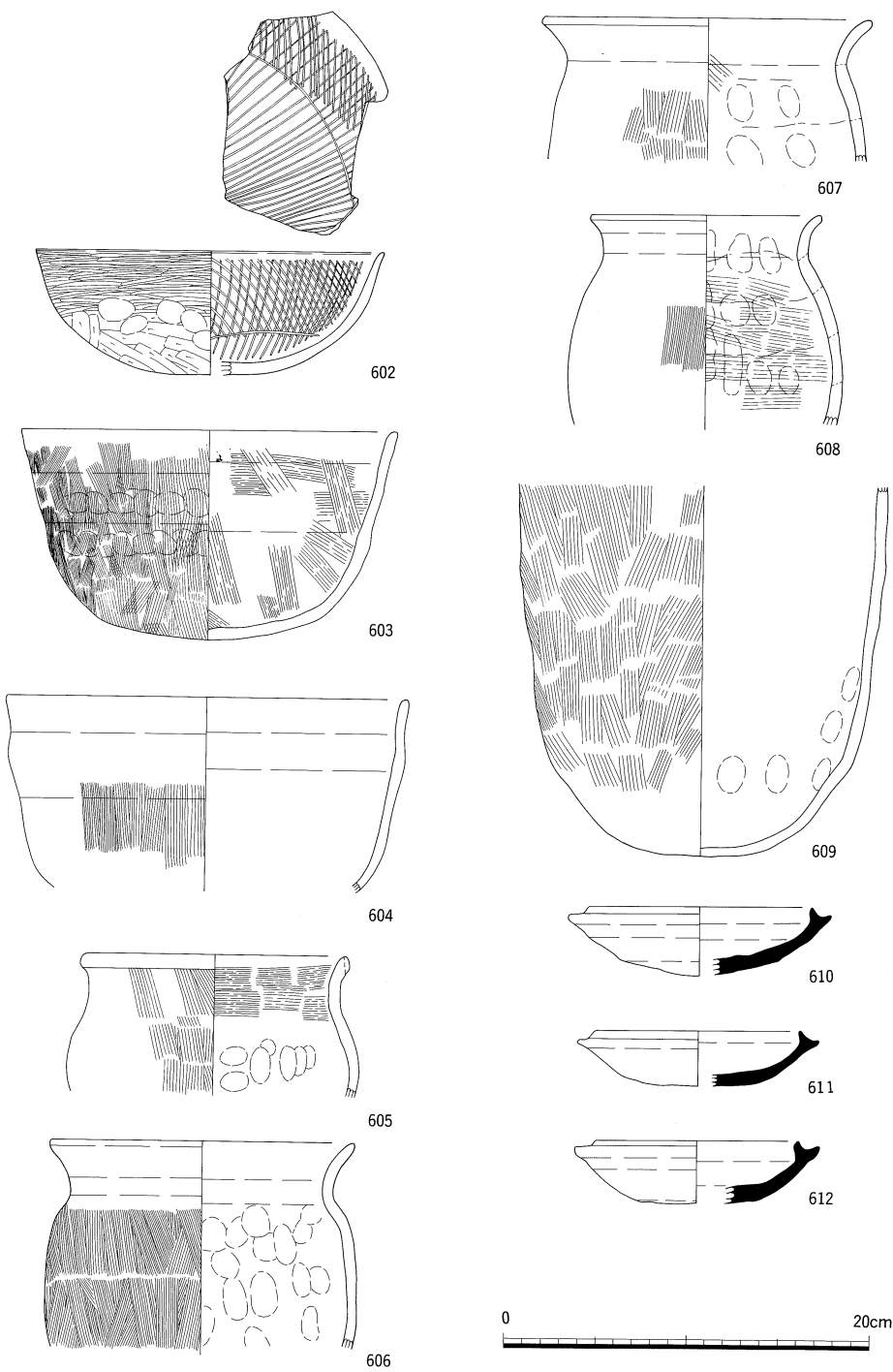
## 竪穴住居

### 1号竪穴住居 (S B 1001) (第223・224図)

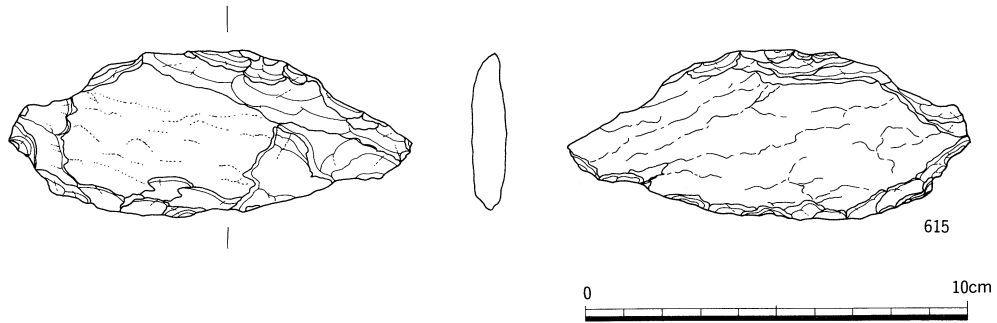
A調査区 I・J-9・10グリットから検出された竪穴式住居である。東から北への緩やかな斜面状に位置する。北側にはS K1033、南側にS K1014が位置している。遺構の北側は東西方向に後世の濠堀により攪乱を受け、また北端は生活用道路の為、調査は行われなかった。平面プランは方形を呈し、規模は現状で長軸430cm、短軸410cm、深さ20cmを測る。主軸はN-25°-Wである。推定面積は、17.63㎡である。内部構造としては、竈が北辺中央部に位置している。竈からは甕2点が倒壊した状態で検出された。床面は水平を呈し、壁面はやや急斜面である。埋土は4層に分層される。支柱穴は4基検出されている。柱心間距離はP 1-2が138cm、P 2-3が138cm、P 3-4が150cm、P 4-1が126cmを測る。床面南西部からは炭



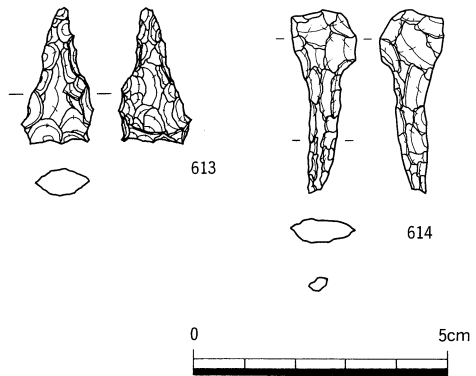
第224図 S B 1001竈実測図



第225図 S B 1001出土遺物実測図(1)



化物の広がり方が認められる。また遺構内からは、北壁より土坑が検出された。北側部分は前述の通り調査が行われておらず全容は不明であるが、規模は現状で長軸78cm、短軸48cmを測る。土坑は貯蔵穴的な性格を持つ物と思われる。



第226図 S B 1001出土遺物実測図(2)

出土遺物 (第225・226図)

出土遺物は弥生土器、土師器、土師質土器、須恵器、石鏃、石錐、打製石庖丁、台石が出土している。遺物は細片が多く実測可能遺物は14点である。

602は土師器の杯である。口縁端部はやや尖り気味におさめ、口縁部は外反する。体部はやや内湾気味に立ち上がる。体部外面上位はヨコヘラミガキ、中位～底部はヘラケズリで調整される。口縁部内面はヨコナデで調整される。体部内面上位～中位にかけて斜放射文、中位～底部にかけて放射状文が施されている。

603・604は土師器の鉢である。口縁端部は丸くおさめ、口縁部はやや外反する。603は体部はやや内湾しながら立ち上がる。口縁部内外面ヨコナデ、体部外面はタテハケメ、体部内面は板ナデで調整される。604は体部はやや外方に傾きながら直線的に立ち上がる。口縁部は内面ヨコナデ、体部外面はタテハケメ、体部内面は板ナデで調整される。

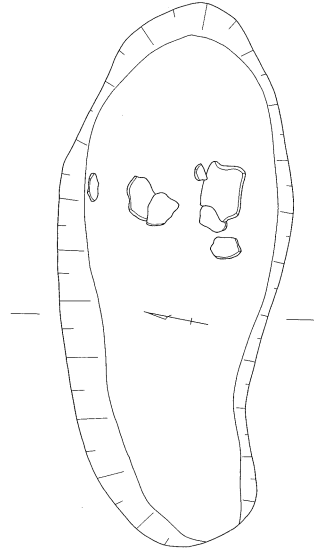
605～609は土師器の甕である。口縁部は玉縁状を呈するタイプ(605)と丸くおさめるタイプ(606～608)がある。口縁部は頸部より緩やかに外反し、体部はやや内湾しながら立ち上がる。口縁部は内外面ヨコナデ、体部外面はタテハケメで調整される。口縁部内面はヨコナデ、605・607・608が体部内面ヨコハケメの後指頭圧痕で調整される。606は指頭圧痕が認められる。607・608は体部内面に粘土紐の痕跡が認められる。609は底部の破片である。底部は丸底を呈し、体部は直線的に立ち上がっている。体部外面はタテハケメで調整される。

610~612は須恵器の杯である。口縁部は内傾して立ち上がり、端部は丸い。受け部はやや上方へ伸びている。小片であるが陶邑編年TK-217段階に位置付けられると思われる。

613はサヌカイト製の石鏃である。全面に丁寧な調整加工がみられ、基部は平である。

614は石錐である。石材はサヌカイトを用いている。

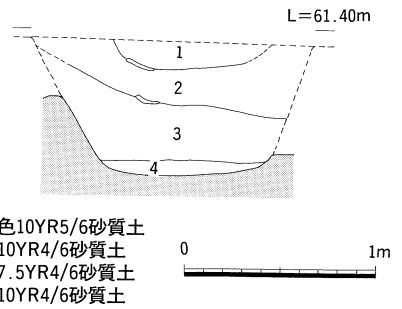
615は結晶片岩製の打製石庖丁である。両側面両面に調整加工を施している。



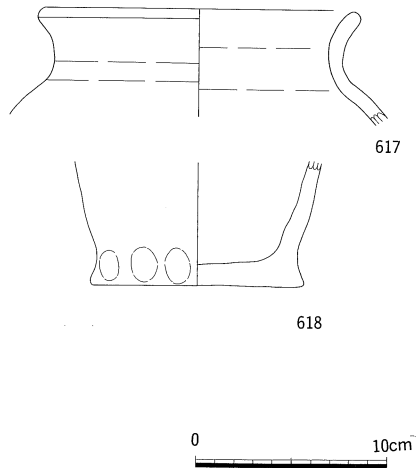
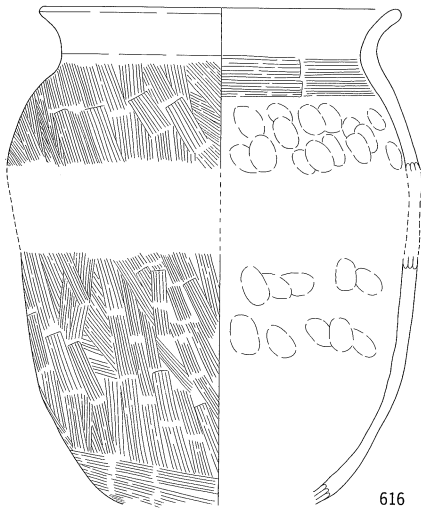
### 土坑

#### 109号土坑 (S K 1109) (第227図)

E調査区の北側、N-8・9グリッドから検出され、本遺構北側はS K 1110が位置している。本調査時に遺構上部を掘削しており、遺構上半部は推定ラインが引かれている。平面プランは隅丸長方形を呈し、規模は現況で長軸150cm、短軸65cm、深さは70cmを呈する。床面は水平を



第227図 S K 1109実測図



第228図 S K 1109出土遺物実測図

呈し、壁面はやや急斜面である。埋土は4層に分層され、遺物は中央部やや東側上層1・2層の褐色砂質土より出土している。本遺構はレンズ状に堆積しているが、遺物が上層より出土しており、遺構面はやや上部に存在する事も考えられる。

#### 出土遺物 (第228図)

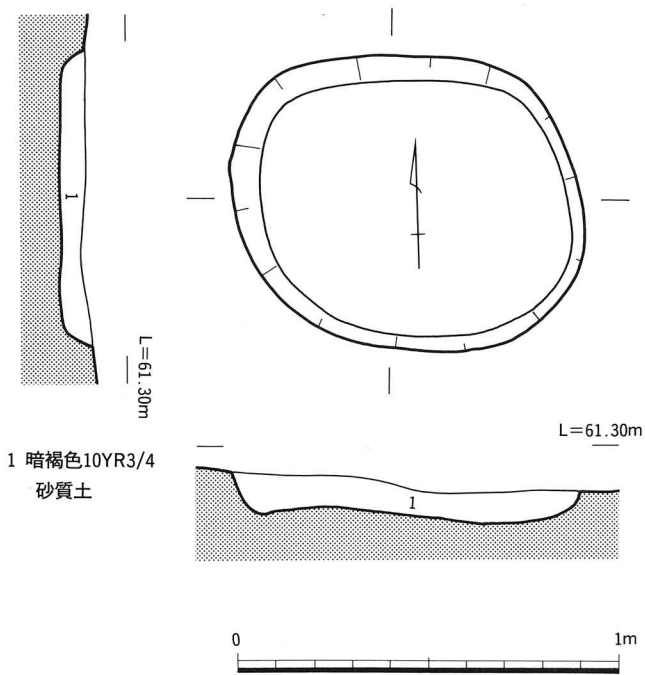
出土遺物は土師器甕4点、土師器細片36点が出土している。実測可能遺物は4点のみである。

616・617は土師器甕である。616は胴部中位と底部を欠損しているがほぼ完形である。口縁端部を丸くおさめ、口縁部は「く」の字状に外反する。体部はやや内湾しながら立ち上がる。口縁部内外面はヨコナデ、体部外面はタテハケメで調整する。頸部内面はヨコハケメ、体部内面には指頭圧痕文が認められる。617は口縁端部を丸くおさめ、口縁部は「く」の字状に外反する、口縁部内外面はヨコナデで調整される。

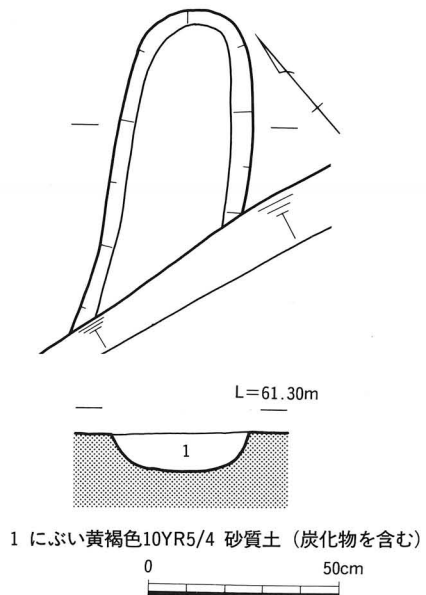
618は弥生土器の底部である。底部は平底を呈し、体部は直線的に立ち上がる。

#### 120号土坑 (S K 1120) (第229図)

E調査区の南側、K-10グリッドに位置し、SP1154を切った状況で検出された。東側にはS K 1118、S K 1119、S K 1121、S K 1122が隣接している。平面プランは隅丸円形を呈し、規模は長軸90cm、短軸85cm、深さは8cmを測る。床面には凹凸は認められず、ほぼ水平で、

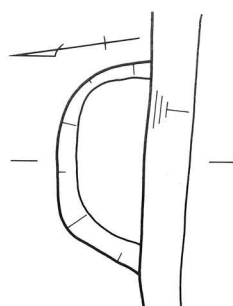


第229図 S K 1120実測図



第230図 S K 1127実測図

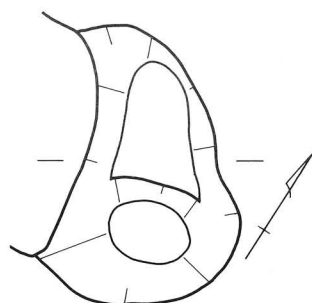




L=61.40m

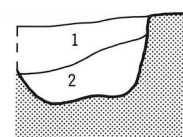


1 褐色10YR4/4砂質土



L=59.90m

1 にぶい黄褐色10YR4/3  
砂質土  
2 にぶい黄褐色10YR5/3  
砂質土



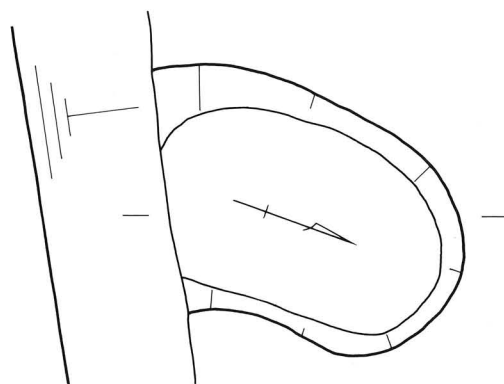
第231図 S K 1135実測図

第232図 S K 1139実測図

壁面は緩斜面である。埋土は暗褐色砂質土1層で、出土遺物は埋土中より土師器細片3点、サヌカイト片2点が出土している。遺物は細片のため実測可能遺物は認められない。

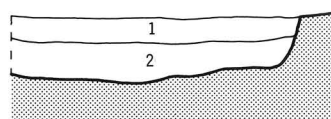
127号土坑(S K 1127)(第230図)

E調査区の南端、J-10グリッドに位置し、東側はS K 1125、S K 1130が隣接している。遺構南側は調査区外に当たっており、調査が行われていないため南側の形状は不明である。平面プランは隅丸方形形状を呈していると思われる。規模は現状で長軸70cm、短軸35cm、深さ10cmを測り、断面はU字状を



L=58.60m

1 にぶい黄褐色10YR4/3  
粘性砂質土(炭化物を含む)  
2 明黄褐色10YR7/6  
粘性砂質土



第233図 S K 1204実測図

呈している。埋土は鈍い黄褐色1層で、遺物は埋土中より土師器細片が2点出土している。しかし遺物は細片のため実測可能遺物は認められない。

#### 135号土坑（S K 1135）（第231図）

E調査区の南端、J-9グリッドに位置する土坑である。南側は調査区外のため検出できなかった。平面プランは隅丸方形を呈していると思われる。規模は現状で長軸50cm、短軸20cm、深さ23cmを測る。床面は中央部が盛り上り、側縁が下っているようである。埋土は褐色砂質土1層で、出土遺物は土師器細片が1点埋土中より出土しているが、細片のため実測可能遺物は認められない。

#### 139号土坑（S K 1139）（第232図）

I調査区の北側、U-19グリッドに位置し、S K 1138に切られた状況で検出された土坑である。平面プランは隅丸不整形を呈している。規模は現況で長軸70cm、短軸55cm、深さは20cmを測る。床面は北西部分に幅30cmにわたりテラス状の部分が認められ、南側にピット状の落ちがある。埋土は2層に分層され、出土遺物は埋土中より土師器細片が2点出土している。

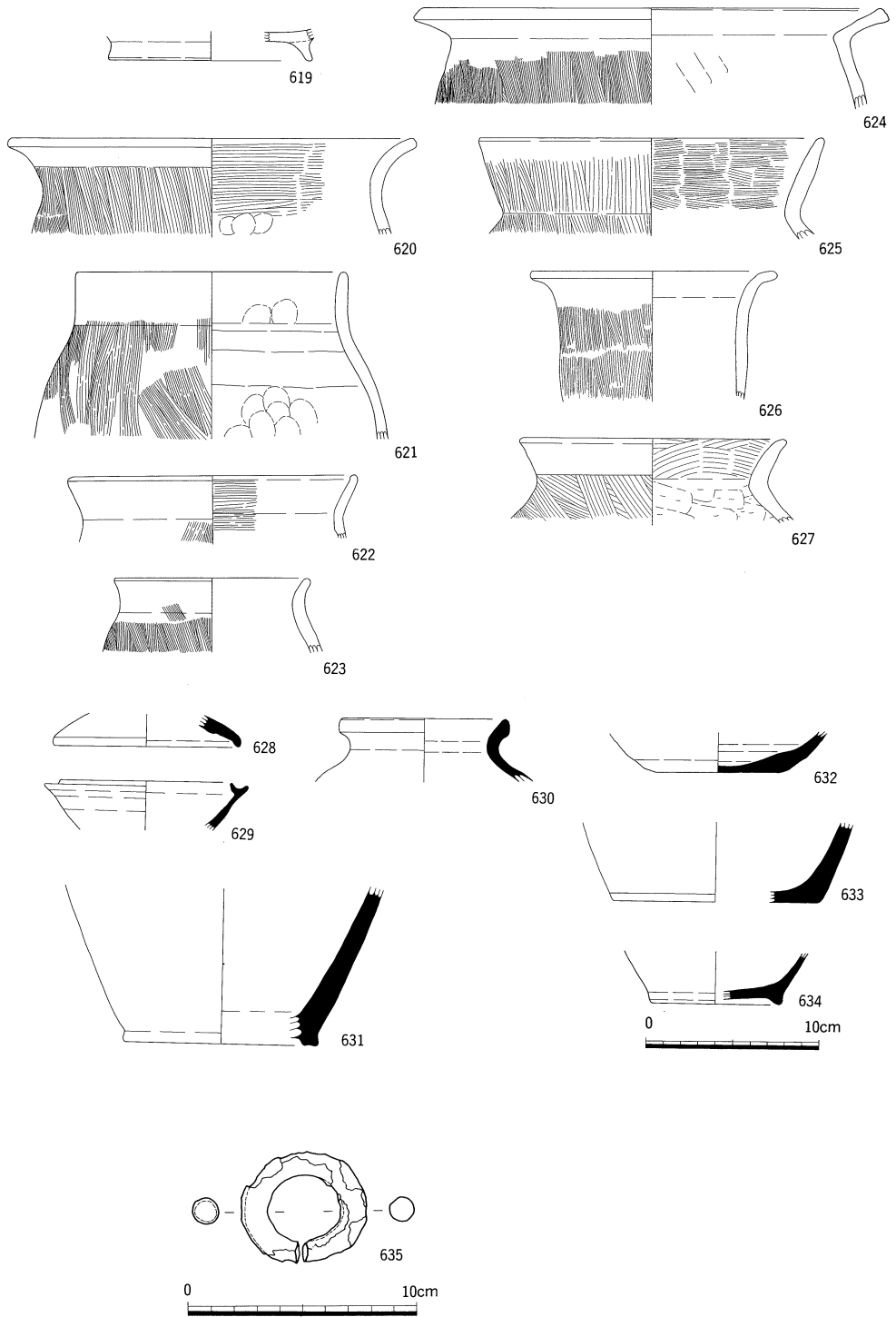
#### 204号土坑（S K 1204）（第233図）

G・H調査区の南端、L-21グリッドから検出された土坑である。南側は調査区外に当たり調査が行われておらず、南側の形状は不明である。平面プランは隅丸方形を呈するものと思われ、規模は現状で長軸80cm、短軸60cm、深さ16cmを測る。床面は凹凸は認められず、壁面はやや急斜面である。埋土は2層に分層され、上層からは炭化物の混入が認められた。遺物は埋土中より土師器甕1点、石英1点が出土している。

#### 包含層出土遺物（第234図）

##### 土師器

619は高台杯碗の底部である。620～627は土師器の甕である。620・626は口縁端部を方形におさめ緩やかに外反する。621は口縁端部を丸くおさめ口縁部は直立する。622・624は口縁端部を方形におさめ、口縁部は「く」の字状に外反する。623・627は口縁端部を丸くおさめ、口縁部は「く」の字状に外反する。625は口縁端部をやや尖らせ、口縁部は「く」の字状に外反する。体部外面はタテハケメで調整される。体部内面は620・622・625はヨコハケメで調整される。621は指頭圧痕が明瞭に認められる。627は口縁部内面にヨコハケメ、体部内面は板



第234图 遺物包含層出土遺物実測図

状工具のような物のヨコナデが認められる。

### 須恵器

628は杯蓋である。629は杯身である。630は壺の口縁部の破片である。口縁端部は上下に拡張されている。631～634は底部の破片である。ほとんどが壺の破片になると思われる。631・634は底部に高台がついている。634は杯の可能性も考えられる。

### その他

635は耳環である。

## (5) 中世

### はじめに

中世の遺構は主に調査区の南側を中心として展開している。主な遺構は掘立柱建物跡7、土坑38、不明遺構3が検出されている。(第235図) 主な出土遺物は土師質土器、瓦器椀、瓦質土器、東播系須恵器、備前焼、輸入貿易陶磁が出土している。以下、遺物と遺構の説明を行う。

### 掘立柱建物跡

#### 34号建物跡 (S A 1034) (第236・237図)

A調査区E・F-9・10グリッドに位置し、調査区の南側に位置する掘立柱建物跡である。遺構の南側は後世の濠堀による攪乱を受けている。北西端には柱穴が確認されておらず、北側に底を持つ物と思われる。主軸はN-86°-Eで、梁間2間、桁行3間を数える。柱穴はP-1からP-15まで確認され、梁間4.5m、桁行7.5mを測る。柱穴間距離は梁間1.7~2.7m、桁行2.2~2.8mを測る。柱穴の平面プランは円形状を呈すものと楕円形状を呈するものが認められ、直径は20~50cm、深度は12~34cmを測る。出土遺物は埋土より出土している。P-2の柱穴からは土師質土器の土鍋と土釜、瓦質土器の土鍋の計10点が出土している。平面プランは円形を呈し、規模は長軸35cm、短軸30cm、深さ14cmを測る。埋土は褐色砂質土1層である。土器は柱穴中央部付近で上位から下位にかけ折り重なるように検出されている。出土状況を見る限りでは、廃棄された物と思われる。

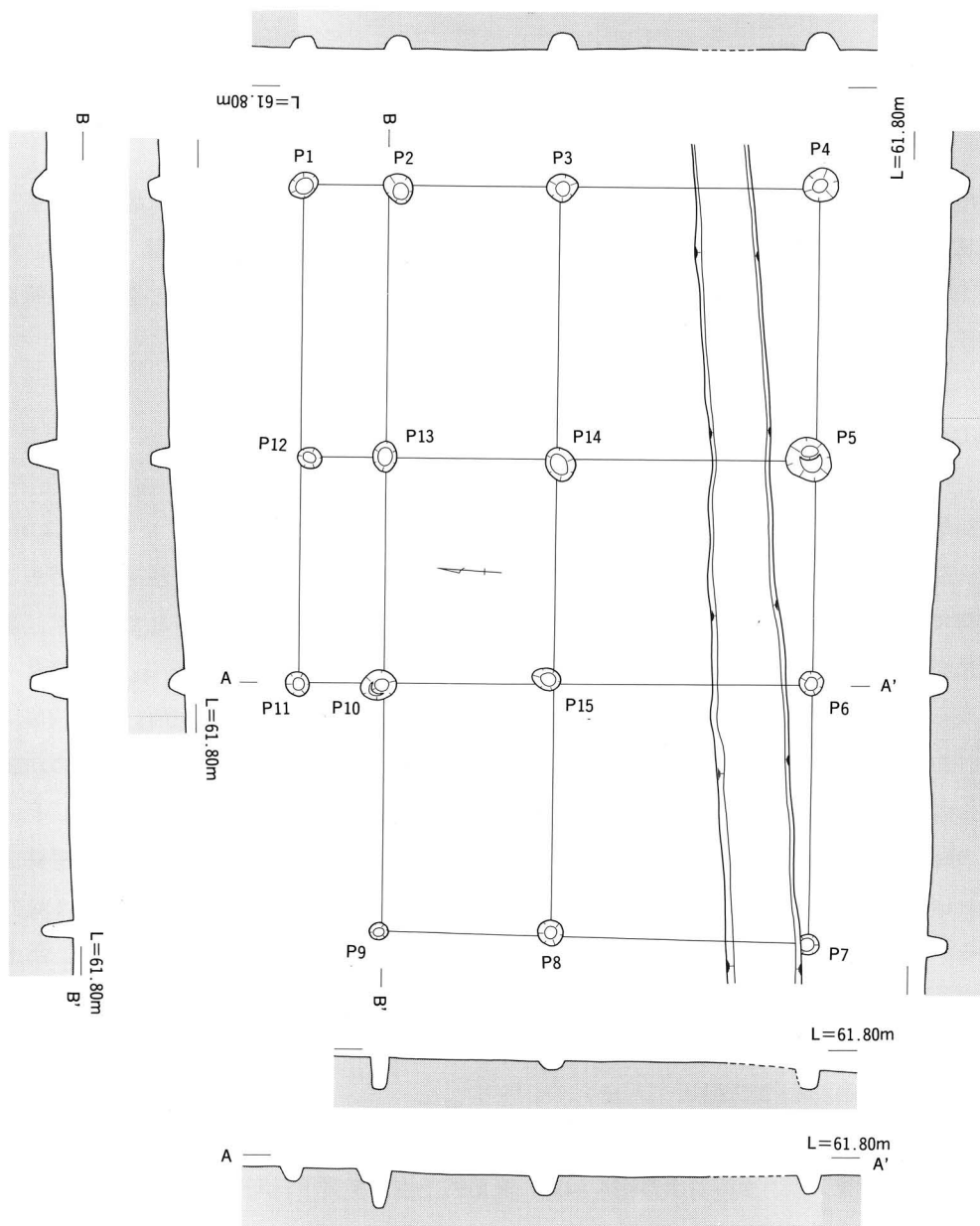
#### 出土遺物 (第238・239図)

出土遺物は土師質土器杯12点、土師質土器皿3点、土師質土器椀2点、土師質土器鍋5点、土師質土器羽釜7点、土師質土器細片34点、瓦器椀1点、瓦質土器羽釜1点が出土した。遺物は細片が多く実測可能遺物11点を図化した。

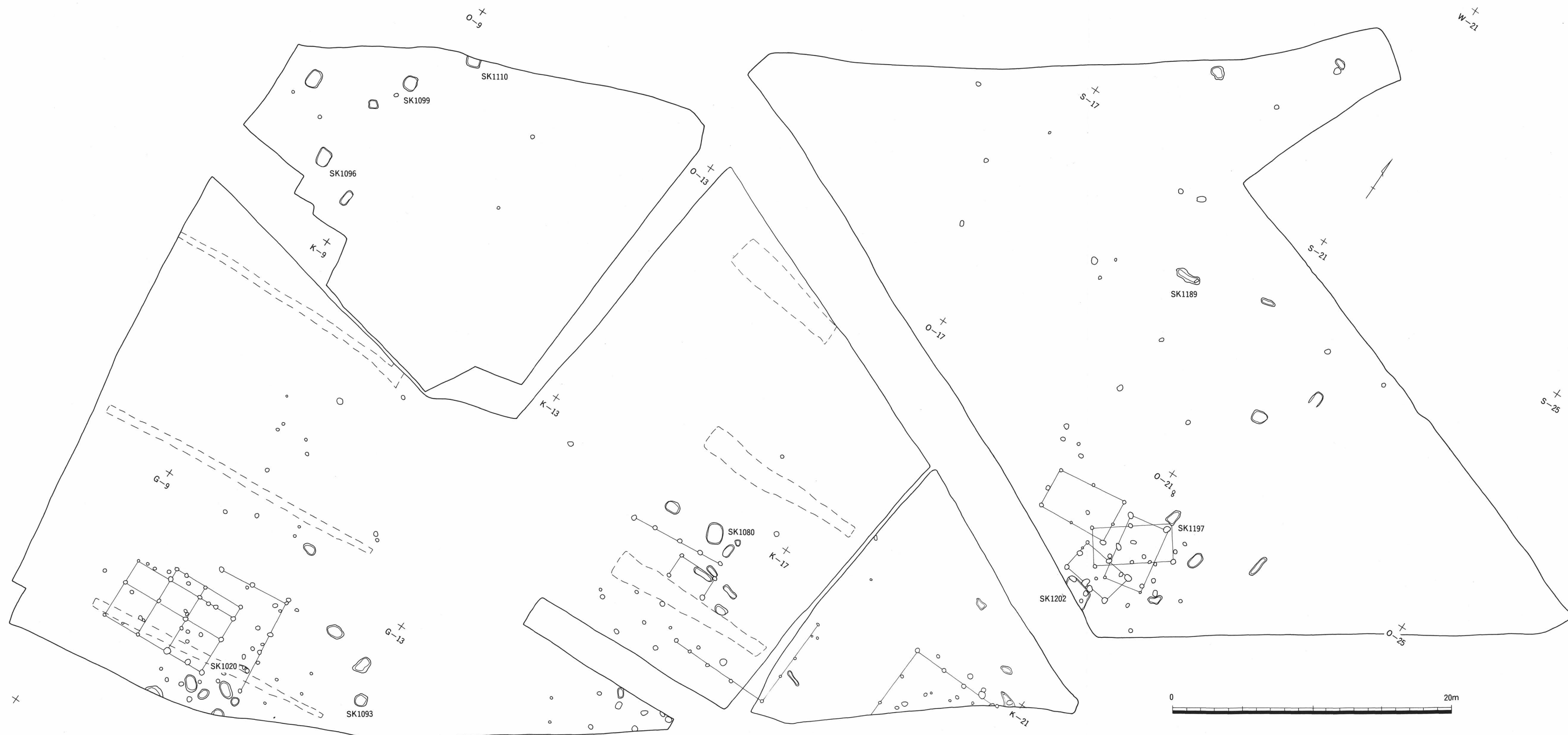
636はP-10から出土した、土師質土器の杯である。口縁端部は丸くおさめ、口縁部は外反し体部は直線的に立ち上がる。底部は回転ヘラ切りである。

637はP-11から出土した土師質土器の小皿である。

638~642はP-2から出土した土師質土器の土鍋である。638・639は口縁端部を方形におさめ、口縁部はやや内湾しながら直線的に立ち上がる。口縁部は内外面ヨコナデの後指頭圧痕で調整される。640・641は口縁端部を方形におさめ、口縁部は「く」の字状に外反している。



第236図 S A 1034実測図

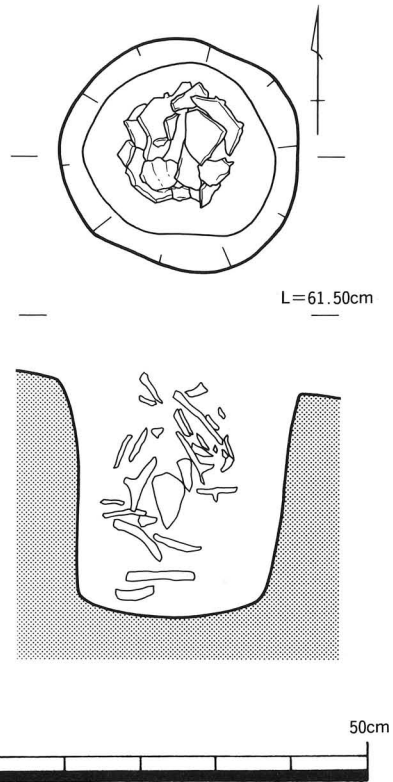


第235図 中世遺構配置図

体部は内湾しながら口縁部に向かって立ち上がる。口縁部内外面ヨコナデ、体部内面は指頭圧痕のちヨコナデで調整される。642は口縁端部を方形におさめ、口縁部は「く」の字状に外反する。体部は内湾しながら立ち上がる。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上位から中位にかけて指頭圧痕のち粗いヨコナデ、中位から下位下半は格子目タタキで調整される。体部内面は指頭圧痕のちヨコナデで調整される。

643・644はP-2から出土した瓦質土器の土鍋である。643は口縁端部方形におさめ、口縁部はやや外方に傾きながら直線的に立ち上がる。口縁部内外面ヨコナデ、体部外面は指頭圧痕で調整される。体部内面は指頭圧痕のちヨコナデを施す。644は口縁端部方形におさめ、口縁部は「く」の字状に外反する、口縁部は内外面ヨコナデを施す。

645~647はP-2から出土した土師質土器の羽釜である。このうち646と647は三足羽釜である。645は口縁端部方形におさめ口縁部内傾し、体部は内湾しながら立ち上がっている。断面台形状の鐙をやや上向きに付ける。口縁部内外面ヨコナデ、体部外面は指頭圧痕を施している。646・647は口縁端部方形におさめ、口縁部はやや内湾する。体部は半球形状を呈している。口縁部内外面はヨコナデの後指頭圧痕、体部外面上位から中位にかけて指頭圧痕のちヨコナデで調整される。体部外面中位から下位は、格子目タタキが施されている。646は体部内面に指頭圧痕、647は指頭圧痕のちヨコナデで調整される。

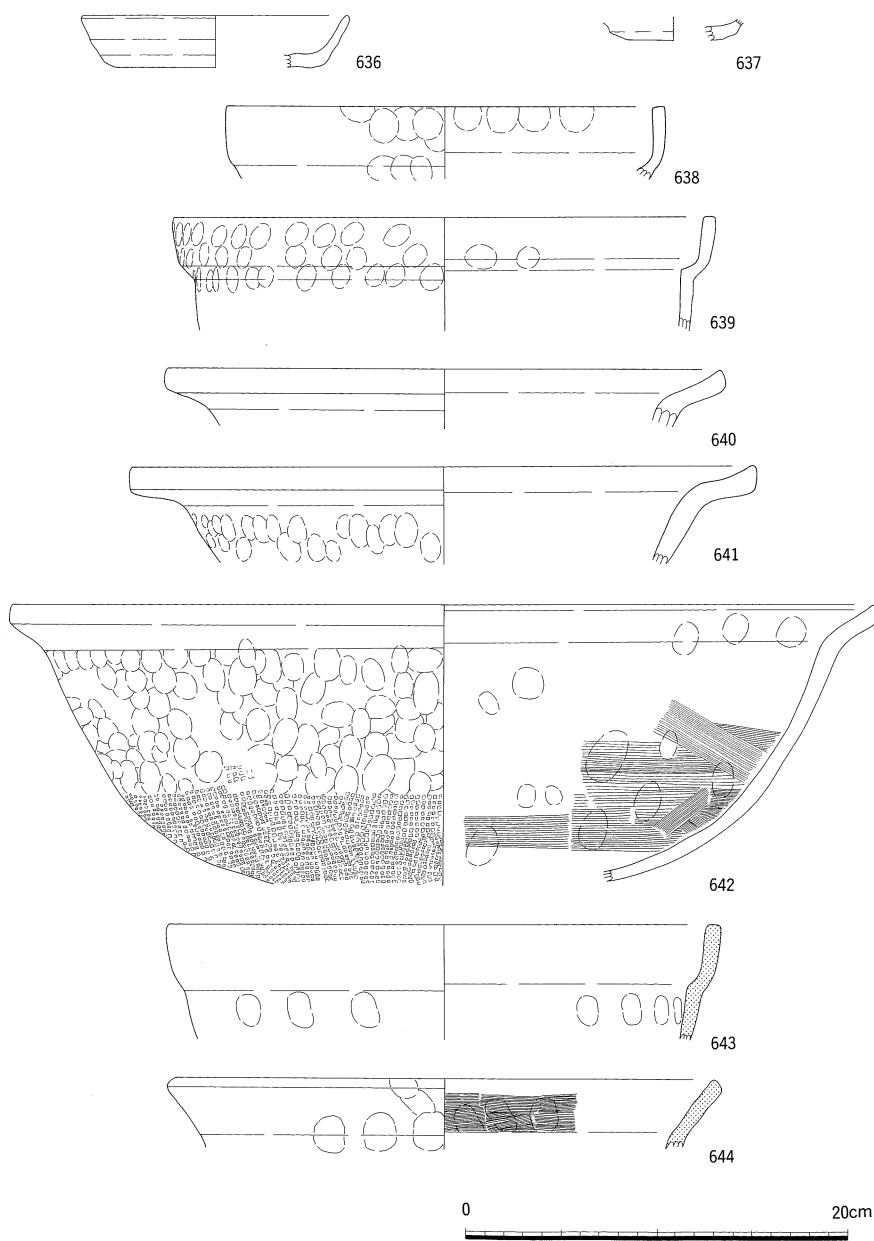


第237図 S A 1034内P-2実測図

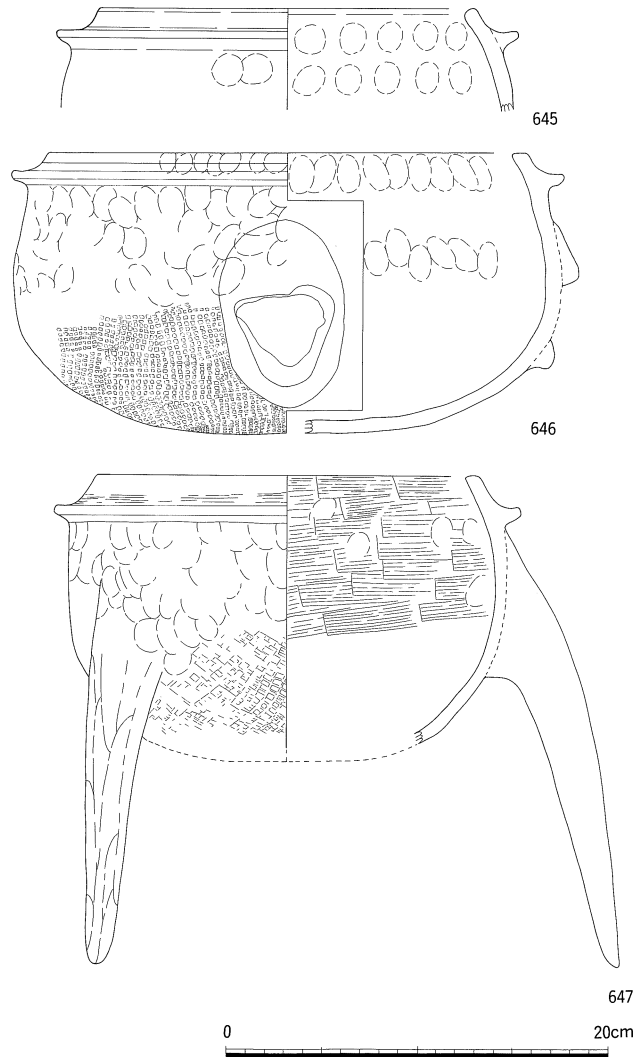
### 35号建物跡 (S A 1035) (第240図)

B調査区J-15・16グリッドから検出され、調査区の中央に位置する掘立柱建物跡である。遺構南側は後世の濠堀による攪乱を受け、遺構の全容は不明である。主軸はほぼ南北方向を示し、梁間1間、桁行1間以上を数える。柱穴はP-1からP-4まで確認されており、梁間2.8m、桁行1.7m以上を測る。柱穴間距離は梁間2.8m、桁行1.7mを測る。柱穴の平面プランは円形を呈しており、直径30~40cm、深度13~24cmを測る。遺物は埋土中より土師質土器細片が出土しているが、小片のため実測可能遺物は認められない。





第238図 S A 1034出土遺物実測図(1)



第239図 S A 1034出土遺物実測図(2)

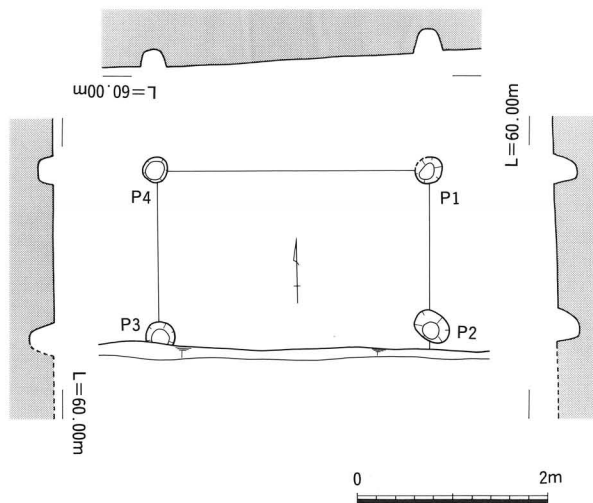
36号建物跡 (S A 1036) (第241図)

D調査区 I・J-19・20グリッドから検出され、調査区の南端中央部に位置する掘立柱建物跡である。遺構の南側部分は調査区外に当たり、全容は不明である。主軸はN-4°-Eで、梁間3間以上、桁行3間以上を数える。柱穴はP-1からP-7まで確認されており、梁間4.5m以上、桁行6.6mを測り、柱穴間距離は梁間2.4~2.1m、桁行1.8~2.5mを測る。柱穴の平面プランは円形を呈するものと、楕円形を呈するものが認められ、直径20~38cm、深度8~41cmを測る。遺物は埋土より土師質土器細片が出土しているが実測可能遺物は認められない。

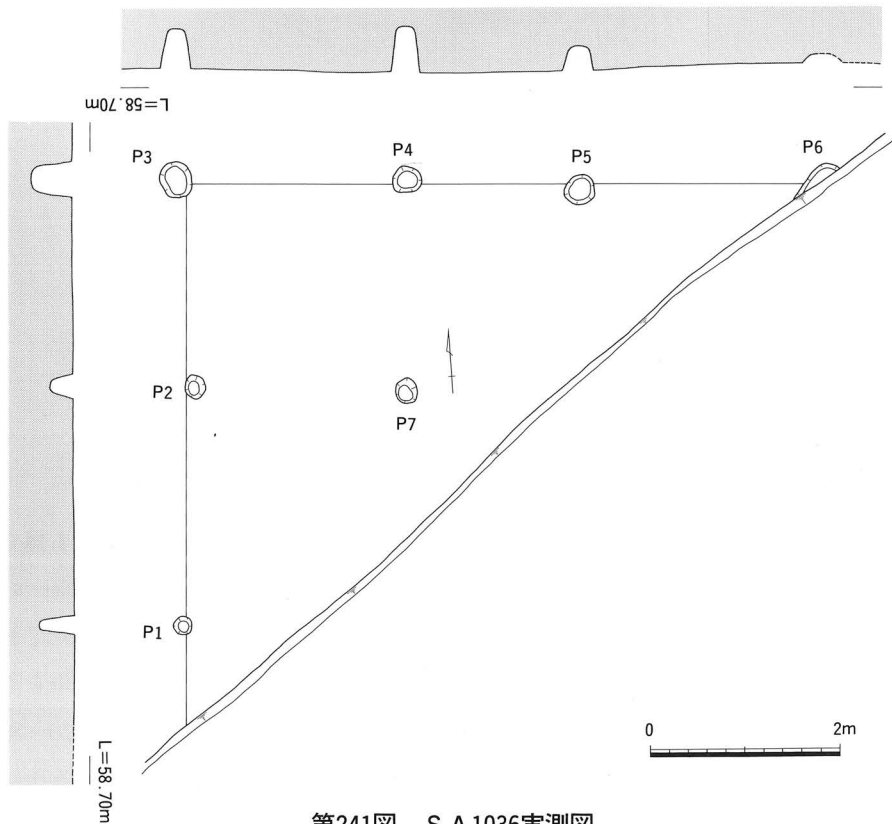
37号建物跡

(S A 1037) (第242図)

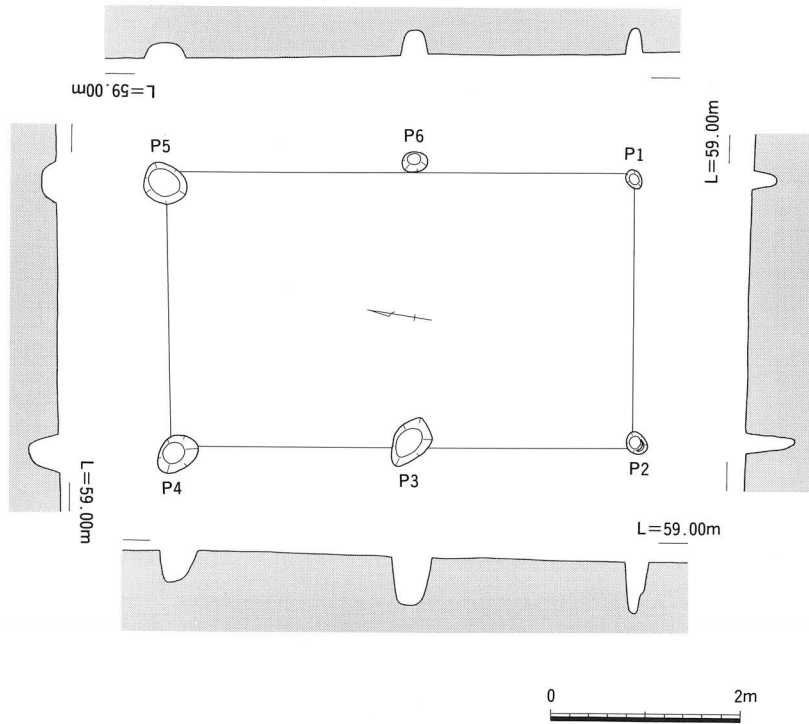
G 調査区 M・N-20・21グリッドから検出され、調査区の南端に位置する掘立柱建物跡である。主軸はN-10°-Wで、梁間1間、桁行2間を数える。柱穴はP-1からP-6まで確認されており、梁間2.7m、桁行4.9mを測る。柱穴間距離は梁間2.7m、桁行2.3~



第240図 S A 1035実測図



第241図 S A 1036実測図



第242図 S A 1037実測図

2.6mを測る。柱穴の平面プランは円形と楕円形を呈し、規模は直径20～50cm、深度13～54cmを測る。遺物は埋土より土師質土器細片と瓦質土器細片が出土しているが、実測可能遺物は認められない。

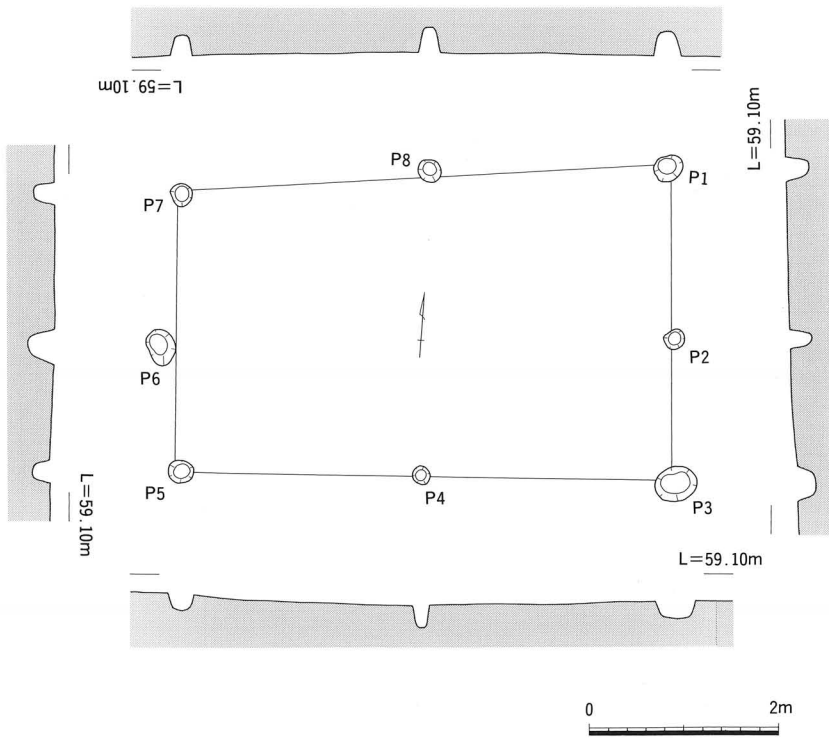
#### 38号建物跡 (S A 1038) (第243図)

G調査区M・N-19・20グリッドから検出され、調査区の南端に位置する掘立柱建物跡である。主軸はN-86°-Eで、梁間2間、桁行2間を数える。柱穴はP-1からP-8まで確認されており、梁間3.2m、桁行5mを測る。柱穴間距離は梁間1.3～1.7m、桁行2.5mである。平面プランは円形を呈し、規模は直径17～43cm、深度17～28cmを測る。出土遺物は埋土より土師質土器杯、土師質土器細片が出土した。

#### 出土遺物 (第244図)

遺物は土師質土器杯6点、土師質土器皿1点、土師質土器羽釜1点、土師質土器細片1点が出土した。実測可能遺物は1点のみであり図で示した。

648はP-6から出土した土師質土器の杯である。口縁端部を丸くおさめ、口縁部は外反す



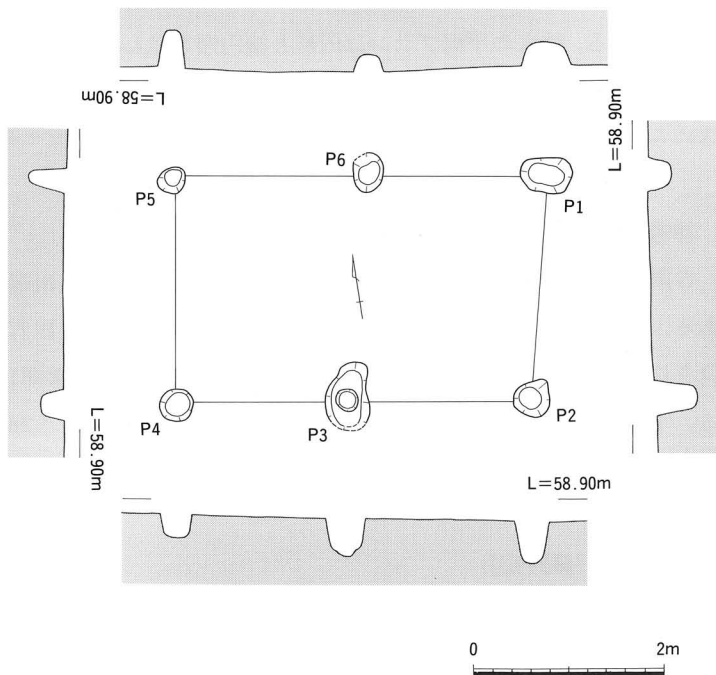
第243図 S A 1038実測図

る。体部はやや外反しながら立ち上がる。底部は回転糸切りである。内外面回転ナデを施す。

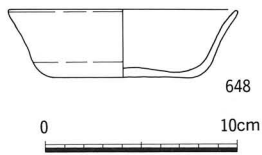
39号建物跡

(S A 1039) (第245図)

G 調査区 L・M-20・21グリッドから検出され、調査区の南側に位置する掘立柱建物跡である。主軸はN-83°-Eで、梁間1間、桁行2間を数える。柱穴はP-1からP-6まで確認されており、



第245図 S A 1039実測図



第244図 S A 1038出土遺物実測図

梁間2.4m、桁行3.7mを測る。

柱穴間距離は梁間2.4m、桁行

1.7~1.9mを測る。柱穴の平面

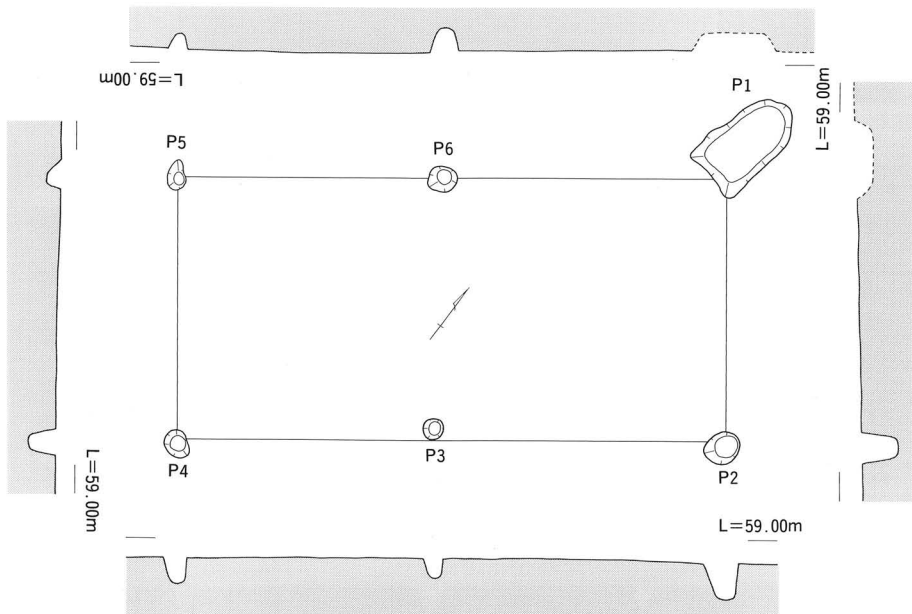
第246図 S A 1039出土遺物実測図

プランは円形を呈するものと、楕円形状を呈するものが認められ、直径は27~59cm、深度は17~43cmを測る。遺物は埋土より出土している。

出土遺物 (第246図)

遺物は土師質土器皿4点、土師質土器鍋2点、土師質土器細片14点が出土したが実測可能遺物は2点のみである。

649・650はP-3から出土した土師質土器の足である。



第247図 S A 1040実測図

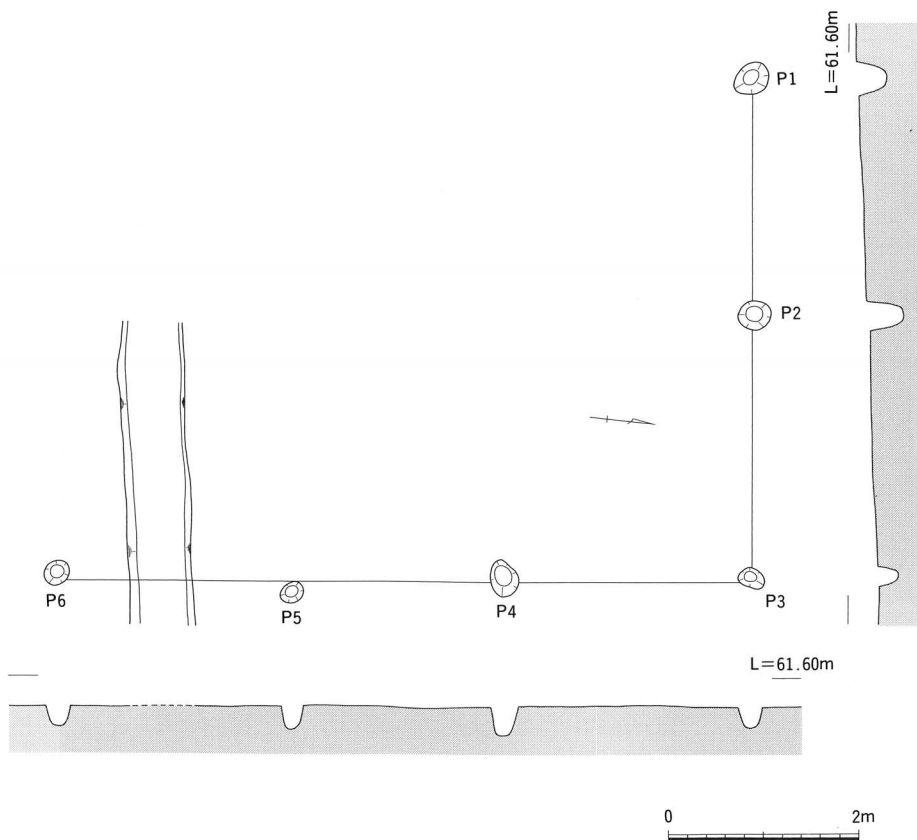
40号建物跡 (S A 1040) (第247図)

G調査区L・M-20・21グリッドから検出され、調査区の南側に位置する掘立柱建物跡である。主軸はN-53°-Eで、梁間1間、桁行2間を数える。柱穴はP-1からP-6まで確認されているが、P-1はSK1197にあたり、柱穴を確認する事は出来なかった。梁間は3m、桁行5.7mを測る。柱穴間距離は梁間2.7~3m、桁行2.7~3mを測る。柱穴の平面プランは円形と楕円形を呈する物が認められる。規模は直径22~37cm、深度は15~38cmを測る。遺物は埋土より土師質土器皿1点、土師質土器細片4点が出土したが、実測可能遺物は認められない。

柵列

1号柵列 (S A 2001) (第248図)

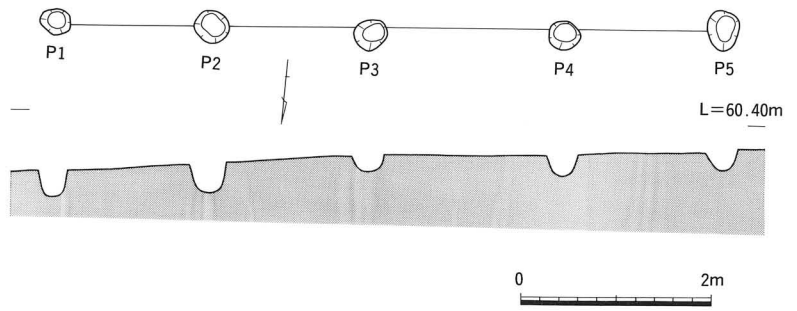
A調査区D・E・F-10・11グリッドから検出され、調査区の南側に位置し、S A 1033の北東側に位置する柵列である。掘立柱建物跡を形成する可能性も考えられるが、S A 1033に



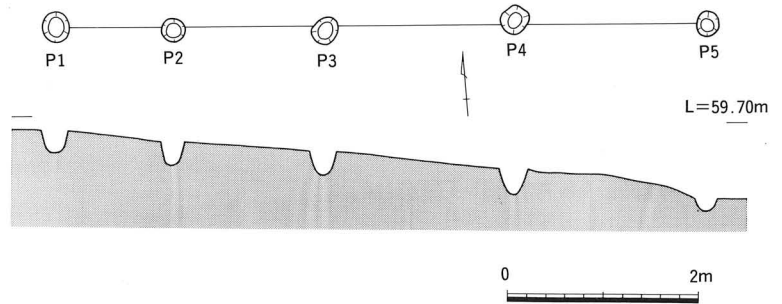
第248図 S A 2001実測図

付随する施設と考える。

柵列は東西方向と南北方向に延びており、東西方向で3穴2間、南北方向で4穴3間を検出した。主軸はN-6°-Wを示す。検出長は東西で5.16m、南北で7.14mを測り、柱穴間距離が東西で2.4~2.7m、南北で2.1~2.5mを測る。柱穴は円形を呈しており、直径25~40cm、深さ20~26cmを測る。遺物は埋土より出土している。



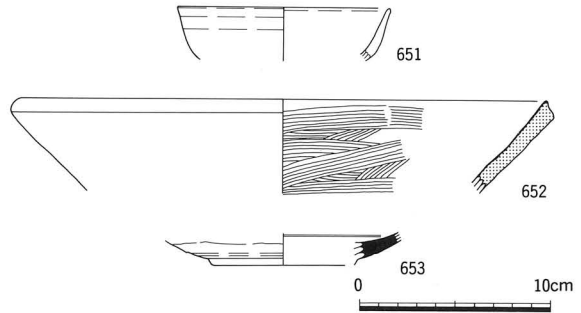
第250図 S A 2002実測図



第251図 S A 2003実測図

出土遺物 (第249図)

遺物は弥生土器細片2点、土師質土器細片20点、土師質土器杯4点、土師質土器皿2点、土師質土器小皿1点、土師質土器鍋1点、瓦質土器鉢1点、結晶片岩片3点、輸入貿易陶磁1点が出土した。遺物は細片が多く実測可能遺物3点を図化した。

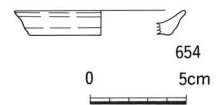


第249図 S A 2001出土遺物実測図

651は土師質土器の杯である。口縁端部を丸くおさめ、口縁部はやや外反する。

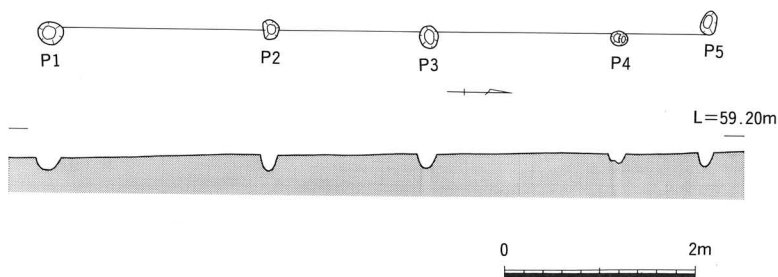
652は瓦質土器の鉢である。口縁端部は平坦におさめ、体部は直線的に立ち上がる。体部内面には横方向のハケメが施されている。

653は白磁の皿である。体部内面に施釉が認められる。見込み部分には沈線が認められる。



第252図 S A 2003出土遺物実測図





第253図 S A 2004実測図

2号柵列 (S A 2002) (第250図)

B調査区J-15・16グリッドから検出され、調査区のほぼ中央に位置する柵列である。S A 1035の北側に位置する。5穴確認され、4間を検出した。検出長7.08m、柱穴間距離は1.6~2mを測り、主軸はN-85°-Eを示す。柱穴は円形を呈し、直径30~40cm、深さ21~30cmを測る。遺物は埋土より弥生土器細片が出土しているが、実測可能遺物は認められない。

3号柵列 (S A 2003) (第251図)

B・D調査区I-16・17グリッドから検出され、調査区の南側に位置する柵列である。5柱穴からなり、4間を検出した。検出長6.42m、柱穴間距離は1.2~1.9mを測り、主軸はN-85°-Wを示す。柱穴は円形を呈し、直径21~30cm、深さは13~25cmを測る。出土遺物は埋土より、弥生土器細片と土師質土器小皿を出土している。

出土遺物 (第252図)

遺物は弥生土器細片19点、土師質土器小皿1点、サヌカイト片1点、結晶片岩片1点が出土した。遺物は細片が多く図化可能な1点を図で示した。

654はP-3から出土した土師質土器の皿である。口縁端部を丸くおさめ、体部はやや外反しながら立ち上がる。口縁部は外反する。底部は回転糸切りである。

4号柵列 (S A 2004) (第253図)

D調査区I・J-17グリッドから検出され、調査区の西端に位置する柵列である。5柱穴からなり、4間を検出した。検出長6.78m、柱穴間距離は0.9~2.28mを測り、主軸はN-5°-Eを示す。柱穴は円形を呈し、直径18~25cm、深さは7~16cmを測る。遺物は弥生土器細片と、土師質土器細片が出土しているが、図化可能な遺物は認められない。

土坑

20号土坑 (S K 1020)

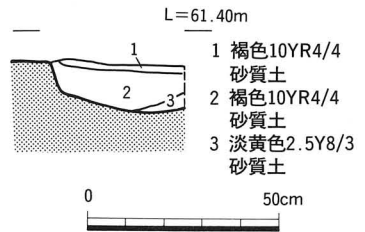
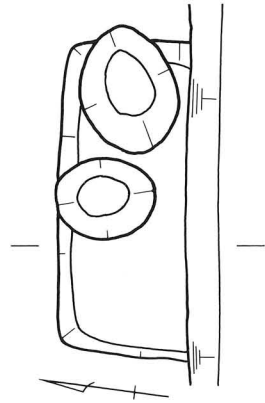
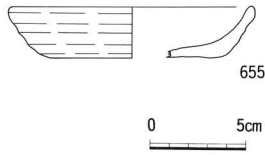
(第254図)

A調査区の北側、E-11

グリッドに位置する土坑で

第255図 S K 1020出土遺物実測図

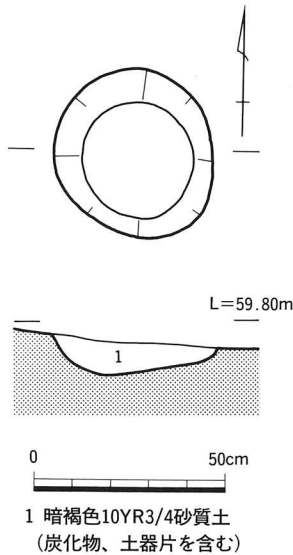
ある。遺構南側部分は後世の濠堀によって攪乱を受けている。遺構内は2基のピットによって切られた状態で検出された。平面プランは方形状を呈していると思われる。規模は現況で長軸95cm、短軸35cm、深さ12cmを測り、床面には凹凸は認められず、壁面は急斜面である。埋土は3層に分かれ、遺物は埋土中より出土している。



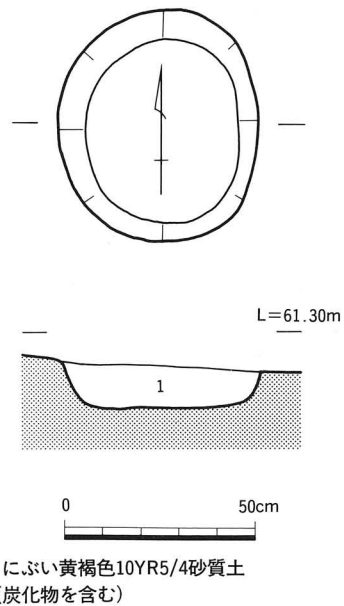
第254図 S K 1020実測図

出土遺物 (第255図)

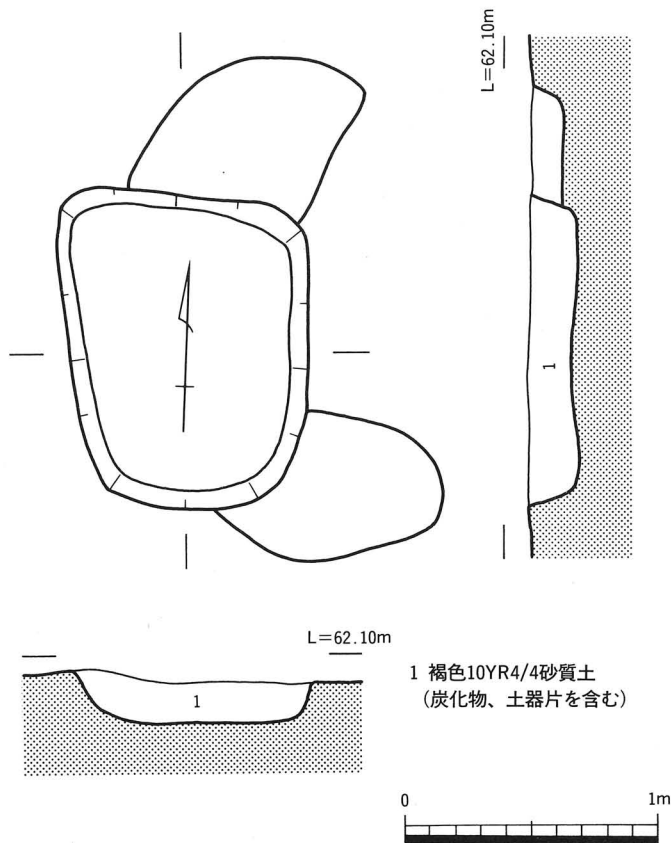
出土遺物は弥生土器細片7点、土師質土器皿1点、土師質土器細片7点が出土している。遺物は細片のため実測可能遺物は1点のみである。



第256図 S K 1080実測図



第257図 S K 1093実測図



第258図 SK 1096実測図

655は土師質土器の皿である。底部は回転糸切りが見られ、体部はやや内湾しながら立ち上がる。口縁端部は丸くおさめやや内湾する。

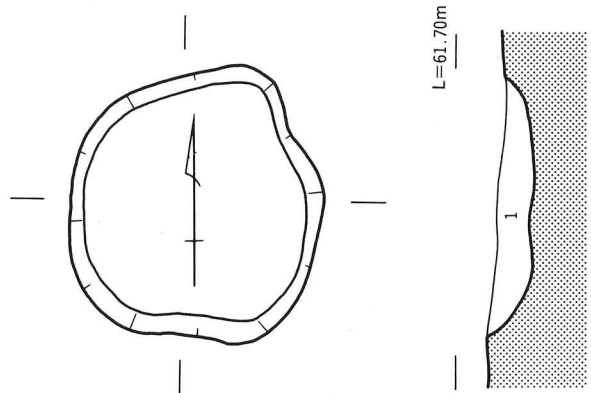
80号土坑 (SK 1080) (第256図)

B調査区のはほぼ中央、J-16グリッドに位置する土坑である。北側にSK 1063、西側にはSK 1062が、東側にはSK 1067、SK 1069が検出されている。平面プランは不整円形状を呈している。規模は長軸45cm、短軸35cm、深さ9cmを測る。床面は東側から西側に緩やかに傾斜し下っている。壁面は緩斜面である。埋土は暗褐色砂質土1層で炭化物を混入している。遺物は埋土より土師質土器細片が1点出土しているが、実測可能遺物は出土していない。

93号土坑 (SK 1093) (第257図)

A調査区の南端、D-10グリッドに位置する土坑である。西側にはSK 1019、SK 1092が検出されている。平面プランは隅丸不整円形を呈し、規模は長軸63cm、短軸58cm、深さは11

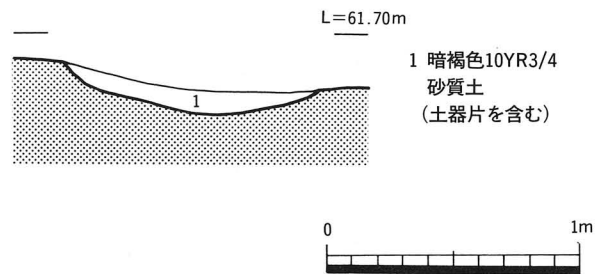
cmを測る。床面は水平であり、壁面は緩斜面である。埋土は鈍い黄褐色砂質土1層で炭化物を混入している。出土遺物は土師質土器小皿1点、土師質土器細片1点が埋土より出土しているが、細片のため実測可能遺物は出土していない。



### 96号土坑 (S K 1096)

(第258図)

E調査区の西側、K・L-8グリッドに位置する土坑で、北側でS X 1001、南側でS X 1002を切った状態で検出された。平面プランは隅丸不整形形状を呈し、規模は長軸125cm、短軸90cm、深さ20cmを測る。床面は水



第259図 S K 1099実測図

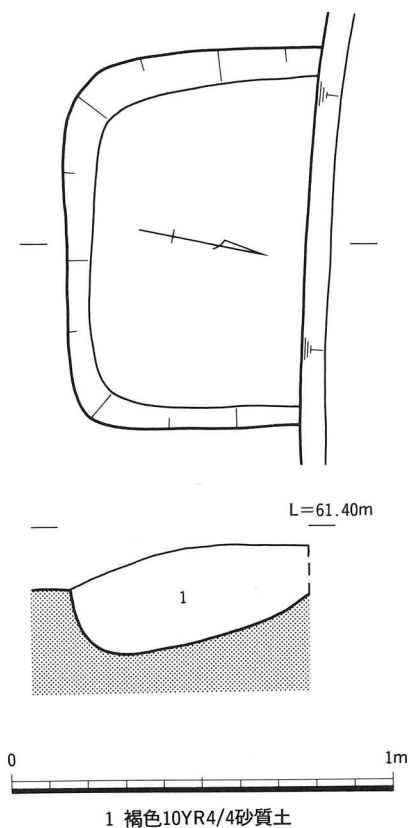
平を呈し、壁面は緩斜面である。埋土は褐色砂質土1層であり、炭化物を混入している。出土遺物は埋土中より土師質土器細片1点が出土しているが、細片のため実測可能遺物は認められない。

### 99号土坑 (S K 1099) (第259図)

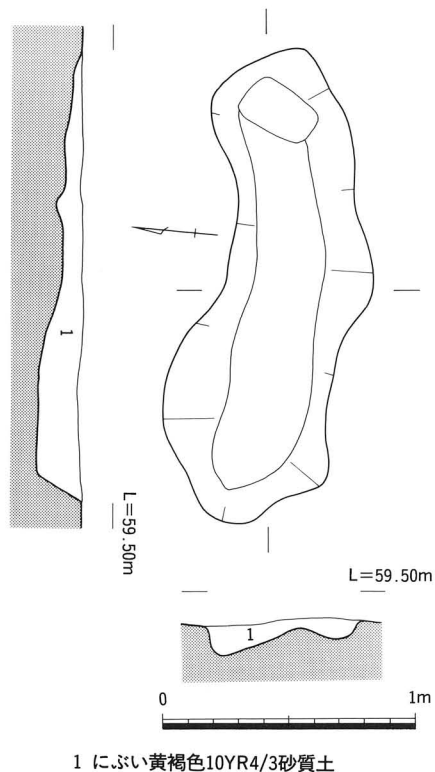
E調査区の北西側、M-8グリッドに位置する土坑である。平面プランは隅丸不整形形状を呈し、規模は長軸110cm、短軸105cm、深さ16cmを測る。床面には凹凸が認められ、壁面は緩斜面である。埋土は1層で暗褐色砂質土である。出土遺物は瓦器皿3点、土師質土器細片3点が出土しているが実測可能遺物は認められない。

### 110号土坑 (S K 1110) (第260図)

E調査区の北端、M-9グリッドに位置する土坑で、南側にはS K 1109が検出されている。北側は調査区外のため調査が行われていないが、平面プランは隅丸形状を呈するものと思われる。規模は現状で長軸100cm、短軸70cm、深さ24cmを測る。床面は遺構中央部に向かうにつれて盛り上がっていき、側縁が深い状況である。壁面は緩斜面である。埋土は褐色砂質土



第260図 SK 1110実測図



第261図 SK 1189実測図

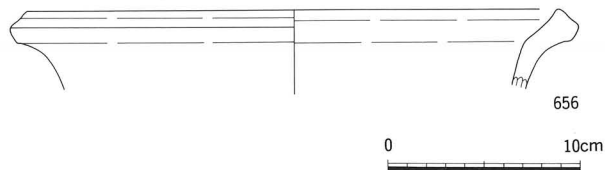
1層であり、遺物は埋土中より土師質土器細片1点とサヌカイト片1点が出土している。

189号土坑 (SK 1189) (第261図)

F調査区の北側、Q-19グリッドに位置する土坑で、南側にSK 1192が検出されている。平面プランは隅丸不整形形状を呈し、規模は長軸180cm、短軸60cm、深さ16cmを測る。床面には凹凸が認められ、中央部より側縁部が深い状況である。壁面は緩斜面である。埋土は鈍い黄褐色砂質土1層で、遺物は埋土より出土している。

出土遺物 (第262図)

出土遺物は弥生土器細片3点、土師質土器鍋1点、土師質土器細片4点、結晶片岩1点が出土している。弥生土器は摩滅が激しく流れ込みと



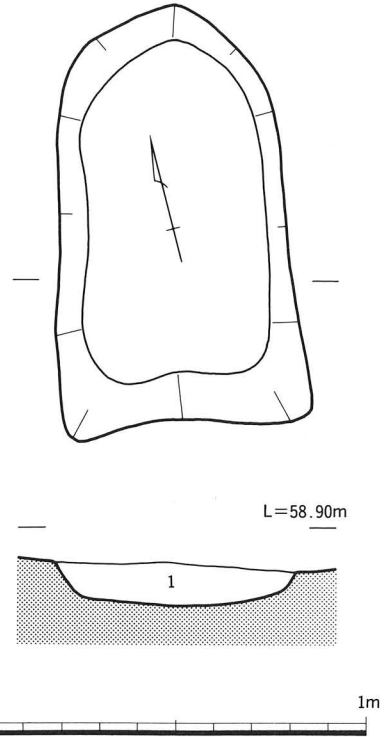
第262図 SK 1189出土遺物実測図

思われる。遺物は細片のため実測可能遺物は土師質土器の1点のみである。

656は土師質土器の土鍋である。口縁部は「く」の字状に外反し、端部を下方に拡張し、端面を平坦に仕上げる。

197号土坑 (S K 1197) (第263図)

G調査区の南側、N-21グリッドに位置する土坑である。平面プランは隅丸形状である。規模は長軸105cm、短軸55cm、深さ10cmを測る。床面は水平で、壁面は緩斜面である。埋土は鈍い黄褐色砂質土で、粘性を持ち、炭化物を混入している。遺物は埋土より土師質土器細片が1点出土している。遺物は細片のため実測可能遺物は認められない。



1 にぶい黄褐色10YR4/3粘性砂質土 (炭化物を含む)

202号土坑 (S K 1202) (第264図)

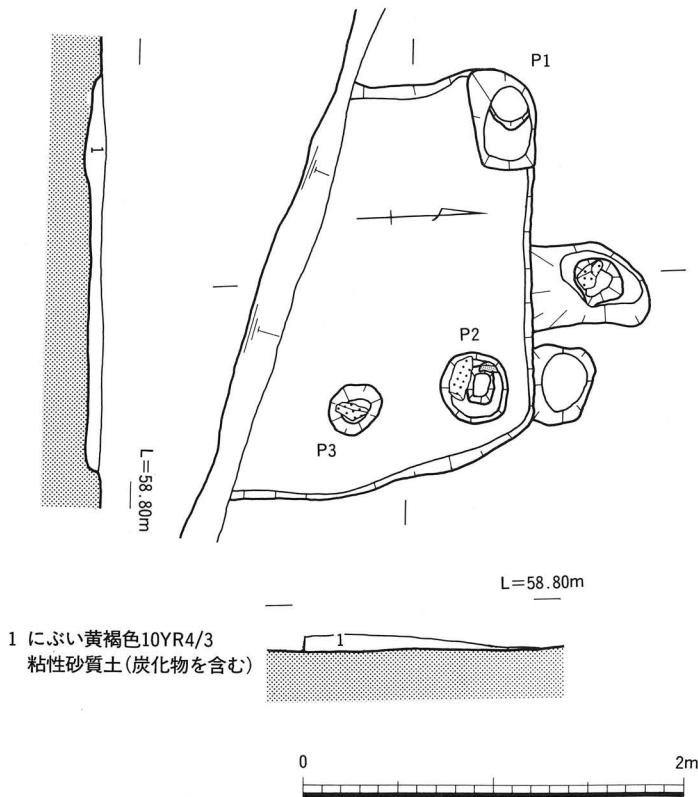
G調査区の南端、L-20グリッドに位置する土坑で、S P 10720を切った状態で検出された。

南側は調査区外に当たり調査が行われておらず全体の形状は不明であるが、隅丸形状を呈しているようである。規模は現状で長軸210cm、短軸120cm、深さ12cmを測る。床面は凹凸が認められるがほぼ水平で、壁面は緩斜面である。埋土は鈍い黄褐色砂質土で、粘性を持ち、炭化物を混入している。遺構内にはピットが3基検出されており、P-1が長軸52cm、短軸32cmを測り、埋土は褐色砂質土で、炭化物を混入している。P-2は長軸40cm、短軸36cmを測り、根石と思われる結晶片岩片と土師質土器の杯が横に倒された状態で検出された。埋土は暗褐色砂質土で、炭化物を混入している。P-3は長軸28cm、短軸24cmを測り、根石と思われる結晶片岩片が置かれている。埋土は褐色砂質土1層で炭化物を混入している。P-2・P-3は、本遺構に伴うものとも考えられるが、南側の調査が行われていないため、遺構に伴う物かどうかは不明である。出土遺物は埋土中より出土した。

第263図 S K 1197実測図

出土遺物 (第265図)

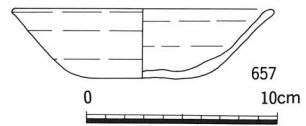
出土遺物は弥生土器細片2点、土師質土器皿1点、土師質土器細片61点、サヌカイト片1点、結晶片岩1点が出土した。弥生土器は摩滅を受けて剥離が激しいので流れ込みと思われる



第264図 S K 1202実測図

る。実測可能遺物は土師質土器皿の1点のみである。

657はP-2より出土した土師質土器の杯である。体部は直線的に立ち上がり、口縁端部は丸くおさめ、口縁部は外反する。底部はヘラ切り後板ナデである。



第265図 S K 1202出土遺物実測図

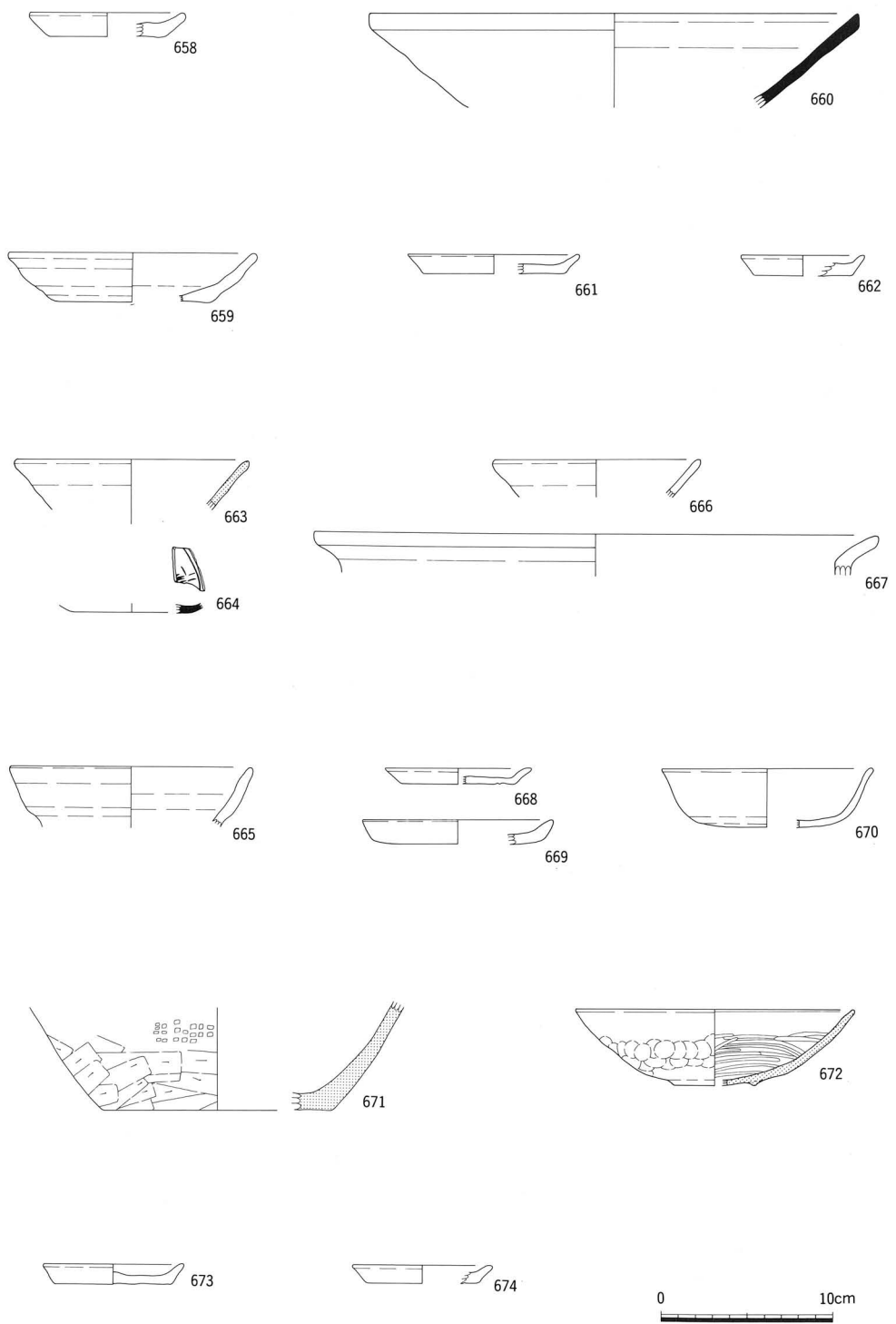
### 柱穴出土遺物

#### 20号ピット (S P 1020) (第266図)

658は土師質土器の皿である。口縁端部を丸くおさめ、口縁部はやや内湾する。内外面回転ナデを施す。

#### 49号ピット (S P 1049) (第266図)

659は土師質土器の杯である。口縁端部丸くおさめ、体部は直線的に立ち上がる。内外面回転ナデを施す。



第266图 柱穴出土遺物実測図(1)



54号ピット (S P 1054) (第266図)

660は東播系須恵器のこね鉢である。口縁端部はやや上方に拡張する。口縁部の形態と体部の形状より12世紀後半から13世紀初頭に位置づけられるものと思われる。

78号ピット (S P 1078) (第266図)

661は土師質土器の皿である。口縁端部丸くおさめ、口縁部はやや外反する。体部は底部より直線的に立ち上がる。底部は回転ヘラ切りを施す。

98号ピット (S P 1098) (第266図)

662は土師質土器の皿である。口縁端部を丸くおさめ口縁部はやや外反する。内外面回転ナデを施す。

101号ピット (S P 1101) (第266図)

663は瓦器椀である。口縁端部丸くおさめ口縁部はやや外反する。内外面には本来暗文が施されているのであろうが、内外面摩滅のため調整不明である。

664は同安窯系の青磁皿である。内外面ともに施釉が施されている。内面には櫛描きによる文様が施されている。森田・横田編年のI-1か2類<sup>(1)</sup>に当たるものと思われる。

123号ピット (S P 1123) (第266図)

665は土師質土器の椀である。口縁端部を丸くおさめ、口縁部はやや外反する。体部はやや内湾しながら立ち上がる。

126号ピット (S P 1126) (第266図)

666は土師質土器の杯である。口縁端部を丸くおさめ、口縁部はやや外反する。内外面には回転ナデが施されている。

667は土師質土器の土鍋である。口縁端部方形におさめ、口縁部「く」の字状に外反する。

127号ピット (S P 1127) (第266図)

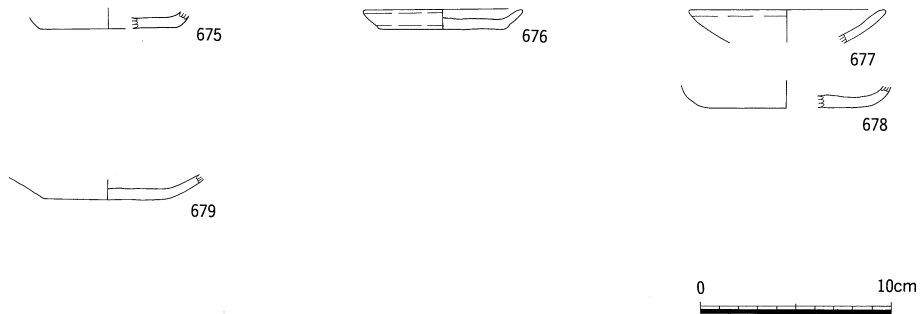
668・669は土師質土器の皿である。668は口縁端部を丸くおさめ、口縁部は外反する。体部は直線的に立ち上がる。底部は回転ヘラ切りを施す。内外面には回転ナデを施す。669は口縁端部丸くおさめ、口縁部はやや外反する。体部は直線的に立ち上がる。底部は回転糸切りを施す。

132号ピット (S P 1132) (第266図)

670は土師質土器の杯である。口縁端部を丸くおさめ口縁部はやや外反する。体部はやや内湾しながら立ち上がる。底部は回転ヘラ切りを施す。

138号ピット (S P 1138) (第266図)

671は瓦質土器の底部の破片である。底部は平底を呈し、体部は直線的に立ち上がっている。調整は外面上位に格子目タタキ、その下にはヘラケズリが施されている。



第267図 柱穴出土遺物実測図(2)

205号ピット (S P 1205) (第266図)

672は瓦器碗である。口縁端部を丸くおさめ、口縁部は外反している。体部はやや内湾しながら立ち上がる。底部には退化した貼り付け高台がつく。調整は口縁部内外面ヨコナデ、外面は体部にユビラサエ、内面には横方向の粗い暗文が施されている。森島分類のⅢ-3期<sup>(2)</sup>に当たるものと思われる。

284号ピット (S P 1284) (第266図)

673は土師質土器の皿である。口縁端部丸くおさめ、口縁部は外反し、体部は直線的に立ち上がる。底部は回転糸切り。内外面は回転ナデを施している。

285号ピット (S P 1285) (第266図)

674は土師質土器の皿である。口縁端部は丸くおさめ、口縁部は外反し、体部は直線的に立ち上がる。内外面には回転ナデを施している。

759号ピット (S P 1759) (第267図)

675は土師質土器の皿の底部の破片である。底部は回転ヘラ切りを施している。

960号ピット (S P 1960) (第267図)

676は土師質土器の皿である。口縁端部を丸くおさめ、口縁部は外反。体部は直線的に立ち上がる。底部は回転ヘラ切り。内外面には回転ナデが施される。

727号ピット (S P 10727) (第267図)

677・678は土師質土器の杯である。677は口縁部の破片で、口縁端部丸くおさめ、口縁部は外反する。内外面は回転ナデを施す。678は底部の破片である。

756号ピット (S P 10756) (第267図)

679は土師質土器の皿の底部の破片である。体部は底部より直線的に立ち上がる。底部は回転ヘラ切りの後イタナデを施している。

## 包含層出土遺物（第268～270図）

680～682、684は土師質土器の杯である。体部が直線的に伸びる681,682,684と、やや内湾しながら立ち上がる680がある。口縁端部はやや外反する680と、やや内湾する681,684がある。底部は680がヘラ切り、681が回転糸切りである。

683・685～697は土師質土器の皿である。体部が直線的に立ち上がるもの683,685,686,688,690,691,693,696と、やや外反気味に立ち上がるもの687,689,692,694と、直立気味に立ち上がる695がある。底部は687～691が回転ヘラ切り、692,693,697が回転糸切りである。

698,699は土師質土器の鍋である。698は口縁部を「く」の字状に外反、口縁端部は拡張し平坦におさめる。699は口縁部はやや内湾し、口縁端部は凹面を呈し、丸くおさめる。

700～705は土師質土器の羽釜である。口縁部が直立する701,702と、口縁部が内湾する700,703～705がある。断面三角形の鐔を上向きに付ける700,705、断面三角形の鐔を下向きに付ける701～704がある。

706～709は鍋ないし羽釜の脚部である。調整はユビヲサエを施した後ヘラで形を整えたと見られる。断面は円形を呈する。

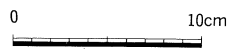
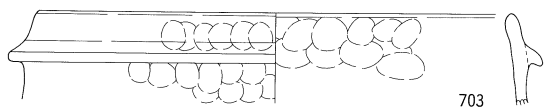
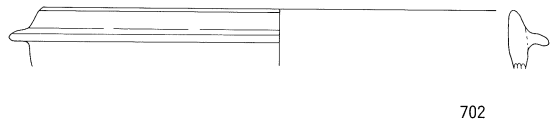
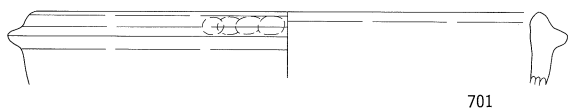
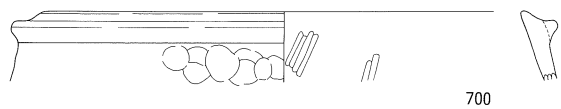
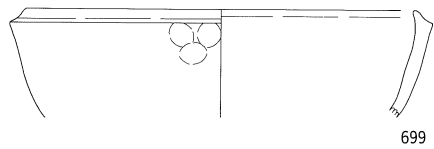
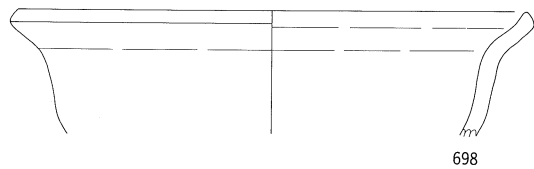
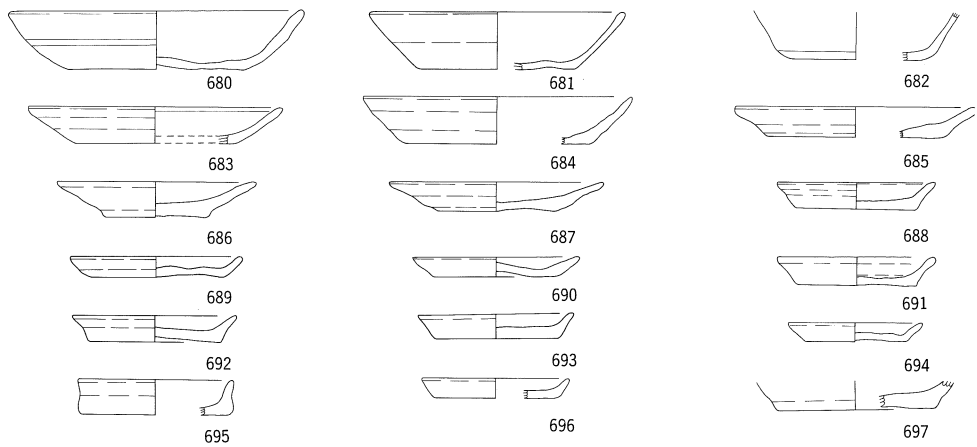
710,711は和泉型瓦器椀、712は瓦器小皿である。710は体部は内湾しながら立ち上がり、口縁端部は丸くおさめ口縁部は外反する。体部外面は指頭圧痕、体部内面は粗いヨコヘラミガキを施す。711は体部は内湾しながら立ち上がり、口縁端部は丸くおさめ、口縁部はやや外反する。体部外面は部分的に指頭圧痕を施し、体部内面は部分的にヘラミガキが認められる。712は緩やかに内湾しながら立ち上がり、口縁端部は丸くおさめ、口縁部は外反する。口縁部外面には一条の沈線を施している。これらの瓦器椀は尾上分類のⅢ期<sup>②</sup>に位置付けられるものと思われる。

713は瓦質土器の火鉢である。口縁端部はやや拡張し、丸くおさめる。口縁部外面には一条の沈線を施している。口縁部内外面はヨコナデである。

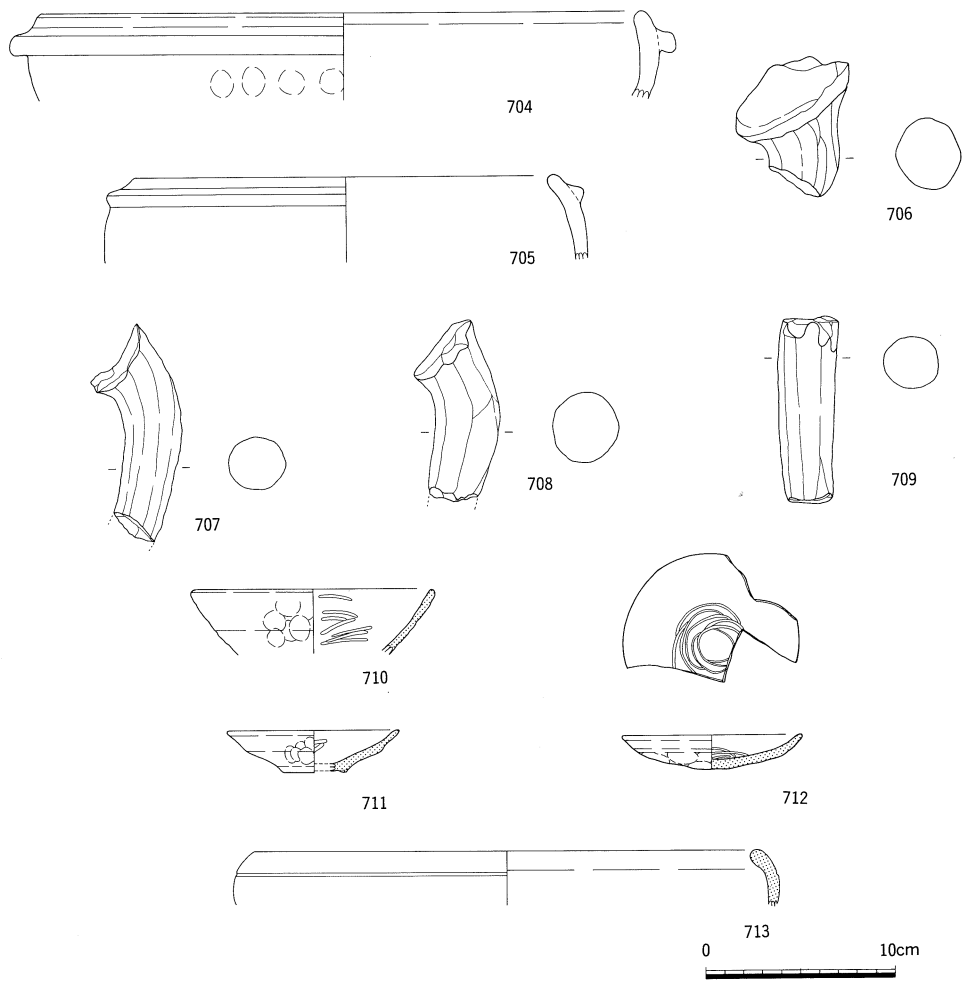
714は東播系須恵器のこね鉢である。口縁端部は上方に拡張し、方形におさめる。口縁部内面に強いヨコナデによる凹みを持つ。口縁部の形態より12世紀後半から13世紀初頭に位置付けられる。

715～718は備前焼のすり鉢である。715は口縁端部を上下に拡張し、方形におさめている。716は口縁端部を下方に拡張し、先端部は鋭く尖る。717は口縁部は直立し、口縁部内面に突帯を持ち、口縁端部は丸くおさめる。口縁部外面に2状の沈線を施す。718は備前焼の底部である。体部内面に7条単位の櫛描条線を施している。715,717は間壁編年<sup>③</sup>のⅣ期（15世紀代）、717はⅤ期（16世紀）に位置付けられるものと思われる。

719は白磁の椀である。口縁部を外反し、端部を水平にする。体部内面上位に浅い沈線を

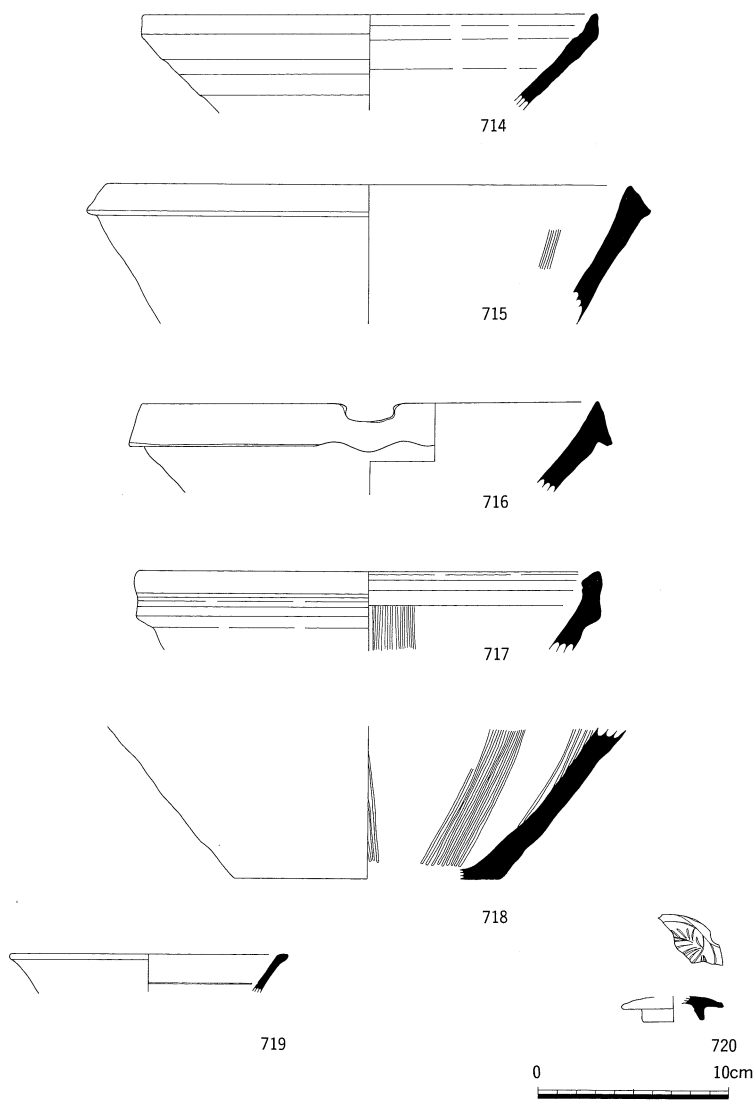


第268図 遺物包含層出土遺物実測図(1)



第269図 遺物包含層出土遺物実測図(2)

持っている。720は青磁小壺蓋である。上面には片彫りによる文様らしき物が彫られている。



第270図 遺物包含層出土遺物実測図(3)

## 注

- (1) 森田賢次郎・森田勉「太宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集』  
四 1987
- (2) 森島康夫「幾内産瓦器碗の併行関係と暦年代」『大和の中世土器II』 1992  
尾上実「南河内の瓦器碗」『藤沢一夫先生古希記念古文化論叢』 1983
- (3) 間壁忠彦「備前」『世界陶磁全集3 日本中世』 小学館 1977

### 3 まとめ

#### (1) 日吉谷遺跡出土の旧石器石器群について

この項では調査区西側で確認されたブロックの石器群を中心として、日吉谷遺跡遺跡出土の旧石器群の位置付け・遺跡形成に至る背景などについて若干の検討を行い、まとめとした。なお個々の石器・石核・剥片の観察については、すでに前項で詳述しているため、ここでは省略させていただく。

##### 1 遺跡の立地

まず遺跡の立地について述べてみたい。遺跡の立地は旧石器文化研究のうえで重要な視点である。たとえば立地する地形の問題としては、台地あるいは段丘の選択があげられる。このことは河原での採集や河岸段丘の礫層中に含まれている礫そのものを抜き取るなどして、石材を調達することが可能だったと言えるのである。つまり石器石材の供給に関するリスクを軽減するために石器石材の入手の容易な地点に集落や石器製作場を形成したと考えられる。

徳島県内における旧石器遺跡の立地については、大小の河川によって形成された低位～中位段丘に立地しており、中位段丘では集中して遺跡が占地し、低位段丘では散在的な分布状況を示している<sup>(1)</sup>。このことは四国の他地域においても類似している。日吉谷遺跡は吉野川中流域左岸、阿讃山脈南麓に形成された扇状地礫層が、狭小な谷地形によって樹枝状に分断された標高約60mの中位段丘面上に占地している。また日吉谷遺跡の立地する長峰台地と呼ばれる南北幅1～2km、海拔50m～150mの緩やかな中位河岸段丘上には多くの旧石器遺跡が近在しており、遺跡間の関連が注目される。

徳島県においては、本遺跡をはじめとして板野郡土成町椎ヶ丸遺跡<sup>(2)</sup>など吉野川中流域北岸の中位段丘面上に遺跡が集中して分布している。これらの遺跡群は石器石材を獲得する一連の行動、サヌカイト入手に関わる集団の回帰運動の途上で形成されたものであると思われる。これらの遺跡から出土する石器石材はほとんどがサヌカイトである。これらのサヌカイトは香川県五色台周辺の産と思われる。いわゆる吉野川北岸遺跡群とサヌカイト原産地である五色台周辺との距離は直線距離にして約35kmであり、石器石材の搬入ルートとしては、現在も香川県側に抜ける重要な交通路となっている日開谷川、曾江谷川、宮川内谷川などの水系に沿って石材を搬入したものと推定される<sup>(3)</sup>。

徳島県内の旧石器遺跡は石材原産地から離れた、生業・生産活動を営んだとされる消費地遺跡<sup>(4)</sup>の様相を示している。遺跡の立地条件には狩猟・採集などの生業を中心とした日常生活と原石採集の便を兼ね備えた地点が選択されたと思われる、これら遺跡を構成した集団は、河



川に面した山麓の平坦面（中位段丘）をベースキャンプとして、山麓裾に広がる低位の平野部（低位段丘）を活動の拠点として、結果的に長期に渡る遺跡が形成されたといえる。

## 2 ブロック1出土の石器について

日吉谷遺跡では調査区西側において約半径2mのブロックが1ヵ所確認された。ユニットからの出土点数は286点であり、ナイフ形石器・スクレイパー・剥片・碎片類で構成され、石材は圧倒的にサヌカイトを利用している。石器組成は一側縁加工の国府型ナイフ形石器を中心として、若干のスクレイパー類が伴うといった単純な様相を示している。出土したナイフ型石器は国府型ナイフ形石器を中心として、剥片生産技術には、いわゆる瀬戸内技法を技術基盤としている。

本石器群は角錐状石器を伴っておらず、一側縁加工の国府型ナイフ形石器のみの純粋な国府石器群とみなすことができよう。時期的には、A T降灰前後、ナイフ形石器文化後半期いわゆる「国府期」の石器群に該当する。徳島県において、ほぼ原位置をとどめた状態で石器群が検出されたのは初例のことである。県内での遺跡間の対比は困難であるが、土成町椎ヶ丸遺跡の石器群の組成等からみて、ほぼ同時期のものと考えられる。

剥片類の中には、翼状剥片とは異質な横長剥片がみられるが、これらは盤状剥片の形状等の石材供給の制約によって剥片剥離工程上生じたものであり、あくまでも翼状剥片剥離の継続を意図している以上、瀬戸内技法の範疇に含めてよいように思われる。消費地遺跡においては限られた石器石材を有効に活用するため、時として変則的な手法が用いられたり、製作途上のアクシデントに対処する補正技術の要求も必然的に強くなるものと思われる。また三条黒島遺跡<sup>(5)</sup>・八尾南遺跡第3地点<sup>(6)</sup>の例のように翼状剥片石核の横長剥片石核への転用も考慮しておく必要があるだろう。瀬戸内技法第2工程は瀬戸内技法を最も特徴づける工程であるが、原産地・消費地という石材獲得環境の相違により、石器素材の運用形態に差異が存在することにも留意する必要があるだろう。

日吉谷遺跡ブロック1の石器群では、盤状剥片素材の翼状剥片石核・ファーストフレイク素材の国府型ナイフ形石器・同石核転用のスクレイパーの存在から瀬戸内技法第2工程以降の製作工程が指摘できるが、直接的に瀬戸内技法第1工程を示す資料は認められない。このような技術的構造は、石器石材の搬出・搬入形態に寄与するものであろう。つまり、サヌカイトという単一石材への依存度の高い消費地遺跡（地域）において、原産地より盤状剥片・翼状剥片・国府型ナイフ形石器といった搬入形態がとられ、遠隔地への便や、石器製作工程の省力化、石器製作ミスによる石材消費などのリスクを回避するという側面があったと言える<sup>(7)</sup>。第1工程を示す資料は、原産地遺跡においては集中する傾向がある。原産地における盤状剥片・翼状剥片・国府型ナイフ形石器の効率的な生産は、結果的に大規模遺跡（石器製

作跡)を形成し、サヌカイト供給圏内においては、瀬戸内技法の技術的安定化・器種組成の齊一化など、国府石器群の遺跡間における差異を最小限にとどめ得たのであろう<sup>(8)</sup>。

### 3 日吉谷遺跡の瀬戸内技法関連資料

瀬戸内技法関連の資料は、国府型ナイフ形石器11点、翼状剥片石核3点、翼状剥片が多数出土しているが、瀬戸内技法第1工程から第3工程を示す完結的な石器生産の痕跡はみられない。本石器群は瀬戸内技法を技術基盤としている。出土資料の中には現存長で8cmを超える大形のナイフ形石器が出土しており、他のナイフ形石器と様相を異にしている。これは石材原産地周辺からの単独搬入であると思われる。またスクレイパーの中には残核となった翼状剥片石核を半割したものを素材として用いている。

日吉谷遺跡における国府石器群は、瀬戸内技法を主たる技術基盤とし、国府型ナイフ形石器を主要な生産用具としている。こういったナイフ形石器を主体とし、それに若干のスクレイパー類を伴うという石器組成上の特徴は、瀬戸内地域の原産地遺跡、消費地遺跡ともに共通して認めることができる。しかしながら、遺跡の性格という点で、原産地遺跡と消費地遺跡では根本的な相違がある。両者ともに共通した技術基盤に立脚しながらも、原産地遺跡では、剥片・石核・未製品等の比率が高く、また盤状剥片などの石核素材が多く認められる。このような状況は、松藤和人氏のいうアトリエ的性格を反映しているものといえる<sup>(9)</sup>。一方、消費地遺跡においては、原石単位というよりも、盤状剥片・翼状剥片・国府型ナイフ形石器という単位でサヌカイトが搬入されていたと推察される。また日吉谷遺跡のナイフ形石器は最大長が5cm前後と比較的小形のもが主体を占める中で、客体的な様相をみせる最大長10cmを越す大形のナイフ形石器がこのことを示唆するものと言えらる。

日吉谷遺跡のナイフ形石器は、一側縁加工で、長さ5cm前後、幅2cm前後のものが多く、小形で細身の傾向を示している。瀬戸内技法のように連続して定型的な剥片を生産する技術によるナイフ形石器の大きさは、素材となる翼状剥片およびそれを生産する翼状剥片石核の大きさに敏感に反応する。とすれば、このことは、消費地遺跡の様相である石器石材の効率的な利用の結果であると同時に石材原産地から消費地遺跡に搬入されるサヌカイトの大きさ(単位)を示唆するものと捉えることができる。

出土資料の中には、いわゆる石器のリダクション<sup>(10)</sup>を示すものがある。第8図5と6は接合する。接合した状態が第8図4である。石器の製作途中で欠損したものに再加工を施し、製品に仕上げている。通常ナイフ形石器のリダクションは打点を中心に器体の上下両端にブランティングを施して形態を整えるが、第5図6のリダクション国府型ナイフ形石器は本来の基部を先端部とし、折断面を腹面側からブランティングを施して器体を整えている。第1図5と接合する第5図6を観察してみると意図した折断ではなく、ナイフ形石器製作工程途

中で生じたものであり、その不慮の事故に対する緊急避難的措置であろう。また第5図6は打点側の一側縁は2枚の剝離面で構成され、一つは翼状剝片石核の調整剝離痕の残存であろう。もう1点の接合資料第13図30~32のナイフ形石器はリダクションではなく、明らかに石器製作上の折損である。

他の石器類については、スクレイパー類が特徴的である。日吉谷遺跡においては石核転用の製品がみられる。7・8は翼状剝片石核を半割して器体を整え、縁辺部に急斜度な調整加工によりスクレイパーエッジを作出している。このような石核を半割するスクレイパーは本石器群の中で特徴的な形態を示し、これは消費地遺跡の様相を示唆するものと思われ、石器石材の効率的な利用の結果であると考えられる。

#### 4 石材獲得と遺跡形成に至る背景

日吉谷遺跡のナイフ形石器は概して長さ5cm前後、幅2cmのものが多く、国分台周辺の原産地遺跡と比較して小形で細身の傾向を示しており、消費地遺跡の様相を呈している。翼状剝片石核も概して小形である。このことは周辺の椎ヶ丸~芝生遺跡と共通している。これらは消費地遺跡における盤状剝片の形状等の石材供給の制約上生じた石材の効率的な利用の結果であると考えられる。

一つの解釈として、日吉谷遺跡のような石材原産地（国分台周辺など）から遠く離れた消費地遺跡では、サヌカイトの入手は容易ではなく、次の入手までの期間も長くなると考えられる。1回のサヌカイト搬出量にはおのずと限界があると考えれば、当然、搬出する石材（サヌカイト）の形状もその周期的スケジュールに適應したものとなろう。石材原産地から遠く離れた消費地遺跡においては、国府型ナイフ形石器や翼状剝片といった目的的な石器素材よりも、多目的な盤状剝片を重点的に持ち込むという石器石材の運搬技術の選択が存在したと思われる<sup>(11)</sup>。1回における石器石材の入手・消費サイクルが長期間になればなるほど、国府型ナイフ形石器や翼状剝片といった目的的な石器素材より、盤状剝片のような、より多目的な利用に供しやすい素材を選択的に搬出することによって、石材消費によるリスクを少なく使用としたことは十分に考えられる。日吉谷遺跡のように石材原産地から遠距離にありながら、石器石材のほとんどをサヌカイトに依存しているような遺跡では、上記のような状況下にあった可能性は想像にたやすい。

各集団の移動範囲は、その周期的および回帰的な生業・生産活動領域を対象としたとき、その領域は小河川に限定されるものではなく、平野をとりまく段丘および山地周辺にまで広がっていた可能性が考えられる<sup>(12)</sup>。つまり、サヌカイトの獲得が広域におよぶ年間の周期的生業・生産（狩猟・採集）活動の一部に埋め込まれていた<sup>(13)</sup>と考えるなら、サヌカイトの分布範囲が集団の生業・生産活動領域であったと考えることが可能であろう。サヌカイトの分

布は集団間の交易ではなく、原産地を中心とした集団の回帰的生業活動による所産であると考えられる。そういった石器石材を中心とした回帰的な生業・生産活動の積み重ねの結果として遺跡または遺跡群を形成するに至ったものと推測できよう。

サヌカイトを主要石材とする瀬戸内技法による石器群（いわゆる国府石器群）は、後期旧石器時代前半期には、すでに固定化された地域性を確立した石器群として出現することが板井寺ヶ谷遺跡<sup>(14)</sup>下層の石器組成から窺い知る事ができる。サヌカイトを主要石材として選択し、石器石材の供給システムを早くに完成させたことが瀬戸内技法の特異性を形成し、長期に渡り保守性を継続し得た背景として推測できる。

瀬戸内技法と国府型ナイフ形石器は二上山と五色台・金山の二大サヌカイト産地を包括した形で分布している。瀬戸内周辺のサヌカイトは淡路島の岩屋付近で分布範囲に線引きされ、東は二上山産、西は五色台・金山産が用いられている。黒曜石が200～500kmの移動距離をもつのと比較して、サヌカイトは移動範囲が80kmと短く限定されることから<sup>(15)</sup>、サヌカイトの分布は集団間の交易ではなく、原産地を中心とした集団の回帰的生業活動による所産であると考えられる。ただし、冠高原のサヌカイト分布域には、冠技法と原石の関連性が考えられる。原石の分布と文化圏の広がりは一一致する例が多い。つまり、原石の行き渡る範囲に石器作りの情報が流布し<sup>(16)</sup>、しかも原石の物理的屬性にある程度規制された石器製作が行われた当然の現象といえる。

四国は基本的に瀬戸内技法の文化圏に包括されるが、中央構造線を境に瀬戸内(四国北部)と太平洋(四国南部)で石器石材の様相に相違がみられる。石材の選択には、1. 石器の機能・用途 2. 石器の形態 3. 石器の製作技術 4. 石材の石質が要因として機能したと考えられ、また石材選択の規制要因としては、1. 集団の文化系統 2. 石器製作技術 3. 地質分布が考えられる。四国地方においては国府型ナイフ形石器などの打製石器の石材としてサヌカイトが盛用され、他の石器石材はほとんど利用されていない状況である。いわゆる在地的石材であるチャートを産する秩父帯は、四国を縦断する格好で形成され広域的な地域を包括している。また、チャートそのものは和泉層群や領家帯の中にも認められる。にもかかわらず四国地方においてはチャートを普遍的に利用出来得る状況にありながら、サヌカイトを圧倒的に利用する点に石器石材の選択に特異性がみられる。これらのことは規格的な剥片生産技術基盤である瀬戸内技法とサヌカイトという特定の石材の持つ物理的屬性と密接な関連があるのであろう。なお瀬戸内側は石材にサヌカイト主体とし、その瀬戸内技法を技術基盤として、太平洋側は石材に若干サヌカイトを用いているが、在地的石材であるチャートを主体として、縦長剥片剥離技術を技術基盤とするという相違がみられる。しかしながら、これら石材利用の相違が集団の文化系統に起因するものなのか、あるいは時期的・地域的相違であるのかは、四国における旧石器時代の調査事例に地域的な粗密があるため、推論の域

を出ないのが現状である。

## 5 まとめ

これまで日吉谷遺跡の旧石器石器群について概観してきたが、今後の検討すべき点をいくつか挙げてまとめとしたい。

日吉谷遺跡の旧石器石器群は、瀬戸内技法を技術基盤に持ち、一側縁加工の原則的な形態の国府型ナイフ形石器を主要な生産道具とする国府石器群であるといえる。編年的にはナイフ形石器の形態や若干のスクレイパーを伴うといった単純な石器組成等から、時期的に瀬戸内技法の盛行期とされるA T上位に位置付けられよう。しかしながら、瀬戸内技法の編年の位置はA T降灰前後に捉えられているが、出現時期・盛行期・終焉時期については仮説の域をでない状況にある。また、一般的に単純だといわれる瀬戸内技法の石器群の石器組成についても角錐状石器との関連をはじめとして、遺跡の性格と関連した具体的な検討を行う必要性が唱えられている。今後、資料の増加を待ち、周辺遺跡との対比を行い、これら地域的・編年の空白を積極的に埋めていくことが急務である。さらに遺跡の形成過程を総合的に検討し、出土遺物の定量的な分析を進めていく必要がある。また考古学的検討と同時に理科学的方法による原産地同定を意識的に進めていくことにより、集団の生業・生産活動の実態、換言すれば旧石器文化の具現化につながっていくことだろう。

また県南の廿枝遺跡<sup>(17)</sup>に代表されるチャートを主体とした石器群との関係についても今後検討していかなければならない課題である。讃瀬戸地域においては石器石材にサヌカイトを圧倒的に利用する中で、本遺跡からはチャート製のナイフ型石器も出土している。チャート（在地石材）を主体とした遺跡は、徳島県南部の阿南市廿枝遺跡の他には、金蔵～上井遺跡<sup>(18)</sup>があるが、その他の例として量的に極めて少量ではあるものの上板町柿谷遺跡においてもチャート製ナイフ形石器<sup>(19)</sup>が、また椎ヶ丸遺跡においてもチャート製剥片が見られ、井島 I 段階以前にも石器石材にチャートを用いていたことが示唆される。このことはサヌカイト製のナイフ形石器（瀬戸内技法またはそれに準ずる石器製作技術）が県南部に伝播した可能性を示唆するものといえる<sup>(20)</sup>。吉野川北岸地域においては与島西方遺跡の段階（宮田山期）以降の遺跡は希薄であり、金蔵～上井遺跡の他は確認されていない。今後、吉野川流域および徳島県南部の勝浦川・那賀川流域において井島 I に後続する段階の遺跡の存在が予想される。

廿枝遺跡・金蔵～上井遺跡では、小形の二側縁加工のナイフ形石器が石器組成の主体を占めている。石器群の組成には明確な細石核・細石刃はみられず、時期的には従来言われている井島 I の段階である。この時期から、本県においては主体となる石器石材の変容がみられ、チャート等の、いわゆる在地石材が増加する。このことは石材原産地である香川県の国分台

遺跡群でも類似した様相を示し、また備讃瀬戸島嶼部においても出土する細石核の石材に大半がハリ質安山岩で占められる様になる<sup>(21)</sup>。これらのことから、いわゆる井島Ⅰ段階以降、備讃瀬戸周辺部ではハリ質安山岩を、吉野川流域においてはチャートへの石器石材の転換があったと推測できよう。地質分布では、良質のチャートは吉野川左岸の和泉層群では産出されず、徳島県南部の勝浦川流域（秩父帯）で産出されることから<sup>(22)</sup>、井島Ⅰ段階以降に石器石材を求める動きの変化が生じたことが指摘できよう。これには石器製作の技術的側面も考慮にいれねばならないが、主要因としては、AT以後、旧石器遺跡数が増加していることから、生産力の発展を背景とした人口の増加に対応するため、新たな生業・生産活動の場の開拓を余儀なくされ、集団の移動があったと解釈できる。移動すなわち生業・生産活動の場を希求するに伴い原産地から遠くなるに従い、それまで使用していた石材が入手困難になるために、その代替物として在地石材（チャート）の利用頻度が高くなると想定できよう。また稲田孝司氏は石材が多様化する要因として、最終氷期（ヴュルム期）における波動的な気候変動は、狩猟対象獣の変化などの集団の環境適応に大きな影響を及ぼしたと考え、その結果、石器製作技術の進歩を促し、石材に規制されなくなるとした<sup>(23)</sup>。つまり備讃瀬戸の集団が環境の変化に適応する手段として、石材獲得の周期的スケジュールに即し、阿讃山脈を越えて南下し、それまで補完的な石材であったチャート等の在地的石材を主体的に石器石材として利用するようになったと解釈できるだろう。このことを示す資料として、吉野川の支流の一つである鮎喰川右岸下流域に位置する名東遺跡でサヌカイト製の国府型ナイフ形石器が1点採集されていること<sup>(24)</sup>、また阿南市甘枝遺跡において、いわゆるチャート製の国府型ナイフ形石器が1点出土<sup>(25)</sup>しており、石器石材にサヌカイトを用いる集団（文化圏）とチャートを用いる集団（文化圏）の接点（交流点）であると考えれば、徳島県南部に在地石材を用いた国府石器群またはそれに後続する石器群の存在が予想される。

すでに多くの先学諸氏も指摘するように、いわゆる在地石材の大半が日常的な狩猟採集活動に伴って獲得されたものであり、したがってまた集団の移動に応じて刻々と変化する行動圏の地理的条件に鋭敏に反応するものであることに疑義はないであろう。さらに獲得された原石の一部はその場で消費され尽くされることなく、ある場所から別の場所へ持ち運ばれ、その結果として、集団の保持する石材の部分的な廃棄が個々の遺跡において反復されることも個別遺跡の石器群、換言すれば個々の具体的事実により集団の生業・生産活動の実態が導きだせよう。最終氷期（ヴュルム期）における波動的な気候変動は集団の短期的な環境適応のパターンに大きな影響を及ぼしたに違いない。諸集団の移動領域は、その適応行動の転換に伴って拡大と縮小を繰り返し、集団間の社会的・政治的連帯にも緊張と弛緩の周期的反復を生じさせ、その周期的スケジュールに即し、生業・活動領域を遊動していく過程においてチャート等の在地的な石器石材への変換が生じたものと考えられる。

## 注

- (1) 早瀬隆人 「旧石器遺跡立地についての一視点——吉野川北岸域を中心として——」 徳島県埋蔵文化財センター研究紀要『真朱』創刊号 (財徳島県埋蔵文化財センター 1992)
- (2) 久保脇美朗 他 「椎ヶ丸～芝生遺跡」『徳島県埋蔵文化財センター年報』Vol. 2 (財徳島県埋蔵文化財センター 1991)
- 高橋正則 「徳島県土成町椎ヶ丸遺跡の旧石器」『旧石器考古学』27 旧石器文化談話会 1983
- (3) 天羽利夫 「徳島県の遺跡」『日本の旧石器文化』3 雄山閣 1976 また絹川一徳氏は阿讃山脈の標高350mを越える地点に立地する、棚ヶ窪遺跡・大久保遺跡などの旧石器遺跡の存在から尾根上の搬入ルートを指摘している。絹川一徳 「徳島県土柱周辺の旧石器」『旧石器考古学』39 旧石器文化談話会 1989
- (4) いわゆる原産地遺跡と消費地遺跡の諸特徴を挙げてみる
- | 石材(石器)原産地遺跡      | 消費地(遠隔地)遺跡                |
|------------------|---------------------------|
| 1 原石出土(角礫等)。     | 1 石核の残り具合が小さく、石核転用の石器が多い。 |
| 2 出土点数多量。        | 2 盤状剥片・石核の占有率が低い。         |
| 3 盤状剥片・石核の占有率が高  | 3 ナイフ形石器の小型化。             |
| 4 大形の石器が多い。      | 4 ナイフ形石器の定型化。             |
| 5 未製品の割合が多い。(幅広) | 5 ナイフ形石器先端部の尖鋭化。          |
|                  | 6 二側縁加工のナイフ形石器の割合が多い。     |
- (5) 香川県教育委員会 『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報——昭和63年度——』 香川県教育委員会 1989
- (6) 福田英人 『八尾南遺跡 ——旧石器出土第3地点—— 大阪府埋蔵文化財調査報告書第36輯』 大阪府教育委員会 1989
- (7) 絹川一徳 「瀬戸内におけるサヌカイト旧石器政策」『考古学ジャーナル』315号 ニュー・サイエンス社 1990
- 山口卓也 「近畿地方における旧石器時代遺跡の立地 ——遺跡立地の差と地域性の発生について——」『関西大学考古学資料室紀要』第8号 等。
- (8) 絹川一徳 「瀬戸内技法に関する二、三の考察」『岡山大学文学部紀要』第19号 岡山大学 1993
- (9) 松藤和人 「瀬戸内技法・国府石器群の現状と課題」『旧石器考古学』30 旧石器文化談話会 1985
- (10) いわゆる消費地遺跡においては、石器が小形の傾向を示すが、これらは遠隔地になればなるほど石材の補給が困難になるため、石器の器種再生(リダクション)が行われた結果

- であると思われる。その器種再生に際しては、オリジナルの工程をトレースする。また砂田佳弘氏は、器種再生が行われた理由の一つとして、石器は消耗品であり、替え刃としての石器形態が常態的に補給されていたためであるとしている。砂田佳弘 「相模野の石器再生 ——器種形態の存続と改変——」『神奈川考古』第29号 神奈川考古同人会 1993
- (11) 前掲注(7) 絹川 1990
- (12) 国分台周辺が集団の日常的生業・生産活動領域とした場合、この狭い範囲の領域では、植物採集をはじめ食料の確保が国難になる冬場に限らずとも、狩猟対象獣など食料の一定量の確保が困難であった可能性が考えられる。またアフリカのセントラル・ブッシュマンの一部の行動領域は、半径50kmの行動領域をもち、年間移動距離は平均300km、行動領域面積は4000km<sup>2</sup>になるといわれている(前掲注(1) 田中二郎 『ブッシュマン』第2版 思索社 1980)。このことについては相互の地理的環境の差を考慮する必要があるが、集団の広域的な移動領域を想定する一つの指標にはなろう。
- (13) 未開社会あるいは非市場社会にあつては、商品市場とか商業活動は存在せず、経済人類学者カール・ポランニーによれば「生計(生産)は社会的諸制度のなかに“埋め込まれ”ている。」と言う。K、ポランニー、玉野井芳郎・平野健一郎 訳 『経済の文明史』日本経済新聞社 1975
- (14) 山口卓也 編 『板井ヶ谷遺跡発掘調査報告書 ——旧石器時代の調査——』 1991
- (15) 理科学的検討によると、サヌカイトは二上山や五色台・金山とも80kmほどの文化圏をもつことが知られている。藁科哲男 他 「石器石材の産地分析」『鎌木義昌先生古希記念論集 考古学と関連科学』鎌木義昌先生古希記念論文集刊行会 1988
- (16) 小野 昭氏は石器製作技法の共通性について、隣接した地域の接触が無限に連なった結果であるとした。小野 昭 「遺跡分布からみた旧石器時代の社会 ——ナイフ形石器群を例とした分布の現象と実態——」『第四紀研究』26-3 1988
- (17) 高橋正則 「徳島県阿南市・廿枝遺跡採集の石器再考」『旧石器考古学』29旧石器文化談話会 1984
- (18) 久保脇美朗 「金蔵～上井遺跡」『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書1』(財徳島県埋蔵文化財センター 1993
- (19) 池渕 茂 他 「柿谷遺跡」『徳島県埋蔵文化財センター年報』Vol.2 (財徳島県埋蔵文化財センター 1993
- (20) 同一母岩の石核・剥片・碎片等の具体的なチャートを用いた石器製作を示す痕跡はなく、逆に県南部からの単独の搬入と捉えることもできる。
- (21) 香川県教育委員会 『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財調査報告 I～VI』香川県教育委員会 1977～1989



- (22) この点について早淵隆人氏が指摘している。前掲注(1)。
- (23) 和泉層群北部の砂岩礫層中には散在的にチャートが包蔵しているが、露頭している地点は不明である。徳島県南部の地質は秩父帯が分布しており、勝浦川流域では良質の緑色チャートが採集できる。
- (24) 稲田孝司 「尖頭器文化の出現と旧石器的石器製作の解体」『考古学研究』22-4 考古学研究会 1976
- (25) 氏家敏之 「名東遺跡」『徳島県埋蔵文化財センター年報』Vol. 4 (財)徳島県埋蔵文化財センター 1993
- (26) 前掲注(18)

## (2) 弥生土器の様相

今回の調査によって出土した弥生土器は細片が多く全体のプロポーシオンを伺うものは、わずかな数量しか認められなかったが、機種のはかるものでは、甕形土器、壺形土器、高坏形土器などがある。全体の状況からは甕形土器が量的に多く、次いで壺形土器、高坏形土器の順である。本遺跡は、遺構の出土数の割には遺物は細片が多いが、壺形土器の口縁部や頸部、甕形土器、高坏形土器の口縁部の形態と施文された文様を概観し機種分類を行ない、本遺跡の営まれた年代を追いたい。

本遺跡出土土器は完形品がほとんど認められないため、形態により壺(A~D)、甕(A・B)、高坏土器とする。

壺Aは筒状の頸部につづいて、大きく口縁部がひらく土器。口縁部は水平にひらくもの(79、133、143、234~237、239~241、243)と斜め上にひらく(144、238、242、244、247~249、251)がある。口縁端部は方形におさめるもの(79、133、240、241など)と、上下にやや肥厚ぎみのもの(143、234~239、244)、口縁端部を下方に拡張(238、243)が認められる。口縁端部には、刻目文(107、133、134、236、240~242、244)、ヘラによる斜格子文(79、237)が認められる。243は凹線文と刻目文が交互に3重施されている。口縁部内面には竹管文を3重に施すもの(233)、貼付突帯と刻目文を施すもの(236)、ヘラによる斜格子文と刻目文を施すもの(237)、貼付突帯を2条施し、その1条に刻目文を施すもの(239)、2~3条の櫛による斜格子文を施す(243)が認められる。細部の調整は土器の依存状態がよくなく不明瞭であるが、これらの土器は紫雲出遺跡<sup>(1)</sup>、矢ノ塚遺跡<sup>(2)</sup>の壺Aに相当する。

壺Bはやや開き気味に立ち上がる頸部から外反する口縁部を持つもの(134、151、250)である。口径は20cmを越える。134は口縁端部をやや上下に拡張し、口縁部内外面にはやや幅広のヨコナデ、外面にはタテヘラミガキ、内面にヨコヘラミガキが認められる。151は口縁端部をやや下方に拡張し、端部には上下に刻目文、頸部にはヘラによる列状圧痕文、簾状文、波状文を施す。内面は口縁部にやや幅広のヨコナデ、頸部より下にヨコヘラミガキを施している。

壺Cは直線的でわずかに外反する口縁部を持つもの(62、118)である。62は口縁端部を方形におさめ、口縁端部に刻目文を持つ。118は口縁端部を上下に拡張する。口縁部下には強いヨコナデによる凹みを持つ。体部中位に最大径を持つ。紫雲出遺跡壺Cに当たる。

壺Dは口縁部が内彎気味に立ち上がるもの(246)である。口縁端部を上方にやや拡張し平坦面を造り出す。口縁下には貼付突帯を2条施し、その上に刻目文を持つ。紫雲出遺跡壺B、矢ノ塚遺跡の壺Eに対応する。

甕Aは頸部から口縁部の屈曲が緩やかなもので、口縁端部は丸いもの(95、96、129、145、146、152、162、189、226、231、273、274、276、278、279、282、284、285～287)と方形を呈する(128、138、153、154、275、277、280、281、283、290、292、296、298～300)もの、271、272は逆L字状口縁を呈している。口縁端部には刻目文を施す(138、152、162、279～284)もの、口縁端部に刻目文と口縁部下に多条の櫛描直線文を施す(95、271～273、276)、口縁端部に刻目文と口縁下に多条の櫛描直線文、刺突文を施す275、口縁部に刻目文、口縁下に櫛描による波状文を施す277、278がある。また、口縁端部は、無文であるが口縁部下に多条の櫛描直線文と櫛描波状文を施す129、口縁下に多条の櫛描直線文と刺突文を施す225がある。全体の器形の明瞭なものは129、146のみであるが胴部の膨らみは明瞭に認められず、胴長である。底部は平底である。体部外面にはタテハケメカタテヘラミガキ、体部中位よりタテヘラミガキ、内面はヨコヘラミガキか、タテハケメが認められる。櫛描文の出現を持って第II様式が特徴づけられているが、口縁部直下に櫛描文が認められ、体部の形態もあまり顕著な膨らみが胴部に認められないことより正岡編年II-1様式<sup>③</sup>に当たるものと思われる。

甕Bは頸部から口縁部の屈曲が「く」の字状に外反するものである。口縁端部は方形におさめるもの(132、147、168、304、305、308、309、310)、上方に拡張するもの(72、306、307)、下方に拡張するもの(108)、上下に拡張するもの(109～115、309、311～317)がある。口縁端部を上下に拡張したものには凹線文が認められる(109～115、314～317)。体部外面には刺突文(304、305、308)、頸部には指頭圧痕文突帯をめぐらした311もある。体部外面には上位にタテハケメとタテヘラミガキ、中位以下にタテヘラミガキが認められるものがある。器形に関しては完形品は認められず全体をうかがえないが、体部の膨らみは明瞭に認められるものと思われる。これらの土器は紫雲出遺跡甕<sub>1</sub>、矢ノ塚遺跡甕<sub>1</sub>に対応する。また、凹線文A種<sup>④</sup>を持つものに関しては紫雲出遺跡甕<sub>2</sub>、矢ノ塚遺跡甕<sub>3</sub>に対応する。

高坏は体部は半球形状を呈し、口縁部は直立して立ち上がる(72、74、331)。口縁端部は拡張され平坦面が造られる。口縁端部には凹線文が2条施されている。体部内外面はタテヘラミガキが施される。紫雲出遺跡高坏A<sub>2</sub>、矢ノ塚遺跡A<sub>4</sub>-(2)に対応する。

本遺跡における遺構出土の遺物は先に述べたとおり、出土数が少なく一括資料と言い難いものも認められるが、遺構内でややまとまって遺物の出土が認められるものはS B1005、S K1063、S K1132、S K1171・1172 S K1185が上げられる。

S B1005からは口縁部上方に拡張した甕B、凹線文を持つ高坏、壺の体部が出土し、胴部の張りはかなり顕著なものと成り、体部外面には上位にタテハケメ、中位にヨコヘラミガキ、下位にタテヘラミガキを施し、底部は平底を呈している。

S K1063は甕Bが出土し口縁端部を拡張するものと、端部を拡張し凹線文を施すものが一括出土している。

S K1132は口縁端部に橢描文を施したものと端部を方形におさめた壺Aが出土している。

S K1171・1172は壺Aと甕A、S K1185から壺Cと甕Bが出土している。中期の土器は、へら描文から橢描文への変化によって第II様式の画期とし、凹線文の出現を第III様式の中葉にすえ、第IV様式に凹線文の盛行情としてとらえられている事から、これらの事について見れば、S K1132・1171・1172・1185とS B1005・S K1063の2期に分かれる。しかし、遺構内遺物が先に述べたように遺構出土数の割に一括性のあるものが少ない事から、周辺地域の資料の増加によりさらに検討を加える必要がある。本遺跡の年代であるが、前段階が正岡編年II-1様式に併行、後の段階が紫雲出山II式、正岡編年III-2様式に併行するものと考えられる。しかし、包含層出土遺物からは紫雲出山I式に併行する土器の出土が認められ、実年代としては弥生時代中期前葉（第II様式）～中期中葉（第III様式）に位置するものと思われる。

#### 注

- (1) 小林行雄・佐原真『紫雲出』1964 香川県教育委員会他
- (2) 薦田耕作他『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第三冊矢ノ塚遺跡』1987 香川県教育委員会他
- (3) 正岡睦夫「備前地域」『弥生土器の様式と編年—山陰・山陽編—』1992
- (4) 前掲(1)

## 4 自然科学的分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

### (1) 炭化材同定

#### はじめに

日吉谷遺跡（阿波郡阿波町日吉谷26-1ほか所在）は、吉野川中流域左岸の段丘上に立地する。これまでの発掘調査により旧石器時代～中世にわたる遺構や遺物が検出されている。とくに古墳時代後期（6世紀後半）の住居址が1軒検出されており、その床面上から柱材と推定された炭化材が検出されている。

今回は古墳時代後期の住居址から検出された柱材の樹種を明らかにするために材同定を実施することとした。

#### 1. 試料

試料は、古墳時代後期（6世紀後半）の住居址（SB001）から検出された炭化材3点（試料名：炭化材①～③）である。

#### 2. 方法

試料を乾燥させたのち、木口（横断面）・柃目（放射断面）・板目（接線断面）の割断面を製作し、走査型電子顕微鏡（無蒸着・反射電子検出型）で観察・同定した。

#### 3. 結果

炭化材①はモミ属の一種、炭化材②はシイ属の一種に同定された(表4)。また、炭化材③は針葉樹であることは判断できたが、保存状態が悪く、種類の同定は困難であった。モミ属とシイ属の主な解剖学的特徴や現生種の一般的性質等を以下に記す。なお、和名・学名等は「原色日本植物図鑑 木本編 <II>」（北村・村田，1971，1979）にしたがい、現生種の一般的性質等については「木の事典 第3．5巻」（平井，1981）も参考にした。

表1 日吉谷遺跡炭化材同定結果

試料名	用途	時代	樹種名
SB001 炭化材①	柱材	古墳時代後期（6世紀後半）	モミ属の一種
SB001 炭化材②	柱材	古墳時代後期（6世紀後半）	シイ属の一種
SB001 炭化材③	柱材	古墳時代後期（6世紀後半）	針葉樹

・モミ属の一種 (*Abies* sp.) マツ科

早材部から晩材部への移行は比較的緩やかで、晩材部の幅は薄く、年輪界は明瞭。樹脂細胞はないが、傷害樹脂道が認められることがある。放射仮道管はなく、放射柔細胞の壁は粗く、末端壁にはじゅず状の肥厚が認められる。分野壁孔はスギ型で1～4個。放射組織は単列、1～20細胞高。

モミ属には、モミ (*Abies firma* Sieb. et Zucc.)、ウラジロモミ (*A. homolepis* Sieb. et Zucc.) アオモリトドマツ (*A. mariesii* Masters)、シラベ (*A. veitchii* Lindley)、アカトドマツ (*A. sachalinensis* (Fr. Schmidt) Masters) の5種があり、アカトドマツを除く4種はいずれも日本特産種である。モミは本州（秋田・岩手県以南）・四国・九州の低地～山地に、ウラジロモミは本州中部（福島県以南）・紀伊半島・四国の山地～亜高山帯に、アオモリトドマツは本州（福島県以北）の亜高山～高山帯に、シラベは本州中部（福島県以南）・奈良県・四国に、アカトドマツは北海道に分布する常緑高木である。モミを除いては山地～高山・寒冷地に生育する。モミの材はやや軽軟で、強度は小さく、割裂性は大きい。加工は容易で、保存性は低い。棺や卒塔婆など葬祭具に用いられるほか、建具・器具・家具・建築材など各種の用途が知られている。

・シイ属の一種 (*Castanopsis* sp.) ブナ科

環孔材～放射孔材で孔圏部は3～4裂、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減しながら火炎状に配列する。大道管は単独、横断面では楕円形、小道管は単独および2～3個が斜（放射）方向に複合、横断面では角張った楕円形～多角形、ともに管壁厚は中庸～薄い。道管の穿孔は単穿孔で、内壁の壁孔は交互状に配列する。放射組織は同姓、単列、1～20細胞高。柔組織は周囲状、散在状および短接線状。年輪界は明瞭。

シイ属には、ツブラジイ（コジイ）(*Castanopsis cuspidata* (Thunberg) Schottky) とその変種スダジイ (*C. cuspidata* var. *sieboldii* (Makino) Nakai) がある。この内、典型的なツブラジイは集合～複合放射組織が存在することで分けられる。しかし、ツブラジイの

中にも集合～複合放射組織の出現頻度が少なく、作成した切片に観察できないときがある。したがって、集合～複合放射組織が確認できればツブラジイと同定できるが、確認できないからスダジイであるとはいえない。

シイ属は、カシ類とともに、暖温帯常緑広葉樹林の主要構成種である。ツブラジイは本州（伊豆半島以南）・四国・九州に、スダジイは本州（福島・新潟県以南）・四国・九州・琉球に分布し、また植栽される高木である。一般には、スダジイが沿海地、ツブラジイが内陸地に生育する。材はやや重硬で、割裂性は大きく、加工はやや容易、耐朽性は中程度～低い。材質的にはツブラジイはスダジイより劣るものとされている。薪炭材としての用途が最も多く、器具・家具・建築材などにも用いられる。種子は食用となり、樹皮はタンニン原料となる。

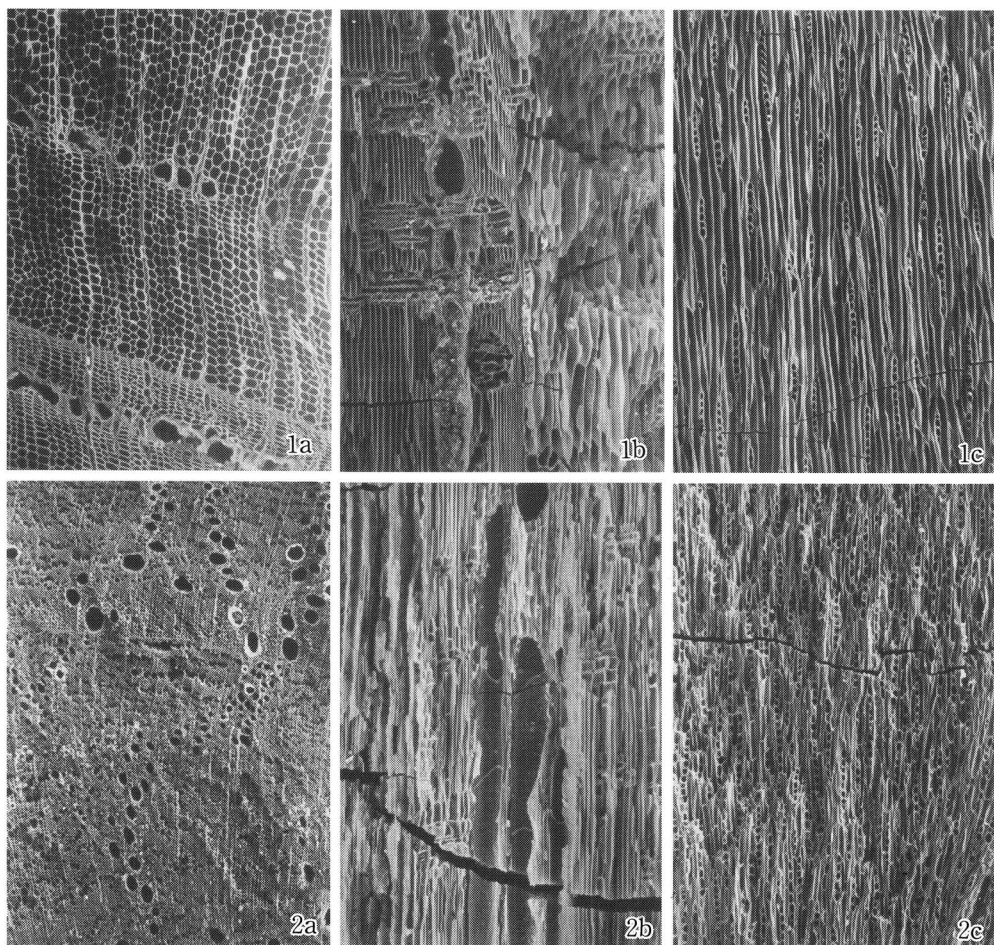
#### 4. 古墳時代後期の建築材

今回検出された炭化材3点は、モミ属・シイ属・針葉樹が各1点であった。これらのうち、モミ属とシイ属では、材質が大きく異なる。住居の柱材に使用する材は、強度がより高いものが適していると思われる。また、できるだけ同じ樹種を使用した方が強度のバランスも良いと考えられる。同定された樹種のうち、シイ属は強度も高く柱材として使用された可能性がある。モミ属については、柱材として使用される例もあるが、強度のバランス等を考えると、シイ属と同じ用途に用いられたとは断定できない。

今回の試料は、住居壁面近くより検出され、全てが柱材と推定されているが、壁面近くという位置から考えると柱材以外の部材（例えば垂木等）も含まれている可能性がある。特に住居の垂木に使用する木材は、それに適した大きさ（長さ・形状・径等）を有しているものであれば、柱ほどの強度は要求されなかった可能性がある。これらのことを考慮すると、今回の結果は部材により使用する木材の種類が異なっていた可能性もある。しかし、試料数が少ないことから現時点では断定できない。

徳島県をはじめ、四国地方では住居構築材などに関する材同定の報告例は少なく、現時点では資料がほとんど無い。したがって、今後さらに調査事例の蓄積することにより、住居建築材の用材選択に関する検討が可能となるだろう。今回の分析結果は、資料蓄積の第一段階と言える。

図版1 日吉谷遺跡 炭化材



1. モミ属の一種 (炭化材①)  
 2. シイ属の一種 (炭化材②)  
 a: 木口, b: 柁目, c: 板目

200 $\mu$ m : 2a  
 200 $\mu$ m : 1a-c, 2b-c



第3表 遺構一覽表

遺構名	出土地点	規模 (cm)			出土遺物	時期	備考	挿図番号
		長軸	短軸	深さ				
S B1001	A区 I・J-9・10	430	410	20	弥生土器, 土師器, 須恵器, 石鏃, 土師質土器, 石錐, 台石, 打製石庖丁	古代		223・224
S B1002	B区 L・M-13・14	525	315	15	弥生土器, 土師質土器, 瓦質土器, チャート片, 紡錘車, サヌカイト片, 結晶片岩片, 石英片, 楔形石器, 石鏃, 磨製石斧, 砥石, 打製石包丁, 磨製石庖丁	弥生中期		24
S B1004	C区 G-15	340	115	14	弥生土器, 土師器, サヌカイト片, 結晶片岩片, 石鏃, 土師質土器	弥生中期		27
S B1005	E区 M・N-10・11	450	275	8	弥生土器, サヌカイト片, 結晶片岩片, 炭化米	弥生中期		28

遺構名	出土地点	規模				棟方向	出土遺物	時期	挿図番号
		間数	梁間(m)	桁行(m)	面積(m <sup>2</sup> )				
S A1001	A区 F・E-9・10	1×3	2.14	6.72	14.38	N-30°-E	弥生土器	弥生	30
S A1002	D区 K・L-19・20	1×2	2.28	2.96	6.75	N-38°-W	弥生土器	弥生	32
S A1003	D区 J・K-20	1×(2)	(1.52)	(2.56)	(3.89)	N-3°-E	弥生土器	弥生	33
S A1004	E区 L-10	1×2	1.36	1.68	2.28	N-28°-E	弥生土器・砥石	弥生	34
S A1005	E区 L・M-7	1×2	1.40	3.24	4.54	N-20°-W	弥生土器	弥生	36
S A1006	E区 J-10・11	1×(2)	(2.4)	(2.12)	(5.08)	N-5°-E	弥生土器	弥生	37
S A1007	E区 M・N-9・10	1×2	2.08	3.12	6.49	N-5°-E	弥生土器	弥生	38
S A1008	E区 N・O-11・12	1×(3)	(2.08)	(1.6)	(3.32)	N-5°-E	弥生土器	弥生	39
S A1009	E区 J-10・11	1×3	1.52	3.56	5.41	N-80°-E	弥生土器	弥生	40
S A1010	E区 L-8	1×2	2.12	3.44	7.29	N-88°-E	弥生土器・石斧	弥生	41
S A1011	E区 N-10・11	1×(4)	(1.92)	(2.2)	(4.22)	N-67°-W	弥生土器	弥生	42
S A1012	E区 J-10・11	1×(2)	(1.44)	(1.84)	(2.65)	N-5°-W	弥生土器	弥生	43
S A1013	E区 M・N-9・10	1×2	1.80	4.68	8.42	N-20°-W	弥生土器	弥生	44
S A1014	E区 J・K-10・11	1×(2)	(2.24)	(4.12)	(4.61)	N-S	弥生土器	弥生	45
S A1015	F区 P・Q-18	1×4	2.84	3.68	10.45	N-1°-W	弥生土器	弥生	46
S A1016	F区 Q・R-15・16	1×3	2.12	2.92	6.19	N-5°-W	弥生土器, 打製石庖丁, 石鏃, 叩石	弥生	47
S A1017	F区 P・Q-16・17	1×2	3.64	6.16	22.42	N-1°-W	弥生土器	弥生	49
S A1018	F区 P-17	1×2	1.64	3.44	5.64	N-4°-W	弥生土器	弥生	50
S A1019	F区 Q-15	1×2	1.84	2.96	5.45	N-13°-W	弥生土器	弥生	51
S A1020	F区 Q・R-17・18	1×4	2.16	4.00	8.64	N-4°-E	弥生土器	弥生	52
S A1021	F区 P・Q-15	1×3	2.32	3.64	8.44	N-4°-E	弥生土器, 打製石庖丁, 結晶片岩片	弥生	54
S A1022	F区 P・Q-17・18	1×3	3.40	4.28	14.55	N-5°-E	弥生土器	弥生	56
S A1023	F区 P-17	1×3	1.76	4.08	7.18	N-83°-E	弥生土器	弥生	57
S A1024	F区 Q-18	1×3	1.40	2.76	3.86	N-66°-E	弥生土器	弥生	58
S A1025	F区 Q-16	1×3	1.52	3.88	5.89	N-65°-E	弥生土器	弥生	59
S A1026	F区 P・Q-14	1×2	2.52	2.96	7.46	N-82°-W	弥生土器	弥生	60
S A1027	F区 P・Q-14・15	2×3	3.52	4.08	14.36	N-43°-W	弥生土器	弥生	61
S A1028	F区 P-17・18	1×3	1.76	4.12	7.25	N-87°-W	弥生土器	弥生	62
S A1029	G区 M・N-19	1×3	2.04	4.12	8.40	N-15°-W	弥生土器, 土師質土器, 叩石, サヌカイト片	弥生	64

( ) は残存値

遺構名	出土地点	規模				棟方向	出土遺物	時期	押図番号
		間数	梁間(m)	桁行(m)	面積(m <sup>2</sup> )				
SA1030	I区 T-18・19	1×3	1.72	4.6	7.91	N-88°-E	弥生土器	弥生	66
SA1031	I区 T-18	1×(2)	(1.92)	(1.76)	(3.38)	N-53°-W	弥生土器	弥生	67
SA1032	I区 T-19	1×2	1.80	3.56	6.40	N-15°-E	弥生土器	弥生	68
SA1033	I区 T-19	(2)×(3)	(3.84)	(2.6)	(9.98)	N-18°-E	弥生土器, サヌカイト片	弥生	69
SA1034	A区 E・F-9・10	2×3	3.88	6.88	26.69	N-86°-E	土師質土器, 瓦質土器	中世	236
SA1035	B区 J-15・16	1×(1)	(2.56)	(1.36)	(3.48)	N-S	土師質土器	中世	240
SA1036	D区 I・J-19・20	(2)×(3)	(4.16)	(2.84)	(11.81)	N-4°-E	土師質土器	中世	241
SA1037	G区 M・N-20・21	1×2	2.48	4.20	10.41	N-10°-W	土師質土器, 瓦質土器	中世	242
SA1038	G区 M・N-19・20	2×2	2.56	4.56	11.67	N-86°-E	土師質土器	中世	243
SA1039	G区 L・M-20・21	1×2	1.96	3.08	6.03	N-83°-E	土師質土器	中世	245
SA1040	G区 L・M-20・21	1×2	2.44	5.24	12.79	N-53°-E	土師質土器	中世	247

( ) は残存値

遺構名	出土地点	規模 (cm)			出土遺物	時期	備考	押図番号
		長軸	短軸	深さ				
SK1001	A区 I-11	95	85	32	弥生土器, 須恵器, 土師質土器, 結晶片岩片, チャート石, 打製石庖丁	弥生中期		70
SK1002	A区 H-10	70	40	20		弥生		
SK1003	A区 H-10	133	77	24	弥生土器, 土師質土器	弥生		
SK1004	A区 H-10	135	88	16	弥生土器	弥生中期		72
SK1005	A区 G-10	360	115	28	弥生土器	弥生		74
SK1006	A区 G-11	100	65	15	弥生土器, 土師質土器	中世		
SK1007	A区 G-12	70	65	18	弥生土器, 瓦質土器	弥生		
SK1008	A区 G-12	100	90	10	弥生土器	弥生		
SK1009	A区 G・H-11	133	72	13	弥生土器	弥生中期		
SK1010	A区 H-11	55	45	13	弥生土器	弥生		
SK1011	A区 H-11	105	85	12	弥生土器	弥生		
SK1012	A区 H-11	100	95	15	弥生土器	弥生		
SK1013	A区 I-11	122	78	30	弥生土器, 結晶片岩片	弥生中期		
SK1014	A区 I-10	70	70	5		不明		
SK1015	A区 E-10	90	87	23	弥生土器, 土師器, 結晶片岩片	弥生中期		
SK1016	A区 D-10	145	55	10	弥生土器, 土師質土器, 瓦質土器, 結晶片岩片	中世		
SK1017	A区 D-10・11	133	80	17	弥生土器, 瓦質土器	中世		
SK1018	A区 D-11	95	50	12	弥生土器, 土師器, 結晶片岩片	中世		
SK1019	A区 D-11	130	80	32	弥生土器, 土師質土器	中世		
SK1020	A区 E-11	95	35	12	弥生土器, 土師質土器	中世		254
SK1021	A区 F-11	105	40	24	弥生土器	弥生		
SK1022	A区 F-11	220	140	10	弥生土器, 結晶片岩片, 土師質土器, サヌカイト片	弥生中期		76
SK1023	A区 F-11	65	25	23	弥生土器, 結晶片岩片	弥生		
SK1024	A区 E-11	80	50	16	弥生土器	弥生		
SK1025	A区 F-12	130	90	12	弥生土器, 土師質土器	中世		

( ) は残存値

遺構名	出土地点	規模 (cm)			出土遺物	時期	備考	挿図 番号
		長軸	短軸	深さ				
SK1026	A区 E-12	95	43	12	弥生土器	弥生		
SK1027	A区 F-12	130	80	15	弥生土器, 土師質土器, 瓦質土器, 不明陶器	中世		
SK1028	A区 E-13	95	95	12	弥生土器, 土師質土器, サヌカイト片	中世		
SK1029	A区 H-12	85	75	22	弥生土器, 石英片	弥生		
SK1030	A区 H-11	130	70	10	弥生土器, 結晶片岩片	弥生中期		
SK1031	A区 H-12	120	95	10	弥生土器, 結晶片岩片	弥生中期		78
SK1032	A区 G-12	105	45	12	弥生土器	弥生中期		80
SK1033	A区 J-9	150	70	24	弥生土器, 土師質土器	弥生中期		
SK1034	A区 G-12	50	40	12	弥生土器, サヌカイト片	弥生中期		
SK1035	B区 L・M-14	205	110	16	弥生土器, サヌカイト片, 結晶片岩片, 長石片	弥生中期		
SK1036	B区 N-15	130	35	15	弥生土器, 土師質土器, サヌカイト片, 結晶片岩片, 弥生不明石器	弥生中期		82
SK1037	B区 M-15	110	90	14	弥生土器	弥生中期		
SK1038	B区 L-14・15	73	50	37	弥生土器, 結晶片岩片	弥生中期		
SK1039	B区 L-15	48	40	66	弥生土器	弥生中期		
SK1040	B区 J・K-14	95	65	8		不明		
SK1041	B区 L-15	55	50	15	弥生土器	弥生		
SK1042	B区 L-15	50	50	48	弥生土器, 結晶片岩片	弥生中期		
SK1043	B区 L・K-15・16	130	65	16	弥生土器	弥生中期		
SK1044	B区 L-15	120	50	14		弥生		
SK1045	B区 L-15・16	73	70	40	弥生土器, サヌカイト片, 結晶片岩片	弥生中期		
SK1046	B区 M-16	110	100	16	弥生土器, サヌカイト片	弥生		84
SK1047	B区 M-16	125	125	9	弥生土器	弥生中期		85
SK1048	B区 M-16・17	70	70	10	弥生土器	弥生		
SK1049	B区 M-17	90	85	10		不明		
SK1050	B区 M-17	150	80	8	弥生土器	弥生中期		
SK1051	B区 M-17	150	130	8	弥生土器, 結晶片岩片	弥生		
SK1052	B区 L-17	200	120	10	弥生土器, サヌカイト片, チャート片, 結晶片岩片, 弥生不明石器	弥生中期		87
SK1053	B区 L-17	73	45	11		不明		
SK1054	B区 K-17	90	40	16	弥生土器, 結晶片岩片	弥生		90
SK1055	B区 K・L-16	170	135	18	弥生土器, 結晶片岩片, 弥生石器 (その他)	弥生中期		92
SK1056	B区 K-15・16, L-16	200	50	11	弥生土器, サヌカイト片	弥生中期		
SK1057	B区 K-16	125	65	9	弥生土器, 結晶片岩片, 石鏃	弥生		93
SK1058	B区 K-15	65	60	12	弥生土器, サヌカイト片, 結晶片岩片	弥生		
SK1059	B区 J・K-15	80	35	14	弥生土器	弥生中期		
SK1060	B区 J-15	110	95	14	弥生土器, 土師質土器	中世		
SK1061	B区 J-15	110	90	12		不明		
SK1062	B区 J-15・16	155	135	12	弥生土器, 土師質土器	中世		
SK1063	B区 J・K-16	190	165	56	弥生土器, サヌカイト片, 砂岩片, 結晶片岩片, 石英片, 剥片石器, 旧石器 (不明), 石鏃, 砥石, 小型円柱状石斧	弥生中期		95

( ) は残存値

遺構名	出土地点	規模 (cm)			出土遺物	時期	備考	挿図 番号
		長軸	短軸	深さ				
SK1064	B区 K-17	55	40	12	弥生土器	弥生中期		
SK1065	B区 K-17	80	40	8	弥生土器, サヌカイト片	弥生中期		
SK1066	B区 J-16	105	60	6	弥生土器, 土師質土器, サヌカイト片	中世		
SK1067	B区 J-16	65	60	26	弥生土器	弥生中期		
SK1068	B区 J-16	95	75	10	縄文土器, 弥生土器, 結晶片岩片	弥生		
SK1069	B区 J-16・17	175	70	28	弥生土器, サヌカイト片, 結晶片岩片	弥生中期		97
SK1070	B区 J-16, I-17	340	80	12	弥生土器, 土師質土器	弥生		
SK1071	B区 I・J-16	160	45	19	弥生土器, 土師質土器, サヌカイト片	中世		
SK1072	B区 J-16	95	40	13	弥生土器, 土師質土器, 瓦質土器	中世		
SK1073	B区 I・J-16	125	40	15	弥生土器, 須恵器, 土師質土器, 瓦質土器	中世		
SK1074	B区 I-16	200	48	20	弥生土器, 土師質土器, 瓦質土器, 結晶片岩片	弥生		
SK1075	B区 I-15・16	170	40	10	弥生土器, 土師質土器, 瓦質土器, 結晶片岩片, 小型円柱状石斧	弥生		99
SK1076	B区 I-16	100	50	20	弥生土器, 土師質土器	中世		
SK1077	B区 I-15	145	120	52	弥生土器, サヌカイト片, 結晶片岩片	弥生		
SK1078	B区 J-17	180	75	42	弥生土器	弥生		
SK1079	B区 J・K-15・16	65	30	20	弥生土器	弥生		
SK1080	B区 J-16	45	35	9	土師質土器	中世		256
SK1081	B区 J-16	50	45	15	弥生土器, 土師質土器	弥生		
SK1082	B区 H-15	95	55	20	弥生土器	弥生		
SK1083	B区 H-14	100	55	20	弥生土器, 土師質土器, サヌカイト片, 結晶片岩片, チャート片	弥生		
SK1084	B区 J-13	85	43	10	弥生土器	弥生		
SK1085	C区 G-16	78	45	18	弥生土器, 土師質土器, 瓦質土器	中世		
SK1086	C区 G-16	60	43	17	弥生土器, サヌカイト片, 石鏃	弥生		101
SK1087	C区 G-16	55	40	28	弥生土器, 土師質土器	弥生		
SK1088	C区 G-16	45	40	10	弥生土器, 須恵器, 土師質土器, 結晶片岩片	中世		
SK1089	C区 G-16	60	31	19	弥生土器, 土師質土器, サヌカイト片	中世		
SK1090	A区 D-11	88	63	5	弥生土器, 土師質土器	中世		
SK1091	A区 D-11	120	75	5		不明		
SK1092	A区 D-11	80	50	19	弥生土器, サヌカイト片	弥生		
SK1093	A区 D-11	63	58	11	土師質土器, 銅釘	中世		257
SK1094	A区 D-11	55	55	6		不明		
SK1095	E区 L-7	135	100	10	弥生土器, 土師質土器	弥生		
SK1096	E区 L・K-8	125	90	20	土師質土器	中世		258
SK1097	E区 M-7・8	70	65	15		不明		
SK1098	E区 M-8	70	35	15		不明		
SK1099	E区 M-8	110	105	16	土師質土器, 瓦質土器, 結晶片岩片	中世		259
SK1100	E区 M-9	80	60	14		不明		
SK1101	E区 M-9	70	40	24	弥生土器, 土師質土器	弥生		
SK1102	E区 M・L-8	70	60	11	弥生土器, 土師質土器, 瓦質土器	中世		

( ) は残存値

遺構名	出土地点	規模 (cm)			出土遺物	時期	備考	挿図 番号
		長軸	短軸	深さ				
SK1103	E区 L-8	75	75	18		不明		
SK1104	E区 L-8	65	30	6		不明		
SK1105	E区 L-8	125	50	10		不明		
SK1106	E区 K・L-8	60	40	2		不明		
SK1107	E区 K-8	120	55	5	弥生土器, 土師質土器, 瓦質土器	中世		
SK1108	E区 K-8	100	40	12		不明		
SK1109	E区 N-9	150	65	70	土師器	古代		227
SK1110	E区 N-9	100	70	24	土師質土器, サヌカイト片	中世		260
SK1111	E区 M-10	115	70	11	弥生土器, 土師質土器, サヌカイト片, 結晶片岩片	弥生		
SK1112	E区 M・L-10	195	95	12	弥生土器, 土師質土器, サヌカイト片, 結晶片岩片, チャート片, 石英片, スクレイバー, 石鏃, 磨製石斧, 打製石砲丁, 小型円柱状石斧	弥生中期		103
SK1113	E区 M-10	125	55	28	弥生土器, 楔形石器	弥生中期		
SK1114	欠番	ビットに変更						
SK1115	E区 L-9・10	95	60	22	弥生土器, サヌカイト片, 石英片	弥生中期		
SK1116	E区 L-9・10	55	40	14		不明		
SK1117	E区 L-10	90	70	24	弥生土器	弥生		
SK1118	E区 K-10	70	45	8		不明		
SK1119	E区 K-10	100	50	12		不明		
SK1120	E区 K-10	90	85	8	土師器, サヌカイト片	古代		229
SK1121	E区 K-10	150	60	21		不明		
SK1122	E区 K-10	130	75	17		不明		
SK1123	E区 J・K-10	100	80	18		不明		
SK1124	E区 J-10	95	70	18		不明		
SK1125	E区 J-10	100	95	21		不明		
SK1126	E区 J-10	55	35	3		不明		
SK1127	E区 J-10	70	35	10	土師器	古代		230
SK1128	E区 J-10	70	40	20		不明		
SK1129	E区 N-11	90	60	24	弥生土器, 結晶片岩片	弥生中期		
SK1130	E区 J-10	125	75	—	弥生土器, 砥石	弥生		108
SK1131	E区 N-11	130	85	14	弥生土器	弥生		
SK1132	E区 N-11	180	75	12	弥生土器, 石英片	弥生中期		110
SK1133	E区 O-11	90	55	44	弥生土器	弥生中期		
SK1134	E区 K-11	100	60	—		不明		
SK1135	E区 J-9	50	20	23	土師器	古代		231
SK1136	I区 U-20	80	40	16		不明		
SK1137	I区 U-19・20	100	60	20	弥生土器	弥生		
SK1138	I区 U-19	75	40	14	弥生土器, 土師質土器	中世		
SK1139	I区 U-19	70	55	20	土師器	古代		232
SK1140	I区 U-19	(45)	60	8	弥生土器	弥生		
SK1141	I区 U-19	(150)	135	20	弥生土器, 土師質土器, 瓦質土器, サヌカイト片, 石器(その他)	弥生		112

( ) は残存値

遺構名	出土地点	規模 (cm)			出土遺物	時期	備考	挿図番号
		長軸	短軸	深さ				
SK1142	I区 T-19	170	70	26	弥生土器, 石英片	弥生		
SK1143	I区 T-19	110	60	23		弥生		
SK1144	I区 T-19	135	95	28 (75)	弥生土器	弥生		
SK1145	I区 T-18	70	60	24	弥生土器	弥生		114
SK1146	I区 T-18	100	80	18	弥生土器, 土師質土器	中世		
SK1147	I区 T・S-17・18	(40)	65	18		不明		
SK1148	I区 S-19	60	55	28 (64)	弥生土器, 結晶片岩片	弥生中期		116
SK1149	F区 F区・I区間の畦除去後	140	—	10	土師器, サヌカイト片	古代		
SK1150	F区 S-17	120	75	12		不明		
SK1151	F区 S-17	90	60	12	弥生土器, 土師器, 須恵器	古代		
SK1152	F区 R-17・18	120	120	22	弥生土器, サヌカイト片	弥生		118
SK1153	F区 R-18	115	95	15	弥生土器, サヌカイト片, 楔形石器	弥生		120
SK1154	F区 S・R-18	180	75	21	弥生土器, サヌカイト片	弥生		
SK1155	F区 S-18	110	80	20		不明		
SK1156	F区 F-18	90	65	24	弥生土器	弥生中期		
SK1157	F区 F-16	80	45	10		不明		
SK1158	F区 F-16	90	65	30	弥生土器, サヌカイト片, 剥片石器 (その他)	弥生		122
SK1159	F区 Q-14	—	—	14		不明		
SK1160	F区 Q-14	145	70	18		不明		
SK1161	F区 P・Q-15	90	50	12		不明		
SK1162	F区 Q-16	110	50	22	弥生土器, 結晶片岩片, 打製石砲丁	弥生		
SK1163	F区 Q-17	105	(60)	16	弥生土器, 須恵器, 紡錘車, サヌカイト片, 結晶片岩片, 石鏃, 石ノミ	弥生		124
SK1164	F区 Q-17	85	80	28	弥生土器	弥生中期		
SK1165	F区 Q-17	(105)	78	46	弥生土器, サヌカイト片	弥生		
SK1166	F区 Q-17	80	50	20		不明		
SK1167	F区 Q-17	(50)	45	18	弥生土器	弥生		
SK1168	F区 Q-17	128	60	10		不明		
SK1169	F区 Q-17	118	55	20	弥生土器	弥生		126
SK1170	F区 Q-17	75	50	24	弥生土器	弥生中期		
SK1171	F区 Q-17・18	140	50	5	弥生土器, サヌカイト片, 結晶片岩片, 砂岩片, 石槍	弥生		128
SK1172	F区 Q-17・18	140	50	8	弥生土器	弥生		128
SK1173	F区 Q-17	100	45	25	弥生土器	弥生		130
SK1174	F区 P・Q-17	75	70	16		不明		
SK1175	F区 Q-17・18	90	70	18	弥生土器	弥生		
SK1176	F区 Q-18	70	40	10		不明		
SK1177	F区 Q-18	75	65	24	弥生土器	弥生中期		
SK1178	F区 P-15	95	50	13	弥生土器	弥生		
SK1179	F区 P-15・16	(50)	45	13		不明		

( ) は残存値

遺構名	出土地点	規模 (cm)			出土遺物	時期	備考	挿図番号
		長軸	短軸	深さ				
SK1180	F区 P-16	100	35	24		不明		
SK1181	F区 P-16	90	55	18		不明		
SK1182	F区 P・Q-16	60	45	19		不明		
SK1183	F区 P-16・17, Q-17	100	60	23	弥生土器, 剥片石器 (その他)	弥生		
SK1184	F区 P-17	100	75	26	弥生土器	弥生		
SK1185	F区 P-17	85	80	32 (48)	弥生土器	弥生中期		132
SK1186	F区 N・O-16	85	60	12		不明		
SK1187	F区 O-18	95	60	10	弥生土器, サヌカイト片	弥生		
SK1188	F区 N-17	100	70	12		不明		
SK1189	G区 Q-19	180	60	16	弥生土器, 土師質土器, 結晶片岩片	中世		261
SK1190	G区 Q-20	110	30	30	弥生土器, 土師質土器	中世		
SK1191	F区 P-19	115	70	10	弥生土器, 土師器, サヌカイト片, 結晶片岩片	古代		
SK1192	G区 P・Q-19	210	90	10	弥生土器, 土師質土器, サヌカイト片, 石鏃	弥生		134
SK1193	G区 P-21	100	85	8	弥生土器, 土師器, 土師質土器, 瓦質土器, 生産遺物(不明)	中世		
SK1194	G区 P・Q-22	100	75	12	弥生土器, 土師質土器, サヌカイト片	中世		
SK1195	G区 O-19・20	165	55	20	弥生土器, 土師質土器, サヌカイト片, 砂岩片, 楔形石器	弥生		136
SK1196	G区 N-20	135	30	8	弥生土器, 土師質土器, 石鏃	弥生		138
SK1197	G区 N-21	105	55	10	土師質土器	中世		263
SK1198	G区 M・N-21・22	125	75	10	弥生土器, 土師質土器, 須恵質土器	中世		
SK1199	G区 M・N-21	150	50	12	弥生土器	弥生		
SK1200	G区 N-18	70	40	12	弥生土器	弥生		
SK1202	G区 L-20	210	120	12	弥生土器, 土師質土器, サヌカイト片, 結晶片岩片	中世		264
SK1203	G区 M-21	100	45	20	弥生土器, 瓦質土器	中世		
SK1204	G・H区 L-21	80	60	16	土師器, 石英片	古代		233
SK1205	H区 M-22	60	60	34	弥生土器	弥生		
SK1206	H区 N-22	165	40	15	弥生土器, 土師質土器, 結晶片岩片	中世		
SK1207	H区 N-23	75	40	20		不明		
SK1208	H区 N-23	90	45	37		不明		
SK1209	H区 M-23	90	50	10		不明		
SK1210	H区 O-22・23	150	45	20	サヌカイト片	不明		
SK1211	H区 N・O-23	105	45	34		不明		
SK1212	H区 O-23	180	80	62	結晶片岩片	不明		
SK1213	H区 N-23・24	140	100	40		不明		
SK1214	H区 O-24	85	55	33		不明		
SK1215	D区 J-17・18	120	70	18	弥生土器, 土師質土器, 打製石庖丁	弥生		140
SK1216	D区 I・J-19	90	40	12		不明		
SK1217	D区 K-20	95	45	12	弥生土器, 土師質土器	中世		
SK1218	D区 K-21	95	30	14		不明		

( ) は残存値

遺構名	出土地点	規模 (cm)			出土遺物	時期	備考	挿図 番号
		長軸	短軸	深さ				
SK1219	D区 K-21	65	30	7		不明		
SK1220	D区 O・P-20	90	80	—	弥生土器, 磁器(不明), 紡錘車, サヌカイト片, 結晶片岩片	不明		

( ) は残存値

SD1011	G区 Q-21	180	40	12	弥生土器, 土師質土器, 結晶片岩片	弥生		142
SD1012	G区 Q-21	240	45	20	弥生土器, 土師質土器, 石英片	弥生		143
SD1013	G区 Q-22	190	40	10	弥生土器, 結晶片岩片	弥生		144
SD1014	G区 Q-22	215	40	20	弥生土器, 土師質土器, 須恵質土器, サヌカイト片, 結晶片岩片, 楔形石器	弥生		145

( ) は残存値

SX1001	E区 L-8	70	65	14		不明		
SX1002	E区 K-8	70	(60)	13		不明		
SX1003	E区 M-9	95	30	12		不明		
SX1004	E区 N-11	—	—	60		不明		
SX1006	F区 S-17・18, R-18	330	260	10	弥生土器, 土師質土器, 瓦質土器, サヌカイト片, 結晶片岩片	弥生		
SX1007	F区 R-18・19	260	140	22	弥生土器, 結晶片岩片, 旧石器	弥生		147
SX1008	F区 F・S-16・17	450	330	10	弥生土器, 土師器, 須恵器, 瓦質土器, 植物遺体, サヌカイト片, 結晶片岩片, 弥生石器(不明), 楔形石器, 磨製石斧	弥生		149
SX1009	F区 —	—	—	18	弥生土器	弥生		
SX1010	F区 Q-18	75	40	7		不明		
SX1011	F区 P-16	170	60	18	弥生土器, 結晶片岩片	弥生		
SX1012	F区 P-17	190	50	32	弥生土器, 土師質土器	弥生		
SX1013	F区 P-17	110	45	23	弥生土器	弥生		
SX1014	G区 Q-20	520	200	15	弥生土器, 須恵器, 土師質土器, 須恵質土器, 瓦質土器, サヌカイト片, 結晶片岩片, 管玉	不明		
SX1015	G区 P-20	(606)	(420)	(12)	弥生土器, 土師質土器, 粘土塊, サヌカイト片, 砥石	弥生		151
SX1016	G区 N-19	(450)	(390)	—	弥生土器, サヌカイト片, 結晶片岩片	弥生		153
SX1017	G区 N-20, O-20	(480)	(450)	—	弥生土器, 土師質土器, サヌカイト片, 結晶片岩片, 砂岩片, 石器剥片, 楔形石器, 石鏃, 台石, 打製石庖丁, 叩石, 擦り石, 粘土塊	弥生		153
SX1018	G区 O・P-22	635	390	25	弥生土器, サヌカイト片, 土師質土器, 瓦質土器	不明		
SX1019	H区 N-23	210	80	22		不明		
SX1020	H区 P-25	170	100	18	結晶片岩片	不明		
SX1021	G区 M-19	220	60	12	弥生土器, 土師器, 土師質土器, 粘土塊, サヌカイト片, 砂岩片, 石英片, 結晶片岩片, 砥石, スクレイバー, 打製石庖丁	弥生		155
SX1022	D区 L-20, K-19・20・21	820	250	25	弥生土器, 須恵器, 土師質土器, 須恵質土器, 瓦質土器, 磁器, サヌカイト片, 結晶片岩片, 石英片, ナイフ形石器, スクレイバー, 楔形石器, 石鏃, 石錐, 弥生石器, 金属器(不明), 植物遺体(不明)	弥生		157
SX1023	D区 J・K-17・18	175	110	10	弥生土器, 土師質土器	弥生		

( ) は残存値



遺構名	出土地点	規模 (cm)			出土遺物	時期	備考	挿図 番号
		長軸	短軸	深さ				
SX1024	D区 J-17・18	230	170	14	弥生土器, 土師質土器, 磁器, サヌカイト片, 結晶片岩片, 旧石器 (剥片), スクレイパー	弥生		160
SX1025	D区 I-17・18	130	30	10	弥生土器, 土師質土器	中世		
SX1026	D区 J-20	60	35	26	結晶片岩片	不明		
SX1027	D区 J-20	125	70	62	弥生土器, 結晶片岩片, 土師質土器, 粘土塊	中世		
SX1028	D区 K-19	90	45	10	土師質土器	中世		
SX1029	D区 K-19	160	90	12	弥生土器	弥生		
SX1030	G区 O-20	100	15	—		不明		

( ) は残存値

第4表 旧石器出土遺物観察表

番号	器種	地層 点位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備考
1	ナイフ形石器	A区 E-9 1層	6.1	3.1	1.2	19.0	サヌカイト	
2	ナイフ形石器	A区 E-9 1層	3.0	2.2	0.4	3.35	サヌカイト	
3	ナイフ形石器	A区 D-9 2層	4.2	1.8	0.5	2.60	サヌカイト	
4	ナイフ形石器	A区 E-9 1層	7.0	1.8	0.6	5.02	サヌカイト	
5	ナイフ形石器	A区 E-9 1層	3.9	1.7	0.6	2.89	サヌカイト	
6	ナイフ形石器	A区 E-9 2層	3.2	1.1	0.7	2.13	サヌカイト	
7	スクレイパー	A区 F-9 1層	4.5	3.9	1.6	35.46	サヌカイト	
8	スクレイパー	A区 E-8 2層	6.6	3.7	1.3	26.8	サヌカイト	
9	翼状剥片	A区 E-9 1層	5.9	3.1	0.6	10.35	サヌカイト	
10	翼状剥片	A区 E-9 1層	5.0	2.5	0.9	8.08	サヌカイト	
11	翼状剥片	A区 E-9 1層	4.4	2.6	0.7	8.25	サヌカイト	
12	横長剥片	A区 E-8 1層	4.2	1.8	0.9	4.53	サヌカイト	
13	翼状剥片	A区 E-8 2層	3.7	1.9	0.3	3.0	サヌカイト	
14	翼状剥片	A区 D-8 2層	3.9	2.0	0.9	5.48	サヌカイト	
15	翼状剥片	A区 E-9 2層	3.9	1.5	0.4	1.65	サヌカイト	
16	剥片	A区 E-9 2層	2.3	2.3	0.4	2.5	サヌカイト	
17	剥片	A区 E-9 1層	4.7	3.9	1.2	13.43	サヌカイト	
18	剥片	A区 E-8 2層	3.5	3.9	0.7	7.65	サヌカイト	
19	剥片	A区 E-8 2層	3.8	3.0	0.7	8.89	サヌカイト	
20	横長剥片	A区 E-9 2層	2.9	1.2	0.5	1.18	サヌカイト	
21	剥片	A区 E-9 2層	4.2	3.0	0.6	6.02	サヌカイト	
22	横長剥片	A区 F-9 1層	2.1	1.1	0.4	0.86	サヌカイト	
23	剥片	A区 E-9 1層	3.2	2.3	0.9	7.9	サヌカイト	
24	剥片	A区 E-9 2層	2.4	2.0	0.6	2.62	サヌカイト	
25	剥片	A区 E-9 2層	2.6	1.7	0.5	2.85	サヌカイト	
26	剥片	A区 E-9 1層	2.0	1.5	1.0	3.17	サヌカイト	
27	剥片	A区 E-9 2層	2.4	0.8	0.7	3.09	サヌカイト	
28	石核	A区 E-8 2層	6.6	4.0	1.6	26.37	サヌカイト	
29	石核	A区 E-9 1層	5.7	4.2	1.9	38.69	サヌカイト	
30	ナイフ形石器	A区 E-9	6.5	1.8	0.6	6.65	サヌカイト	

番号	器種	地層 点位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
31	ナイフ形石器	A区 E-9	4.5	1.9	0.6	5.29	サヌカイト	
32	ナイフ形石器	A区 E-9	2.4	1.0	0.4	1.36	サヌカイト	
33	ナイフ形石器	A区 E-9	5.0	2.2	0.7	9.2	サヌカイト	
34	ナイフ形石器	B区 N-14	3.3	1.5	0.4	3.42	サヌカイト	
35	ナイフ形石器	B区 K-16	8.9	2.2	0.9	17.49	サヌカイト	
36	ナイフ形石器	E区 N-10	4.6	1.5	1.0	5.91	サヌカイト	
37	ナイフ形石器	A区	2.8	1.7	0.4	2.45	サヌカイト	
38	ナイフ形石器	A区 E-9	2.1	2.3	0.5	1.9	サヌカイト	
39	ナイフ形石器	A区 G-9	1.9	1.3	0.4	0.70	チャート	
40	スクレイパー	A区 E-9	6.8	3.8	2.0	42.17	サヌカイト	
41	スクレイパー	A区 E-9	5.0	4.9	1.4	27.37	サヌカイト	
42	スクレイパー	A区	3.1	2.4	0.7	5.28	サヌカイト	
43	楔形石器	D区	2.7	2.5	0.5	4.06	サヌカイト	
44	楔形石器	E区 N-10	4.8	4.9	1.2	30.31	サヌカイト	
45	翼状剥片	A区 E-9	3.9	2.0	0.7	5.25	サヌカイト	
46	翼状剥片	A区 E-9	2.6	4.5	0.6	6.89	サヌカイト	
47	翼状剥片	A区 D	3.8	1.5	0.4	2.73	サヌカイト	
48	翼状剥片	A区 E-9	3.0	2.7	0.6	3.75	サヌカイト	
49	翼状剥片	A区	3.0	1.9	0.6	2.86	サヌカイト	
50	横長剥片	A区 E-9	5.1	5.3	1.4	28.62	サヌカイト	
51	横長剥片		2.1	1.9	0.6	2.20	サヌカイト	
52	横長剥片	A区	2.8	1.7	0.4	1.86	サヌカイト	
53	横長剥片	E区 O-11	2.3	2.0	0.6	2.41	サヌカイト	
54	横長剥片	A区 E-9	2.0	2.5	0.6	2.35	サヌカイト	
55	横長剥片	B区 M-17	6.2	3.3	1.6	29.81	サヌカイト	
56	横長剥片	E区	3.2	2.1	1.0	4.47	サヌカイト	
57	石核	A区	4.7	2.9	2.0	14.71	サヌカイト	
58	石核	A区 E-9	8.9	4.6	2.4	95.59	サヌカイト	

第5表 SP1798出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
59	縄文土器 深鉢	I区 SP1798	器厚 0.8	瓜形文1条施す。	体部内面部分的に指頭圧痕。	1~3mm 砂粒 石英 結晶片岩	(内)黒褐色 (外)灰黄褐色	

第6表 遺物包含層出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備考
60	石匙	B区	4.7	2.1	0.6	3.51	サヌカイト	

第7表 SB1002出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
61	弥生土器 壺	B区 炉炭だまり	体部最大径 21.0	体部中位より内湾しながら頸部へ向う。	体部外面上位6条/cmのタテハケメ。 体部外面中位ヨコヘラミガキ。	砂粒 石英	(内)黒褐色 (外)にふい橙色	
62	弥生土器 壺	B区 SK1 覆土	口径 13.5	口縁端部平坦におさめる。頸部から口縁部にかけてゆるやかに外反する。口縁端部に刻目を施す。頸部に1条の沈線。	口縁端部外面ヨコナデ。 口縁部外面より頸部外面にかけ9条/cmのタテハケメ。 口縁部内面ヨコナデ。 頸部内面タテナデ。	1~2mm 砂粒含 石英 結晶片岩	にふい赤褐色	
63	弥生土器 底部	B区 D 覆土	底径 5.5	底部はあげ底を呈する。体部へ向い直線的に立ち上がる。	体部内面ヨコナデ。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	浅黄橙色	

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備考
64	楔形石器	B区 覆土	3.6	2.9	0.8	7.15	サヌカイト	完形。 下部調整痕。
65	楔形石器	B区 覆土	2.7	1.0	0.6	1.81	サヌカイト	両側面裁断面。 下部調整痕。
66	楔形石器	B区 覆土	2.0	1.2	0.5	1.47	サヌカイト	一側面裁断面。 下部両面調整痕。
67	石砲丁	B区 覆土	(4.7)	(4.9)	(0.6)	(21.06)	結晶片岩	刃部両面研磨痕。
68	石砲丁	B区 覆土	(5.0)	(1.9)	(0.6)	(7.26)	結晶片岩 石英片岩	上部欠損。
69	砥石	B区 覆土	(25.3)	(20.0)	(8.6)	(5,150)	砂岩	側縁一部を残す。 内外面研磨痕。

( ) は残存値

第8表 S B 1005出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
70	弥生土器壺	覆土	底径 7.6 体部最大径 21.9	底部は平底を呈する。 体部中位に最大径。	頸部外面より体部中位まで5条/cmのタテハケメ。体部外面中位にヨコヘラミガキ。体部外面中位より底部までタテヘラミガキ。頸部内面より体部内面中位まで7条/cmのタテハケメ。体部内面中位より底面まで板ナテ。	1~2mm 砂粒含 石英 結晶片岩	(内)明赤褐色 (外)赤褐色	
71	弥生土器壺	覆土	底径 6.2 体部最大径 20.3	底部は平底を呈する。 体部中位に最大径。	頸部外面より体部中位まで6条/cmのタテハケメ。体部外面中位より底部タテヘラミガキ。頸部内面より体部内面中位指頸圧痕。体部内面中位より底部6条/cmのタテハケメ。	1mm以下 砂粒含 結晶片岩	(内)黄灰色 (外)橙色	
72	弥生土器甕	覆土	口径 17.9	口縁端部方形におさめ端部上方に拡張する。口縁部「く」の字状に外反する。口縁部はやや外湾しながら端部へ向う。体部はやや内湾しながら立ち上がる。	口縁部内外面ヨコナテ。体部外面7条/cmのタテハケメ。	1~2mm 砂粒多含 石英	(内)黒褐色 (外)明褐色	
73	弥生土器高杯	覆土	口径 17.0	口縁端部平坦におさめる。端部は両端に拡張する。口縁部外面2条の凹線文。	体部外面タテヘラミガキ。	石英 結晶片岩	明褐色	
74	弥生土器高杯	覆土	口径 27.4	口縁端部ややへこむ。端部両端に拡張する。口縁部やや内湾する。口縁部外面1条の凹線文。	体部内外面タテヘラミガキ。	2mm大砂粒含	にふい黄褐色	
75	弥生土器底部	覆土	底径 5.3	底部は平底を呈する。体部中位に向い直線的に立ち上がる。底部穿孔。	体部外面タテヘラミガキ。体部内面タテヘラケズリ。	1~2mm 砂粒含 石英 結晶片岩	(内)明褐色 (外)赤褐色	

第9表 S A 1001内柱穴出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
76	弥生土器底部	A区 F-10 P8 覆土	底径 5.5	底部は上げ底を呈する。底部やや拡張する。体部はやや内湾しながら立ち上がる。	内外面剥離のため不明。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	淡橙色	

第10表 S A 1004内柱穴出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備考
77	リタッチドフレイク	E区 L-10 P1 覆土	4.0	1.6	0.4	2.42	サヌカイト	下部両面に調整痕
78	砥石	E区 L-10 P2 覆土	(17.8)	(15.1)	(11.5)	(3,800)	砂岩	表面に研磨痕

( ) は残存値

第11表 S A 1016内柱穴出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
79	弥生土器 壺	F区 R-16 P 1 覆土	口径 15.4	口縁端部方形におさめる。口縁部端部に斜交子文を施す。頸部より口縁部はラップ状に広がる。	内外面剥離のため不明。	1～4mm 砂粒多含 石英 結晶片岩	橙色	
80	弥生土器 壺	F区 R-16 P 2 覆土	器厚 0.8	体部外面上から簾状文1条、波状文1条、扇形文1条。	体部内面ユビオサエのちなデ。体部外面8条/cmのタテハケメを施す。	1～3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	(内)黒色 (外)にふい橙色	
81	弥生土器 甕	F区 R-16 P 1 覆土	口径 32.9	口縁端部方形におさめ、上下に拡張する。口縁部「く」の字状に外反。体部はゆるやかに内湾しながら立ち上がる。	内外面剥離のため不明。	1mm大砂粒含 石英	(内)浅黄橙色 (外)にふい黄橙色	

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備考
82	石鏡	F区 R-15 P 5 覆土	(1.8)	(1.5)	(0.3)	(0.86)	サヌカイト	基部欠損
83	石庖丁	F区 R-16 P 2 覆土	11.6	4.3	1.0	85.80	結晶片岩	端部抉りなし
84	叩石	F区 R-15 P 6 覆土	(8.5)	(4.0)	(2.3)	(129)	結晶片岩	上部欠損。 側縁に敲打痕あり。

( ) は残存値

第12表 S A 1020内柱穴出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
85	弥生土器 甕	F区 R-17 P 8 覆土	口径 19.7	口縁端部方形におさめる。口縁部はゆるやかに外反する。口縁端部に刻目文。体部に櫛描直線文3条。	内外面剥離のため不明。	1～3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	橙色	

第13表 S A 1021内柱穴出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
86	弥生土器 底部	F区 P-14 P 6 覆土	口径 8.4 底径 5.4	底部は上げ底を呈する。体部は直線的に立ち上がる。	内外面剥離のため不明。	1～3mm 砂粒含 結晶片岩 長石	(内)黒色 (外)橙色	

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備考
87	石庖丁	F区 P-14 P 6 覆土	(5.8)	(4.1)	(0.4)	(11.19)	結晶片岩	両端欠損。

( ) は残存値

第14表 S A 1028内柱穴出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
88	弥生土器 底部	F区 P-17 P7 覆土	底径 7.2	底部は平底を呈する。体部は直線的に立ち上がる。	体部外面タテヘラミガキ。	砂粒 石英 結晶片岩	(内)橙色 (外)暗赤褐色	

第15表 S A 1029内柱穴出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備考
89	叩石	G区 M-19 P-5 覆土	14.0	7.0	4.9	550	チャート	下端部に敲打痕あり。

第16表 S K 1001出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備考
90	石砲丁	覆土	(3.8)	(4.3)	(0.8)	(17.63)	結晶片岩	一部欠損。 端部抉りあり。

( ) は残存値

第17表 S K 1004出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
91	弥生土器 底部	覆土	底径 8.6	底部は上げ底を呈する。底部やや拡張する。体部はやや内湾しながら立ち上がる。	体部外面タテヘラミガキ。体部内面ヨコナデ。	1~3mm 砂粒 石英	淡赤褐色	

第18表 S K 1005出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
92	弥生土器 底部	覆土	底径 5.2	底部は上げ底を呈する。体部は直線的に立ち上がる。	底部内面指頭圧痕。	砂粒多含 石英 結晶片岩	(内)灰褐色 (外)明赤褐色	

第19表 S K 1022出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
93	弥生土器 底部	覆土	底径 7.2	底部はやや上げ底を呈する。体部は直線的に立ち上がる。	体部外面タテヘラミガキ。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	(内)灰白色 (外)橙色	

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備考
94	叩き石	覆土	15.1	6.8	3.9	64.5	砂岩	両側縁に敲打痕あり。

第20表 S K 1031出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
95	弥生土器 甕	覆土	口径 15.1	口縁部は外方にゆるやかに屈曲する。口縁端部刻目列点文。頸部櫛描直線文1条。体部櫛描直線文3条。	口縁部内外面ヨコナデ。	1~2mm 砂粒含 石英	(内)赤褐色 (外)黒褐色	
96	弥生土器 甕	覆土	口径 34.6	口縁端部丸くおさめる。口縁部はゆるやかに外反する。	口縁部外面ヨコナデ。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	黄橙色	

第21表 S K 1032出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
97	弥生土器 壺	覆土	口径 10.9	口縁端部平坦におさめる。口縁端部内面、強いヨコナデによりヘコミを持つ。頸部に指頭圧痕突帯文。	口縁部内外面ヨコナデ。	2mm弱砂粒含 石英 結晶片岩	浅黄橙色	

第22表 S K 1036出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
98	弥生土器 底部	覆土	底径 8.4	底部は上げ底を呈する。体部は直線的に立ち上がる。	内外面刻離のため不明。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	浅黄色	

第23表 S K 1047出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
99	弥生土器 甕	覆土	口径 15.4	口縁端部上下に拡張する。口縁端部に不明瞭な凹線2条。口縁部「く」の字状に外反する。	口縁部内外面ヨコナデ。	砂粒多含 石英 結晶片岩	明赤褐色	

第24表 S K 1052出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
100	弥生土器 甕	覆土	—	体部はやや内湾しながら立ち上がる。	口縁部外面ヨコナデ。体部外面12条/cmのタテハケメ。	1~4mm 砂粒多含 石英	(内)黒褐色 (外)にふい橙 色	
101	弥生土器 鉢	覆土	口径 22.2	口縁端部方形におさめる。口縁部は外方に屈曲する。体部は内湾しながら立ち上がる。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕のちタテヘラミガキ。	1~3mm 砂粒多含 石英 結晶片岩	(内)暗褐色 (外)褐色	
102	弥生土器 底部	覆土	底径 6.4	底部は平底を呈する。体部はやや内湾しながら立ち上がる。	体部外面タテヘラミガキ。	砂粒多含 石英 結晶片岩 チャート	(内)にふい橙 色 (外)明赤褐色	
103	弥生土器 底部	覆土	底径 8.6	底部はやや上げ底を呈する。体部は直線的に立ち上がる。	体部外面タテヘラミガキ。体部内面8条/cmのタテハケメと9条/cmのヨコハケメ。底面内面指頭圧痕。	1~4mm 砂粒含 石英 結晶片岩	淡黄色	

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石	材	備考
104	石庖丁	覆土	(7.4)	(5.2)	(1.0)	(72.10)	結晶片岩		欠損 端部抉りなし。

( ) は残存値

第25表 S K 1054出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
105	弥生土器 甕	覆土	—	口縁部「く」の字状に外反か。体部は内湾しながら立ち上がる。	頸部外面に強いヨコナデ。体部外面6条/cmのタテハケメ。	1～3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	橙色	

第26表 S K 1057出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石	材	備考
106	石鏡	覆土	(2.4)	1.95	5.0	2.04	サヌカイト		先端部欠損 凹基無茎

( ) は残存値

第27表 S K 1063出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
107	弥生土器 広口壺	覆土	口径 20.0	口縁部平坦におさめる。端部上下に拡張する。端部に刻目。	口縁部内外面ヨコナデ。	1mm大砂粒含 石英	褐色	
108	弥生土器 甕	覆土	口径 22.6 体部最大径 28.1	口縁部方形におさめる。口縁部を下方へやや拡張する。口縁部「く」の字状に外反する。体部は内湾しながら立ち上がる。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上位から中位タテヘラミガキ。体部外面中位より下位7条/cmのタテハケメ。	1～3mm 砂粒含 結晶片岩	橙色	
109	弥生土器 甕	覆土	口径 14.6	口縁部平坦におさめ上下に拡張する。口縁部「く」の字状に外反する。体部は内湾しながら立ち上がる。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面タテヘラミガキ。口縁部内面に強いヨコナデによるへこみ。	1mm大砂粒含	(内)ふい褐色 (外)明褐色	
110	弥生土器 甕	覆土	口径 15.5	口縁部上下に拡張される。口縁部は「く」の字状に外反する。口縁部面に1条の不明瞭な凹線文。	内外面剥離のため不明。	石英 結晶片岩	(内)浅黄色 (外)灰白色	
111	弥生土器 甕	覆土	口径 18.2	口縁部上下に拡張する。口縁部は「く」の字状に外反する。端面に1条の凹線文。	口縁部内外面ヨコナデ。内面ケズリか?	1mm大砂粒含 石英 結晶片岩	(内)淡橙色 (外)ふい橙色	
112	弥生土器 甕	覆土	口径 19.1	口縁部内外面強いヨコナデにより、口縁部上下に拡張する。口縁部「く」の字状に外反する。端面に凹線文1条。	内外面剥離のため不明。	砂粒 石英	浅黄褐色	
113	弥生土器 甕	覆土	口径 15.6	口縁部方形におさめる。口縁部上下に拡張する。口縁部「く」の字状に外反する。端面に2条の凹線文。	内外面剥離のため不明。	1mm大砂粒含 石英	ふい橙色	
114	弥生土器 甕	覆土	口径 19.5	口縁部方形におさめる。端面を上下に拡張する。口縁部「く」の字状に外反する。端面に2条の凹線文。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面にタテヘラミガキ。	1～5mm 砂粒含 石英	(内)明赤褐色 (外)橙	
115	弥生土器 甕	覆土	口径 25.6	口縁部方形におさめ上下に拡張する。口縁部は「く」の字状に外反。端面に凹線文2条。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面にタテヘラミガキ。	1～3mm 砂粒 石英 結晶片岩	浅黄橙	



番号	器種	地点層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考
116	石鏃	覆土	1.9	1.2	0.4	0.74	サヌカイト	凹基
117	小形円柱状石斧	覆土	(2.9)	(2.3)	(0.6)	7.69	結晶片岩	上部欠損 刃部に研磨痕。

( ) は残存値

第28表 S K 1069出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量(cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
118	弥生土器壺	覆土	口径 16.8 底径 6.1 体部最大径 23.1 器高 36.0	口縁端部両端を拡張する。端面はヨコナデにより、へこみをもつ。口縁部は頸部よりやや外側に屈曲しながら直線的に口縁端部へ伸びる。底面はやや上げ底を呈する。体部最大径は胴部中位よりやや上にある。	口縁部内外面ヨコナデ。頸部外面に10条/cmのタテハケ後タテヘラミガキ。体部外面上位5条/cmのタテハケ。体部外面中位より底部にかけタテヘラミガキ。体部内面ヨコナデか？	1~2mm 砂粒含 石英	赤褐色	

第29表 S K 1075出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考
119	小形円柱状石斧	覆土	(2.7)	(2.6)	(0.7)	(8.28)	結晶片岩	片面に研磨痕。

( ) は残存値

第30表 S K 1086出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考
120	石鏃	覆土	(1.5)	(2.8)	(0.4)	(2.77)	サヌカイト	先端部欠損 平基

( ) は残存値

第31表 S K 1112出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考
121	石鏃	覆土	2.2	6.9	0.4	0.78	サヌカイト	平基有茎
122	スクレイパー	覆土	7.5	6.3	1.0	55.58	サヌカイト	片面に調整加工を施し刃部形成。
123	石砲丁	覆土	(10.0)	(6.7)	(0.5)	(38.08)	結晶片岩	両端欠損
124	小形円柱状石斧	覆土	(1.5)	(1.5)	(0.2)	(1.00)	結晶片岩	両面研磨痕
125	小形円柱状石斧	覆土	2.0	1.0	0.3	1.92	結晶片岩	両面研磨痕

( ) は残存値

第32表 S K 1113出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考
126	楔形石器	覆土	2.6	2.1	0.6	4.06	サヌカイト	両側面に裁断面。 上下両面に調整痕。

第33表 S K 1130出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考
127	砥石	覆土	(26.0)	(22.6)	(6.3)	(5,300)	砂岩	下半部欠損。 表裏両面に研磨痕。

( ) は残存値

第34表 S K 1132出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
128	弥生土器 甕	覆土	口径 18.6	口縁端部方形におさめる。口縁部は外方に屈曲する。体部はやや内湾しながら立ち上がる。	体部外面5条/cmのタテハケメ。	1～5mm 砂粒含 石英 結晶片岩	(内)にふい 橙色 (外)赤褐色	
129	弥生土器 甕	覆土	口径 13.6	口縁端部丸くおさめる。口縁部は外方に屈曲する。体部はやや内湾しながら立ち上がる。底部は平底を呈する。外面は4条単位の櫛描直線文を2条施し、下に櫛描波状文を施す。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面7条/cmのタテハケメ後あらいタテヘラミガキ。	1～5mm 砂粒含 石英 結晶片岩	浅黄色	

第35表 S K 1141出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備考
130	磨石	覆土	(8.1)	(2.3)	(1.2)	(49.42)	結晶片岩	上部欠損 下部に研磨痕

( ) は残存値

第36表 S K 1145出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
131	弥生土器 底部	覆土	口径 6.1	底部はやや上げ底を呈する。体部は直線的に立ち上がる。	体部外面タテヘラミガキ。	1～3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	(内)橙 (外)にふい橙	

第37表 S K 1148出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
132	弥生土器 甕	覆土	口径 19.6	口縁端部方形におさめる。口縁部「く」の字状に外反する。	内外面剥離のため不明。	1～3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	にふい橙色	

第38表 S K 1152出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
133	弥生土器 広口壺	覆土	口径 21.4	口縁端部方形におさめ上下端に刻目文。口縁部内面に扇形文。頸部より口縁部へ向ってゆるやかに外方に開く。	頸部外面11条/cmのタテハケメ。頸部内面4条/cmのヨコハケメ。	1～5mm 砂粒含 石英 結晶片岩	橙色	
134	弥生土器 広口壺	覆土	口径 35.2	口縁端部方形におさめ上下に拡張する。頸部より口縁部に向い外方に屈曲する。	口縁部内外面ヨコナデ。頸部外面タテナデのちタテヘラミガキ。口縁部内面から頸部内面にかけヨコナデのちナメヨコヘラミガキ。	1～5mm 砂粒含 石英	(内)褐灰色 (外)にふい赤褐色	
135	弥生土器 底部	覆土	底径 6.5	底部はやや上げ底を呈する。	内外面剥離のため不明。	1～3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	橙色	

第39表 S K 1153出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
136	弥生土器 底部	覆土	底径 11.0	底部は上げ底を呈する。	体部外面タテヘラミガキのちヨコナデ。	1～5mm 砂粒含 石英 結晶片岩	(内) ぶい褐色 (外) 明褐色	

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備考
137	楔形石器	覆土	3.0	1.5	0.7	2.76	サヌカイト	両側面に裁断面。 上下両面に調整痕。

第40表 S K 1158出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
138	弥生土器 甕	覆土	口径 20.8	口縁端部方形におさめる。口縁部外方に開く。口縁端部に刻目。	内外面剥離のため調整不明。	砂粒含 石英 結晶片岩	橙色	
139	弥生土器 底部	覆土	底径 7.3	底部は平底を呈する。体部は直線的に立ち上がる。	体部外面 5条/cmのタテハケメ。	1～4mm 砂粒含 石英 結晶片岩	暗褐色	

第41表 S K 1163出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	胎土	色調	備考
140	紡錘車	覆土	4.2	—	0.55	9.07	2～3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	(表) 明褐色 (裏) 橙色	欠損

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備考
141	石鎌	覆土	(2.7)	(1.5)	(0.6)	(1.64)	サヌカイト	基部欠損

( ) は残存値

第42表 S K 1169出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
142	弥生土器 壺	覆土	—	頸部上位より7条単位の直線文3条、刺突文1条、直線文1条を施す。	内外面剥離のため不明。	1～3mm 砂粒含 石英	灰白色	

第43表 S K 1171・1172出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
143	弥生土器 広口壺	覆土	口径 16.4	口縁端部方形におさめ端部上下に拡張する。端部上下両端に刻目文。直立する頸部からゆるやかに外反し口縁部に至る。	口縁部外面ヨコナデ。頸部外面にタテヘラミガキ。	1～2mm 砂粒含 石英	(内)明褐色 (外)にふい黄褐色	
144	弥生土器 壺	覆土	口径 18.1	口縁端部方形におさめる。口縁部は頸部よりゆるやかに外反する。	内外面剥離のため不明。	1～3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	明赤褐色	
145	弥生土器 甗	覆土	口径 15.1	口縁端部丸くおさめる。口縁部は外側に傾く。体部は内湾しながら立ち上がる。	内外面剥離のため不明。	1～3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	にふい橙色	
146	弥生土器 甗	覆土	口径 25.4 底径 6.4 体部最大径 19.1 器高 25.4	底部は平底を呈する。口縁部丸くおさめる。口縁部ゆるやかに外方に屈曲する。体部は外湾気味に立ち上がる。	体部外面タテヘラミガキ。体部内面5条/cmのナナメヨコハケメのちタテヘラミガキ。	1～3mm 砂粒含 石英	(内)にふい黄褐色 (外)明褐色	
147	弥生土器 甗	覆土	口径 35.1	口縁端部方形におさめる。口縁部「く」の字状に外反する。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面板ナデもしくはハケメ。	1～2mm 砂粒 石英	浅黄橙色	
148	弥生土器 底部	覆土	底径 9.0	底部は平底を呈する。	体部外面タテヘラミガキ。	砂粒 石英 結晶片岩	(内)褐灰色 (外)明褐灰色	

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備考
149	楔形石器	覆土	(2.2)	(3.2)	(0.4)	(3.72)	サヌカイト	一方側縁を欠損。 刃部は直線状。 下端に調整痕。

( ) は残存値

第44表 S K 1173出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
150	弥生土器 底部	覆土	底径 5.4	底部は上げ底を呈する。体部中位に向って直線的に立ち上がる。	体部外面タテヘラミガキ。体部内面タテナデ。	1～5mm 砂粒含 石英 長石	橙色	

第45表 S K 1185出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
151	弥生土器 広口壺	覆土	口径 20.8	口縁端部方形におさめる。端部を下方に拡張する。頸部より口縁部に向けて外反する。口縁端部上下両端に刻目文。頸部外面上位より列状圧痕文、籐状文、波状文を施す。	口縁部内外面ヨコナデ。頸部外面より体部外面にかけ9条/cmのタテハケメ。頸部内面4条/cmのヨコハケメ。頸部内面から体部内面にかけヨコヘラミガキ。	2mm大の砂粒含 石英 結晶片岩	黄橙色	
152	弥生土器 甕	覆土	口径 18.7	口縁端部丸くおさめる。口縁部はゆるやかに屈曲する。口縁端部には刻目文。体部は外湾気味に立ち上がる。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面タテヘラミガキ。体部内面7条/cmのタテハケメ。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩 長石	赤褐色	
153	弥生土器 甕	覆土	口径 35.5	口縁端部方形におさめる。口縁部「く」の字状に外反する。体部は内湾しながら立ち上がる。	体部外面10条/cmヨコハケメ。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	橙色	
154	弥生土器 甕	覆土	口径 26.5	口縁端部方形におさめる。口縁部「く」の字状に外反する。体部は内湾しながら立ち上がる。	口縁部内外面ヨコナデ。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	(内)オリーブ 黄色 (外)黄橙色	
155	弥生土器 底部	覆土	底径 9.1	底部は平底を呈する。体部は直線的に立ち上がる。	体部外面6条/cmタテハケメ。体部内面ヨコナデ。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	(内)にふい黄 橙色 (外)明黄褐色	

第46表 S K 1192出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備考
156	石鏃	覆土	(1.6)	(1.5)	(0.4)	(1.03)	サヌカイト	先端と基部欠損。

( ) は残存値

第47表 S K 1195出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備考
157	楔形石器	覆土	3.8	1.6	0.9	6.02	サヌカイト	両側面裁断面。 下部両面に調整痕。

第48表 S K 1196出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備考
158	石鏃	覆土	(2.5)	(1.1)	(0.3)	(0.61)	サヌカイト	基部欠損

( ) は残存値

第49表 S K 1215出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備考
159	石庖丁	覆土	7.8	3.6	1.0	34.25	結晶片岩	端部折りなし。

第50表 S D 1014出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備考
160	楔形石器	覆土	1.9	3.0	0.6	4.10	サヌカイト	一側縁に裁断面。 両面に調整痕。

第51表 S X 1007出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量・形態・技法の特徴	色調	備考
161	管玉	覆土	長さ7mm 直径2.5mm 孔径1.2mm 重量0.06g 片側穿孔か？	緑灰	

第52表 S X 1008出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
162	弥生土器 甕	覆土	口径 43.2	口縁端部方形におさめる。口縁部「く」の字状に外反する。体部は内湾しながら立ち上がる。口縁端面に刻目文。	内外面剥離のため不明。	1～5mm 砂粒含 石英 結晶片岩	橙色	
163	弥生土器 底部	覆土	底径 12.8	底部は平底を呈する。体部は直線的に立ち上がる。	体部外面クテヘラミガキ。	1～5mm 砂粒含 石英 結晶片岩	(内)にふい 色 (外)橙色	

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備考
164	楔形石器	覆土	3.1	4.1	0.6	8.59	サヌカイト	両面に調整痕。
165	楔形石器	覆土	3.5	2.4	0.8	9.64	サヌカイト	一側縁に裁断面あり。 両面に調整痕。
166	柱状片刃石斧	覆土	(4.0)	(3.9)	(1.2)	(35.85)	結晶片岩	下半分欠損。 全面に研磨痕。

( ) は残存値

第53表 S X 1015出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	胎土	色調	備考
167	紡錘車	覆土	5.1	—	0.55	20.07	1～3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	(表)暗褐色 (裏)黒褐色	

第54表 S X 1017出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
168	弥生土器 甕	覆土	口径 17.8	口縁端部方形におさめる。口縁部「く」の字状に外反する。体部は内湾しながら立ち上がる。	口縁部外面ヨコナデ。体部外面は7条/cmのクテハケメの後粗いヨコヘラミガキ。	1～3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	(内)淡橙色 (外)明赤褐色	

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備考
169	石鏃	覆土	(1.6)	(1.2)	(0.4)	(0.86)	サヌカイト	先端部欠損。 平基。
170	石鏃	覆土	2.1	1.8	0.6	2.48	サヌカイト	凹基。
171	楔形石器	覆土	2.2	1.8	0.6	3.56	サヌカイト	一側縁裁断面。 両面に調整痕。
172	石庖丁	覆土	(5.5)	(4.6)	(1.1)	(36.02)	結晶片岩	両端欠損。
173	砥石	覆土	15.8	12.6	5.3	1,350	砂岩	両面に研磨痕をもつ。

( ) は残存値

第55表 S X 1021出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備考
174	スクレイパー	覆土	4.2	3.5	0.7	11.78	サヌカイト	両面に調整痕。
175	石庖丁	覆土	(8.6)	(5.4)	(1.0)	(58.14)	結晶片岩	端部抉りなし。 一部欠損。
176	石庖丁	覆土	(5.3)	(4.7)	(0.7)	(35.10)	結晶片岩	両端欠損。

( ) は残存値

第56表 S X 1022出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
177	磁器 小壺	覆土	口径 7.8	—————	回転ナデ。身受部施釉なし。内外面施釉。外面蓮弁文か？	微砂粒含	灰白色	青磁

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備考
178	ナイフ形石器	覆土	(2.3)	1.6	0.9	(2.24)	サヌカイト	
179	石鏃	覆土	3.7	2.0	0.7	5.49	サヌカイト	凸基。
180	石鏃	覆土	(2.3)	(1.7)	(0.3)	(0.91)	サヌカイト	凹基。
181	石鏃	覆土	(1.4)	(1.7)	(0.3)	(0.91)	サヌカイト	両端部欠損。
182	石鏃	S K 2 覆土	(1.8)	(0.9)	(0.2)	(0.37)	サヌカイト	凸基。
183	石鏃	覆土	(1.6)	(0.6)	(0.3)	(0.26)	サヌカイト	先端部欠損。

( ) は残存値

第57表 S X 1024出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備考
184	剥片	覆土	3.4	2.3	1.1	9.16	サヌカイト	

第58表 S P 1029出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
185	弥生土器 底部	覆土	底径 7.8	底部は平底を呈する。体部は直線的に立ち上がる。	体部外面タテヘラミガキ。体部内面ヨコナデ。	1 ~ 3 mm 砂粒含 石英 結晶片岩	(内)灰白色 (外)にふい赤褐色	

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備考
186	円柱状石斧	A区 G-10-11 覆土	19.1	2.5	0.8	68.45	結晶片岩	完形。

( ) は残存値

第59表 S P 1031出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備考
187	叩石	A区 F-9 覆土	9.8	2.5	2.1	105.20	結晶片岩	完形。

第60表 S P 1048出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備考
188	石庖丁	A区 F-9 覆土	8.5	3.9	1.1	46.48	結晶片岩	端部抉りなし。

第61表 S P 1059出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
189	弥生土器 甕	A区 F-9 覆土	口径 17.8	口縁端部丸くおさめる。口縁部は外方に屈曲する。体部はやや内湾しながら立ち上がる。	口縁部内外面ヨコナテ。体部外面上位に8条/cmのタテハケメ、下位にタテハマミガキ。	2mm弱の砂粒含 石英 結晶片岩	橙色	

第62表 S P 1102出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
190	土師質土器 小皿	A区 D-10 覆土	口径 6.8 底径 6.2	口縁部外反し、端部わずかに尖らせる。	内外面回転ナテ。	1~3mm 砂粒含	浅黄橙色	

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備考
191	石鎌	A区 D-10 覆土	(2.0)	(1.4)	(0.4)	(0.70)	サヌカイト	基部欠損。

( ) は残存値

第63表 S P 1122出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
192	弥生土器 壺	A区 E-11 覆土	底径 7.6	底部は上げ底を呈する。体部は直線的に立ち上がる。	体部外面タテナテ。体部内面ナテ。	石英 結晶片岩	(内) 橙色 (外) 明赤褐色	

第64表 S P 1131出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
193	弥生土器	A区 F-11 覆土	—	丸底を呈する。	内外面剥離のため不明。	1mm大の砂粒含	(内) にふい褐色 (外) 暗褐色	

第65表 S P 1153出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
194	弥生土器 壺	A区 E-12 覆土	口径 13.0	口縁端部方形におさめる。口縁部は頸部よりゆるやかに外反しながら立ち上がる。口縁端部上位に刻目文を施す。	口縁部内外面にヨコナテ。	1~3mm 砂粒含 結晶片岩	橙色	

第66表 S P 1158出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備考
195	スクレイパー	A区 E-12 覆土	4.3	3.7	0.5	9.83	サヌカイト	両面調整を施す。



第67表 S P 1184出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
196	石庖丁	B区 I・J-13 覆土	(5.5)	(4.0)	(0.7)	(17.43)	結晶片岩	一部欠損。 端部挟りなし。

( ) は残存値

第68表 S P 1195出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
197	石鎌	B区 H-14 覆土	(5.5)	3.9	0.7	(20.47)	紅簾石 石英片岩	

( ) は残存値

第69表 S P 1230出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
198	石鎌	B区 J-16 覆土	3.0	2.3	0.5	3.86	サヌカイト	凸基 I。

第70表 S P 1264出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
199	石鎌	C区 G-15 覆土	2.2	1.6	0.3	1.10	サヌカイト	

第71表 S P 1383出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形 態 の 特 徴	技 法	胎 土	色 調	備 考
200	弥生土器 底部	E区 L-8 覆土	底径 6.6	底部は平底を呈する。体部は外湾しながら立ち上がる。	体部外面9条/cmのタテハケメ。体部内面タテナテ。底部内面指頭圧痕。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	橙色	

第72表 S P 1449出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形 態 の 特 徴	技 法	胎 土	色 調	備 考
201	弥生土器 底部	E区 M-9 覆土	底径 8.8	底部は平底を呈する。体部は直線的に立ち上がる。	体部外面タテヘラミガキ。体部内面6条/cmのヨコハケメ。	1~4mm 砂粒含 石英 長石	(内)橙色 (外)黄橙	

第73表 S P 1462出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形 態 の 特 徴	技 法	胎 土	色 調	備 考
202	弥生土器 底部	E区 L-9 覆土	底径 7.6	底部は上げ底を呈する。体部は直線的に立ち上がる。	体部外面タテナテ。体部内面指頭圧痕。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	(内)黒褐色 (外)橙色	

第74表 S P 1478出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	胎土	色調	備考
203	紡錘車	E区 M-10 覆土	4.2	—	0.65	15.68	1~5mm 砂粒含 石英	(表)にふい橙色 (裏)橙色	

第75表 S P 1481出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備考
204	リタッチドフレイク	E区 M-10 覆土	2.7	2.1	0.4	3.8	結晶片岩	下部に刃部形成。

第76表 S P 1482出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備考
205	石鎌	E区 M-10 覆土	2.8	1.4	0.4	1.48	サヌカイト	凸基

第77表 S P 1603出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
206	弥生土器 底部	E区 M-10 覆土	底径 6.6	底部は平底を呈する。体部は直線的に立ち上がる。	体部内面イタナデ。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	橙色	

第78表 S P 1688出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備考
207	横長剥片	E区 L・M-11 覆土	4.2	2.2	1.2	9.39	サヌカイト	

第79表 S P 1780出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
208	弥生土器 底部	I区 T-18-19 覆土	底径 6.0	底部は平底を呈する。体部はやや内湾しながら立ち上がる。	体部外面タテヘラミカキ。体部内面タテ方向のイタナデ。	砂粒 石英 結晶片岩	赤褐色	

第80表 S P 1887出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
209	弥生土器 底部	F区 R-16 覆土	底径 9.2	底部は平底を呈する。体部は直線的に立ち上がる。	体部外面タテナデ。体部内面ヨコナデ。	砂粒 石英 結晶片岩	(内)浅黄橙色 (外)にふい橙色	

第81表 S P 1890出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
210	弥生土器 底部	F区 R-17 覆土	底径 6.6	底部は平底を呈する。底部はやや拡張する。体部はやや外湾しながら立ち上がる。	内外面剥離のため不明。	1~2mm 砂粒含 石英 結晶片岩	(内)褐灰色 (外)橙色	

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	胎土	色調	備考
211	紡錘車	F区 R-17 覆土	3.8	—	0.7	15.19	1~3mm 砂粒含 石英	橙色	表面に直線文。

第82表 S P 1940出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
212	弥生土器 甕	F区 R-18 覆土	口径 17.8	口縁端部上下に拡張する。口縁部「く」の字状に外反する。端面に2条の凹線文。	口縁部内外面ヨコナデ。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	黄橙色	

第83表 S P 10123出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
213	弥生土器 壺	F区 Q-17 覆土	口径 17.4	口縁端部方形におさめる。口縁部はゆるやかに外方に屈曲する。	口縁部外面ヨコナデ。頸部内面タテハケメ。	1~3mm 砂粒含 石英	橙色	

第84表 S P 10136出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備考
214	石燈丁	F区 Q-17 覆土	10.6	3.3	0.6	31.9	結晶片岩	端部抉りなし。

第85表 S P 10484出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
215	弥生土器 壺	G区 P-19 覆土	—	体部外面より簾状文、竹管文2条を施す。	体部外面ヨコハケメ。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	明黄褐色	
216	弥生土器 甕	G区 P-19 覆土	口径 17.0	口縁端部は丸くおさめる。口縁端部はゆるやかに外方に屈曲する。	内外面剥離のため不明。	1~3mm 砂粒含 石英	橙色	

第86表 S P 10487出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	胎土	色調	備考
217	紡錘車	G区 P-19:20 覆土	3.7	—	0.55	7.97	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	(表)明黄褐色 (裏)にふい橙色	

第87表 S P 10491出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備考
218	柱状片刃石斧	G区 Q-21 覆土	(14.2)	(3.5)	(3.0)	(327)	結晶片岩	下部欠損。 全面に研磨痕。

( ) は残存値

第88表 S P 10534出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
219	石庖丁	G区 P-19 覆土	(10.5)	(5.2)	(0.8)	(69.0)	結晶片岩	一部欠損。 端部挟りなし。

( ) は残存値

第89表 S P 10573出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
220	石鎌	H区 P-23 覆土	3.4	2.2	0.6	3.35	サヌカイト	未製品。

第90表 S P 10632出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
221	石鎌	G区 N-19 覆土	2.8	1.3	0.3	0.96	サヌカイト	凸基。
222	契形石器	G区 N-19 覆土	2.7	2.1	0.6	2.89	サヌカイト	両側縁に裁断面。 下部両面に調整加工。

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎 土	色 調	備 考
223	弥生土器 底部	G区 N-19 覆土	底径 6.2	底部は平底を呈する。体部は直線的に立ち上がる。	体部外面クテヘラミガキ。体部内面クテナデ。	砂粒 石英 結晶片岩	橙色	

第91表 S P 10661出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎 土	色 調	備 考
224	弥生土器 壺	G区 N-20 覆土	口径 19.8	口縁端部方形におさめる。口縁部ゆるやかに外方へ傾く。	口縁部内面ヨコナデ。	1~3mm 砂粒含 石英	橙色	
225	弥生土器 甗	G区 N-20 覆土	口径 24.0	口縁端部方形におさめる。口縁部ゆるやかに外方に屈曲する。体部に5条の櫛歯直線文と刺突文を施す。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面5条/cmのクテハケメ。体部内面ヨコナデ。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	橙色	
226	弥生土器 甗	G区 N-20 覆土	口径 32.3	口縁端部丸くおさめる。口縁部ゆるやかに外方に屈曲する。体部は直線的に立ち上がる。	内外面剥離のため調整不明。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	橙色	

第92表 S P 10664出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
227	磨石	G区 N-20 覆土	(10.4)	(8.7)	(3.3)	(380)	砂岩	下部欠損。 両面に研磨痕。

( ) は残存値

第93表 S P 10677出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
228	石庖丁	G区 N-21 覆土	3.3	2.9	0.4	4.80	結晶片岩	両端欠損。 下部に直線状刃部形成。
229	叩石	G区 N-21 覆土	9.1	10.6	6.2	900	砂岩	完形。 両面に研磨痕。 側縁全面に敲打痕。

第94表 S P 10808出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
230	石製品	H区 P-24+25 覆土	(2.3)	(0.9)	(0.4)	(0.75)	サヌカイト	両端部欠損。

( ) は残存値

第95表 S P 10982出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形 態 の 特 徴	技 法	胎 土	色 調	備 考
231	弥生土器 甕	G区 O-20 覆土	口径 25.2	口縁端部丸くおさめる。口縁部は「く」の字状に外反する。体部は直線的に立ち上がる。	内外面剥離のため不明。	1 ~ 3 mm 砂粒含 石英 結晶片岩	橙色	

第96表 S P 10984出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量・形態・技法の特徴	色 調	備 考
232	管玉	G区 O-20 覆土	長さ1.15cm 直径0.38cm 孔径0.11cm 重さ0.24g 片側穿孔か？	暗緑灰	

第97表 遺物包含層出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
233	弥生土器 壺	F区 S-17 包含層	口径 15.2	口縁端部上部はやや拡張し、方形におさめる。口縁部内面に竹管文を施す。	内外面剥離のため不明。	1~2mm 砂粒含 石英	橙色	
234	弥生土器 壺	F区 Q-15 包含層	口径 14.6	口縁端部は上下に拡張し、方形におさめる。口縁部内面に櫛描直線文を施す。	口縁部内外面ヨコナデ。	1~2mm 砂粒含 石英	橙色	
235	弥生土器 壺	B区 M-16 包含層	口径 16.2	口縁部は外反する。口縁端部は上下に拡張する。頸部に櫛描直線文2条を施す。	内外面剥離のため不明。	1~2mm 砂粒含 石英 結晶片岩	灰白色	
236	弥生土器 壺	F区 Q-19 包含層	口径 29.9	口縁端部は上下に拡張し、方形におさめる。口縁端部に刻目文を施す。口縁部内面に貼付突帯文を施す。	内外面剥離のため不明。	1~2mm 砂粒含 石英 結晶片岩	橙色	
237	弥生土器 壺	F区 N-17 包含層	口径 17.7	口縁端部は上下に拡張し、方形におさめる。口縁端部に斜格子文と円形浮文を施す。口縁部内面に斜格子文と円孔を施す。	口縁部内外面ヨコナデ。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	赤褐色	
238	弥生土器 壺	F区 Q-17 包含層	口径 26.2	口縁端部は下方に拡張し、方形におさめる。口縁端部上位に刻目文、下位に竹管文を施す。	口縁部内外面ヨコナデ。	2mm弱の砂粒含 石英 結晶片岩	黄橙色	
239	弥生土器 壺	F区 Q-18 包含層	口径 15.4	口縁端部は上下にやや拡張し、端面上位に刻目文を施す。口縁部内面に2条の貼付突帯刻目文を施す。	内外面剥離のため不明。	1~3mm 砂粒含 石英	(内)浅黄色 (外)橙色	
240	弥生土器 壺	G区 Q-19 包含層	口径 26.6	口縁端部は方形におさめる。口縁端部上下端に刻目文を施す。	内外面剥離のため不明。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	橙色	
241	弥生土器 壺	B区 M-17 包含層	口径 13.6	口縁部は外方へのびる。口縁端部は丸くおさめる。口縁端部に刻目文を施す。	内外面剥離のため不明。	砂粒含 石英 赤色鉱物	浅黄橙色	
242	弥生土器 壺	F区 N・M 包含層	口径 15.3	口縁部はゆるやかに外反する。口縁端部は方形におさめる。口縁端部に刻目文を施す。	口縁部外面から頸部外面10条/cmのタテハケメ。頸部内面タテナデ。	1~2mm 砂粒含 石英 結晶片岩	にぶい黄橙色	
243	弥生土器 壺	A区 H-11・12 包含層	口径 24.4	口縁部はやや外反する。口縁端部は下方に拡張する。口縁端部に刻目文3条と凹線文3条を交互に施す。口縁部内面に斜格子文を施す。	内外面剥離のため不明。	1~3mm 砂粒含	にぶい橙色	
244	弥生土器 壺	F区 Q-16 包含層	口径 20.6	口縁端部は上下に拡張する。口縁端部はヨコナデによるくぼみができ、上下に刻目文を施す。	口縁部外面7条/cmのタテハケメのちヨコナデ。	1mm弱の砂粒含 石英 結晶片岩	にぶい橙色	
245	弥生土器 壺	A区 H-10 包含層	口径 23.4	口縁部は外反する。口縁端部は丸くおさめる。	口縁部外面ヨコヘラミガキ。口縁部内面ヨコナデ。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	にぶい橙色	
246	弥生土器 壺	G区 O-20 包含層	口径 14.8	口縁部はゆるやかに外方へのび、口縁端部でやや外反する。口縁端部は上方に拡張し、平坦におさめる。口縁部外面に貼付突帯を巡らし、刻目文を施す。	内外面ヨコナデ。	1~5mm 砂粒含 石英	暗褐色	

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
247	弥生土器 壺	B区 M-16 包含層	口径 17.0	口縁部はゆるやかに外反する。 口縁端部は方形におさめる。	口縁部外面ヨコナデ。頸部外面 8条/cmのタテハケメ。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	にぶい橙色	
248	弥生土器 壺	F区 N-16 包含層	口径 12.4	口縁部はゆるやかに外反する。 口縁端部は方形におさめる。	口縁部外面にヨコナデ。頸部に 9条/cmのタテハケメ。	1~2mm 砂粒含 石英	橙色	
249	弥生土器 壺	F区 N-16 包含層	口径 10.6	口縁部はゆるやかに外反する。 口縁端部は方形におさめる。頸 部外面に波状文4条を施す。	内外面剥離のため不明。	1~2mm 砂粒含 石英 結晶片岩	黄橙色	
250	弥生土器 壺	A区 F-11 包含層	口径 13.8	口縁部は屈曲して外方にのびる。 口縁端部は方形におさめる。	内外面剥離のため不明。	1~3mm 砂粒含 結晶片岩	明褐色	
251	弥生土器 壺	F区 K-11 包含層	口径 24.6	口縁部はゆるやかに外方へのび る。口縁端部は方形におさめる。	内外面剥離のため不明。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	明褐色	
252	弥生土器 壺	F区 O-16 包含層	—	体部外面に上位より6条単位の 直線文を3条、その下に、波状 文を施す。	体部外面タテハラミガキ。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	橙色	
253	弥生土器 壺	E区 K-10 包含層	—	頸部外面に上位より6条単位の 櫛描直線文、その下に2条の刺 突文を施す。	頸部外面に9条/cmのタテハケ メ。	1~3mm 砂粒含 石英	にぶい橙色	
254	弥生土器 壺	B区 H-15 包含層	—	頸部外面に直線文を7条施す。	内外面剥離のため不明。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	橙色	
255	弥生土器 壺	A区 H-10 包含層	—	口縁部はゆるやかに外反する。 頸部外面に6条単位の直線文を 施す。	内外面剥離のため不明。	1~3mm 砂粒含 石英	浅黄橙色	
256	弥生土器 壺	F区 包含層	—	頸部外面に刺突文を施す。	体部外面に7条/cmのタテハケ メ。	1~2mm 砂粒含 石英	淡橙色	
257	弥生土器 壺	B区 包含層	—	外面に上から矢羽根状沈線文、 直線文を施す。	内外面剥離のため不明。	2mm弱 砂粒含 石英 結晶片岩	浅黄橙色	
258	弥生土器 壺	B区 J-16 包含層	—	外面に上から簾状文、2条の波 状文、7条単位の直線文を施す。	内外面剥離のため不明。	1~4mm 砂粒含 石英	浅黄橙色	
259	弥生土器 壺	F区 C-17 包含層	—	外面に上から櫛描直線文、波状 文を施す。	内外面剥離のため不明。	1~2mm 砂粒含 石英	赤褐色	
260	弥生土器 壺	B区 M-16 包含層	—	外面に11条単位の櫛描直線文と 刺突文を交互に施す。	内外面剥離のため不明。	1~2mm 砂粒含 石英	橙色	
261	弥生土器 壺	A区 包含層	—	外面に5条の波状文を施す。	外面ヨコナデ。	1~2mm 砂粒含 石英	(内)黒褐色 (外)浅黄橙色	
262	弥生土器 壺	B区 M-15 包含層	—	外面に上から波状文、直線文、 波状文、刺突文を施す。	内外面剥離のため不明。	1~2mm 砂粒含	橙色	

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土色	調備考
263	弥生土器壺	A区 D-11 包含層	—	頸部に指頭圧痕文突帯を2条施す。	体部外面7条/cmのタテハケメ。	1mm大の砂粒含 石英 結晶片岩	赤褐色
264	弥生土器壺	B区 I-15 包含層	—	頸部に指頭圧痕文突帯を1条施す。	体部外面タテヘラミガキ。	1~3mm 砂粒含 石英	赤褐色
265	弥生土器底部	E区 K-10 包含層	底径 6.1	底部は平底を呈する。	体部外面8条/cmのタテハケメ。	砂粒含 石英 結晶片岩	(内)灰白色 (外)浅黄橙色
266	弥生土器底部	A区 H-10 包含層	底径 10.4	底部はやや上げ底を呈する。体部は、底部でわずかに拡張し直線的に立ち上がる。	体部外面8条/cmのタテハケメ。	1~6mm 砂粒含 石英 結晶片岩	(内)浅黄橙色 (外)橙色
267	弥生土器底部	G区 N-19 包含層	底径 9.0	底部はやや上げ底を呈する。体部はやや内湾しながら立ち上がる。	体部外面タテヘラミガキ。底部内面にユビオサエ。	1~3mm 砂粒含 結晶片岩	橙色
268	弥生土器底部	G区 Q-21 包含層	底径 9.0	底部は上げ底を呈する。	内外面剥離のため不明。	砂粒含 石英	浅黄橙色
269	弥生土器底部	B区 J-16 包含層	底径 6.0	底部は上げ底を呈する。底面に穿孔をもつ。	体部外面に指頭圧痕のちヨコナデ。	1~3mm 砂粒含 結晶片岩	黄橙色
270	弥生土器底部	F区 O-16 包含層	底径 9.2	底部はやや上げ底を呈する。体部はやや内湾しながら立ち上がる。	体部外面タテヘラミガキ。体部内面タテナデ。	2mm弱の砂粒含 石英 結晶片岩	(内)にふい黄 橙色 (外)赤褐色
271	弥生土器甕	A区 包含層	口径 24.4	口縁部は貼付突帯を施す。口縁端部に刻目文を施す。口縁部に2条の直線文を施す。	口縁部内外面ヨコナデ。	1~3mm 砂粒含 石英	(内)浅黄橙色 (外)灰白色
272	弥生土器甕	F区 Q-15 包含層	口径 25.2	口縁部に貼付突帯を施す。口縁部下に5条単位の櫛描直線文を施す。	内外面剥離のため不明。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	(内)浅黄橙色 (外)黒褐色
273	弥生土器甕	F区 N-16 包含層	口径 26.8	口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部は丸くおさめる。頸部に10条単位の直線文を2条施す。	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ユビオサエのちヨコナデ。	1mm弱の砂粒含 石英 結晶片岩	橙色
274	弥生土器甕	B区 M-16 包含層	口径 27.5	体部は直線的に立ち上がる。口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部は丸くおさめる。体部外面に10条単位の直線文を2条、その下に刺突文を1条施す。	内外面剥離のため不明。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	灰白色
275	弥生土器甕	F区 N-16 包含層	口径 18.7	体部は内湾しながら立ち上がる。口縁部は緩やかに外反。口縁端部は方形におさめ刻目文を施す。体部に6条単位の直線文2条、その下に列点文1条を施す。	口縁部外面ヨコナデ。体部外面8条/cmのタテハケメ。	1~3mm 砂粒含 石英	明黄橙色
276	弥生土器甕	B区 M-16 包含層	口径 24.7	口縁部はゆるやかに外反する。口縁端部は丸くおさめ、刻目文を施す。口縁部に直線文を施す。	体部外面タテヘラミガキ。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	にふい橙色
277	弥生土器甕	E区 L-11 包含層	口径 14.6	口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部は方形におさめ、刻目文を施す。体部に波状文を施す。	口縁部内外面ヨコナデ。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	橙色



番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土色	調備考	
278	弥生土器 甕	A区 H-10 包含層	口径 16.8	口縁部「く」の字状に外反する。口縁端部は丸くおさめ、刻目文を施す。体部外面に波状文を2条施す。	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヨコヘラミガキ。	1~2mm 砂粒含 石英 結晶片岩	橙色	
279	弥生土器 甕	E区 K-11 包含層	口径 22.4	口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部は丸くおさめ、刻目文を施す。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面8条/cmのタテハケメ。	1~2mm 砂粒含 石英	黄橙色	
280	弥生土器 甕	B区 H-15 包含層	—	口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部は方形におさめ、刻目文を施す。	口縁部外面ヨコナデ。体部外面タテハケメ。口縁部内面~体部内面にヨコヘラミガキ。	1~2mm 砂粒含 石英	浅黄橙色	
281	弥生土器 甕	B区 M-17 包含層	口径 16.6	口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部は方形におさめ、刻目文を施す。	口縁部内外面ヨコナデ。	1~2mm 砂粒含 石英	橙色	
282	弥生土器 甕	E区 M-9 包含層	口径 11.0	口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部は丸くおさめ、刻目文を施す。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面10条/cmのタテハケメ。体部内面9条/cmのヨコハケメ。	1~2mm 砂粒含 石英 結晶片岩	灰褐色	
283	弥生土器 甕	F区 N-17 包含層	口径 21.2	口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部は方形におさめ、刻目文を施す。体部は直線的に立ち上がる。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面10条/cmのタテハケメのうち中に粗いヘラミガキ。体部内面10条/cmのタテハケメ。	1~2mm 砂粒含 結晶片岩	明褐色	
284	弥生土器 甕	G区 P-19 包含層	口径 24.0	口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部は丸くおさめ刻目文を施す。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面4条/cmのタテハケメ。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	橙色	
285	弥生土器 甕	A区 I-11・12 包含層	口径 17.8	口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部は丸くおさめる。	体部外面11条/cmのタテハケメ。	1~2mm 砂粒含 石英 結晶片岩	明赤褐色	
286	弥生土器 甕	F区 P-17 包含層	口径 19.6	体部は内湾しながら立ち上がる。口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部は丸くおさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面7条/cmのタテハケメ。体部内面ヨコナデ。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	橙色	
287	弥生土器 甕	B区 M-16 包含層	口径 24.4	体部は内湾しながら立ち上がる。口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部は丸くおさめる。	口縁部外面ヨコナデ。体部外面9条/cmのタテハケメ。	1mm弱の砂粒含 石英 結晶片岩	橙色	
288	弥生土器 甕	B区 M-16 包含層	口径 24.4	口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部は丸くおさめる。体部は内湾しながら立ち上がる。	口縁部内外面ヨコナデ。頸部外面ヨコナデの指頭圧痕。体部外面6条/cmのヨコハケメ。体部内面8条/cmのヨコハケメ。	1~2mm 砂粒含 石英	灰黄橙色	
289	弥生土器 甕	B区 K-13 包含層	口径 23.5	口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部は丸くおさめる。体部は直線的に立ち上がる。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面9条/cmのタテハケメ。体部内面8条/cmのヨコハケメ。	1~3mm 砂粒含 石英	橙色	
290	弥生土器 甕	B区 M-16 包含層	口径 24.8	口縁部は「く」の字状に外反する。体部は内湾しながら立ち上がる。口縁端部丸くおさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	(内)浅黄橙色 (外)明褐色	
291	弥生時代 甕	A区 I・J-11 包含層	口径 19.6	口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部は丸くおさめる。	内外面剥離のため不明。	砂粒含 石英	にぶい黄褐色	
292	弥生土器 甕	B区 M-16 包含層	口径 17.9	体部は直線的に立ち上がる。口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部はやや方形におさめる。	内外面剥離のため不明。	1mm大の砂粒含 石英	浅黄橙色	

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
293	弥生土器 甕	B区 H-16 包含層	口径 13.8	口縁部は外反する。口縁端部は丸くおさめる。体部は内湾しながら立ち上がる。	内外面剥離のため不明。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	橙色	
294	弥生土器 甕	B区 M-16 包含層	口径 12.6	口縁部は外反する。口縁端部は丸くおさめる。	内外面剥離のため不明。	1~2mm 砂粒含 石英 結晶片岩	橙色	
295	弥生土器 甕	B区 M-16 包含層	口径 13.8	体部は直線的に立ち上がる。口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部は丸くおさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面12条/cmのタテハケメ。体部内面ヨコヘラミガキ。	1~3mm 砂粒含 石英	(内)黄褐色 (外)にふい黄褐色	
296	弥生土器 甕	E区 L-10 包含層	口径 13.9	体部はやや内湾しながら立ち上がる。口縁部はゆるやかに外反する。口縁端部は方形におさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面タテヘラミガキ。体部内面指頭圧痕。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	赤褐色	
297	弥生時代 甕	F区 N-17 包含層	口径 20.4	体部はやや内湾しながら立ち上がる。口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部は丸くおさめる。	口縁部外面ヨコナデ。体部外面タテヘラミガキ。口縁部内面ヨコナデのちヨコヘラミガキ。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	にふい褐色	
298	弥生土器 甕	E区 L-10 包含層	口径 23.3	体部は内湾しながら立ち上がる。口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部は方形におさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヨコヘラミガキ。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	黄橙色	
299	弥生土器 甕	F区 包含層	口径 23.2	体部は内湾しながら立ち上がる。口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部は方形におさめる。	内外面剥離のため不明。	砂粒含 石英 結晶片岩	橙色	
300	弥生土器 甕	F区 N-17 包含層	口径 25.2	口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部は方形におさめる。	内外面剥離のため不明。	1~2mm 砂粒含 石英 結晶片岩	浅黄褐色	
301	弥生土器 甕	B区 M・N列 包含層	口径 21.4	口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部は丸くおさめる。	内外面剥離のため不明。	1~3mm 砂粒含 石英	浅黄褐色	
302	弥生土器 甕	B区 M-16 包含層	口径 18.3	口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部は丸くおさめる。	口縁部外面ヨコナデ。	1~2mm 砂粒含 石英 結晶片岩	橙色	
303	弥生土器 甕	A区 I・J-11 包含層	口径 14.8	口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部は丸くおさめる。	体部内面に指頭圧痕。	1~2mm 砂粒含 石英	(内)にふい褐色 (外)灰褐色	
304	弥生土器 甕	F区 R-18・19 包含層	口径 16.1	体部は内湾しながら立ち上がる。口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部は方形。体部外面中位に刺突文。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面15条/cmのタテハケメ。	1~2mm 砂粒含 石英 結晶片岩	(内)黄褐色 (外)にふい黄褐色	
305	弥生土器 甕	B区 N-13・14 包含層	口径 18.2	口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部は方形におさめる。体部上位に刺突文を施す。	内外面剥離のため不明。	1mm大の砂粒含 石英	灰褐色	
306	弥生土器 甕	B区 包含層	口径 17.8	口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部は丸くおさめる。体部は内湾しながら立ち上がる。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面9条/cmのタテハケメ。体部内面ヨコヘラミガキ。	2mm弱の砂粒含 石英 結晶片岩	にふい黄褐色	
307	弥生土器 甕	E区 C-8 包含層	口径 17.0	口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部は上方に拡張し、やや方形におさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面7条/cmのタテハケメ。	2mm弱の砂粒含 石英 結晶片岩	(内)灰白色 (外)橙色	

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
308	弥生土器 甕	A区 G-11・12 包含層	口径 19.4	体部は内湾しながら立ち上がる。口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部は方形におさめる。体部外面中位に刺突文を施す。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面中位から下位にタテヘラミガキ。体部内面ナナメヘラミガキ。	1～2mm 砂粒含 石英	橙色	
309	弥生土器 甕	A区 F-11 包含層	口径 18.9	口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部は方形におさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面10条/cmのタテハケメ。体部内面ヨコヘラミガキ。	1mm大の砂粒 多含	橙色	
310	弥生土器 甕	E区 M-8 包含層	口径 25.7	口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部は方形におさめる。体部は内湾しながら立ち上がる。	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナナメヘラミガキ。	1mm大の砂粒 含 石英	にふい黄褐色	
311	弥生土器 甕	B区 J-16 包含層	口径 24.5	口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部はやや上方に拡張し、方形におさめる。頸部外面に指頭圧痕突帯文を施す。	内外面剥離のため不明。	石英 赤色鉱物の細 粒含	赤褐色	
312	弥生土器 甕	A区 H-11 包含層	口径 20.0	体部は内湾しながら立ち上がる。口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部は上下にやや拡張し、方形におさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヨコナデ。体部内面ナナメヘラミガキ。	1～2mm砂粒 含 石英 結晶片岩	橙色	
313	弥生土器 甕	F区 R-18 包含層	口径 10.5	口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部は上下に拡張し、方形におさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。	1mm大の砂粒 含 石英	(内)にふい橙 色 (外)橙色	
314	弥生土器 甕	B区 J-16 包含層	口径 14.4	口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部は上下に拡張し、方形におさめる。口縁端部に1条の凹線文を施す。	口縁部内外面ヨコナデ。	1～3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	浅黄褐色	
315	弥生土器 甕	F区 O-15 包含層	口径 15.4	体部は直線的に立ち上がる。口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部は上下に拡張し、方形におさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。	1～2mm 砂粒含 石英	明赤褐色	
316	弥生土器 甕	E区 J-10 包含層	口径 21.0	口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部は上下に拡張し、方形におさめる。口縁端部に凹線文を2条施す。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面8条/cmのナナメハケメ。	1～3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	(内)にふい橙 色 (外)橙色	
317	弥生土器 甕	G区 O-22 包含層	口径 19.9	体部は内湾しながら立ち上がる。口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部は上下に拡張し、方形におさめる。	体部外面ヨコハケメ。体部内面ヨコナデ。	砂粒含 石英 結晶片岩	(内)にふい赤 褐色 (外)赤褐色	
318	弥生土器 底部	B区 K-16 包含層	底径 6.3	底部は平底を呈する。	外面タテヘラミガキ。内面タテヘラケズリ	1mm大の砂粒 含 石英 結晶片岩	暗赤褐色	
319	弥生土器 底部	E区 J-10 包含層	底径 6.3	底部は平底を呈する。	体部外面タテヘラミガキ。体部内面タテナデ。	1～5mm 砂粒含 石英	明赤褐色	
320	弥生土器 底部	C区 包含層	底径 5.6	底部は平底を呈する。	内外面剥離のため不明。	砂粒含 石英	明赤褐色	
321	弥生土器 底部	G区 Q-20 包含層	底径 4.8	底部は平底を呈する。	体部外面7条/cmのタテハケメ。	1～3mm 砂粒含 石英 結晶片岩 長石	にふい黄褐色	
322	弥生土器 底部	E区 M-10 包含層	底径 5.6	底部は上げ底を呈する。体部は直線的に立ち上がる。	体部外面タテヘラミガキ。体部内面タテナデ。底部内外面ヨコナデ。	1～2mm 砂粒含	(内)黒褐色 (外)褐色	

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
323	弥生土器 底部	C区 包含層	底径 4.6	底部は上げ底を呈する。	内外面剥離のため不明。	1～3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	にぶい橙色	
324	弥生土器 底部	A区 H・I- 11・12 包含層	底径 5.0	底部は上げ底を呈する。体部は内湾しながら立ち上がる。	体部外面タテヘラミガキ。	1～3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	橙色	
325	弥生土器 底部	A区 包含層	底径 6.0	底部はやや上げ底を呈する。体部はやや内湾しながら立ち上がる。	体部外面タテヘラミガキ。	1～3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	橙色	
326	弥生土器 底部	F・I区 包含層	底径 6.1	底部は平底を呈する。底面に穿孔を持つ。	内外面剥離のため不明。	1～3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	橙色	
327	弥生土器 底部	E区 N-8 包含層	底径 5.8	底部は平底を呈する。底部に穿孔を持つ。	内外面剥離のため不明。	砂粒含 石英 結晶片岩	(内)淡橙色 (外)橙色	
328	弥生土器 底部	B区 I-16 包含層	底径 7.4	底部は上げ底を呈する。底部に穿孔を持つ。	内外面剥離のため不明。	1～3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	黄橙色	
329	弥生土器 底部	F区 M・N-17 包含層	底径 7.8	底部はやや上げ底を呈する。体部はやや内湾しながら立ち上がる。底面に穿孔を持つ。	内外面剥離のため不明。	2mm弱の砂粒含 石英 結晶片岩	にぶい橙色	
330	弥生土器 鉢	A区 H-11・12 包含層	底径 4.8	底部は上げ底を呈する。体部はゆるやかに内湾しながら立ち上がる。	体部外面ヨコナデ。底部外面指頭圧痕。体部内面ヨコナデのちタテ方向のミガキ。底部内面指頭圧痕。	1～3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	(内)橙色 (外)にぶい橙色	
331	弥生土器 高杯	F区 P-14 包含層	口径 16.8 脚径 8.8 器高 9.6	体部は皿状を呈する。口縁部はやや内側に屈曲し垂直に立ち上がる。口縁端部は両端を拡張し、平坦におさめる。口縁部に2条の凹線文を施す。脚部はゆるやかに外下方へひろがる。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面タテヘラミガキ。脚部外面タテヘラミガキのちヨコナデ。体部内面ヨコヘラミガキ。脚部内面ヘラケズリのちヨコナデ。	1mm弱の砂粒含	にぶい橙色	
332	弥生土器 高杯	G区 P-23 包含層	脚径 8.8	脚部はゆるやかに外下方へひろがる。脚端部は方形におさめる。	脚部内面ヨコヘラケズリ。	1～2mm 砂粒含 石英	(内)明赤褐色 (外)にぶい橙色	
333	弥生土器 蓋	A区 G-9 包含層	頂径 6.5	頂部は、ややへこむ。体部はゆるやかに外方へのびる。	体部外面ユビオサエのちナデ。体部内面ヨコナデ。	1～3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	にぶい褐色	
334	弥生土器 蓋	F区 J-10 包含層	頂径 7.2	頂部は平坦。体部は外方へのびる。	頂部外面ヨコナデ。体部外面8条/cmのタテハケメのちヨコナデ。内面ユビオサエのちタテナデ。	1～2mm 砂粒含 石英 結晶片岩	赤褐色	

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	胎土	色調	備考
335	紡錘車	F・I区 中間点 包含層	2.1	—	0.45	2.05	1～3mm 砂粒含	にふい橙色	
336	紡錘車	B区 M-15 包含層	2.1	—	0.5	4.03	1～3mm 砂粒 石英	(内)にふい橙色 (外)橙色	内面ハケメ
337	紡錘車	F区 包含層	2.1	—	0.35	2.41	1mm大の砂粒含	(内)褐色 (外)黒褐色	外面ヘラミガキ
338	紡錘車	B区	2.3	—	0.55	2.96	1～5mm 砂粒含 石英 結晶片岩	赤褐色	内外面ヘラミガキ
339	紡錘車	F区 P-14	3.1	—	0.41	5.43	1～2mm 砂粒含 石英	にふい赤褐色	
340	紡錘車	B区 M-15	2.1	—	0.65	4.14	1mm大の砂粒含 石英	にふい赤褐色	外面ヘラミガキ
341	紡錘車	B区	3.2	—	0.75	11.82	1～2mm 砂粒含 石英 結晶片岩	明赤褐色	外面ヘラミガキ
342	紡錘車	B区 M-16 包含層	3.25	—	0.55	7.58	1～3mm 砂粒含 石英	(内)橙色 (外)赤褐色	外面ヘラミガキ 内面ハケメ
343	紡錘車	B区 L-15 包含層	4.4	—	0.65	11.15	1～5mm 砂粒含 石英 結晶片岩	橙色	
344	紡錘車	B区 H-15 包含層	4.9	—	0.85	19.06	1mm大の砂粒含 石英	(内)にふい黄橙色 (外)浅黄橙色	内面櫛描直線文
345	紡錘車	A区 I-11・12 包含層	3.75	—	0.7	11.93	1～4mm 砂粒含 石英	橙色	
346	紡錘車	E区 M-9 包含層	4.25	—	0.65	12.64	1～3mm 砂粒含 結晶片岩	(内)にふい褐色 (外)にふい橙色	外面ヘラミガキ
347	紡錘車	G区 O-18 包含層	5.1	—	0.65	18.86	1～2mm 砂粒含 石英 結晶片岩	(内)黒色 (外)橙色	
348	紡錘車	E区 N-12 包含層	4.05	—	0.55	(10.52)	1～2mm 砂粒含 石英	(内)浅黄橙色 (外)橙色	欠損
349	紡錘車	I区	4.5	—	0.47	(8.05)	1mm大の砂粒含 石英	(内)黒褐色 (外)暗赤褐色	内外面ヘラミガキ 欠損

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石	材	備考
350	石鏃	G区 P-19 包含層	2.0	1.5	0.4	1.03	サヌカイト		完形。 平基。
351	石鏃	F区 R-18・19 包含層	2.2	(1.6)	0.5	(1.34)	サヌカイト		基部両端欠損。 平基。
352	石鏃	B区 包含層	(1.8)	(1.4)	0.4	(0.73)	サヌカイト		先端部、基部一端欠損。 平基。
353	石鏃	B区 H-16 包含層	2.4	2.2	0.3	1.38	サヌカイト		完形。 平基。
354	石鏃	F・I 中間区	2.4	1.4	0.4	1.45	サヌカイト		完形。 平基。
355	石鏃	B区 包含層	(2.1)	1.5	0.4	(1.34)	サヌカイト		先端部欠損。 平基。
356	石鏃	D区 包含層	(2.1)	(1.5)	0.4	(1.24)	サヌカイト		先端部、基部欠損。 平基。
357	石鏃	G区 O-20 包含層	2.9	1.5	0.5	1.61	サヌカイト		完形。 平基。
358	石鏃	B区 包含層	(2.1)	1.9	0.4	(1.83)	サヌカイト		先端部欠損。 平基。
359	石鏃	G区 P-23 包含層	2.0	1.6	0.4	2.02	サヌカイト		完形。 平基。
360	石鏃	B区 H-15	3.15	1.65	0.5	2.63	サヌカイト		完形。 平基。
361	石鏃	B区 K-17 包含層	(2.2)	2.25	0.5	(2.33)	サヌカイト		先端部欠損。 平基。
362	石鏃	B区 L-15 包含層	3.1	1.55	0.5	1.80	サヌカイト		完形。 平基。
363	石鏃	B区 K-16 包含層	3.1	1.9	1.6	3.24	サヌカイト		完形。 平基。
364	石鏃	B区 包含層	(2.6)	1.8	0.6	(2.54)	サヌカイト		先端部欠損。 平基。
365	石鏃	B区 J-16 包含層	1.9	1.5	0.3	0.73	サヌカイト		完形。 凹基。
366	石鏃	F区 N-17 包含層	1.9	1.5	0.2	0.46	サヌカイト		完形。 凹基。
367	石鏃	E区 包含層	1.9	1.6	0.4	0.87	サヌカイト		完形。 凹基。
368	石鏃	G区 包含層	2.15	1.5	0.3	1.00	サヌカイト		完形。 凹基。
369	石鏃	B区 M-16 包含層	2.6	1.7	0.3	1.16	サヌカイト		完形。 凹基。
370	石鏃	E区 L-10 包含層	2.3	1.3	0.4	1.21	サヌカイト		完形。 凹基。
371	石鏃	B区 包含層	3.0	1.6	0.5	2.12	サヌカイト		完形。 凹基。

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石	材	備考
372	石鏡	A区 包含層	(3.1)	(1.7)	1.5	(1.38)	サヌカイト		基部一端欠損。 凹基。
373	石鏡	B区 H-15 包含層	3.25	1.7	0.5	2.57	サヌカイト		完形。 凹基。
374	石鏡	包含層	(2.0)	1.5	0.4	(1.13)	サヌカイト		先端部欠損。 凹基。
375	石鏡	F・I 中間区 包含層	(2.4)	1.5	0.4	(1.15)	サヌカイト		先端部欠損。 凹基。
376	石鏡	G区 包含層	(2.3)	1.7	0.5	(1.58)	サヌカイト		先端部欠損。 凹基。
377	石鏡	包含層	3.2	1.9	0.7	0.85	サヌカイト		完形。 凹基。
378	石鏡	A区 E-11 包含層	3.7	2.0	0.5	3.39	サヌカイト		完形。 凹基。
379	石鏡	B区 M-16 包含層	3.4	1.6	0.3	1.56	サヌカイト		完形。 凹基。
380	石鏡	B区 M-16 包含層	(1.8)	1.5	(0.3)	(0.92)	サヌカイト		先端部欠損。 凹基。
381	石鏡	C区 包含層	(2.0)	(1.4)	0.3	(0.61)	サヌカイト		基部両端欠損。 凹基。
382	石鏡	B区 包含層	1.7	1.45	4.0	0.96	サヌカイト		完形。 凹基。
383	石鏡	F区 Q-18 包含層	(1.9)	1.4	(0.35)	(0.76)	サヌカイト		先端部欠損。 凹基。
384	石鏡	B区 包含層	(1.8)	1.5	(0.3)	(0.83)	サヌカイト		先端部欠損。 凹基。
385	石鏡	G区 P-23 包含層	(1.8)	1.9	(0.4)	(1.36)	サヌカイト		先端部欠損。 凹基。
386	石鏡	C区 包含層	(2.25)	1.85	(5.1)	(1.60)	サヌカイト		基部一端欠損。 凹基。
387	石鏡	B区 M-15 包含層	(2.3)	(2.2)	4.0	(1.50)	サヌカイト		基部両端欠損。 凹基。
388	石鏡	B区 L-17 包含層	(2.4)	1.65	3.0	(1.32)	サヌカイト		基部一端欠損。 凹基。
389	石鏡	B区 I-17 包含層	(2.5)	(2.4)	(5.8)	(3.04)	サヌカイト		先端部、基部一端欠損。 凹基。
390	石鏡	B区 I-17 包含層	3.0	1.25	0.4	1.65	サヌカイト		完形。 凸基。
391	石鏡	E区 L-9 包含層	3.0	1.1	0.5	1.58	サヌカイト		完形。 凸基。
392	石鏡	G区 包含層	2.5	1.6	0.5	2.59	サヌカイト		完形。 凸基。
393	石鏡	B区 J-16 包含層	3.1	1.4	0.5	2.01	サヌカイト		完形。 凸基。

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石	材	備考
394	石鏃	I区 包含層	2.0	1.6	0.5	1.95	サヌカイト		完形。 凸基。
395	石鏃	B区 包含層	1.9	1.3	0.2	0.67	サヌカイト		完形。 凸基。
396	石鏃	I区 包含層	2.2	1.4	0.3	0.79	サヌカイト		完形。 凸基。
397	石鏃	A区 F-9 包含層	(2.2)	1.2	(0.5)	(1.26)	サヌカイト		先端部欠損。 凸基。
398	石鏃	A区 J-9 包含層	2.3	1.0	0.5	0.78	サヌカイト		完形。 凸基。
399	石鏃	包含層	2.8	0.9	3.0	0.84	サヌカイト		完形。 凸基。
400	石鏃	F区 包含層	2.3	1.4	0.2	0.83	サヌカイト		完形。 凸基。
401	石鏃	B区 J-17 包含層	2.8	(1.3)	0.4	(0.97)	サヌカイト		基部一端欠損。 凸基。
402	石鏃	E区 L-9 包含層	4.2	2.3	0.6	5.31	サヌカイト		完形。 凸基。
403	石鏃	C区 包含層	3.1	1.4	0.4	1.48	サヌカイト		完形。 凸基。
404	石鏃	B区 M-16 包含層	3.6	1.3	0.4	1.66	サヌカイト		完形。 有茎。
405	石鏃	B区 M-13 包含層	3.2	1.5	0.5	2.27	サヌカイト		完形。 有茎。
406	石鏃	B区 J-17 包含層	(3.0)	2.7	(0.4)	(3.64)	サヌカイト		先端部欠損。 有茎。
407	スクレイパー	E区 包含層	3.4	3.3	0.5	8.05	サヌカイト		下縁部に両面調整による刃部形成。
408	スクレイパー	B区 J-13・14 包含層	2.8	3.4	0.6	5.82	サヌカイト		上下端に両面調整加工。
409	スクレイパー	D区 包含層	4.2	2.0	0.6	6.16	サヌカイト		下縁部に両面調整による刃部形成。
410	スクレイパー	F区 包含層	3.3	2.2	0.6	4.27	サヌカイト		下縁部に両面調整による刃部形成。
411	スクレイパー	G区 O-20・ 21・22 包含層	4.4	2.4	0.4	4.46	サヌカイト		下縁部に両面調整による刃部形成。
412	スクレイパー	F区 包含層	3.5	2.9	0.6	5.96	サヌカイト		下縁部に両面調整による刃部形成。
413	スクレイパー	F区 R-17 包含層	4.5	3.7	0.7	12.0	サヌカイト		下縁部片面に調整加工。
414	スクレイパー	G区 O-19 包含層	5.0	2.3	0.4	5.14	サヌカイト		下縁部片面に調整加工。
415	スクレイパー	G区 M・N-18 包含層	6.4	3.0	0.4	9.53	サヌカイト		下縁部両面に調整加工。



番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
416	スクレイパー	A区 F-9 包含層	4.1	3.4	0.7	11.09	サヌカイト	上下縁部両面に調整加工。
417	スクレイパー	F区 R-18・19 包含層	5.3	6.1	1.0	36.11	サヌカイト	上下縁部に両面調整加工。
418	スクレイパー	G区 P-19 包含層	6.3	4.6	0.7	27.78	サヌカイト	上下縁部に両面調整加工。
419	スクレイパー	I区 包含層	6.1	3.6	0.6	16.31	サヌカイト	下縁部に両面調整加工。
420	スクレイパー	E区 包含層	7.3	4.1	0.8	21.76	サヌカイト	下縁部に片面調整加工。
421	スクレイパー	C区 包含層	4.6	3.3	0.7	15.98	サヌカイト	上下縁部に両面調整加工。
422	スクレイパー	A区 D-9 包含層	4.1	3.8	1.0	18.85	サヌカイト	下縁部に両面調整加工。
423	スクレイパー	B区 包含層	4.5	3.2	0.8	9.41	サヌカイト	下縁部に両面調整加工。
424	スクレイパー	A区 H-11 包含層	4.5	2.9	0.5	8.01	結晶片岩	下縁部に両面調整加工。
425	スクレイパー	C区 包含層	9.4	5.4	1.3	110.15	結晶片岩	下縁部に両面調整加工。
426	楔形石器	D区 包含層	2.6	2.3	0.5	2.43	サヌカイト	一側縁に裁断面。 下縁部に両面調整加工。
427	楔形石器	E区 包含層	2.4	2.9	0.7	3.83	サヌカイト	両側縁に裁断面。 下縁部に片面調整加工。
428	楔形石器	F区 P-17 包含層	0.9	2.7	0.4	1.95	サヌカイト	両側に裁断面。 下縁部に両面調整加工。
429	楔形石器	B区 包含層	3.3	1.8	0.8	4.27	サヌカイト	一側縁に裁断面。
430	楔形石器	B区 K-14 包含層	2.0	3.0	0.7	4.55	サヌカイト	一側縁に裁断面。 下縁部に両面調整加工。
431	楔形石器	E区 K-10 包含層	(1.8)	2.4	0.7	(3.68)	サヌカイト	一側縁に裁断面。 上部欠損。 下縁部に片面調整加工。
432	楔形石器	A区 包含層	5.7	2.0	0.9	10.80	サヌカイト	一側縁に裁断面。 下縁部に両面調整加工。
433	楔形石器	A区 包含層	3.2	3.5	1.2	14.30	サヌカイト	両側縁に裁断面。 上下両面に調整加工。
434	楔形石器	G区 P-19 包含層	3.4	4.8	0.8	10.30	サヌカイト	両側縁に裁断面。 上下縁部両面に調整加工。
435	楔形石器	D区 包含層	3.5	2.6	0.8	8.85	サヌカイト	両側縁に裁断面。 上下縁部に両面調整加工。
436	楔形石器	F区 R-16 包含層	2.4	2.3	0.6	4.02	サヌカイト	一側縁に裁断面。 下縁部に両面調整加工。
437	楔形石器	D区 包含層	2.4	2.2	0.6	3.78	サヌカイト	一側縁に裁断面。 下縁部に両面調整加工。

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石	材	備考
438	楔形石器	B区 I-17 包含層	2.8	3.2	1.3	17.52	サヌカイト		両側縁に裁断面。 両縁部に片面調整加工。
439	楔形石器	F区 包含層	2.6	2.9	0.6	5.76	サヌカイト		一側縁に裁断面。
440	楔形石器	D区 包含層	3.2	2.7	0.8	8.10	サヌカイト		一側縁に裁断面。 両端部に両面調整加工。
441	楔形石器	E区 L-7 包含層	3.4	(2.9)	0.5	(5.32)	サヌカイト		一端欠損。 下縁部に両面調整加工。
442	楔形石器	E区 N-10 包含層	3.4	(3.6)	0.9	(11.35)	サヌカイト		一端欠損。 下縁部に両面調整加工。
443	楔形石器	E区 L-10 包含層	3.0	(3.0)	0.8	(6.85)	サヌカイト		一端欠損。 下縁部に両面調整加工。
444	楔形石器	D区 包含層	3.6	1.6	0.6	3.12	サヌカイト		一側縁に裁断面。 下縁部に両面調整加工。
445	楔形石器	F区 包含層	4.5	3.5	0.7	15.57	サヌカイト		両側縁部に両面調整加工。
446	楔形石器	E区 包含層	2.9	(3.3)	0.6	(6.39)	サヌカイト		一側縁に裁断面。 下縁部に両面調整加工。
447	楔形石器	B区 L-17 包含層	2.5	2.8	0.7	6.86	サヌカイト		一側縁に裁断面。 上下両面に調整加工。
448	楔形石器	D区 包含層	3.8	3.4	0.7	12.11	サヌカイト		下縁部に両面調整加工。 一側縁に裁判面。
449	楔形石器	F区 M-10 包含層	5.1	4.5	1.0	24.8	サヌカイト		一側縁に裁断面。 下縁部に両面調整加工。
450	楔形石器	G区 P-18 包含層	4.9	3.1	1.4	33.73	サヌカイト		下縁部に両面調整加工。
451	石槍	E区 M-9 包含層	(4.6)	(2.6)	(0.9)	(11.59)	サヌカイト		下部欠損。 両側面に両面調整加工。
452	石槍	B区 包含層	(3.1)	(1.9)	(0.8)	(4.41)	サヌカイト		下部欠損。 両側面に両面調整加工。
453	磨製石剣	B区 包含層	(7.5)	3.5	(0.5)	(20.60)	結晶片岩		下部欠損。 両側面に研磨を施し、刃部作出。
454	磨製石剣	G区 N-20 包含層	(5.6)	3.3	(0.7)	(24.13)	結晶片岩		下部欠損。 両面に研磨痕。
455	石砲丁	B区 M-16 包含層	10.1	4.0	0.9	58.45	結晶片岩		端部挟りなし。 完形。
456	石砲丁	B区 M-16 包含層	(10.5)	(4.4)	(9.5)	(58.53)	結晶片岩		端部挟りなし。 一端欠損。
457	石砲丁	A区 I・J-11 包含層	(9.6)	(3.4)	(0.9)	(38.97)	結晶片岩		端部挟りなし。 一端欠損。
458	石砲丁	C区 包含層	(10.0)	(4.8)	(0.8)	(49.85)	結晶片岩		端部挟りなし。 一端欠損。
459	石砲丁	F区 N-17 包含層	(8.5)	(4.7)	(0.8)	(60.07)	結晶片岩		端部挟りなし。 一端欠損。

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石	材	備考
460	石庖丁	B区 K-17 包含層	(5.2)	(3.8)	(0.5)	(12.31)	結晶片岩		端部挟りなし。 一端欠損。
461	石庖丁	B区 M-16 包含層	6.3	3.5	0.5	19.67	結晶片岩		両端欠損。
462	石庖丁	A区 H-10 包含層	(8.5)	(4.3)	(0.4)	(16.58)	結晶片岩		端部挟りなし。 一端欠損。
463	石庖丁	F・I 中間区 包含層	(10.2)	(3.6)	(1.0)	(45.31)	結晶片岩		端部挟りなし。 一端欠損。
464	石庖丁	F区 R-18 包含層	(9.6)	(4.2)	(0.9)	(49.10)	結晶片岩		端部挟りなし。 一端欠損。
465	石庖丁	C区 包含層	(7.9)	(3.6)	(0.6)	(22.35)	結晶片岩		端部挟りなし。 一端欠損。
466	石庖丁	E区 M-10 包含層	(8.6)	(3.8)	(0.8)	(30.65)	結晶片岩		端部挟りなし。 一端欠損。
467	石庖丁	B区 M-15 包含層	(8.5)	(4.5)	(3.5)	(23.02)	結晶片岩		端部挟りなし。 一端欠損。
468	石庖丁	F区 P-18 包含層	(9.6)	(4.5)	(1.4)	(73.51)	結晶片岩		端部挟りなし。 一端欠損。
469	石庖丁	F区 Q-18 包含層	10.8	4.7	1.0	44.05	結晶片岩		端部挟りなし。
470	石庖丁	G区 包含層	12.3	4.3	1.0	86.8	結晶片岩		完形。 端部挟りなし。
471	石庖丁	F区 N-50 包含層	12.9	4.2	1.0	71.68	結晶片岩		完形。 端部挟りなし。
472	石庖丁	G区 包含層	3.5	3.7	0.6	13.8	結晶片岩		両端欠損。
473	石庖丁	G区 P-19 包含層	(7.2)	(3.3)	(1.2)	(40.1)	結晶片岩		端部挟りなし。 一端欠損。
474	石庖丁	F区 R-18・19 包含層	(8.3)	(5.1)	(1.0)	(63.56)	結晶片岩		端部挟りなし。 一端欠損。
475	石庖丁	D区 包含層	(9.9)	(3.3)	(0.7)	(25.29)	結晶片岩		端部挟りなし。 一端欠損。
476	石庖丁	F区 N-16 包含層	(12.0)	(5.2)	(1.0)	(55.98)	結晶片岩		端部挟りなし。 一端欠損。
477	石庖丁	A区 I・J-11 包含層	(12.6)	(5.4)	(1.4)	(99.07)	結晶片岩		端部挟りなし。 一端欠損。
478	石庖丁	F区 P-18 包含層	13.9	5.4	0.9	98.18	結晶片岩		端部挟りなし。 完形。
479	石庖丁	F区 N-11 包含層	10.2	6.7	1.0	128	結晶片岩		端部挟りあり。 完形。
480	石庖丁	G区 O-22 包含層	10.6	5.5	1.5	94.0	結晶片岩		端部挟りあり。 完形。
481	石庖丁	F区 P-17 包含層	(6.1)	(3.2)	(1.1)	(29.64)	結晶片岩		端部挟りあり。 一端欠損。

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
482	石廬丁	F区 P-16 包含層	(6.2)	(4.0)	(0.8)	(20.37)	結晶片岩	端部挟りなし。 一端欠損。
483	石廬丁	E区 M-10 包含層	(8.0)	(4.0)	(1.2)	(66.78)	結晶片岩	端部挟りなし。 一端欠損。
484	石廬丁	A区 I・J-11 包含層	(9.2)	(4.4)	(0.6)	(43.01)	結晶片岩	端部挟りあり。 一端欠損。
485	石廬丁	F区 S-16 包含層	(10.1)	(4.4)	(1.1)	(59.54)	結晶片岩	端部挟りあり。 一端欠損。
486	石廬丁	E区 M-10 包含層	(9.0)	(4.5)	(0.7)	(42.31)	結晶片岩	端部挟りなし。 一端欠損。
487	石廬丁	F区 N-17 包含層	(9.8)	(3.8)	(0.5)	(31.02)	結晶片岩	端部挟りなし。 一端欠損。
488	石廬丁	F区 Q-18 包含層	(9.8)	(4.2)	(1.2)	(58.64)	結晶片岩	端部挟りなし。 一端欠損。
489	石廬丁	E区 N-9 包含層	(9.8)	(9.3)	(1.3)	(191.0)	結晶片岩	端部挟りなし。 一端欠損。
490	石廬丁	F区 R-18・19 包含層	(6.5)	(4.2)	(1.1)	(31.09)	結晶片岩	端部挟りなし。 一端欠損。
491	石廬丁	I区 包含層	(7.3)	(4.5)	(1.3)	(43.25)	結晶片岩	端部挟りなし。 一端欠損。
492	石廬丁	G区 L・M-21 包含層	(9.2)	(3.8)	(0.7)	(38.73)	結晶片岩	端部挟りなし。 一端欠損。
493	石廬丁	F区 R-18・19 包含層	(8.7)	(3.2)	(0.65)	(30.55)	結晶片岩	端部挟りなし。 一端欠損。
494	石廬丁	B区 包含層	(10.1)	(4.3)	(1.2)	(88.34)	結晶片岩 石英片岩	端部挟りなし。 一端欠損。
495	石廬丁	F区 R-17 包含層	(8.9)	(2.5)	(0.8)	(32.27)	結晶片岩	端部挟りなし。 一端欠損。
496	石廬丁	E区 L-9 包含層	(8.2)	(3.7)	(1.1)	(45.72)	結晶片岩	端部挟りなし。 一端欠損。
497	石廬丁	I区 J-11 包含層	(8.7)	(4.8)	(0.7)	(40.30)	結晶片岩	両端欠損。
498	石廬丁	F区 Q-17 包含層	(9.3)	(5.1)	(0.9)	(63.64)	結晶片岩	両端欠損。
499	石廬丁	F区 P-16 包含層	(9.9)	(3.8)	(0.8)	(48.49)	結晶片岩	端部挟りなし。 一端欠損。
500	石廬丁	A区 F-12 包含層	(11.1)	(3.7)	(0.95)	(60.76)	結晶片岩	端部挟りなし。 一端欠損。
501	石廬丁	I区 包含層	(12.1)	(4.6)	(1.1)	(71.27)	結晶片岩	端部挟りなし。 一端欠損。
502	石廬丁	F区 N-16 包含層	(13.1)	(6.0)	(1.4)	(137.0)	結晶片岩	端部挟りなし。 一端欠損。
503	石廬丁	F区 N-17 包含層	(8.4)	(4.4)	(0.7)	(13.80)	結晶片岩	端部挟りなし。 一端欠損。

番号	器種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
504	石庖丁	F区 N-17 包含層	(11.5)	(3.3)	(1.0)	(40.71)	結晶片岩	端部抉りなし。 一端欠損。
505	石庖丁	B区 包含層	(10.6)	(4.1)	(1.1)	(73.90)	結晶片岩	端部抉りなし。 一端欠損。
506	石庖丁	E区 包含層	(11.1)	(5.4)	(1.0)	(99.05)	結晶片岩 石英片岩	端部抉りなし。 一端欠損。
507	石庖丁	B区 M-15 包含層	(6.5)	(3.5)	(0.5)	(16.60)	結晶片岩	端部抉りなし。 一端欠損。
508	石庖丁	F区 N-16 包含層	(7.3)	(4.1)	(0.9)	(32.46)	結晶片岩	端部抉りなし。 一端欠損。
509	石庖丁	F区 N-16 包含層	(7.2)	(6.6)	(0.8)	(86.61)	結晶片岩	端部抉りあり。 一端欠損。
510	石庖丁	F区 S-18 包含層	10.5	4.8	1.2	99.57	結晶片岩	端部抉りあり。 完形。
511	石庖丁	F区 N-16 包含層	(12.9)	(4.1)	(0.9)	(62.22)	結晶片岩	端部抉りあり。 一端欠損。
512	石庖丁	F区 P-15 包含層	(5.6)	(3.5)	(0.5)	(16.95)	結晶片岩	端部抉りあり。 一端欠損。
513	石庖丁	B区 包含層	(5.5)	(3.8)	(0.8)	(23.62)	結晶片岩	端部抉りあり。 一端欠損。
514	石庖丁	A区 D-8 包含層	(5.6)	(4.9)	(0.9)	(39.91)	結晶片岩 石英片岩	端部抉りあり。 一端欠損。
515	石庖丁	C区 包含層	(6.2)	(4.0)	(0.5)	(17.90)	紅簾石絹雲母	端部抉りあり。 一端欠損。
516	石庖丁	B区 J-16 包含層	(5.3)	(3.8)	(0.7)	(25.25)	結晶片岩 石英片岩	端部抉りあり。 一端欠損。
517	石庖丁	F区 包含層	(7.9)	(4.5)	(0.6)	(37.23)	結晶片岩	端部抉りあり。 一端欠損。
518	石庖丁	A区 F-11 包含層	(3.7)	(2.8)	(0.4)	(6.9)	結晶片岩	端部抉りあり。 一端欠損。
519	石庖丁	G区 M・N-20 包含層	(4.8)	(3.9)	(0.8)	(28.0)	結晶片岩	端部抉りあり。 一端欠損。
520	石庖丁	A区 H・I- 11・12 包含層	(5.0)	(2.3)	(0.5)	(9.50)	結晶片岩	端部抉りあり。 一端欠損。
521	石庖丁	I区 包含層	(6.8)	(3.5)	(0.6)	(20.95)	結晶片岩	端部抉りあり。 一端欠損。
522	石庖丁	G区 L・M-21 包含層	(9.0)	(4.7)	(0.7)	(38.0)	結晶片岩	端部抉りあり。 一端欠損。
523	石庖丁	G区 O-18 包含層	(12.4)	(5.1)	(1.0)	(92.54)	結晶片岩	一部欠損。 端部抉りあり。
524	石庖丁	B区 K-17 包含層	(6.0)	(3.1)	(0.8)	(17.23)	結晶片岩	一端欠損。 端部抉りなし。
525	石庖丁	B区 L-17 包含層	(7.3)	(3.0)	(0.6)	(20.57)	結晶片岩	両端欠損。

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
526	石廂丁	F区 N-16 包含層	(8.8)	(3.6)	(0.7)	(25.30)	結晶片岩	上部欠損。
527	石廂丁	A区 包含層	(9.1)	(4.7)	(0.6)	(42.02)	結晶片岩	両端欠損。
528	石廂丁	B区 I-17 包含層	(5.9)	(3.3)	(0.6)	(15.50)	結晶片岩	両端欠損。
529	石廂丁	B区 I-15 包含層	(6.4)	(3.7)	(0.8)	(27.74)	結晶片岩	一端欠損。
530	石廂丁	E区 L-11 包含層	(6.4)	(4.9)	(0.6)	(25.54)	蛇紋岩	両端欠損。
531	石廂丁	F区 P-16 包含層	(6.5)	(6.1)	(0.8)	(38.37)	結晶片岩	両端欠損。
532	石廂丁	E区 包含層	(9.5)	(6.2)	(0.8)	(59.34)	結晶片岩	両端欠損。
533	石廂丁	F区 包含層	(4.9)	(3.0)	(0.4)	(8.33)	結晶片岩	両端欠損。
534	石廂丁	F区 P-17 包含層	(5.4)	(3.0)	(0.7)	(12.94)	結晶片岩	両端欠損。
535	石廂丁	F区 S-18・19 包含層	(5.6)	(4.2)	(1.1)	(41.85)	結晶片岩	両端欠損。
536	石廂丁	F区 P-17 包含層	(5.7)	(3.8)	(0.8)	(30.02)	結晶片岩	両端欠損。
537	石廂丁	F区 P-17 包含層	(8.3)	(5.3)	(1.1)	(64.83)	結晶片岩	両端欠損。
538	石廂丁	F区 P-14 包含層	(8.5)	(2.1)	(0.5)	(13.90)	結晶片岩	上部欠損。
539	石廂丁	F区 C-15 包含層	(7.7)	(3.7)	(0.7)	(28.81)	結晶片岩	上部欠損。
540	石廂丁	F区 R-18・19 包含層	(5.3)	(3.7)	(0.8)	(6.53)	結晶片岩	両端欠損。
541	石廂丁	D区 包含層	(6.3)	(3.8)	(1.0)	(36.47)	結晶片岩	両端欠損。
542	石廂丁	F区 R-18・19 包含層	(9.1)	(4.0)	(1.0)	(45.49)	結晶片岩	一端欠損。
543	石廂丁	B区 包含層	(9.3)	(5.3)	(1.0)	(54.90)	結晶片岩	両端欠損。
544	石廂丁	G区 N-20 包含層	(9.1)	(4.1)	(1.1)	(51.50)	結晶片岩	両端欠損。
545	石廂丁	F区 R-16 包含層	(5.0)	(3.4)	(0.9)	(22.98)	結晶片岩	両端欠損。
546	石廂丁	G区 P-22 包含層	(6.6)	(4.3)	(0.8)	(31.40)	結晶片岩	両端欠損。
547	石廂丁	E区 O-11 包含層	(7.2)	(6.0)	(0.7)	(45.6)	結晶片岩	両端欠損。

番号	器種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石	材	備考
548	石庖丁	B区 包含層	(11.0)	(5.2)	(0.6)	(57.13)	結晶片岩		一端欠損。
549	石庖丁	F区 P-16 包含層	(10.3)	(6.0)	(0.8)	(76.63)	結晶片岩		一端欠損。
550	石庖丁	F区 包含層	(6.7)	(4.0)	(0.6)	(22.22)	サヌカイト		端部抉りあり。 一端欠損。
551	石庖丁	包含層	(11.0)	(5.0)	(1.0)	(116.48)	結晶片岩		片面に研磨痕あり。 一端欠損。
552	石鎌	F区 O-16 包含層	7.9	4.1	0.8	32.07	サヌカイト		一端欠損。 両側縁、両面に調整加工。
553	石鎌	A区 G-11・12 包含層	10.9	4.7	1.2	87.82	結晶片岩		一端欠損。 両側縁、両面に調整加工。
554	石鎌	G区 包含層	13.0	3.4	1.4	67.46	結晶片岩		両側縁片面に調整加工。
555	石鎌	A区 I-11 包含層	14.9	3.7	0.8	64.75	結晶片岩		両側縁両面調整加工。
556	小形方柱状片刃石斧	G区 O-20 包含層	9.3	2.8	1.9	107.75	結晶片岩		全面に研磨痕。 上部側面と表面に抉り施す。
557	柱状片刃石斧	B区 M-17 包含層	14.5	4.3	2.7	366.0	結晶片岩		全面に研磨痕。
558	小形方柱状片刃石斧	A区 D-8 包含層	10.8	3.1	2.6	194.0	結晶片岩		全面に研磨痕。
559	柱状片刃石斧	E区 L-8 包含層	(10.6)	2.7	2.5	(158.0)	結晶片岩		上下端部欠損。 表面と側面に研磨痕。
560	柱状片刃石斧	F区 N-17 包含層	(6.4)	(3.5)	1.2	(41.0)	結晶片岩		上部欠損。 側面に研磨痕。
561	大形蛤刃石斧	F区 P-15 包含層	(15.2)	(7.8)	(5.6)	(1190.0)	ハンレイ岩		上部欠損。 下部に敲打痕。
562	大形蛤刃石斧	B区 包含層	(14.7)	(7.2)	(3.4)	(580.0)	結晶片岩		上部欠損。 下部に研磨痕。 側縁に敲打痕。
563	大形蛤刃石斧	F区 O-15 包含層	(16.2)	(9.1)	(5.0)	(1140.0)	片岩		下半部欠損。 全面に敲打痕。
564	柱状片刃石斧	A区 包含層	11.0	2.9	1.3	73.35	結晶片岩		側面に研磨痕。
565	柱状片刃石斧	A区 I-11 包含層	10.5	3.1	1.8	105.3	結晶片岩		全面に研磨痕。
566	扁平両刃石斧	G区 O-21 包含層	(7.1)	(5.1)	(1.1)	(80.35)	結晶片岩		上部欠損。 全面に研磨痕。
567	扁平両刃石斧	B区 H-15 包含層	3.8	2.4	0.6	8.57	結晶片岩		両面に研磨痕。
568	扁平両刃石斧	B区 N-15 包含層	(5.3)	5.0	1.1	(61.65)	結晶片岩		上部欠損。 裏面に研磨痕。
569	扁平両刃石斧	E区 包含層	4.5	3.9	1.2	38.22	結晶片岩		両面に研磨痕。

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
570	環状石斧	F区 N-16 包含層	7.7	6.5	1.8	123.0	結晶片岩	
571	円柱状石斧	F区 O-16 包含層	9.9	2.8	0.8	43.67	結晶片岩	両側縁両面に調整加工。
572	円柱状石斧	I区 包含層	(10.8)	2.1	(0.9)	(23.76)	結晶片岩	下端欠損。
573	円柱状石斧	G区 O-20 包含層	(9.3)	2.8	(1.2)	(51.1)	結晶片岩	上下両端欠損。
574	円柱状石斧	B区 M-15 包含層	(8.9)	2.6	(0.9)	(27.65)	サヌカイト	上下両端欠損。
575	小形円柱状石斧	B区 M-16 包含層	5.7	2.1	0.7	14.29	結晶片岩	下部両面に研磨痕。
576	小形円柱状石斧	G区 O-20 包含層	(7.3)	2.2	(1.0)	(21.90)	結晶片岩	上下両端欠損。
577	小形円柱状石斧	E区 L-10 包含層	(2.8)	2.5	(0.6)	(4.94)	結晶片岩	下部欠損。 両面に研磨痕。
578	小形円柱状石斧	A区 I-11 包含層	(2.9)	2.0	(0.4)	(3.86)	結晶片岩	上部欠損。 両面に研磨痕。
579	小形円柱状石斧	E区 L-9 包含層	(3.4)	2.3	(0.8)	(7.34)	結晶片岩	上部欠損。 両面に研磨痕。
580	小形円柱状石斧	C区 包含層	5.7	2.3	0.8	17.67	結晶片岩	下部両面に研磨を施し、刃部作出。
581	小形円柱状石斧	E区 N-11 包含層	5.7	1.9	1.2	21.5	結晶片岩	下部両面に研磨痕。
582	小形円柱状石斧	E区 O-11 包含層	(4.4)	1.6	(0.9)	(6.88)	サヌカイト	上部欠損。 下部両面に研磨痕。
583	石鍬	E区 包含層	15.5	6.5	1.5	194.0	結晶片岩	完形。
584	石錐	E区 M-8 包含層	4.3	2.2	0.6	4.07	サヌカイト	完形。
585	石錐	G区 MN-20 包含層	4.4	1.5	0.5	2.2	サヌカイト	完形。
586	石錐	G区 LH-20 包含層	(2.9)	(0.9)	(0.4)	(1.19)	サヌカイト	上下端部欠損。
587	叩石	F区 N-16 包含層	11.8	8.5	5.9	960.0	チャート	完形。 上下両端に敲打痕。
588	叩石	A区 H-11 包含層	12.8	8.2	4.0	750.0	結晶片岩	完形。 片方の側面と下部に敲打痕。
589	叩石	E区 L-10 包含層	10.8	7.2	4.8	540.0	砂岩	卵形の河原石を使用。 上下両側面に敲打痕。
590	叩石	B区 M-15 包含層	(13.8)	7.4	3.8	(630.0)	砂岩	上部欠損。 下部と両側面に敲打痕。
591	叩石	I区 包含層	8.6	9.5	5.4	760.0	砂岩	完形。 側面に部分的に敲打痕。



番号	器種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
592	叩石	F区 包含層	10.7	10.5	6.2	910.0	砂岩	完形。 上面と側面に部分的に敲打痕。
593	砥石	F区 N-16 包含層	(14.7)	(6.8)	(3.7)	(650.0)	砂岩	1/2を欠損。 表面と裏面に研磨痕と敲打痕。
594	砥石	G区 包含層	(11.2)	(15.3)	(5.0)	(1260.0)	砂岩	上部欠損。 表面と裏面に研磨痕。
595	砥石	F区 P-15 包含層	(19.2)	(7.5)	(4.1)	(1200.0)	結晶片岩	1/2を欠損。 表面と裏面に研磨痕。
596	砥石	A区 G-11・12 包含層	(17.2)	(10.9)	(5.8)	(1350.0)	砂岩	下部欠損。 表面に研磨痕。
597	砥石	E区 M-7 包含層	(22.1)	(8.4)	(2.3)	(770.0)	結晶片岩	1/2を欠損。 表面と裏面に研磨痕。
598	砥石	E区 包含層	21.4	28.1	3.0	2500.0	結晶片岩	完形。 表面と裏面に研磨痕。 上下縁に敲打痕。
599	砥石	F区 Q-15 包含層	23.9	18.3	7.5	5430.0	砂岩	完形。 表面と裏面に研磨痕。
600	砥石	G区 O-20 包含層	15.9	12.4	7.1	1650.0	砂岩	完形。 表面と裏面に研磨痕。 下部に敲打痕。
601	砥石	包含層	(12.3)	(10.3)	(8.6)	(1550.0)	砂岩	表面と裏面に研磨痕。

第98表 S B 1001出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
602	土師器 杯	覆土	口径 19.0	体部はやや内湾気味に立ち上がる。口縁部は外反する。口縁端部はややとがり気味におさめる。	体部外面上位ヘラミガキ。体部外面中位から底部ヘラケズリ。口縁部内面ヨコナデ。体部内面上位から中位は斜交子状のヘラミガキ(斜放射文)。体部内面中位から底部タテヘラミガキ(放射状文)。	微砂粒含	橙色	
603	土師器 鉢	覆土	口径 20.5 器高 11.5	体部はやや内湾しながら立ち上がる。口縁部はやや外反する。口縁端部は丸くおさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面8条/cmのタテハケメのち指頭圧痕。体部内面タテ方向のイタナデ。	1~3mm 砂粒含 石英	橙色	
604	土師器 鉢	覆土	口径 22.0	体部はやや外方に傾きながら直線的に立ち上がる。口縁部はやや外反する。口縁端部は丸くおさめる。	体部外面6条/cmのタテハケメ。口縁部内面ヨコナデ。体部内面タテ方向のイタナデ。	1~2mm 砂粒含 石英 結晶片岩	橙色	
605	土師器 甕	覆土	口径 12.8	体部より頸部にかけて内湾しながら立ち上がる。頸部より口縁部にかけてゆるやかに外反する。口縁端部は玉縁状を呈する。	口縁部外面から体部外面6条/cmのタテハケメ。口縁部外面ヨコナデ。口縁部内面やや強いヨコナデ。体部内面ヨコナデのち指頭圧痕。	1mm弱の砂粒含	にぶい橙色	
606	土師器 甕	覆土	口径 14.4	体部より頸部にかけてやや内湾気味に立ち上がる。頸部より口縁端部にかけてゆるやかに外反する。口縁端部丸くおさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面9条/cmのタテハケメ。体部内面タテナデのち指頭圧痕。	1~2mm 砂粒含 石英	橙色	
607	土師器 甕	覆土	口径 17.6	体部より頸部にかけてやや内湾気味に立ち上がる。頸部より口縁部にかけてゆるやかに外反する。口縁端部丸くおさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面6条/cmのタテハケメ。体部内面タテ方向のイタナデのち指頭圧痕。粘土紐痕あり。	1mm大の砂粒含 石英	赤褐色	
608	土師器 甕	覆土	口径 12.4 体部最大径 14.9	体部はゆるやかに内湾しながら立ち上がる。頸部より口縁部に向かいゆるやかに外方に屈曲する。口縁端部外反する。口縁端部丸くおさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面9条/cmのタテハケメ。体部内面板ナデのち指頭圧痕。粘土紐痕あり。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	橙色	
609	土師器 甕	覆土	底径 6 体部最大径 19.8	底部は丸底を呈する。体部は直線的に立ち上がる。	体部外面9条/cmのタテハケメ。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	明赤褐色	
610	須恵器 身	覆土	口径 12.0 体部最大径 14.3	口縁部は内傾して立ち上がり、端部は丸い。受部はやや上方へのび端部は丸い。底部は浅い。	回転ナデ。	1~2mm 砂粒含 石英	灰白色	
611	須恵器 身	覆土	口径 11.0 体部最大径 13.1	口縁部は内傾して立ち上がり、端部は丸い。受部はやや上方へのび端部は丸い。	回転ナデ。	1mm弱の砂粒含 結晶片岩	灰白色	
612	須恵器 身	覆土	口径 10.8 体部最大径 13.2	口縁部は内傾して立ち上がり、端部は丸い。受部はやや上方へのび端部は丸い。	回転ナデ。	1mm大の砂粒含	灰色	

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
613	石鏃	覆土	2.7	1.4	0.6	1.98	サヌカイト	完形
614	石鏃	覆土	3.4	1.3	0.5	1.6	サヌカイト	完形
615	石庖丁	覆土	10.6	4.4	0.9	54.36	結晶片岩	完形 両側縁両面に調整加工を 施す。

第99表 S K 1109出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
616	土師器 甕	覆土	口径 18.3	体部は内湾しながら立ち上がる。口縁部はゆるやかに外湾しながら端部へ向う。口縁端部は丸くおさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面8条/cmのタテハケメ。頸部内面8条/cmのヨコハケメ。体部内面指頭圧痕。	1~3mm 砂粒含 石英	明赤褐色	
617	土師器 甕	覆土	口径 16.0	口縁部はゆるやかに外反しながら端部へ向う。口縁端部丸くおさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。	1~3mm 砂粒含	橙色	
618	弥生土器 底部	覆土	底径 10.9	底部は平底を呈する。体部は、直線的に立ち上がる。	体部外面タテ方向のイタナデ。体部内面ヨコナデ。	1~3mm 砂粒含 石英	(内)にふい橙色 (外)橙色	

第100表 遺物包含層出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
619	土師器 高台付椀	B区 L-16 包含層	底径 11.6	高台部は丸くおさめる。高台部はやや外方向き。	高台部貼り付け高台。高台部外面回転ナデ。高台部内面ナデ。底部回転承切り。	1~3mm 砂粒含	にふい橙色	
620	土師器 甕	F区 S-17 包含層	口径 23.1	口縁部はゆるやかに外反する。口縁端部は方形におさめる。	口縁部外面ヨコナデ。頸部外面8条/cmのタテハケメ。口縁部内面8条/cmのヨコハケメ。	1~2mm 砂粒含 石英 結晶片岩	(内)橙色 (外)にふい橙色	
621	土師器 甕	F区 包含層	口径 15.6	体部は内湾しながら立ち上がる。口縁部は直立する。口縁端部は丸くおさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面8条/cmのタテハケメ。	1~3mm 砂粒含 石英	にふい橙色	
622	土師器 甕	E区 L-10 包含層	口径 16.2	口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部はやや内側に拡張し、平坦におさめる。	口縁部外面ヨコナデ。頸部外面10条/cmのタテハケメ。口縁部内面から頸部内面8条/cmのヨコハケメ。	1~2mm 砂粒含 石英	橙色	
623	土師器 甕	E区 L-10 包含層	口径 11.0	口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部は丸くおさめる。	口縁部外面から頸部外面ヨコナデ。体部外面10条/cmのタテハケメ。内面ヨコナデ。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	橙色	
624	土師器 甕	F・I 中間区 包含層	口径 26.6	口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部は方形におさめる。	口縁部外面から頸部外面ヨコナデ。体部外面9条/cmのタテハケメ。口縁部内面ヨコナデ。体部内面イタナデ。	1~2mm 砂粒含 石英 結晶片岩	にふい赤褐色	
625	土師器 甕	E区 L-10 包含層	口径 19.8	口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部やや尖らせる。	口縁部外面ヨコナデ。口縁部外面から頸部外面6条/cmのタテハケメ。口縁部内面7条/cmのヨコハケメ。頸部内面タテナデ。	1mm弱の砂粒含 石英 結晶片岩	浅黄橙色	
626	土師器 甕	F区 O-15 包含層	口径 14.1	体部は直線的に立ち上がる。口縁部は外方に屈曲する。口縁端部は方形におさめる。	体部外面10条/cmのタテハケメ。口縁部内外面ヨコナデ。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	浅黄橙色	
627	土師器 甕	A区 包含層	口径 15.0	口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部は丸くおさめる。	口縁部外面ヨコナデ。体部外面8条/cmのタテハケメ。口縁部内面8条/cmのヨコハケメ。体部内面ヘラケズリ。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	橙色	
628	須恵器 杯蓋	A区 G-11 包含層	口径 10.6	体部外面に施釉。口縁部は垂直に下る。口縁端部は丸くおさめる。	内外面 ロクロナデ。	1mm弱の砂粒含	(内)灰白色 (外)にふい黄色	
629	須恵器 杯蓋	I区 包含層	口径 9.8 体部最大径 11.8	口縁部は外方に立ち上がる。受部は直線的に外方に傾く。	内外面 ロクロナデ。	1mm大の砂粒含 石英	明青灰色	

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
630	須恵器壺	G区 L・M-20 包含層	口径 9.2	口縁部は外方へ屈曲する。口縁端部は上下に拡張し、端面は方形におさめる。	内外面 ロクロナデ。	1～3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	にぶい橙色	
631	須恵器底部	F区 R-16 包含層	底径 11.4	底部は高台を持つ。	内外面 ロクロナデ。	1mm大の砂粒含	オリーブ灰色	
632	須恵器底部	A区 D-7 包含層	底径 7.2	底部は平底を呈する。体部はやや内湾しながら立ち上がる。	内外面 ロクロナデ。	1～3mm 砂粒含	灰色	
633	須恵器底部	E区 N-10	底径 11.9	体部外面に施釉。体部はやや内湾しながら立ち上がる。	内外面 ロクロナデ。	1mm大の砂粒含	灰色	
634	須恵器底部	F区 O-15 包含層	底径 7.4	底部はハリツク高台。		1mm大の砂粒 含 石英	灰白色	

番号	器種	地点層位	法量・形態・技法の特徴	備考
635	耳環	F区 Q-15 包含層	縦2.4cm, 横2.8cm, 断面幅0.6cm, 断面厚0.55cm 重量9.60g	

第101表 S A 1034内柱穴出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
636	土師質土器杯	覆土 P10	口径 13.8 底径 10.4 器高 2.7	底部より口縁部に向い直線的に立ち上がる。口縁部はやや外反する。口縁端部は丸くおさめる。	内外面回転ナデ。底部ヘラ切り。	微砂粒含	淡黄色	
637	土師質土器小皿	覆土 P11	底径 6.8	底部のみ。	内外面回転ナデ。	1mm大の砂粒含 石英	橙色	
638	土師質土器鍋	覆土 P2	口径 23	口縁部は頸部で外方に屈曲して、直線的に立ち上がる。口縁端部は方形におさめる。	口縁部内外面ヨコナデのち指頭圧痕。	1mm大の砂粒含 石英	褐灰色	
639	土師質土器鍋	覆土 P2	口径 27.2	口縁部は頸部で外方に屈曲し、やや外方に傾きながら直線的に立ち上がる。口縁端部は平坦におさめる。	口縁部内外面ヨコナデのち指頭圧痕。体部外面指頭圧痕のちタテナデ。	1～2mm 砂粒含 石英	(内)灰白色 (外)黒色	
640	土師質土器鍋	覆土 P2	口径 28.8	口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部は平坦におさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。	1mm大の砂粒含 石英	(内)浅黄橙色 (外)灰褐色	
641	土師質土器鍋	覆土 P2 覆土	口径 32.8	体部は内湾気味に立ち上がる。口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部は方形におさめる。	体部外面指頭圧痕のちタテナデ。口縁部内外面ヨコナデ。	1～3mm 砂粒含 石英	(内)浅黄橙色 (外)灰褐色	
642	土師質土器鍋	覆土 P2	口径 45.0 器高 14.7	体部は内湾しながら立ち上がる。口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部は平坦におさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上半指頭圧痕のち粗いナデ。体部外面下半格子目タタキ。体部内面指頭圧痕のちヨコナデ。	微砂粒含	(内)灰白色 (外)浅黄橙色	
643	瓦質土器鍋	覆土 P2	口径 28.9	体部は内湾気味に立ち上がる。口縁部はやや外方に傾く。口縁端部は平坦におさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕。体部内面ヨコナデのち指頭圧痕。	1～2mm 砂粒含 石英	(内)灰褐色 (外)黒色	
644	瓦質土器鍋	覆土 P2	口径 28.2	口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部は平坦におさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。	1～3mm 砂粒含 石英	灰白色	

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
645	土師質土器 釜	覆土 P 2	口径 19.7	口縁部は内湾し、体部は半球形状を呈する。鐏は断面台形状を呈し、やや上向きにつく。口縁端部平坦におさめる。	口縁部外面から鐏面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕。口縁部内面から体部内面ヨコナデ。	微砂粒含	にふい黄橙色	
646	土師質土器 三足羽釜	覆土 P 2	口径 25.0	体部は、底部より内湾しながら口縁部へ向う。鐏は断面台形状を呈し、やや上向きにつく。口縁端部方形におさめる。	口縁部内外面ヨコナデのち指頭圧痕。鐏の上下両面ヨコナデ。体部外面上位から中位指頭圧痕のちヨコナデ。体部外面中位から底部格子目タタキ。体部内面指頭圧痕。	微砂粒含	にふい黄橙色	
647	土師質土器 三足羽釜	覆土 P 2	口径 17.8 脚台部径 3.7 体部最大径 22.4 器高 25.8	体部は半球形状を呈し、口縁端部にいたる。鐏は断面台形状を呈しやや上向きにつく。口縁端部方形におさめる。脚付き。	口縁部外面から鐏上面ヨコナデ。鐏下面から体部外面中位指頭圧痕のちタテナデ。体部外面中位から下位格子目タタキ。内面ヨコナデのち指頭圧痕。	1～2mm 砂粒含	にふい黄橙色	

第102表 S A 1038内柱穴出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
648	土師質土器 杯	覆土 P 6	口径11.9 底径 7.5 器高 3.6	体部は外反しながら立ち上がる。口縁部は外反する。口縁端部は丸くおさめる。	内外面回転ナデ。底部糸切り。	1mm大の砂粒 多含	にふい橙色	

第103表 S A 1039内柱穴出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
649	土師質土器 脚部	覆土 P 3	体部最大径 3.6	体部中位より下方にのびる。形状は円錐状を呈する。	体部全面にケズリ。	1～2mm 砂粒含 石英	浅黄橙色	
650	土師質土器 脚部	覆土 P 3	体部最大径 3.7	体部中位より下方にのびる。形状は円錐状を呈する。	体部全面にケズリ。	1mm大の砂粒 含 石英 長石	橙色	

第104表 S A 2001内柱穴出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
651	土師質土器 杯	覆土 P 4	口径 11.2	体部はやや内湾しながら立ち上がる。口縁部はやや外反する。口縁端部丸くおさめる。	内外面回転ナデ。	微砂粒含	淡橙色	
652	瓦質土器 鉢	覆土 P 4	口径 27.8	体部は外方へ直線的に立ち上がる。口縁端部は平坦におさめる。	体部内面6条/cmのヨコハケメ。	1～3mm 砂粒含 石英	(内)灰白色 (外)明青灰色	
653	磁器 皿	覆土 P 5	口径 6.6	体部内面に施釉。見込み部に沈線を施す。	体部外面へラケズリ。	1mm大の砂粒 含 石英	明緑灰色	白磁

第105表 S A 2003内柱穴出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
654	土師質土器 小皿	覆土 P 3	口径 9.0 底径 7.4 器高 1.3	体部は直線的に外方へ立ち上がる。口縁部は外反する。口縁端部は丸くおさめる。	内外面回転ナデ。	1～2mm 砂粒含	にふい橙色	

第106表 S K 1020出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
655	土師質土器 皿	覆土	口径 12.6 底径 8.6 器高 2.7	体部はやや内湾しながら立ち上がる。口縁端部は丸くおさめる。	内外面回転ナデ。底部は糸切り。	砂粒含	(内)浅黄橙色 (外)にぶい橙色	

第107表 S K 1189出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
656	土師質土器 鍋	覆土	口径 27.8	口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部は下方に拡張し、端面は平坦におさめる。	口縁部外面ヨコナデ。	1～3mm 砂粒含	橙色	

第108表 S K 1202出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
657	土師質土器 杯	覆土 P 2	口径 13.4 底径 4.9 器高 3.6	体部は直線的に立ち上がる。口縁部は外反する。口縁端部は丸くおさめる。	内外面回転ナデ。底部へラ切りのち板ナデ。	1～2mm 砂粒含	にぶい橙色	

第109表 S P 1020出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
658	土師質土器 小皿	覆土	口径 8.8 底径 6.8 器高 1.4	口縁部はやや内湾する。口縁端部は丸くおさめる。	内外面回転ナデ。	1～3mm 砂粒含	にぶい橙色	

第110表 S P 1049出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
659	土師質土器 杯	覆土	口径 14.2 底径 9.0 器高 2.9	口縁部は丸くおさめる。体部は直線的に立ち上がる。	内外面回転ナデ。	1～3mm 砂粒含	灰白色	

第111表 S P 1054出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
660	須恵質土器 こね鉢	覆土	口径 28.4	体部は外傾しながら直線的に立ち上がる。口縁端部はやや上方に拡張する。	内外面回転ナデ。	1～2mm 砂粒含	灰白色	東播糸

第112表 S P 1078出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
661	土師質土器 皿	覆土	口径 10.0 底径 6.2 器高 1.1	体部はやや外反する。口縁端部は丸くおさめる。	内外面ヨコナデ。底部へラ切り。	微砂粒含	淡橙色	

第113表 S P 1098出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
662	土師質土器 小皿	覆土	口径 6.9 底径 5.8 器高 1.2	口縁部はやや外反する。口縁端部は丸くおさめる。	内外面回転ナデ。	微砂粒含	黄橙色	

第114表 S P 1101出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
663	瓦器 椀	覆土	口径 13.4	口縁端部はやや外反し、丸くおさめる。	内外面剥離のため不明。	1mm大の砂粒含	(内)灰白色 (外)灰色	
664	磁器 皿	覆土	底径 7.0	内外面に施釉。内面に帯による文様。		微砂粒含	明オリープ灰色	青磁

第115表 S P 1123出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
665	土師質土 器 椀	覆土	口径 13.8	体部はやや内湾しながら立ち上がる。口縁端部はやや外反し、丸くおさめる。	内外面回転ナデ。	1mm大の砂粒含	浅黄橙色	

第116表 S P 1126出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
666	土師質土 器 杯	覆土	口径 12.0	口縁端部はやや外反し、丸くおさめる。	内外面回転ナデ。	1mm大の砂粒含	浅黄橙色	
667	土師質土 器 鍋	覆土	口径 32.8	口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部は方形におさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。	砂粒含	明赤褐色	

第117表 S P 1127出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
668	土師質土 器 皿	覆土	口径 8.4 底径 6.6 器高 0.9	体部は直線的にのびる。口縁端部は外反し、丸くおさめる。	内外面回転ナデ。底部ヘラ切り。	砂粒含	灰白色	
669	土師質土 器 小皿	覆土	口径 10.9 底径 9.6	口縁部はやや外反する。口縁端部は丸くおさめる。	内外面回転ナデ。	1mm大の砂粒含	灰白色	

第118表 S P 1132出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
670	土師質土 器 杯	覆土	口径 12.2 底径 8 器高 3.4	体部は外反する。口縁端部は丸くおさめる。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	1mm弱の砂粒含	灰白色	

第119表 S P 1138出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
671	瓦質土器 底部	覆土	底部 13.4	底部は平底を呈する。体部は直線的にのびる。	体部外面格子目タタキ。底部外面ヘラケズリ。内面ヨコナデ。	微砂粒含	(内)暗オリープ灰色 (外)暗灰色	

第120表 S P 1205出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
672	瓦器 椀	覆土	口径 14.2 底径 4.8 器高 4.4	体部はやや内湾する。口縁部は外反する。口縁端部は丸くおさめる。底部は貼りつけ高台。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ユビオサエ。内面ヨコ方向の粗いヘラミガキ(暗文)。	1mm大の砂粒含 石英	灰白色	

第121表 S P 1284出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
673	土師質土器 小皿	覆土	口径 8.1 底径 6.8 器高 1.2	体部は直線的に立ち上がる。口縁端部は外反し、丸くおさめる。	内外面回転ナデ。底部糸切り。	1～3mm 砂粒含	にぶい橙色	

第122表 S P 1285出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
674	土師質土器 小皿	覆土	口径 7.8 底径 6.5 器高 1.1	体部は外反しながら立ち上がる。口縁端部は外反し、丸くおさめる。	内外面回転ナデ。	1mm大の砂粒含 石英	浅黄橙色	

第123表 S P 1759出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
675	土師質土器 皿	覆土	底径 6.6	底部のみ。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	微砂粒含	浅黄橙色	

第124表 S P 1960出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
676	土師質土器 小皿	覆土	口径 8.2 底径 6.2 器高 1.0	体部は直線的に立ち上がる。口縁端部は外反し、丸くおさめる。	内外面回転ナデ。底部ヘラ切り。	砂粒含	浅黄橙色	

第125表 S P 10727出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
677	土師質土器 杯	覆土	口径 10.4	口縁部は外反する。口縁端部は丸くおさめる。	内外面回転ナデ。	砂粒含	褐色	
678	土師質土器 杯	覆土	底径 8.2	底部のみ。	内外面回転ナデ。	砂粒含	にぶい橙色	

第126表 S P 10756出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
679	土師質土器 皿	覆土	底径 6.4	体部は直線的にのびる。	内外面回転ナデ。底部ヘラ切りのち板ナデ。	1mm大の砂粒含 石英	褐色	



第127表 遺物包含層出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
680	土師質土器杯	A区 H-15 包含層	口径 15.2 底径 9.2 器高 3.1	体部はやや内湾しながら立ち上がる。口縁部はやや外反する。口縁端部はやや尖る。	内外面ヨコナテ。底部へら切り。	1mm大の砂粒含	黒色	
681	土師質土器杯	B区 L-17 包含層	口径 13.2 底径 8.2 器高 3.0	体部は直線的に立ち上がる。口縁端部は丸くおさめる。	内外面回転ナテ。底部回転糸切り。	1mm大の砂粒含	浅黄橙色	
682	土師質土器杯	G区 M-19 包含層	口径 7.0	体部は直線的に立ち上がる。	内外面ナテ。	1mm大の砂粒含	浅黄橙色	
683	土師質土器皿	B区 K-15 包含層	口径 12.8 底径 8.4 器高 1.95	体部は直線的に立ち上がる。口縁部はやや外湾する。口縁端部は尖らせる。	内外面回転ナテ。	1mm大の砂粒含	灰白色	
684	土師質土器杯	B区 L-15 包含層	口径 12.5 底径 9.4 器高 2.4	口縁部はやや内湾する。口縁端部はやや尖らせる。	内外面回転ナテ。	1mm大の砂粒含	(内)浅黄橙色 (外)灰白色	
685	土師質土器皿	F区 P-18 包含層	口径 12.8 底径 9.2 器高 2.1	体部は直線的に外傾する。口縁端部はやや拡張し、丸くおさめる。	内外面回転ナテ。	砂粒含	にふい褐色	
686	土師質土器小皿	E区 M-10 包含層	口径 15.0 器高 1.9	体部は直線的にのびる。口縁部はやや外反する。口縁端部は丸くおさめる。底部はやや肥厚し、高台状を呈する。	内外面ナテ。	微砂粒含	橙色	
687	土師質土器皿	E区 M-10 包含層	口径 11.2 底径 6.2 器高 1.5	体部はやや外反しながら立ち上がる。口縁部はやや外反する。口縁端部は丸くおさめる。	内外面回転ナテ。底部へら切り。	微砂粒含	橙色	
688	土師質土器皿	F区 S-19 包含層	口径 8.3 底径 6.2 器高 1.4	体部は直線的に立ち上がる。口縁部は外反する。口縁端部はやや丸くおさめる。	内外面回転ナテ。底部回転へら切り。	1~3mm砂粒含	灰白色	
689	土師質土器皿	A区 F-11 包含層	口径 8.9 底径 7.0 器高 1.1	口縁部はやや外反する。口縁端部は丸くおさめる。	内外面回転ナテ。底部回転へら切り。	1mm大の砂粒含	にふい橙色	
690	土師質土器皿	A区 D-10 包含層	口径 8.8 底径 6.8	体部は直線的に立ち上がる。口縁端部は丸くおさめる。	内外面ヨコナテ。底部へら切り。	1~2mm砂粒含	浅黄橙色	
691	土師質土器皿	F区 S-19 包含層	口径 8.7 底径 6.5 器高 1.3	体部は直線的に立ち上がる。口縁部は外反する。口縁端部は丸くおさめる。	底部回転へら切り。	1~3mm砂粒含	浅黄橙色	
692	土師質土器皿	G区 包含層	口径 8.7 底径 6.9 器高 1.4	体部はやや外反しながら、立ち上がる。口縁部は外反する。口縁端部は丸くおさめる。	内外面回転ナテ。底部糸切り。	微砂粒含	淡橙色	
693	土師質土器皿	B区 I-16 包含層	口径 8.3 底径 6.5 器高 1.3	体部は直線的に立ち上がる。口縁部はやや外反する。口縁端部は丸くおさめる。	内外面回転ナテ。底部糸切り。	微砂粒含	にふい橙色	
694	土師質土器皿	A区 包含層	口径 7.0 底径 5.4 器高 1.0	体部はやや外反しながら立ち上がる。口縁部は外反する。口縁端部は丸くおさめる。	内外面回転ナテ。	1~3mm砂粒含	浅黄橙色	
695	土師質土器皿	E区 M-10 包含層	口径 8.3 底径 7.8 器高 1.85	体部は直立的に立ち上がる。口縁部はやや外反する。口縁端部は丸くおさめる。	内外面回転ナテ。	微砂粒含	浅黄橙色	
696	土師質土器皿	包含層	口径 7.8 底径 6.5 器高 1.1	体部は直線的に立ち上がる。口縁部は外反する。口縁端部は丸くおさめる。	内外面回転ナテ。	1mm大の砂粒含	浅黄橙色	

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
697	土師質土器 皿	A区 包含層	底径 8.3	体部は直線的に立ち上がる。	内外面回転ナデ。底部糸切り。	1mm大の砂粒含	にぶい橙色	
698	土師質土器 鍋	F区 包含層	口径 26.0	口縁部「く」の字状に外反する。口縁端部はやや拡張し平坦におさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。	1～3mm 砂粒含	淡橙色	
699	土師質土器 鍋	D区 包含層	口径 20.8	体部はやや内湾しながら立ち上がる。口縁部はやや内湾する。口縁端部は凹面を呈し、丸くおさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。	1～2mm 砂粒含	(内)橙色 (外)浅黄橙色	
700	土師質土器 釜	B区 K-17 包含層	口径 25.0	口縁部は内湾する。鐏部は断面台形状を呈しやや上向きに付く。口縁端部は丸くおさめる。	口縁部内外面と鐏にヨコナデ。体部外面指頭圧痕のちヨコナデ。	1～3mm 砂粒含	橙色	
701	土師質土器 釜	B区 K-17 包含層	口径 26.4	口縁部は直立する。鐏部は断面三角形を呈し、水平につく。口縁端部は丸くおさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。	1mm弱の砂粒含	浅黄橙色	
702	土師質土器 釜	B区 K-17 包含層	口径 25	口縁部は直立する。鐏部は断面三角形を呈し、やや下向きにつく。口縁端部は丸くおさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。	微砂粒含	灰白色	
703	土師質土器 釜	G区 O-12 包含層	口径 25.2	口縁部はやや内湾する。鐏部は断面三角形を呈し、やや下向きにつく。口縁端部は丸くおさめる。	内外面ヨコナデのち指頭圧痕。	1～3mm 砂粒含	橙色	
704	土師質土器 釜	B区 K-17 包含層	口径 15.9	口縁部はやや内湾する。鐏部は段面台形状を呈し、やや下向きにつく。口縁端部は丸くおさめる。	口縁部外面から鐏下ヨコナデ。体部外面指頭圧痕。内面ヨコナデ。	1mm弱の砂粒含	黄橙色	
705	土師質土器 釜	B区 K-17 包含層	口径 21.8	口縁部は内湾する。鐏は段面台形状を呈し、やや上向きにつく。口縁端部は丸くおさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕。	1～3mm 砂粒含	にぶい黄橙色	
706	土師質土器 脚部	D区 包含層	体部最大径 3.4	体部下半よりのびる。円筒状を呈する。	ケズリ。	1～3mm 砂粒含	橙色	
707	土師質土器 脚部	B区 包含層	体部最大径 3.0	体部下半よりのびる。円筒状を呈する。	ケズリ。	1mm大砂粒含	浅黄橙色	
708	土師質土器 脚部	B区 K-17 包含層	体部最大径 3.4	体部下半よりのびる。円筒状を呈する。	ケズリ。	1～3mm 砂粒含	橙色	
709	土師質土器 脚部	D区 包含層	体部最大径 2.8	円筒状を呈する。	ケズリ。	1～3mm 砂粒含	明黄褐色	
710	瓦器 椀	F区 包含層	口径 12.7	体部はやや内湾しながら立ち上がる。口縁部はやや外反する。口縁端部は丸くおさめる。	体部外面指頭圧痕。体部内面粗いヨコヘラミガキ(暗文)。	1mm大の砂粒含	黒色	
711	瓦器 椀	E区 N-8 包含層	口径 9 底径 3.4 器高 2.2	底部は貼りつけ高台。体部はやや内湾しながら立ち上がる。口縁部はやや外反する。口縁端部は丸くおさめる。	体部外面、部分的に指頭圧痕。体部内面、部分的にヘラミガキ(暗文)。	砂粒含	灰色	
712	瓦器 小皿	G区 包含層	口径 9.5 器高 1.8	体部はゆるやかに内湾しながら立ち上がる。口縁部は外反する。口縁部外面に1条の沈線を施す。口縁端部は丸くおさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕のち粗いナデ。	微砂粒含	褐灰色	

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
713	瓦質土器 火鉢	B区 包含層	口径 25.8	口縁端部はやや拡張し、丸くおさめる。口縁部外面に1条の沈線を施す。	内外面ヨコナデ。	1～2mm 砂粒含	(内)灰白色 (外)灰色	
714	須恵質土器 こね鉢	F区 包含層	口径 23.4	口縁部内面に強いヨコナデによる沈線を施す。口縁端部は上方に拡張し、方形におさめる。	内外面ヨコナデ。	1mm大の砂粒 含	灰白色	東播系
715	陶器 搦鉢	B区 K-17 包含層	口径 27.4	体部は直線的に立ち上がる。口縁端部は上下に拡張し、方形におさめる。体部内面に櫛描条線を施す。	内外面ナデ。	1mm大の砂粒 含	(内)にふい赤 褐色 (外)明赤褐色	備前窯
716	陶器 搦鉢	B区 包含層	口径 24.1	口縁端部は下方に拡張し、先端部は鋭く尖る。	内外面回転ナデ。	1～4mm 砂粒含	にふい赤褐色	備前窯
717	陶器 搦鉢	B区 H・I- 13・14 包含層	口径 24.0	口縁部は直立する。口縁部内面に突帯をもつ。口縁端部は丸くおさめる。口縁部外面に2条の沈線を施す。体部内面に4条単位の櫛描条線を施す。	内外面クロヨコナデ。	1～3mm 砂粒含	極暗 赤褐色	備前窯
718	陶器 搦鉢	B区 K-17 包含層	底径 14.0	体部は直線的に立ち上がる。体部内面に7条単位の櫛描条線を施す。	体部内外面クロナデ。	1mm大の砂粒 含	(内)灰褐色 (外)にふい赤 褐色	備前窯
719	磁器 椀	A区 K-16 包含層	口径 14.6	口縁端部は外反する。口縁端部を丸くおさめ、水平にする。体部内面上位に浅い沈線。	回転ナデ。	1mm大の砂粒 含	灰白色	白磁
720	磁器 小壺蓋	E区 包含層	口径 3.2	身受部に施釉。外面片彫りによる文様。	回転ナデ。	1mm大の砂粒 含	緑灰色	青磁

# 写 真 图 版



(1) 調査区遠景 南より



(2) 調査前全景

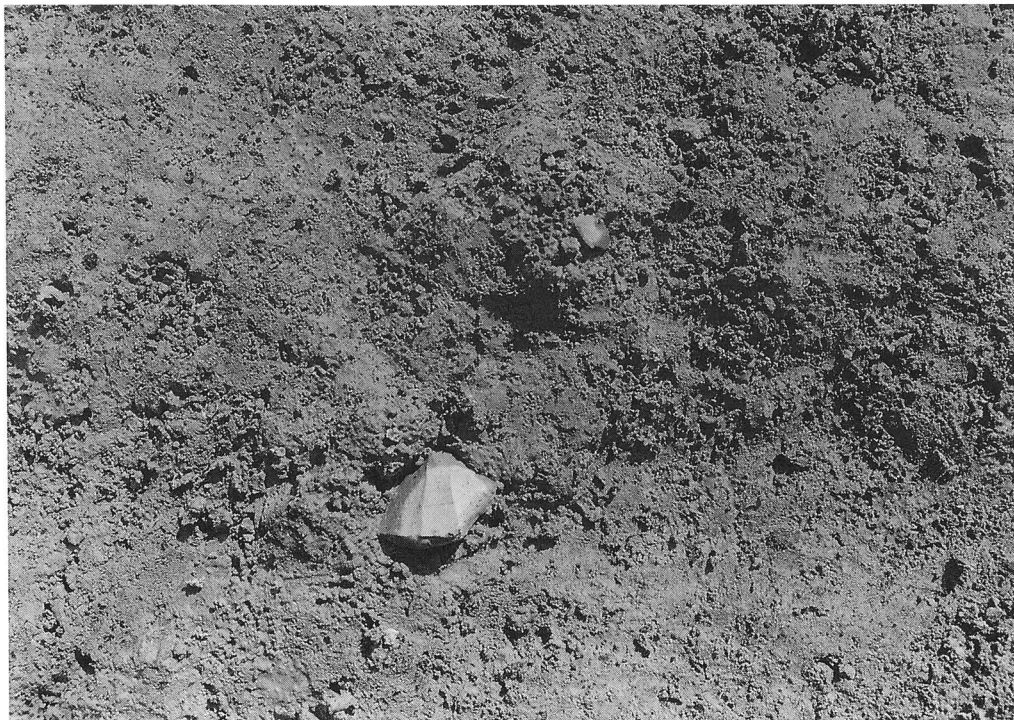
图版 2



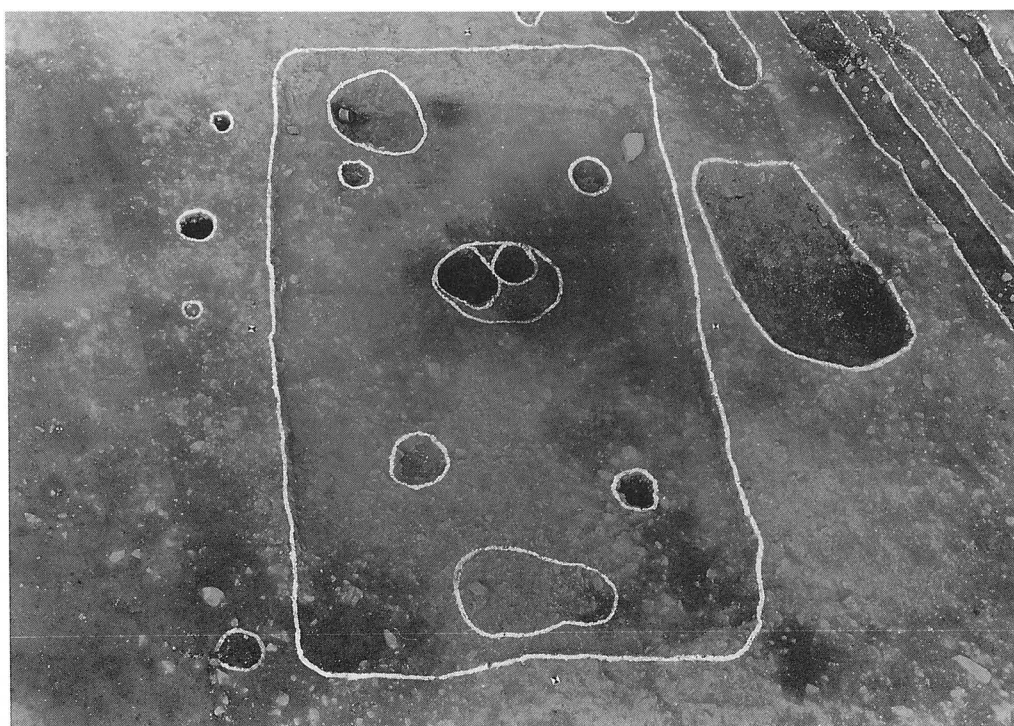
(1) 旧石器出土地点完掘状况



(2) 剥片出土状况

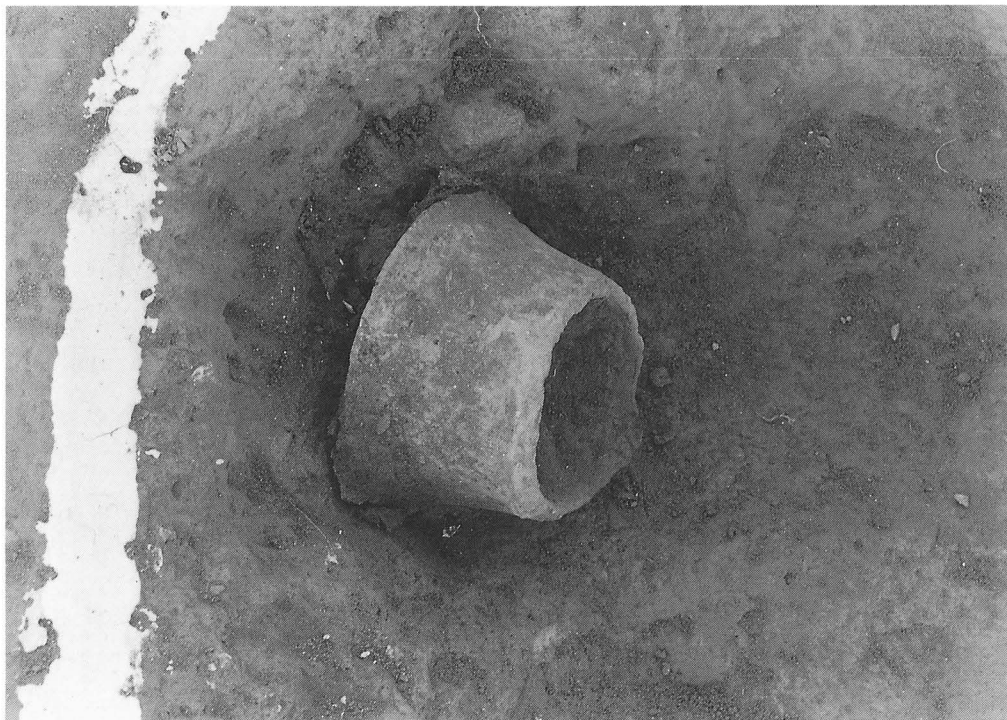


(1) 剝片出土狀況

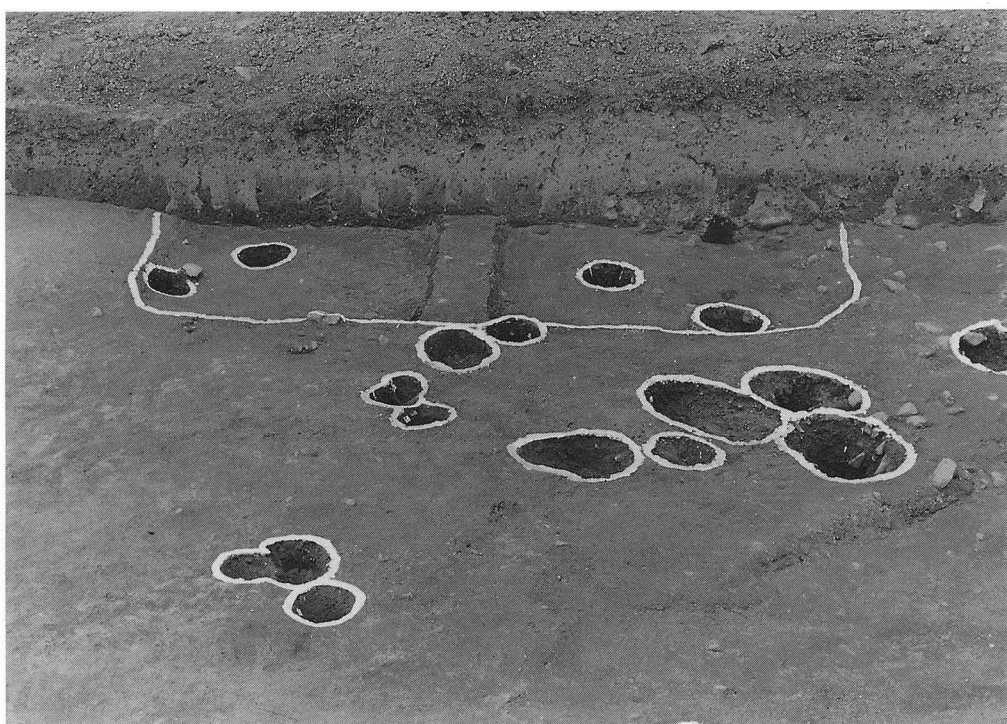


(2) S B 1002完掘狀況

図版 4

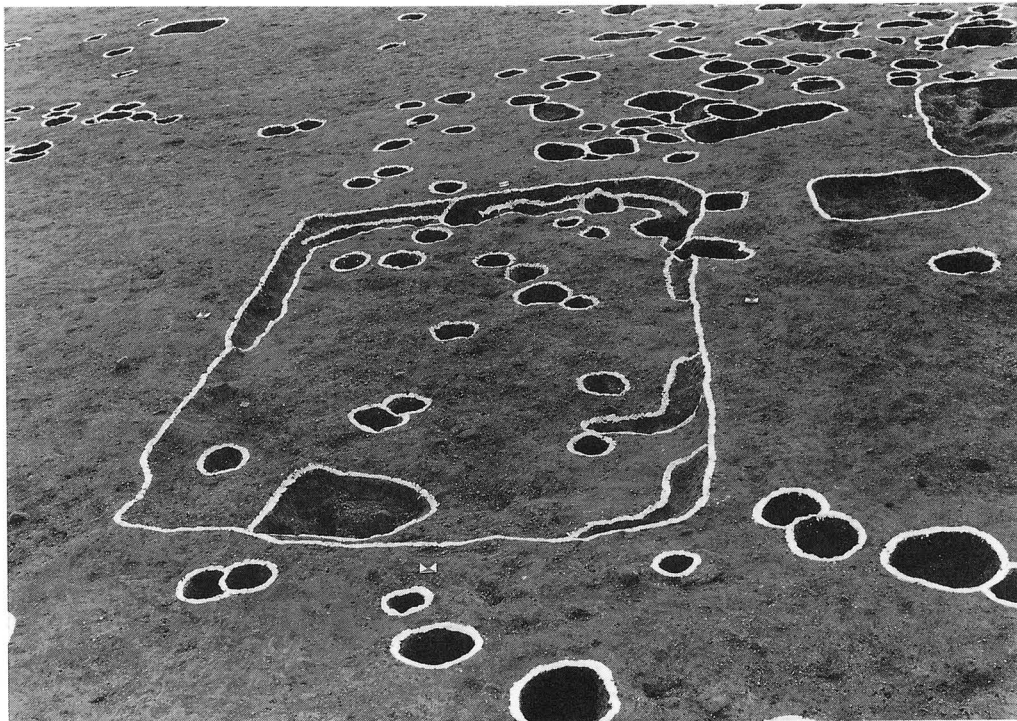


(1) S B 1002遺物出土状況



(2) S B 1004掘り下げ状況



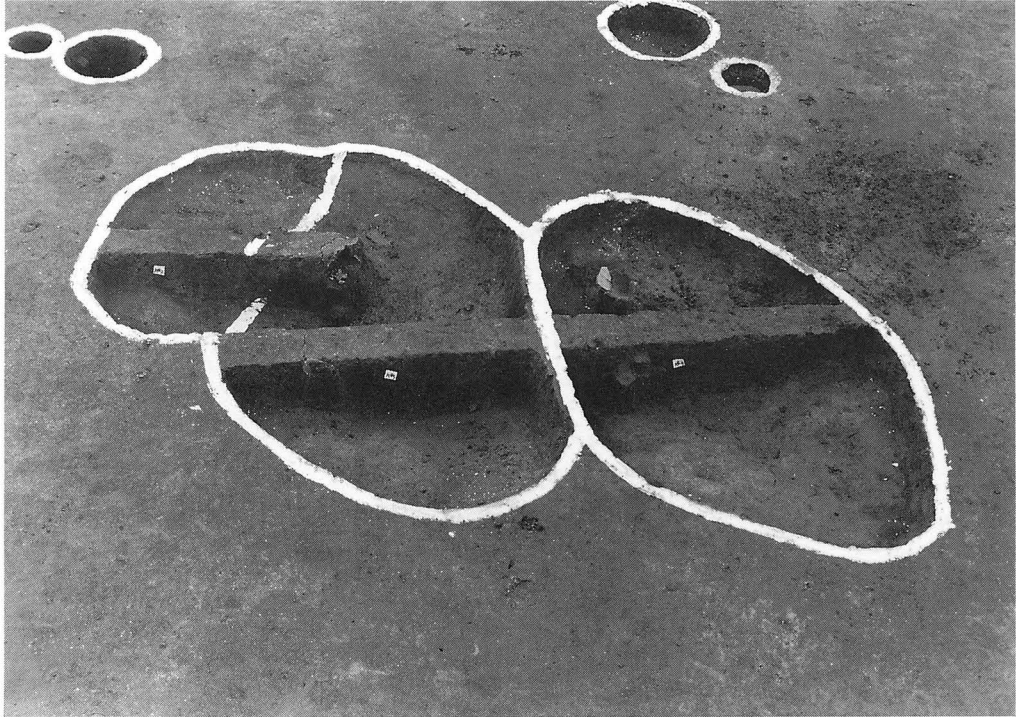


(1) S B 1005完掘状況

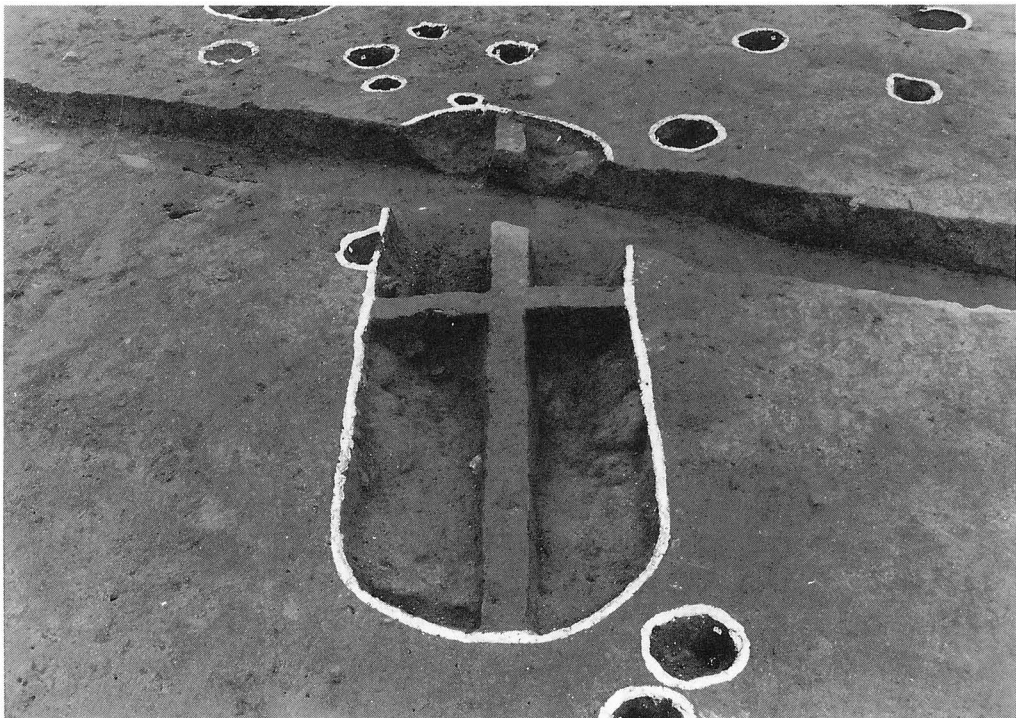


(2) S B 1005遺物出土状況

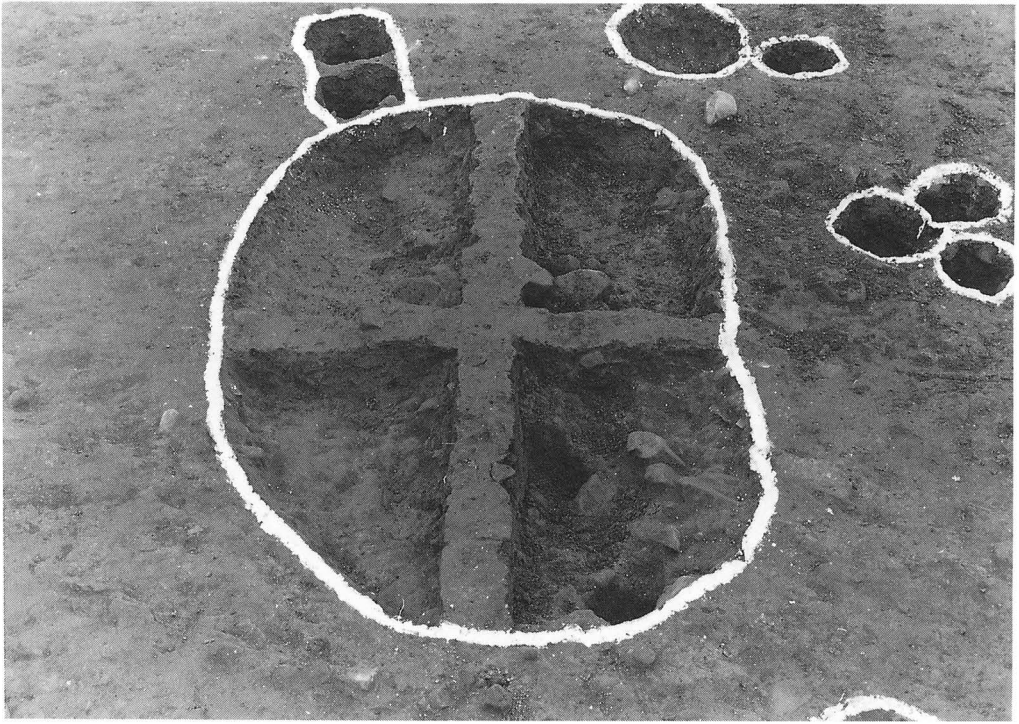
図版 6



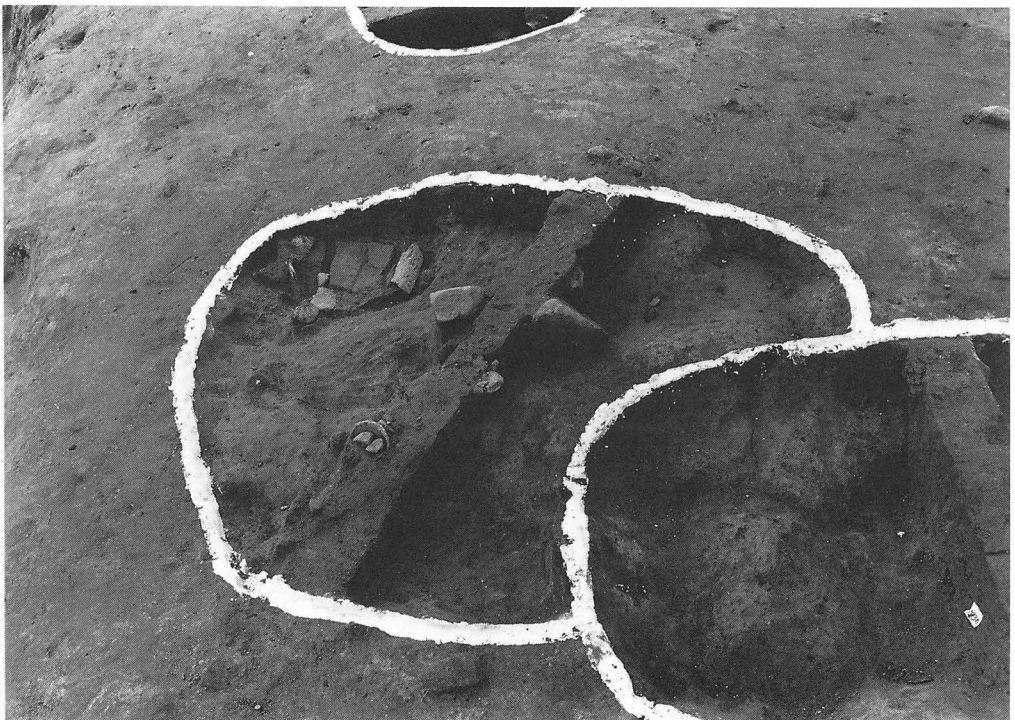
(1) S K 1002、1003、1004掘り下げ状況



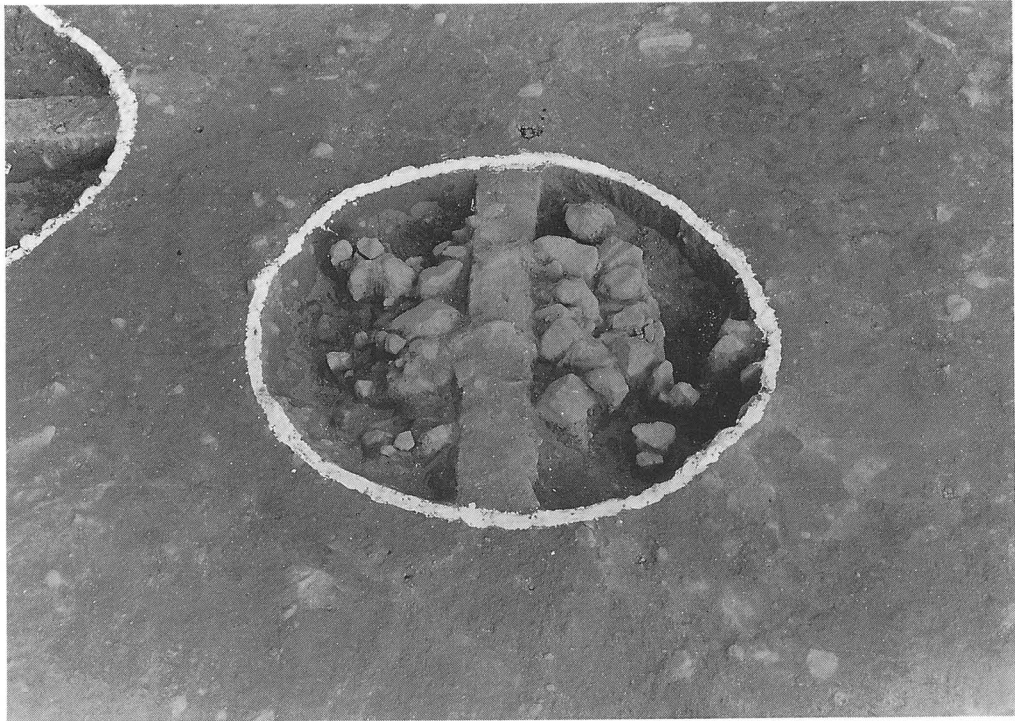
(2) S K 1005掘り下げ状況



(1) S K 1022掘り下げ状況



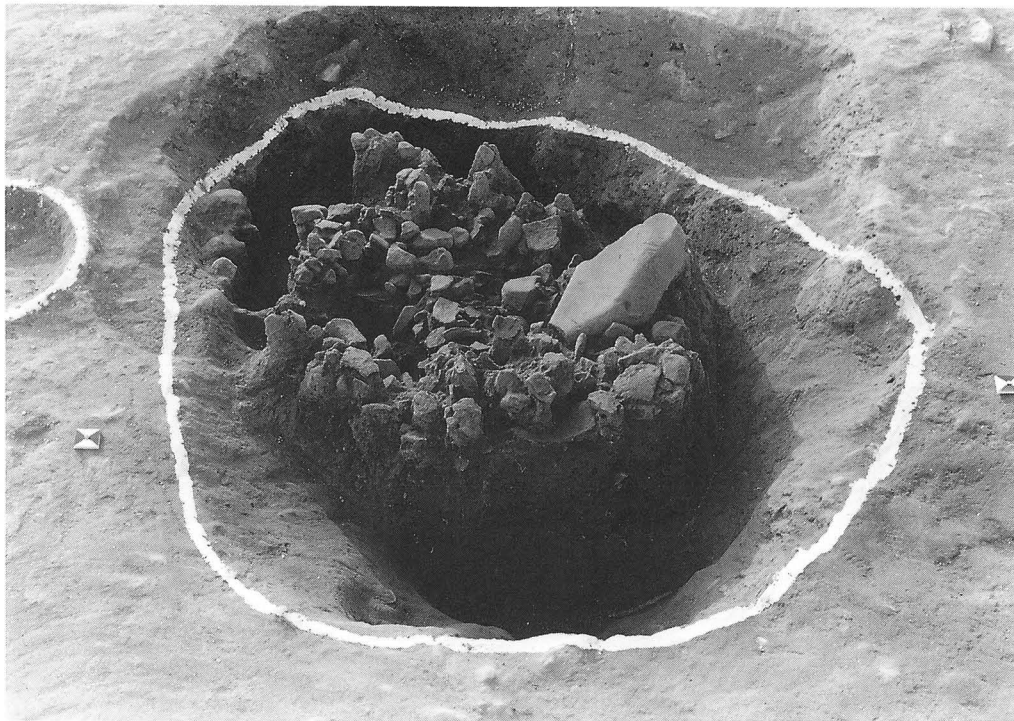
(2) S K 1031掘り下げ状況



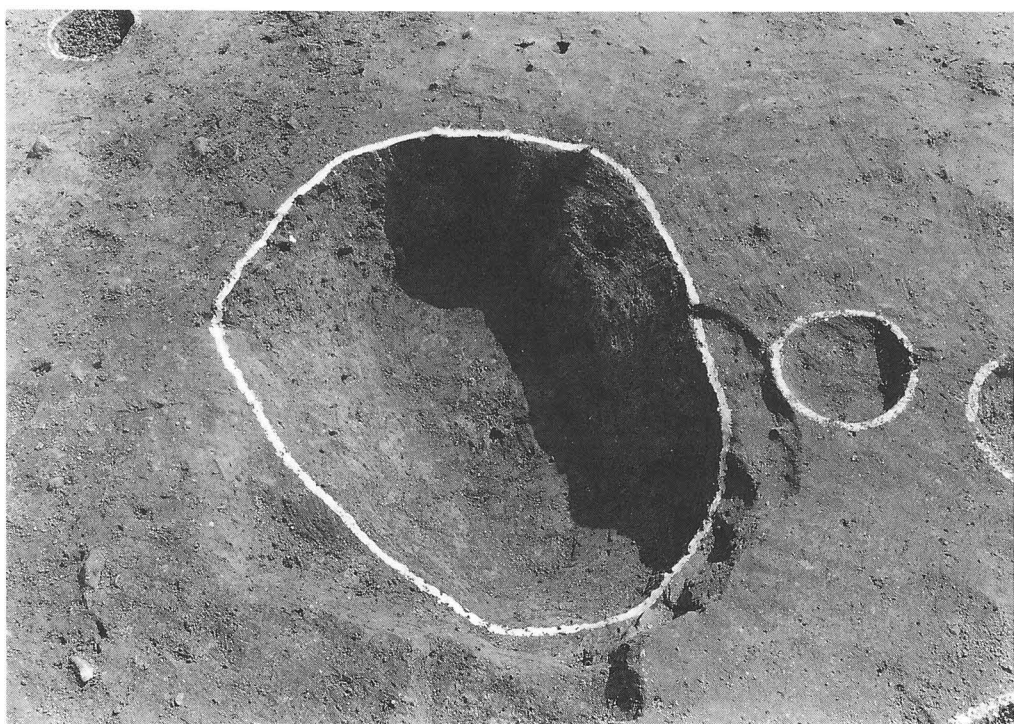
(1) S K 1046掘り下げ状況



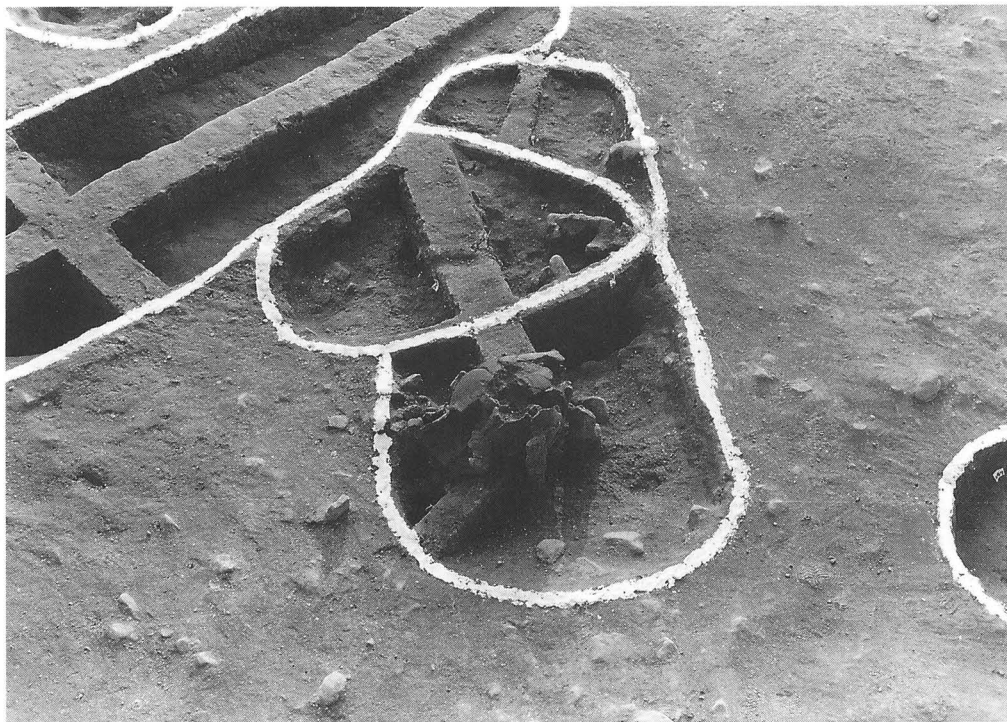
(2) S K 1052掘り下げ状況



(1) S K 1063掘り下げ状況



(2) S K 1063完掘状況



(1) S K 1069掘り下げ状況



(2) S K 1069遺物出土状況